

社会創造科ではぐくむ三つの資質・能力について

社会創造科では、三つの資質・能力を以下のようにとらえ、身の回りや地域の人と深く関わったり、地域の人とともに問題解決を志向したりすることを通して、全ての観点ではぐくむ。

	社会創造科ではぐくむを目指す資質・能力	観点	社会創造科の見解
自己を推進すること	実践を通して自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって問題解決に取り組み、よりよい自分をつくること。	自己の認識	あるがままの自己の姿を見つめ、広い視野、長期的な視点に立って、自己を伸長したり改善したりする視点をとらえること。
		価値の認識	ひと・もの・ことのもつよさをとらえ、それを生かしたり守ったりしていこうとする愛情や愛着をもつこと。また、持続可能性の視点から地域の資源をとらえ、それを生かしたり守ったりすべきだと考えること。
		立志・計画	あるべき姿やなりたい自分を思い描き、それに向かう強い心をもち、実現に向けて目標や見通しを立てたり段取りをしったりすること。
		責任の遂行・粘り強い取組	よりよい社会を築くための自分の役割を自覚し、確実に実行すること。また、うまくいかない現実と直面しても、あきらめずに取り組むこと。
相互に交流すること	対話を通して様々な立場の他者とかかわり、協働的に問題解決に取り組み、よりよい人間関係をつくること。	他者の認識	様々な立場の人の思いや願い・考えをとらえ、思いやること。
		志の共有	様々な立場の人の思いや願いを共感的に理解し、重なる思いを強くしたり、目標の共有に向けて互いのずれを克服しようとしたりすること。
		他者との協力	集団の構成者としての互いの立場や役割を理解し、目的に向かって力を合わせて取り組むこと。
		対話や議論への参加	様々な立場の人との話し合いを充実させるために、準備したり、話し合いの方法を工夫したり、建設的に参加したりすること。
新たに開発すること	自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、持続可能性の視点に基づいた新たな考えをつくること。	現状の把握	身の回りの事象・現象や、現実には起きている地域の問題をとらえるとともに、その背景や原因・仕組みを明らかにしていくこと。
		熟考	身の回りや地域の問題の解決方法について、様々な知識を組み合わせたり、試行錯誤したり、考えの筋道を吟味したりして、よく考えること。
		創造	持続可能性の視点から、新しい問題や課題を掘り起こしたり、解決の新しい形を描き出したり、新しい解決方法や考え方を生み出したりすること。
		発信	場面や目的に応じて表現方法を工夫し、自らの思いや願い、考えを効果的に表し、他者や社会を啓発すること。

「自己を推進すること」

社会創造科では、「自己を推進すること」を、四つの観点において、それぞれ以下のようにとらえる。

自己の認識

「自己を推進すること」を「自己の認識」の観点から、「あるがままの自己の姿を見つめ、広い視野、長期的な視点に立って、自己を伸長したり改善したりする視点をとらえること。」ととらえる。地域での実践的な学習では、自分の特徴やよさを発揮しながら、活動に主体的に参加しなければならない。そのためには、実践的・探究的な学習を通して、自分の特徴・よさをとらえる資質・能力が必要だと考えたからである。

価値の認識

「自己を推進すること」を「価値の認識」の観点から、「ひと・もの・ことのもつよさをとらえ、それを生かしたり守ったりしていこうとする愛情や愛着をもつこと。また、持続可能性の視点から地域の資源をとらえ、それを生かしたり守ったりすべきだと考えること。」ととらえる。地域の問題を解決していくためには、まず、身の回りや地域のよさを見出し、それを守っていかなければならないとその価値をとらえなければならない。また、問題を解決する過程で、地域のよさを見いだす資質・能力が必要だと考えたからである。

立志・計画

「自己を推進すること」を「立志・計画」の観点から、「あるべき姿やなりたい自分を思い描き、それに向かう強い心を持ち、実現に向けて目標や見通しを立てたり段取りをしたりすること。」ととらえる。実践的・探究的な学習において中・長期的な取り組みをする際には、それを貫く強い志を立てなければならない。身の回りや身近なひと・もの・ことを守っていこうとする強い決意、地域の問題解決をしようとする強く決意する資質・能力が必要である。また、決意した志が達成している姿を長期的な展望の下で見通したり、それを受けて目標設定し計画立案したり、進捗に応じて逐次修正したりする資質・能力が必要だと考えたからである。

また、総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度について（2008）でも、「自分自身に関すること」として、「自らの行為について意思決定する力」が挙げられているように、その必要性が求められているところである。

責任の遂行・粘り強い取組

「自己を推進すること」を「責任の遂行・粘り強い取組」の観点から、「よりよい社会を築くための自分の役割を自覚し、確実に実行すること。また、うまくいかない現実にも直面しても、あきらめずに取り組むこと。」ととらえる。異年齢の仲間や様々な立場の人と手を携えて問題解決にあたる活動では、自分の置かれている状況・立場をとらえ、その役割を全うする資質・能力が必要だと考えたからである。

また、基礎的・汎用的能力（2011中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」）でも、「自己理解・自己管理能力」として、「自分の役割の理解」や「忍耐力」が挙げられており、人間力（2003内閣府）でも、自己制御の要素として「忍耐力」を挙げ、その必要性が求められているところである。

以上、四つの観点を総合し、社会創造科では、「自己を推進すること」を「実践を通して自己をみつめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分をつくること」ととらえることとした。「自己をみつめ」とは、実社会での実践的・探究的な活動を通して自分の特徴・よさをとらえることを指す。「見通しをもって物事に取り組み」とは、見通しや展望をもつこと、計画立案に必要な事象をとらえることを指す。「よりよい自分をつくること」とは、内省的な思考も含め、自らを高めていくことを指す。

ESDの形成能力のコンピテンシーの一つに、「自律的に活動する」がある。その下位として、「理念を省察する能力」がある。これには、「自分の存在の歴史性を意識したり、自己責任や共同体における責任をとろうとしたりすること」が含まれている。また、他にも「自主的に行動する能力」という下位項目がある。これには、「大きな展望の中で活動する能力」「人生設計や個人的プロジェクトを設計し、実行する能力」が含まれる。これらは、社会創造科で求める資質・能力「自己を推進すること」と、合致するものである。

「相互に交流すること」

社会創造科では、「相互に交流すること」を、四つの観点において、それぞれ以下のようにとらえる。

他者の認識

「相互に交流すること」を「他者の認識」の観点から、「様々な立場の人の思いや願い・考えをとらえ、思いやること。」ととらえる。身の回りや地域の人など、様々な人とかわりながら、共に活動を進めるためには、相手の立場や気持ちをとらえ、考える資質・能力が必要だと考えたからである。

また、基礎的・汎用的能力の「人間関係・社会形成能力」には、「他者の個性を理解する力」と挙げられており、これと整合するものである。

志の共有

「相互に交流すること」を「志の共有」の観点から、「様々な立場の人の思いや願いを共感的に理解し、重なる思いを強くしたり、目標の共有に向けて互いのずれを克服しようとしたりすること。」ととらえる。地域の問題について、その解決に向けて実際に取り組むためには、地域の人との合意形成が不可欠である。手を携える相手だけでなく、対象とする問題や、解決する過程にかかわる様々な人の思いを共感的に理解し、考慮する資質・能力が必要である。また、手を携えてともに活動を進める相手と、目標、手段・方法等について合意形成する資質・能力が必要だと考えたからである。

また、社会人基礎力（2006 経済産業省）でも、チームで働く力として「柔軟性」を挙げ、他者との合意形成には、自分の考えを柔軟に変化させ、折り合いをつける力が求められているところである。

他者との協力

「相互に交流すること」を「他者との協力」の観点から、「集団の構成者としての互いの立場や役割を理解し、目的に向かって力を合わせて取り組むこと。」ととらえる。先に述べた、身の回りや地域の人など、様々な人とかかわりながら、ともに活動をすすめるためには、相手の状況をとらえ、自分のできることを考え、協力する資質・能力が必要だと考えたからである。

「持続可能な社会＝お互いにケアし合い、お互いに支え合える社会」の考え方からも、今、求められている資質・能力であるといえる。

対話や議論への参加

「相互に交流すること」を「対話や議論への参加」の観点から、「様々な立場の人との話し合いを充実させるために、準備したり、話し合いの方法を工夫したり、建設的に参加したりすること。」ととらえる。先に述べた、手を携えてともに活動を進める相手と、目標、手段・方法等について合意形成するためには、話合いに積極的に参加し、充実した話合いにする資質・能力が必要だと考えたからである。

以上、四つの観点を総合し、社会創造科では、「相互に交流すること」を、「対話を通して様々な立場の他者とかかわり、協働的に問題解決に取り組み、よりよい人間関係をつくること」とした。社会創造科で、「他者」とは、異年齢の仲間や、身の回りや地域の人など、様々な立場の人を指す。「協働的」とは、互いに互恵的にかかわりながら問題解決に向けてともに手を携え、協力し合うことを指す。

ESD の形成能力のコンピテンシーの一つに、「異質な集団として交流する」がある。その下位として、「協調性：他者と協力して計画し行動することができる。」という項目がある。これには、「持続可能性についての集団内の異なる立場を、その背景とともに理解し、分析し、この意味での対立を民主的に解消することができる。」ということが含まれている。

別の下位項目には、「参加能力：意思決定のプロセスの協力的に関与することができる。」がある。これには、「持続可能な問題に関して、意見の相違や対立を建設的に克服することができる。」ということが含まれている。

総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度について（2008）でも、「他者や社会とのかかわりに関すること」として、「他者と協同して課題を解決する力」「課題の解決に向けて社会活動に参加する態度」が挙げられている。また、21 世紀型能力（2013 国研「教育課程の編成に関する基礎的研究」）、基礎的汎用的能力、学士力等でも、同様に、他者と協力する能力は求められているところである。

これらは、社会創造科で求める資質・能力「相互に交流すること」と、合致するものである。

「新たに開発すること」

社会創造科では、「新たに開発すること」を、四つの観点において、それぞれ以下のようにとらえる。

現状の把握・分析

「新たに開発すること」を「身の回りの事象・現象や、現実に起きている地域の問題をとらえるとともに、その背景や原因・仕組みを明らかにしていくこと。」ととらえる。身の回りや身近な事象をよりよくしたいと考えたり、地域の問題の解決を考えたりするためには、対象となる事象を持続可能性の視点でとらえ、問題を把握することが不可欠である。また、対象となる事象の現状を事実でとらえ、目に見える事象だけでなく背景や原因を深く探り、構造的に理解する資質・能力が必要だと考えたからである。

熟考

「新たに開発すること」を「熟考」の観点から、「身の回りや地域の問題の解決方法について、様々な知識を組み合わせたり、試行錯誤したり、考えの筋道を吟味したりして、よく考えること。」ととらえる。現実に起きている複雑に絡み合った解の見えない問題に対しては、試行錯誤し、複数の視点から考える等、よく考える資質・能力が必要だと考えたからである。

創造

「新たに開発すること」を「創造」の観点から、「持続可能性の視点から、新しい問題や課題を掘り起こしたり、解決の新しい形を描き出したり、新しい解決方法や考え方を生み出したりすること。」ととらえる。世界が抱える問題に対して、持続可能性の視点で考え、最適な解決の仕方を見いだす資質・能力をはぐくむことが、社会創造科の最も求めるところである。

発信

「新たに開発すること」を「発信」の観点から、「場面や目的に応じて表現方法を工夫し、自らの思いや願い、考えを効果的に表し、他者や社会を啓発すること。」ととらえる。自らの考えの妥当性を確認し、より高めるためには、つくった考えを、場面や目的に応じて工夫し、効果的に伝え表し、それに対する評価を受けようとする資質・能力が必要だと考えたからである。

以上、四つの観点を総合し、社会創造科では、「新たに開発すること」を、「自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、持続可能性の視点に基づいた新たな考えをつくること。」とした。社会創造科で、「自ら考えたり、他に考えを求めたり」とは、現実に行き詰っている複雑に絡み合った解の見えない問題に対して、その背景を探り原因を明らかにし、複数の視点から考える等、広く深く考えることである。また、「現状を打破するために対象との新たなかかわりをつくること」とは、対象とした問題について、持続可能性の視点から解決策をつくりだし、効果的に発信することである。

ESDの形成能力のコンピテンシーの一つに、「相互作用的にメディアと道具を用いる」がある。その下位として、「知識や情報を相互作用的に用いる能力」があり、これは、「世界に対してオープンであり、新たな視点を統合させた知を組み立てる」こと、「学際的に認識し行動する」ことが含まれる。「学際的に認識し行動する」ことは、「問題の複雑性と行動の必要性について、持続可能性の視点からとらえるもの」とされる。これらは、社会創造科で求める資質・能力「新たに開発すること」と、合致するものである。

幼児教育ではぐくむ三つの資質・能力について

幼児教育では、三つの資質・能力を以下のように設定する。

○自己を推進すること（「価値の認識」）

→身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと

○相互に交流すること（「他者の認識」）

→友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと

○新たに開発すること（「創造」）

→思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと

幼児は、身の回りの環境に興味・関心をもって、自ら働きかけて遊ぶ。そして、成長とともに身の回りの人とのつながりを広げ、多様なかかわりを経験しながら遊ぶようになる。夢中になることで思う存分に自己発揮し、工夫しながら遊びを充実させていく。

このような幼児期の特徴を踏まえ設定した幼児教育ではぐくむ三つの資質・能力について、その設定の考え方を以下に述べる。

○「自己を推進すること」

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容の領域「環境」では、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」と、示されている。

当園の幼児教育の研究計画にもあるように、幼児期は、その発達段階ゆえ、環境からの影響を大きく受ける時期である。幼児は、身の回りの環境（ひと・もの・こと）からの刺激を受け、思いや願いを広げ、また対象に繰り返しかかわっていく。このようなかかわりが主体性をはぐくみ、愛情・愛着を深めていく。また、近年、社会状況の変化による家庭や地域の教育力の低下への対策として、体験と言葉の重視など、子供や社会の変化に対応した幼稚園教育の充実が課題と言われている。幼児が、心動かされる体験を通して、次の活動へと邁進したり、その感動や思いを表現したりすることの重要性が言われている。

これらは、「自己を推進すること」の資質・能力を「価値の認識」の観点からをとらえた内容と重なる。なぜなら、「価値の認識」は、「ひと・もの・ことのもつよさをとらえるとともに、それを生かしたり守ったりしていこうとする愛情や愛着をもつこと」だからである。これを幼児教育に当てはめると、幼児が、身の回りの環境に興味・関心をもち、楽しさ・心地よさを感じながら遊びに取り組むことである。幼児が、時間を忘れ、我を忘れ、ただかかわっている対象世界に没入する姿を、夢中になって遊ぶ姿をとらえ、その資質・能力のはぐくみを目指す。

以上のことから、幼児教育では「自己を推進すること」の資質・能力を「価値の認識」の観点から、

身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと

と設定する。

○「相互に交流すること」

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容の領域「人間関係」では、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。」「身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。」と、示されている。他にも、「共に過ごすことの喜び」「共感」「友達のよさに気付き」「共通の目的を見いだし」など、人との良好な人間関係づくりの基盤となる心情・意欲・態度の育成について示されている。

また、領域「健康」「言葉」の内容の取り扱いの中では、「幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと」「言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであること」に留意する必要があると示されている。これ

は、子供たちの発達が生身の周りの人との良好なかかわりの中で促されることを意味する。

当園の幼児教育の研究計画にもあるように、幼児は、その発達段階から自分の遊びを充実させて思う存分に自己発揮する段階にいるが、成長とともに身の周りの人へとかかわりを広げていく。その中で、人とかかわることの楽しさ、喜び、葛藤、つまづきなど、多様な感情を体験し積み重ねることを通して、人とのかかわり方や集団としての価値を見いだしていく。また、近年、子供たちの自制心や規範意識の希薄化、コミュニケーション能力の不足などの課題が指摘されている。その対策として、集団生活の中で主体性をはぐくむとともに、人間関係の深まりに沿って、幼児同士が共通の目的をもち、協力し、実現していく経験を重ねることが重要と言われている。

これらは、「相互に交流すること」の資質・能力を「他者の認識」の観点からとらえた内容と重なる。なぜなら、「他者の認識」は、「あるがままの他者の姿を見つめ、その個性をとらえるとともに、その人の気持ちや考え、立場を思いやること」だからである。これを幼児教育に当てはめると、幼児が、友達の存在を知り、一緒に遊ぶ楽しさを感じることで、また、友達と遊びながら人とのかかわり方を学ぶことである。もちろん、発達段階において、かかわりの頻度やその様相は変わってくる。教師の受容的・共感的姿勢にのみ安心感を見いだしていた幼児が、周囲の友達の存在やよさを認識し、かかわる喜びを見いだしていくことで、仲間との集団の中に心の拠り所を築いていく。当園では、他者を知り、関係を築こうとする資質・能力のはぐくみを目指す。

以上のことから、幼児教育では「相互に交流すること」の資質・能力を「他者の認識」の観点から、

友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと

と設定する。

○「新たに開発すること」

幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容の領域「環境」と「表現」の内容の中では、「身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。」と、示されている。

当園の幼児教育の研究計画にもあるように、幼児は、自分の思いや願いをもとに主体的に活動し、遊びを継続させていく。その遊びの様相は、子供たちの思いや願いによって、多様な形に変化したり、盛り上がりを見せたりする。そこには、自分の遊びのイメージを膨らませたり、友達と見立てやイメージを伝え合ったりして生まれた工夫や試行錯誤があることだろう。つまり、幼児の自発的な遊びとは、常に新しいイメージの創造の繰り返しであると言える。また、先にも述べたように、近年、体験と言葉の重視など子供や社会の変化に対応した幼稚園教育の充実が課題と言われている。幼児が、試したり工夫したりして、周囲の環境に対する新たな視点に気付いたり、新しい考えが生まれたりするようにすることが重要とされている。

これらは、「新たに開発すること」の資質・能力を「創造」の観点からとらえた内容と重なる。なぜなら、「創造」は、「新しい問題や課題を掘り起こしたり、解決の新しい形を描き出したり、新しい解決方法や考え方を生み出したりすること」だからである。これを幼児教育に当てはめると、幼児が、自分のもつ遊びへの思いや願いを膨らませ、遊びを自分なりに工夫し創り出すことである。自分の思いや考えを楽しみながら、また、試行錯誤しながら具現化し、自信をもって対象にかかわっていく資質・能力のはぐくみを目指す。

以上のことから、幼児教育では「新たに開発すること」の資質・能力を「創造」の観点から、

思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと

と設定する。

国語科ではぐくむ三つの資質・能力について

国語科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

○自己を推進すること（「価値の認識」）→価値を自分のものとしてとらえること

○相互に交流すること（「志の共有」）→自他の価値のとらえを聞き合い、共通の目的に向かおうとする関係を築くこと

○新たに開発すること（「創造」「発信」）→新たな価値を発見し、解釈・表現を創り出すこと

国語科では、本研究における資質・能力の設定の意図、及び国語科学習指導要領改訂の趣旨から上記のように三つの資質・能力を設定する。特に国語科学習指導要領の改訂の趣旨については下記の部分に着目した。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことを重視する。（国語科の学習指導要領より。下線は引用者）

後述するように、ここでいう「論理」性を「表現の方法に関する価値」、「感性や情緒」を「社会的・文化的な価値」ととらえ、国語科の三つの資質・能力の設定の意図を説明する。

○「自己を推進すること」

「自己を推進すること」とは「自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分を作ること」である。これを国語科に当てはめると次の二つにあたる。

一つ目は「情緒力…他人の痛みを自分の痛みとして感じる心、美的感性、もののあわれ、懐かしさ、家族愛、郷土愛、日本の文化・伝統・自然を愛する祖国愛、恥や名誉と言った社会的・文化的な価値にかかわる感性・情緒を自らのものとして受け止める力」（以上、文部科学省 文化審議会答申より）である。

二つ目は「論理的思考力…自分のものの感じ方やとらえ方のもとになっていることが何かを明らかにしたり、意図をもって表現したりすること」である。これは、第1次研究において「論理的読解力・論理的表現力」として設定してきたものである。いわば、表現の方法に関する価値の認識にかかわる力である。例えば、これまで取り組んできた「文学作品自力読みの観点」は、自分が魅力を感じた表現を類型化し、ラベリングしたものである。ラベリングすることで自覚化され、同じような魅力を容易に見いだせるようになるとともに、作品をより分析的にとらえられるようになる。また、これは表現する際に意図をもって叙述の仕方を選択することにもつながる。

そこで、上記の二つを踏まえ、国語科では「自己を推進すること」に対応する資質・能力を

価値を自分のものとしてとらえること（以下、「価値をとらえること」と表記）

と設定する。

ここでいう「価値」とは、前述の「情緒力」で挙げられている社会的・文化的な価値のみにとどまらず、これまで「論理的思考力」でとりあげてきた、表現の方法に関する価値も含まれる。どのような表現から魅力を感じるのか、また魅力的な表現にするにはどのようにしたらよいのかを考える力を働かせる姿がこれにあたる。

○「相互に交流すること」

「相互に交流すること」とは「対話を通して他者とかわり、よりよい人間関係を作ること」である。これを国語科に当てはめると次の二つにあたる。

一つ目は、自他の共通点や相違点を明らかにし、それを認めつつも追究することを通してより価値のあるものを求める関係を築くことである。「社会的な知性」として求めている資質・能力の本質やキーコンピテンシーの考え方を踏まえたとき、「相互に交流すること」は「よりよい人間関係を作ること」を目指す必要がある。国語科としてもこのような人間関係の構築ができる子供を育てたいと考える。

二つ目は、コミュニケーションの技能や態度に関することである。これは、場や相手に適した音量や速さ、うなずきや表情などの共感的な態度、さらには、より価値のあるものを生み出すためのトランザクションの活用や交流内容を可視化することなどが挙げられる。また、「対話を通して他者とかかわり、よりよい人間関係を作ること」の実現には、相手の考えを肯定的に受け止める素地の上に、より能動的に相手の考えを訊いていこうとする態度をもつことが重要であると考えられる。

そこで、上記の二つを踏まえ、国語科では「相互に交流すること」に対応する資質・能力を

自他の価値のとらえを訊き合い、共通の目的に向かおうとする関係を築くこと（以下、「とらえを訊き合うこと」と表記）

と設定する。

対話的な活動の中で自分のとらえや考えに固執し、学びに深まりが見られない子供の姿があることは、国語科の継続的な課題であった。相手意識をもって他者と交流することは、表現の言外にある思いや真意を想像することにつながるだろう。また、表現をする際には相手に応じた表現の仕方を工夫することにもなるだろう。

○「新たに開発すること」

「新たに開発すること」とは「自ら考えたり他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、対象との新たな関わりをもつこと」である。これを国語科に当てはめると次の二つにあたる。

一つ目は、相互に交流することを通して、新たな社会的・文化的な価値および表現の方法に関する価値を見出すことである。これは、例えば文章の読解において、読みを相互に交流することで新たな価値に気付いたり創出したりすることが挙げられる。その際には、様々な思考ツールを用いて考えを可視化したり、考えの道筋を明らかにしたりすることになる。

二つ目は、目的等に応じて表現することである。これは自分の表現の目的・相手・場面・方法・内容を意識することで、よりよい表現を工夫し、生み出すことが挙げられる。その際に目的を共有した子供同士が相互に表現を評価・批評し合い、それを達成するためのよりよい表現を検討する。

そこで、上記の二つを踏まえ、国語科では「新たに開発すること」に対応する資質・能力を

新たな価値を発見し、解釈・表現を創り出すこと（以下、「新たに創り出すこと」と表記）

と設定する。

子供たちは様々なテキストに出会い「価値をとらえ」、とらえた価値を「とらえを訊き合う」ことで、ともに高まり合う関係を築きながら、「新たに創り出す」。そして、見いだしたり生み出したりした価値が、次の学びへと向かう意欲になっていくのである。

社会科ではぐくむ三つの資質・能力について

社会科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- 自己を推進すること（「自己の認識」「価値の認識」）→社会的事象にかかわっていくこと
- 相互に交流すること（「他者との協力」）→仲間とともに社会的事象に対する解釈を深めていくこと
- 新たに開発すること（「現状の把握・分析」「創造」）→自分と社会的事象との新たな関係を見いだすこと

「社会的な知性を培う」第1次研究において、社会科では、はぐくみたい資質・能力として「関係的にとらえる力」を設定してきた。これにより、社会的事象を多面的・多角的にとらえる力の高まりを意識して授業を展開することができた。しかし一方で、よりよい社会を目指して社会認識を深めていこうとする姿はあまり見られなかった。この原因として、社会的事象を多面的・多角的にとらえることを重視し、自分と社会的事象との関係を見いだすことが不十分であったと考える。また、社会的事象を多面的・多角的にとらえることが、よりよい社会を形成していくことにつながるということを実感させることも不十分であった。そこで、これまで社会科で設定していた「関係的にとらえる力」を、当校園で設定した三つの資質・能力の内容を考慮しながらとらえ直し、上記のように社会科ではぐくむ三つの資質・能力として設定した。以下に、その設定理由を述べる。

○「自己を推進すること」

「自己を推進すること」とは、「自己を見つめ、人・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分をつくること」である。これは社会科でいうと、「自分と社会的事象との関係を見いだそうと、自ら事象に対して働きかけていくこと」である。そこで、社会科では「自己を推進すること」に対応する資質・能力を「自己の認識」「価値の認識」の観点を基に、

「社会的事象にかかわっていくこと」

と設定する。

ここでいう「かかわっていくこと」とは、子供が主体的に追求しようとする姿と、それを継続しようとする姿を指す。この姿は、子供が単元を通して自分と事象を引きつけてとらえ、主体的によりよい社会を形成していこうとする姿へとつながる。

○「相互に交流すること」

「相互に交流すること」とは、「対話を通して他者とかわり、よりよい人間関係をつくること」である。これは社会科でいうと、「他者との解釈の交流を通して社会的事象を多面的・多角的に見たり考えたりすること」である。

社会科では、よりよい社会認識を創り上げていく姿を目指す。そのためには、異なる解釈をもつ仲間と交流し、多面的・多角的に事象をとらえることが有効である。そこで社会科では、「相互に交流すること」に対応する資質・能力を、「他者との協力」の観点を基に

「仲間とともに社会的事象に対する解釈を深めていくこと」

と設定する。

ここでいう「解釈を深めていく」姿とは、社会的事象を多面的・多角的にとらえるために解釈を交流し合う姿である。そしてその姿が、社会的事象の意味をとらえて自分との新たな関係を見いだすという「新たに開発すること」の資質・能力につながっていく。

○「新たに開発すること」

「新たに開発すること」とは、「自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題の解決に取り組み、現状を突破するために、対象との新たなかかわりを作ること」である。これは、社会科でいうと、「社会的事象に対する自分の解釈を見直し、今までとらえきれていなかった社会的事象の意味をとらえること」である。そのためには、調査や他者との交流で得た情報等を整理分析したうえで、新たな考えを導き出す必要がある。

そこで、社会科では「新たに開発すること」に対応する資質・能力を、「現状の把握・分析」と「創造」の観点を基に

「自分と社会的事象との新たな関係を見いだすこと」

と設定する。

ここでいう「新たな関係を見いだす」とは、論理的に且つ実感を伴って社会的事象の意味をとらえる姿であり、それがよりよい社会を形成していくことにつながるということを見いだす姿である。

子供たちは、社会的事象と出あい、自分なりの見方・考え方をもとにして社会的事象の意味を解釈していく。そして、自分がとらえきれていない社会的事象の意味を明らかにしようと、問いをたてて追求していく（自己を推進すること）。その中で、自分なりの解釈を仲間と交流し、多面的・多角的に見たり考えたりしながら解釈を深めていく（相互に交流すること）。そこから、とらえきれていなかった社会的事象の意味をとらえ、それがよりよい社会の形成につながるという価値を見いだしていく（新たに開発すること）。

このようにしてとらえた意味や追求の価値は、さらに次の学びにおける自己の推進へとつながっていく。

以上のことから、三つの資質・能力はいずれも社会的事象と自分との関係性の中ではぐくまれていくものであり、ともに密接に関連していると考える。よって、それぞれの資質・能力がはぐくまれる場面を明確にしながらも、互いの関連を意識して学習活動を組織していくことが大切である。それにより、効果的に三つの資質・能力をはぐくみ、それを働かせながら学習内容を確実に習得させることができると思う。

算数・数学科ではぐくむ三つの資質・能力について

算数科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- 自己を推進すること（「立志・計画」） → 数学的な問題やその解決方法を見通し振り返ること
- 相互に交流すること（「他者との協力」） → 考えを数学的な表現で表し伝え合うこと
- 新たに開発すること（「創造」） → 数学的な知識をとらえ直すこと

数学はすべての文明で生じたものであり、それは自然や社会などの世界に関わる問題から、人間がパターンを見出しながら、生み出してきたものである。人間は、数学自体を直観的・経験的・論理的に一步一步積み上げながら、体系的に発展させてきた。また、地理的な文化の違いを越えて、互いに考えを交流し証明することで創り上げてきた。そのため、数学は、生活に役立てる機会はもちろん、生活や社会、数学そのものへの理解を深めるための問題解決的なアプローチの仕方を学ぶ機会を与えてくれる。このことは、現在、数学的リテラシーがますます重要視されていることから、注目すべき数学の特性ともいえる。

以上のことから、算数・数学科は、「問題からパターンを見だし生み出す教科」「互いに数学的な考えを交流して創り上げていく教科」「生活や社会、数学そのものへの理解を深める道具としての教科」といえる。このことを踏まえ、算数・数学科では、はぐくみたい三つの資質・能力を以下のように設定する。

○「自己を推進すること」について

「自己を推進すること」とは、「自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分を作ること」とである。

教科の特性から、算数・数学科における「自己を推進すること」をとらえると、それは“きまりをうまく説明できる整合性のある世界を創りたい”というように、あるべき数学の世界に思いをはせたり、“問題を数学的によりよく解決したりより深く理解したりできるようになりたい”というように、なりたい自分を思い描いたりすることといえる。

また、それは、そのような目的意識をもち、問題の解決に向けて見通しを立てて取り組み、そして振り返り、修正しながら着実に問題に接近していくことといえる。

この資質・能力は、解決が困難な問題や課題にも向き合い立ち向かっていく態度がますます求められるこれからの時代に、大変重要であり、自律的な学習者がもつとされるメタ認知・自己調整機能と通じる。また、この資質・能力は、学習指導要領にある「見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返ること」とも整合している。

これは、「立志・計画」の観点から「自己を推進すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「立志・計画」は、「なりたい自分やあるべき姿を思い描き、それに向かう強い心をもち、実現に向けて目標や見通しを立てて段取りすること」だからである。

以上のことから、算数・数学科では、「自己を推進すること」を「立志・計画」の観点から、次の資質・能力として設定する。

数学的な問題やその解決方法を見通し振り返ること

○「相互に交流すること」について

「相互に交流すること」とは、「対話を通して他者とかかわり、よりよい人間関係を作ること」とである。

教科の特性から、算数・数学科における「相互に交流すること」をとらえると、それは“共に数学の言語を用いたコミュニケーションして、数学を分かり合いたい、共有したい”というように、数学を創上げる社会的な営みそのものであるといえる。

また、それは、そのような目的意識をもち、問題の解決に向けて互いに力を合わせて、コミュニケーションを図り、よりよい考えを築きながら着実に問題に接近していくことといえる。

この資質・能力は、他人との関係性、社会との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を重んじる態度が求められるこれからの時代に、大変重要である。また、それは、学習指導要領にある「数や図形の性質などを的確に表したり、根拠を明らかにして筋道立てて説明しり、自分の思いや考えを伝え合い、それを共有したり質的に高めたりすること」とも整合している。

これは、「他者との協力」の観点から「相互に交流すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「他者との協力」は、「異なる立場で構成した集団の構者として、目標に向かって力を合わせて取り組むこと」だからである。

以上のことから、算数・数学科では、「相互に交流すること」を「他者との協力」の観点から、次の資質・能力として設定する。

考えを数学的な表現で表し伝え合うこと

○「新たに開発すること」について

「新たに開発すること」とは、「自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、現状を突破するために、対象との新たなかかわりをつくること」である。

教科の特性から、算数・数学科における「新たに開発すること」をとらえると、それは“生活や社会、数学そのものより深く理解したい”“これまでの知識を用いながら新たな問題をよりよく解決したい”というように、数学を用いて事象を理解することや数学自体の理解を深めることといえる。

この資質・能力は、数学的リテラシーがますます重要視されているこれからの時代に、大変重要であり、既存の知識と新たな知識の共通点を見いだしたり、関連付けたり、位置付けたりしていくことに通じる。また、それは、学習指導要領にある「基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育てる」とも整合している。

これは、「創造」の観点から「新たに開発すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「創造」は、「新しい問題や課題を掘り起こしたり、解決の新しい形を描き出したり、新しい解決方法や考え方を生み出したりすること」だからである。

以上のことから、算数・数学科では、「新たに開発すること」を「創造」の観点から、次の資質・能力として設定する。

数学的な知識をとらえ直すこと

理科ではぐくむ三つの資質・能力について

理科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

○自己を推進すること（「価値の認識」「立志・計画」）

→自然事象にかかわり、見通しをもち疑問を解き明かそうとすること

○相互に交流すること（「志の共有」）

→自然事象に対する見方や考え方のずれを克服しようとする

○新たに開発すること（「現状の把握・分析」）

→自然事象を多面的にとらえ、原因や仕組みを明らかにすること

理科は「自然に親しむ」教科である。豊かな自然の事物・現象に触れ、それらに親しむことにより、子供は自らの学びを成立させていく。また、理科は「科学的な見方や考え方を養う」教科である。「科学的に」一人一人の子供が考えることにより、自らの見方や考え方を養っていく。これらのことを踏まえ、理科では、はぐくみたい三つの資質・能力を以下のように設定する。

○「自己を推進すること」

「自己を推進すること」とは、「自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分を作ること」である。

教科の特性から理科における「自己を推進すること」をとらえると、それは“自然の事物・現象に対してははっきりしないことをはっきりさせたい”というように、知的好奇心が刺激されたり、“理科は実生活で役立っていることを実感できた”というように、将来の自分をより豊かにしたりすることといえる。また、そのような目的意識をもち、問題の解決に向けて見通しを立て、修正しながら着実に問題に接近していくことといえる。

この資質・能力は、学習指導要領にある「目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる」とも整合している。

これは、「価値の認識」の観点から「自己を推進すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「価値の認識」は、「ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもったり、持続可能の視点から地域の価値をとらえたりすること」だからである。また、「立志・計画」の観点から「自己を推進すること」をとらえた内容とも重なる。なぜなら、「立志・計画」は、「なりたい自分やあるべき姿を思い描き、それに向かう強い心をもち、実現に向けて目標や見通しを立てて段取りすること」だからである。

以上のことから、理科では、「自己を推進すること」の資質・能力について「価値の認識」「立志・計画」の観点から、次のように設定する。

自然事象にかかわり、見通しをもち疑問を解き明かそうとすること

○「相互に交流すること」

「相互に交流すること」とは、「対話を通して他者とかがわり、よりよい人間関係をつくること」とされている。

教科の特性から理科における「相互に交流すること」をとらえると、それは“自分とは異なる考えが存在していることを知る”など多様な視点から物事を判断することを学ぶことができる。また、“役割分担して実験を行うことにより、効率的に正確な実験をすることができた”というように、目的に向かって協力することによりよい人間関係をつくることことができる。

この資質・能力は、解決が困難な問題や課題に協力して立ち向かっていく態度がますます求められるこれからの時代に、大変重要である。OECDにおけるキーコンピテンシーの中の「多様な集団における人間関係形成能力」の観点からもこの資質・能力が求められるところである。

これは、「他者との協力」の観点から「相互に交流すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「他者との協力」は、「集団の構成者として互いの立場や役割を理解し、目的に向かって力を合わせて取り組むこと」だからである。

以上のことから、理科では、「相互に交流すること」の資質・能力について「志の共有」の観点から、次のように設定する。

自然事象に対する見方や考え方のずれを克服しようとする事

○「新たに開発すること」

「新たに開発すること」とは、「自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、現状を突破するために、対象との新たななかかわりをつくること」である。

教科の特性から、理科における「新たに開発すること」をとらえると、それは“自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、変化とその要因を関係付けたりする”というように、比較、関係付けながら調べることといえる。また“変化させる要因と変化させない要因を区別したり、要因、規則性、関係を推論したり、結果を分析、解釈したりする”というように、条件制御、推論、分析、解釈しながら調べることといえる。

この資質・能力は、学習指導要領にある「自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う」とも整合している。

これは、「現状の把握・分析」の観点から「新たに開発すること」をとらえた内容と重なる。なぜなら、「現状の把握・分析」は、「現実の事象や現象を多面的にとらえるとともに、その背景や原因、仕組みを明らかにしていくこと」だからである。

以上のことから、理科では、「新たに開発すること」の資質・能力について「現状の把握・分析」の観点から、次のように設定する。

自然事象を多面的にとらえ、原因や仕組みを明らかにすること

音楽科ではぐくむ三つの資質・能力について

音楽科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- 自己を推進すること（「自己の認識」） → 音楽を感じ取り表すこと
- 相互に交流すること（「志の共有」） → 音楽の感じ方、表し方を認め合うこと
- 新たに開発すること（「創造」「発信」） → 新たな音楽の表し方で伝えること

音楽科では、三つの資質・能力が働く際、子供が音楽と主体的にかかわっている状態であると考えられる。これまで、音楽科では、「感受すること」と「表現を工夫すること」の資質・能力のはぐくみに重点を置いてきた。仲間とともに一つの表現を創りあげたり考えを重ね合わせたりすることは、音楽の活動において欠かせないことである。このことから、音楽の活動に取り組んでいる最中に三つの資質・能力の働きが表出していることを評価できるよう、以下のように設定する。

○「自己を推進すること」

学習指導要領小学校音楽編、中学校音楽編では、改訂の趣旨、改善の基本方針の中に、「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する」とある。また、「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。」とある。これは、自分と音楽とのかかわりを主体的に広めたり深めたりすることにつながる。このことから、音楽科では「自己を推進すること」を「自己の認識」の観点を基に、

音楽を感じ取り表すこと

と設定する。これは、音楽や自他の表現から知覚・感受したことを支えに、思いや意図をもって表現したり、想像力を働かせて鑑賞したりすることである。

音楽から感じ取ったことを言葉などで表すことで、自分と音楽とのかかわりを明確にする。多様な音楽と出会い、自分の感じ方を広げていけるような資質・能力の向上を目指す。

○「相互に交流すること」

学習指導要領小学校音楽編では、改訂の趣旨の中に、「斉唱や簡単な合唱・合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、協同する喜びを感じたりする指導を重視する。」とある。さらに、指導計画作成上の配慮事項（2）第5学年及び第6学年の内容の「A 表現」の指導に当たっては、「重唱や重奏などの活動において友達と思いや意図を共有しながら表現したりする体験を通して」とある。学習指導要領中学校音楽編では、改訂の趣旨の中に、「合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視する」とある。これは、自分と音楽との関係にとどまらず、同じ目標に向かって仲間とともに音楽をつくっていくことを求めている。そのためには、自分の感じ方を仲間に伝えたり、相手の感じ方を共感的に受け入れたりすることが大切である。このことから、音楽科では「相互に交流すること」を「志の共有」の観点を基に、

音楽の感じ方、表し方を認め合うこと

と設定する。これは、音楽を形づくっている要素の働かせ方の根拠や実際の表現から感じたことを基に、互いの感じ方を共感的に理解し、重なる思いを強くしたり互いのずれを克服しようとしたたり

して、表現の仕方を明確にもつことである。

仲間とともに音楽をつくることは、それぞれの思いや願いを重ねていくことが大切である。そのためには、互いの考えや感じ方を受け止めながら音楽を表現する資質・能力の向上を目指す。

○「新たに開発すること」

学習指導要領小学校音楽編では、音楽科改訂の趣旨の中に、「音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする能力の育成」が重視されている。学習指導要領中学校音楽編では、音楽科改訂の趣旨の中に、「多様な音や音楽を感じ取り、創意工夫して表現したり味わって鑑賞したりする力の育成」が求められている。これらのことは、表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、聴き手を意識した表現の方法を見いだすことと重なる。このことから、音楽科では「新たに開発すること」を「創造」「発信」の観点を基に、

新たな音楽の表し方で伝えること

と設定する。これは、聴き手にどのように伝えるか考え、仲間との音楽活動を通して創った表現をさらに高めることである。

自分の思いを表すためのふさわしい表現活動を求めるように、資質・能力の向上を目指す。

図画工作・美術科ではぐくむ三つの資質・能力について

図画工作・美術科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- 自己を推進すること（「価値の認識」「立志・計画」）→対象をとらえること、主題を決めること
- 相互に交流すること（「他者の認識」「志の共有」）→思い・願いを伝え表すこと
- 新たに開発すること（「創造」「発信」）→構想し創りだすこと、表現の価値を見いだすこと

図画工作・美術科の学習活動の内容は、子供が感じたことや考えたことを造形的に表す表現活動と、作品や身の回りの物などからよさや美しさなどを感じ取り、見方を深める鑑賞活動の二つの造形活動によって行われる。よって、図画工作・美術科で設定する資質・能力は、これらの活動を通して子供たちにはぐくまれるものである。

図画工作・美術科学習指導要領改訂の趣旨には、子供たちに創造することの楽しさを感じさせるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯に渡り主体的にかかわっていく態度を育むことが第一に示されている。指導要領に示されているそれらのことは、附属長岡校園で設定する三つの資質・能力を子供たちにはぐくむことと密接にかかわるととらえる。以下、学習指導要領の趣旨、目標と重ねて三つの資質・能力を設定した意図について説明する。

○「自己を推進すること」

素材や身の回りの事物に面白さを感じたり、つくることが楽しいと感じたりというように、身の回りの造形が私たちの生活を豊かにしているということを感じ取るのは、感性の働きによるものである。この感性が豊かになれば、学習指導要領で述べられているところの、「生活の中の美術の働きや文化に関心を持ち、生涯にわたり創造活動に主体的にかかわっていきこうとする態度」が育成されるものと考えられる。豊かな感性をはぐくんでいくためには、まず対象となるものから面白さなどの魅力を感じ取る心を育て、感じ取った事柄をさらに自分の中でイメージ豊かにふくらませていく力を高めていく必要がある。対象の中にあるもの・ことに、自分とのかかわりを感じたり自分の生き方や価値観などを見いだしたりすることでそれらの力が高められ、創造活動への意欲が生まれると考えられる。これらのことから、表現活動、鑑賞活動それぞれにおいて、表現の対象と出会ったときに対象から興味・関心、面白さや楽しさ、自分とのかかわりなどを感じ取り、イメージ豊かにふくらませる力を重視し、「価値をとらえる」観点から、

対象をとらえること

を設定した。

表現活動においては、自分が感じ取ったことや表したいと思ったことをどのように表現するとよいかという見通しや方向性を考える。そのためには、自分が感じ取ったことや表したいと思うことは何かを明確にすることが大切である。それが定まると、表現したいことはどのくらいの期間で、どんな材料で、どんな素材で、どんな方法でつくり進めていくとよいか、おおよその見通しを考えたり試しにつくってみたりする。このような、自分が表現したいことの方角性を判断し決めていく力を重視し、「立志」「計画」の観点から、

主題を決めること

を設定した。

なお、対象をとらえることと主題を決めることを別に表記しているのは、対象をとらえることは表現、鑑賞のどちらも含む造形活動ではぐくむもの、主題を決めることは主に表現活動においてはぐくむものと設定しているためである。

○「相互に交流すること」

学習指導要領に示されている通り、図画工作・美術科では、造形活動を通して、子供たちが造形要素をとらえ、それにかかわる自他の思いを伝え合うことで、人、社会と積極的につながり、生活や社会を豊かにしていくことが求められている。自分の気持ちや伝えたい内容などを形や色彩、材料などを生かして他者や社会に表現・発信する学習が一層重視されている。そのために、自分の思い（考えていることや気持ちなど）や願い（理想や想像）を基に、それらがどんな形や色彩で表されるとよいかといった考えを他者に伝える。また逆に他者の思いや願いを聞き、それにかかわる造形要素はどんなものがふさわしいかを互いに考えていく。こういった活動の中で互いの思いや願いがより深く理解され、それを基に多くの発想が生まれたり、より多くの人に受け入れられる視点を得たりしながら、よりよいものが創りだされていくのである。また、図画工作学習指導要領解説の教科の目標には、児童につくりだす喜びを味わわせることを重視した内容と、そのために友人や身近な社会とのかかわりによってそれが一層満足できるものになることが記されている。このような、造形要素の視点を通して、自分の思い・願いを伝えたり、他者の思い・願いを聞き入れたりしながら思考する力を重視し、「他者の認識」「志の共有」の観点から、

思い・願いを伝え表すこと

として設定した。他者の思い・願いを理解したとき、その思い・願いを表すための発想が生まれ自らの思想にもそれが反映されたりするように、観点の「他者の認識」「志の共有」は、それぞれ独立したものではなく、かかわり合っているものととらえている。

また、鑑賞活動は、表現されたものから一人一人が感じ取ったことを言葉にして表現する活動であるため、他者の考えを聞く、自分の考えを伝える活動が中心となる。よって、この「相互に交流すること」の思い・願いを伝え表すことは、特に鑑賞活動において顕著に表れる資質・能力であると考えられる。

○「新たに開発すること」

小学校学習指導要領には、「つくりだす喜び」を、中学校学習指導要領解説には、「創造活動の喜び」を、それぞれ児童生徒に味わわせることを重視することが示されている。新しい物をつくりだしたいという意欲とそれを実現するための力が調和よく働いたとき、創造活動の喜びを豊かに味わうことができるようになる。表現活動においては、自己の心情や考え、イメージを基に自分が表現したいことを考え、それを道具や材料の使い方を工夫し、自分の表現方法で作品として実体化する。また鑑賞活動においては、自分の見方や感じ方に基づいて想像力を働かせ、作品に対する見方を深めたり新たな発見をしたり感動したりすることで作者の心情や考え方などに迫り、自分にとっての作品の価値を見だし、言葉で表したりする。どちらの活動も、子供一人一人の思いや考えが新たに作りだされ、形として表現される活動である。表現活動も鑑賞活動も、ただつくったり、見たりするのではなく、どんなことを表現したいのか、自分が何を感じ取っているのかという自分の考えや思いがしっかりと意識されることが「思考」「判断」「表現」の観点から見て大切なことととらえている。この点を重視し、「創造」「発信」の観点から、

構想し創りだすこと

表現の価値を見いだすこと

を設定する。なお、構想し創りだすことは主に表現活動において、表現の価値を見いだすことは主に鑑賞活動においてはぐくむこととする。

家庭科, 技術・家庭科 三つの資質・能力について

家庭科, 技術・家庭科では, 以下の三つの資質・能力を設定する。

- 自己を推進すること（「立志・計画」） →最適な生活の仕方を自ら選択すること
- 相互に交流すること（「他者との協力」） →自他の生活の仕方を伝え合い見直すこと
- 新たに開発すること（「創造」） →自分の生活に関連付けながら生活の仕方を工夫すること

家庭科, 技術・家庭科は, 仲間と生活の仕方を交流し合うことで自分の考えを深め, 生活をよりよくするために生活の仕方を工夫し, 実践していくことで生活の自立の基礎を培う教科である。このことを基に, 家庭科, 技術・家庭科では, はぐくみたい三つの資質・能力を「立志・計画」「他者との協力」「創造」の観点でとらえることとした。よって, 家庭科, 技術・家庭科では, はぐくみたい三つの資質・能力を以下のように設定する。

○「自己を推進すること」

小学校学習指導要領解説家庭編の目標において, 「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け, 生活における自立の基礎を培う」ことを目指しているとある。そのためには, 知識や技能を活用して, 生活の問題を解決したり, 家庭で実践したりすることが大切である。このことにより, 自分の生活に向き合い, 様々な問題を解決したり, 実践したりしていくことが自立の基礎につながっていくと考える。中学校学習指導要領解説技術・家庭編の目標においては, 「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して, 生活と技術とのかかわりについて理解を深め, 進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」とある。実生活に生かすことのできるものにするためには, 日常生活に関連のある学習場面において, 児童生徒自身が主体的に知識や技能を生かし, 自分の考えを働かせながら工夫する経験を繰り返す中で身に付けていくと考える。

また, 本研究における「立志・計画」の観点の見解では, 「実現に向けて目標や見通しを立てたり段取りをしたりすること」とある。学習を通して, 主体的に知識や技能を生かし実践していく中で, 目標や見通しを立てたり, 段取りしたりする資質・能力がはぐくまれると考える。

これらから, 家庭科, 技術・家庭科では, 「自己を推進すること」を「立志・計画」の観点を基に,

最適な生活の仕方を自ら選択すること

と設定する。これは, 自分の生活における様々な問題を解決するために, 場面や状況に応じて, 最適な方法を選択していくことである。

自分の生活を振り返り, どうすると生活がもっとよりよくなるのか, 目指したい生活に向けてよりよくなるような生活の仕方を考え, 場面や状況に応じて, 仲間の考えも含めた様々な生活の仕方の中から, 最適な方法を選びとり, 実践していくことのできる資質・能力の向上を目指す。

○「相互に交流すること」

小学校学習指導要領解説家庭編の「5 言語活動の充実と家庭科」に, 「実習などで体験したことを説明したり, 表現したり, 話し合ったりするなどの学習活動を充実するように配慮すること」が求められるとある。実生活での活用の仕方を話し合うことで, 「身近な生活への理解が深まるとともに, 生活をよりよくしようとする意欲や生活で活用する能力などを身に付けることへつながる」とある。そのためには, 集団で一緒に課題に向き合えるようにするとか, 互いの頑張りを評価し合えるようにするなどが必要だと考える。これは, 仲間とともによりよい生活を目指して取り組んで

いくことが生活への理解や生活をよりよくしようとする意欲、活用を図るための実践へとつながっていくと考える。同様に中学校学習指導要領解説技術・家庭編では、「言葉だけでなく、設計図や献立表といった図表及び衣食住やものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動も充実する必要がある」とある。

また、本研究における「他者との協力」の観点の見解では、「目的に向かって力を合わせて取り組むこと」とある。学習を通して、仲間とともによりよい生活を目指して取り組んでいくことで、目的に向かって他者と協力できる資質・能力がはぐくまれると考える。

これらから家庭科、技術・家庭科では、「相互に交流すること」を「他者との協力」の観点を基に、

自他の生活の仕方を伝え合い見直すこと

と設定する。これは、自他の生活の仕方に対して、相互評価しながら、自分の生活を改善していく取組のよさや不十分さを明らかにすることである。

仲間が困っていることに対して解決方法を一緒になって考えたり、自他の生活の仕方に対してもっとこうするとよくなるとアドバイスし合ったりすることで、どこを改善していくとよりよくなるのかが見いだすことのできる資質・能力の向上を目指す。

○「新たに開発すること」

小学校学習指導要領解説家庭編の目標において、「家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる」とある。それは、「家族の一員として、家庭生活を改めて見詰め直したり実感したりして、現実の自分の生活の中から問題を見だし、身に付けた知識や技能を活用して生活をよりよくしようと工夫する能力と進んで実践しようとする態度を育てること」としている。また、中学校学習指導要領解説技術・家庭編では、「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てること」とある。これは、よりよい生活を目指して自ら実践していくために、生活の仕方を様々な角度から考えて工夫していくことで、生活のよりよい改善へとつながっていくと考える。

また、本研究における「創造」の観点の見解では、「新しい解決方法や考え方を生み出したりすること」とある。学習を通して、生活の仕方を様々な角度から考えて工夫していく資質・能力がはぐくまれると考える。

これらから家庭科、技術・家庭科では、「新たに開発すること」を「創造」の観点を基に、

自分の生活に関連付けながら生活の仕方を工夫すること

と設定する。これは、自分の生活に関連付けながら、改善に向けて生活の仕方を工夫することである。

何のために生活をよりよくしようとしているのか目的を振り返り、実生活における問題を見付け、その解決を目指して工夫することで、実生活に生かしていくことのできる資質・能力の向上を目指す。

体育科ではぐくむ三つの資質・能力について

体育科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| ○自己を推進すること（「自己の認識」「立志・計画」） | →動きの高まりを求めること |
| ○相互に交流すること（「他者との協力」） | →動きを伝え表し、違いを認め合うこと |
| ○新たに開発すること（「創造」） | →自分の動きに、新たな見方や考え方を生かすこと |

体育科は、知識・技能、態度、思考・判断の関係性の中で意味生成される身体経験によって、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進や体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる教科である。また、体を動かすことで、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じて、コミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育むことが大切である。このことを踏まえ、体育科では、以下のように資質・能力を設定する。

○「自己を推進すること」

「自己を推進すること」とは、「自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見通しをもって物事に取り組み、よりよい自分を作ること」である。このことを受け、体育科における「自己を推進すること」を「自分の動きを見つめ仲間やものに関心をもち、よりよい動きを求めようとする意欲を高めること」ととらえた。

運動の実施において、自分の運動を内側から眺め、感じ取りながら実施する自己観察力を高めることにより、他者観察の力を高めたり、運動の意味を理解したりする上で効果があることは、運動学で述べられていることである。また、自己観察の力を高めることで動きの現状や変化、高まりをとらえ、運動意欲を高めていくことにつながる。その際、自己観察によってとらえた自分の動きを言語で表すことで、より正確さが保証される。この自己観察の力を高めることは、学習指導要領解説体育・保健体育科編で述べられている、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」の一つとして、「運動への関心や自ら運動をする意欲」に関連する。

これは、「自己を推進すること」の観点である「あるがままの自己の姿を見つめ、自己を伸ばしたり改善したりする視点を前向きにとらえること」「あるべき姿やなりたい自分を思い描き、それに向かう強い心をもち、実現に向けて目標や見通しを立てたり段取りをしたりすること」に関連する。

以上のことから、体育科では、「自己を推進すること」を「自己の認識」「立志・計画」の観点から、次の資質・能力として設定する。

動きの高まりを求めること

これは、目指す動きに向けて試技を繰り返す中で、運動感覚を働かせながら自分の動きをとらえることである。また、身に付けた動きをさらに発展させることである。この資質・能力をはぐくむことにより、自分の動きの高まりを自覚し、運動意欲に満ちた追求ができると考える。

○「相互に交流すること」

「相互に交流すること」とは、「対話を通して他者とかかわり、よりよい人間関係をつくること」である。このことを受け、体育科における「相互に交流すること」を「子供たちが異質な集団の小集団の中で、自分とは違った「できばえ」や「分かり具合をもった仲間の見方・考え方・表し方とかかわり、集団としての力を学ぶのために発揮しながら学習を進めていくこと」ととらえた。

自分と仲間が共通の内容を学んでいること、共通の技術課題に向けて学習しているからこそ、子供には「違い」が見え、比較することができる。自分とは違う動きと自分の動きを比較することにより、動きを高めるための技術を学ぶことができる。自分とは違う仲間の多様な見方・考え方・表し方とかかわることにより、運動の原理や技術のポイントが分かっていく。このことは、学習指導要領解説体育・保健体育編では、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」の一つとして、「仲間と仲よく運動をすること」に関連する。

以上のことから、体育科では、「相互に交流すること」を「他者との協力」の観点から、次の資質・能力として設定する。

動きを伝え表し、違いを認め合うこと

これは、自ら仲間の動きの見方・考え方・表し方を求めたり、伝えたりすることで、自分と仲間との関係を構成していくことである。この資質・能力をはぐくむことにより、自分の動きを高めるとともに、コミュニケーション能力を養い、動きを通して新たな仲間のつながりをもつ姿が期待できると考える。

○「新たに開発すること」

「新たに開発すること」とは、「自ら考えたり、他に考えを求めたりして問題解決に取り組み、現状を突破するために、対象との新たなかかわりをつくること」である。このことを受け、体育科における「新たに開発すること」を「仲間の動きに対する見方や考え方、表し方、映像を基に、自分の動きを見つめ、練習方法を工夫して自分の動きを高めること」ととらえた。

よりよい動きを創り上げていくために、各ステージにおける子供の発達段階に応じて、①動きを模倣する力、②動きを比較する力、③動きを分析する力の3つの力を設定し、問題解決の場面で働かせていくことが大切であると考えた。「動きを模倣する力」は、仲間のよい動きを見付け、自分の動きに取り入れて新たな動きとして表すことである。「動きを比較する力」とは、仲間の動きを比較したり、自分と仲間の動きの見方や考え方を比較したりして見いだした相違点から、新たな視点を見いだしたり、自分の考えを確かにしたりして新たな動きとしてとらえ直すことである。「動きを分析する力」とは、模倣し、比較したりして見いだした相違点を、教具や映像等で根拠を明らかにしながら、新たな視点を取り入れたり、自分の考えを確かにしたりしながら新たな動きとして表すことである。このことは、学習指導要領解説体育・保健体育編では、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」の一つとして、「各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能」に関連する。

以上のことから、体育科では、「新たに開発すること」を「創造」の観点から、次の資質・能力として設定する。

自分の動きに、新たな見方や考え方を生かすこと

これは、体育科で大切にしている「動きを模倣する力」「動きを比較する力」「動き分析する力」を発達段階に応じて働かせて、仲間の動きの見方・考え方を自分の動きに生かして動きを高めることである。

外国語活動・英語科ではぐくむ三つの資質・能力について

外国語活動・英語科では、以下の三つの資質・能力を設定する。

○自己を推進すること（「立志・計画」）

→課題（タスク）の達成に向けて見直し振り返ること

○相互に交流すること（「志の共有」「他者との協力」）

→相手が話す考えや情報を理解するとともに自分の考えを発信すること

○新たに開発すること（「創造」「発信」）

→創造的に英語を活用し、思いや考えを伝えること

社会の様々な分野においてグローバル化が加速度的に進展し、人、もの、情報等が国を超えて流動する時代を迎えている。このような時代において、英語を学ぶ意義とは、「異なる国や文化の人々と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図り、異なる文化・文明との共存共栄を目指していくこと」と考えられる。他者とコミュニケーションを図る言語として様々な外国語が存在するが、中でも英語は国際共通語としての役割を果たしている。このような現状から、英語を確実に身に付け、それを用いて他者と円滑にコミュニケーションを図る素地や能力を高めるために、「自ら学ぶ力」「他とかかわる力」「ことばを使う力」が求められている。これらは学習指導要領にある英語を学ぶ意欲、積極的にコミュニケーションを図る態度、言語や文化への理解、4技能などのコミュニケーション能力の育成といったことに深く関連している。

以上のことから、外国語活動・英語科ではぐくむ資質・能力を以下のように設定した。

○「自己を推進すること」

設定された課題（タスク）や到達目標の達成に向けて、自ら主体的に英語を使おうとする意欲をもち、活動の取り組みを振り返ること、つまり「自ら学ぶ力」が重要とされている。そのためには明確な到達目標の提示とコミュニケーションへの強い動機付けが必要である。特に、中学校で英語を学習する段階では学習者の自律を促すために Thinking, Doing, Feeling の3側面に配慮する必要があることが示されている。Thinking とは、「メタ認知」とも呼ばれるものであり、学習の目標設定や計画策定、振り返りなどに関わる側面である。Doing とは、実際の学習行動（Learning Behavior）や学習方略（Learner Strategy：学習者が意図的に採用する学習方法）と関わる側面である。三つ目の Feeling は、動機づけ（Motivation）や動機の維持（Volition）などと関係する、いわゆる「情意的」（Affective）な側面のことを指す。互いに助け合い、学び合い、共通の目的を達成するような協働（同）学習の「情意面」での大切さを指摘する文献は数多い。

特に、入門期からモデルの提示等によって、憧れの気持ちから「なりたい自分」を思い描き（Thinking, Feeling）、それに向けて「積極的に人とふれあい」（Doing）、「言語への気づき」や「異文化理解」を促すことが大切であると考えられる。

以上のことから、外国語活動・英語科では「自己を推進すること」を「立志・計画」の観点から、

「課題（タスク）の達成に向けて見直し振り返ること」

と設定する。これは、課題（タスク）の達成に向けて、なりたい自分を思い描き、主体的に活動に取り組むことを通して、どれだけそれに近づけたか、またはどのように達成したかを振り返ってとらえることである。

単元開始や「協働」場面でのモデル提示、4技能に対する到達目標の提示、目標設定、授業や単元終末時の自己評価の場面で働くと考えられる。

課題（タスク）達成のために、明確な目標をもち、仲間とコミュニケーションを図る必要性を感じ、主体的に活動に取り組む。そして、活動や取組のよさを振り返る資質・能力の向上を目指す。

○「相互に交流すること」

人は多くの場合、ことばを通して他とかかわる。ものごとについて考えたり、考えを伝えたりする上でことばは根幹となるものであり、日本人が身に付けるべき英語は、母語話者の英語ではなく、国際語（国際通用語）としての英語である。授業において、英語を使って「他とかかわる力」をはぐくむためには「他とかかわる必要感をもち、他とかかわるよさや価値を実感すること」が重要であると考えている。これを外国語活動・英語科では「かかわる者同士が課題（タスク）の目的や目標を共有し、その達成に向けて互いの考えや情報をことば（英語、日本語）を用いて理解し合い、協力し合ってタスクを達成していくこと」であるととらえている。

以上のことから、外国語活動・英語科では「相互に交流すること」を「志の共有」「他者との協力」の観点から、

「相手が話す考えや情報を理解するとともに自分の考えを発信すること」

と設定する。これは、相手（話し手や書き手）の意図を理解した上で、場面や相手に応じて考えや情報を伝え、それを理解し合うことを通して、課題（タスク）の達成を目指す関係を築くことである。

英語による会話や意見交換の場面、英語の表現を練り上げるために仲間同士でアドバイスをし合う場面で働くと考えている。

相手をもつ背景に関心をもち、相手が伝える考えや情報を理解しながら課題（タスク）の達成のために、誰とでも積極的にかかわることができる資質・能力の向上を目指す。

○「新たに開発すること」

「ことばを使う力」のはぐくみには、自分の考えや感情などを相手に的確に伝え（話す、書く）、深く理解して（聞く、読む）もらうことが重要であると考えている。自分の考えや感情などを相手に的確に伝えるためには、「文構造や単語などを確実に身に付け、それを活用すること」が必要であり、相手に深く理解してもらうためには、「理由や根拠を付け加えて説明したり、表情やジェスチャーといった非言語を用いて伝えたりすること」が必要であると考えた。

特に入門期では、英語を用いて仲間とコミュニケーションを図る中で、ジェスチャーや表情といったことばによらないコミュニケーションの手段の役割を理解すること。そして、それらを生かして自分の考えや感情を効果的に伝え合うことが大切であるとされている。

以上のことから、外国語活動・英語科では「新たに開発すること」を「創造」「発信」の観点から、

「創造的に英語を活用し、思いや考えを伝えること」

と設定する。これは、自分をもつ情報・気持ち・考えを、新しく身に付けた英語表現と表情やジェスチャーといった非言語を用いて効果的に伝えたり、また理由や根拠を付け加えて論理的に説明したりすることである。

単元の目標言語材料と既習の言語材料、会話ポイントや英語ストラテジー、これまで身に付けた表現方法を活用しながら自分の情報・気持ち・考えを発表する場面や仲間と英語で会話をする場面で働くと考えている。この資質・能力を効果的に働かせるためには、会話や表現を練り上げる活動を通して、身に付けた新しい表現（非言語も含む）と既習表現を活用して、効果的に自分の考え等を発信する場を意図的に設けることが大切である。

既習、新出の英語表現を用いて主体的にコミュニケーションを図り、自分の情報・気持ち・考えを効果的、論理的に発信して他とのかかわりを広げていこうとする資質・能力の向上を目指す。

「道徳」ではぐくむ三つの資質・能力について

現在「道徳」の教科化が大きく話題になっている。特に評価については、公立校での関心も高い。数値による評価はしないということは変わらないが、何をどのように評価するかは示す必要がある。その際、現研究で大切にしている資質・能力の働きが表出した姿の評価が、「特別な教科 道徳」の評価と大きくかかわってくる。また、各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を独自の観点とすることもできる、とも言われている。

そこで、「道徳」では、以下の三つの資質・能力を設定する。

○自己を推進すること（「自己の認識」）→自己を理解すること

○相互に交流すること（「志の共有」）→自分と仲間との感じ方・考え方に違いがあることを認め合うこと

○新たに開発すること（「創造」）→道徳的価値を見いだしたり再構築したりすること

○「自己を推進すること」

新学習指導要領案の「特別な教科 道徳」の目標に「自己を見つめ」ることが明記されている。自己を見つめることは、人間としてよりよく生きる上で大切なことを基に自分自身を見たときに、現在の自分がどのような状況にあるのかを明確に把握することである。道徳の時間の大切な特質であり、授業構想の基盤となるものである。

自己を見つめるためには、人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分事として感じたり考えたりすることが必要である。したがって、道徳的価値の理解でも、子供が道徳的価値にかかわる事象を自分の問題としてとらえることが求められている。例えば、授業の中で読み物資料を通して道徳的価値について考える場合、それを単に読み物の中の事例としてとらえるのではなく、自分とのかかわり、つまり、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら考えられるようにすることが重要になる。このような学習を通して、子供は道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることになる。また、自己の生き方についての考えを深める」ことも大切にされている。子供がよりよくなろうとする自分を感じ、自己を肯定的に受け止められるようにする。また、他者とのかかわりや身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。それとともに、現在の生活及び将来の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

これらのことから、「道徳」では、「自己を推進すること」を「自己の認識」の観点から、

「自己を理解すること」

とした。これは、資料中の人物の判断や行為や道徳的問題場面の事象と自分の経験や感じ方・考え方を照らし合わせて考える中で自己理解していくことである。学習指導要領道徳編にある自分自身を見つめることも重なる。

○「相互に交流すること」

学習指導要領道徳編の中で、学校における道徳教育において特に考慮しなければならない課題の1つとして、社会の変化に伴う課題への対処がある。我が国の社会を公正で活力のあるものとして持続的に発展させるためには、人々の意識や社会のシステムにおいて、社会・経済的な持続可能性とともに、人として他と調和して共に生きることの喜びや、そのために必要とされる倫理なども含めた価値を重視していくことが求められている。

話し合いは、児童・生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳の時間においても重要な役割を果たす。児童・生徒の体験や資料に対する感じ方・考え方を交えながら話し合いを深めることが学習活動の中心となることが多い。日頃から何でも言い合え、何でも認め合える雰囲気をつくることが道徳の時間では大切である。また、自分とは異なった考えに接する中で学習が深まるということ、日頃の経験を通して実感させるように努めることが求められている。

これらのことから、「相互に交流すること」を「志の共有」の観点から、

「自分と仲間との感じ方・考え方に違いがあることを認め合うこと」
--

とした。これは、仲間の考えに反応しながら聴き、感じ方・考え方の異なるところや重なるところを認め合うことである。学習指導要領道徳編にある相手のことを考える能力や相手のことを思う能力とも重なるところがある。

○「新たに開発すること」

道徳的価値の理解について、次の三つに整理できる。一つは、道徳的価値の理解として人間としてよりよく生きる上で大切なことを、本当に大切なことだ、あるいは望ましいことだと理解すること（価値理解）、これについては、知識としては理解できているけれど、実感をもって大切さを考えさせることが求められている。二つ目は、道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいこと（人間理解）、三つ目は、道徳的価値に関しては多様な感じ方・考え方が存在すること（他者理解）である。自分とは異なる感じ方・考え方に触れたり、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえていたりすることで、今までの自分の道徳的価値の理解に揺さぶりがかけられ、不十分なところに気付いたり、あるいはより自分の考えを確かにしたりしていく。自分が今までもっていた道徳的価値についての理解を、価値理解、人間理解、他者理解の点から見直していく。

これらのことから、「新たに開発すること」を「創造」の観点から、

「道徳的価値を見いだしたり再構築したりすること」

とした。これは、仲間の考えを聞き、自分の考えを確かにしたり不十分なところに気付いたりして道徳的価値についての見方・考え方を自分なりに発見したり再構築したりしていくことである。

学級活動ではぐくむ三つの資質・能力について

学級活動では、以下の三つの資質・能力を設定する。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ○ 自己を推進すること（「責任の遂行・粘り強い取組」） | → 学級生活の向上を求めること |
| ○ 相互に交流すること（「対話や議論への参加」） | → 自分の願いを適切に語り、相手の願いを共感的に聞くこと |
| ○ 新たに開発すること（「創造」） | → 共感し合って決議し、生活や活動をつくること |

学級活動では、三つの資質・能力が働く際に、全ての観点がかかわり合っていると考える。本研究において、特に重点をかける観点は、上記「責任の遂行・粘り強い取組」「対話や議論への参加」「創造」とした。以下、三つの資質・能力の設定の意図を説明する。

○「自己を推進すること」

特別活動の学びの特質として、「集団を通して学ぶ」というものがある。この学びとは、集団の中で他者を知ることによって自己理解を深めることや、集団に対する所属感を得ることなどを指す。人が社会生活を営む上で、他者の存在なしには生きられない。したがって、集団の中で自己を生かすことの意義を知り、そのための技能を獲得することには重要な意味がある。

学習指導要領特別活動編では、改訂の基本方針に「社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する」とある。これを学級活動に置き換えると、学級生活をつくることに参画する態度や、学級生活を送る中で自治的能力を育成することを重視していると言える。日常の学級生活を創っていく際に、自己主張をするのみでなく、学級全体のことを考えながら仲間と互いの役割を担い合い、上手くいかないことがあっても最後までやり通すことが重要であると考えられる。これは、集団決定したことをそれぞれが役割を果たしながら、協力して実現することができる力をはぐくむことを意図していることと重なる。

これらから、学級活動では「自己を推進すること」を「責任の遂行・粘り強い取組」の観点を中心に、

学級生活の向上を求めること

と設定する。これは、学級の一員として、自分の立場を認識し、学級集団の向上を求めながら生活づくりに参画していくことである。

学級の一員として、学級生活の向上を求めて活動に対しての願いをもったり、自己の目標を立てたりして、全体で協力して自己の責任を遂行し、粘り強く取組を進めていける資質・能力のはぐくみを目指す。

○「相互に交流すること」

社会性とは、「社会生活に適応する資質・能力である。人間は社会的存在であり、集団生活や社会の成員として、互いに協力し合い支え合いながら、自分も成長し、かつ集団や社会の向上・発展にも貢献することが望まれる。その基本は、他者とのコミュニケーションであり、集団や社会の意義理解である。」と定義される。つまり、社会性は、個々人が独力で身に付けるものではなく、集団活動を通して他者とのかかわりをもつ過程で初めてはぐくまれるものであるという考えである。

学習指導要領特別活動編の目標に、今回の改訂から「よりよい人間関係」という文言が加えられた。これは、特別活動がよりよい人間関係や生活を築こうとする態度を育てる自主的・実践的な態度を育成する教育活動であることを一層明確にすることを目的としたからである。そのためには、異なる考えをもつ仲間同士の中で、自分の考えを適切に仲間に語ったり、相手の考えに共感的に耳を傾けたりすることが重要である。このような話し合い活動を展開することで、意見を否定することは人間を否定することではないことを学び、多様な他者と折り合いを付けることが重要である。

このことから、学級活動では「相互に交流すること」を「対話や議論への参加」の観点を基に、

自分の願いを適切に語り、相手の願いを共感的に聞くこと

と設定する。これは、自分の考えを伝え、仲間の考えを聞くことを、主体的に行うことである。話し合い活動において、ずれや多様性を認め合い、生かし合いながら折り合いをつけたり合意形成に向かったりしていきけるような、柔軟で力強い人間関係を築けるようにしていかなければならない。そのために、自分の願いを真摯に語って相手に伝えたり、相手の願いを受けとめながら共感的に聞いたりする資質・能力のはぐくみを目指す。

○「新たに開発すること」

特別活動は、正解・不正解を明確に求めようとするものではない。その時間、場所、状況などによって求められる行動が異なるため、柔軟な判断力と適切な行動力が必要になる。そうした力は、教師はもちろん、子供にも求められる。この力の蓄積は、画一的に物事を考える人間から創造的に物事を考える人間へと変わっていく原動力になる。この力を育成する中核となるのが特別活動であると言われている。

学習指導要領特別活動編では、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての理解を深め、自己を生かす能力を養うことを目標で示している。子供たちが日々の学級生活で、自分たちの生活を創っていくには、仲間の考えに共感しながら全体の方向性を決めて、互いに信頼・協力していくことが重要である。

このことから、学級活動では「新たに開発すること」を「創造」の観点を基に、

共感し合って決議し、生活や活動をつくること

と設定する。これは、仲間と一緒に生活や活動をつくることで、よりよい人間関係を築いていくことである。現代の子供たちの抱える、人間関係形成能力の低下の問題、社会性低下の問題、心の問題、いじめや不登校の問題等の諸問題を解決するには、生活全般で人間づくりを行うことが重要である。子供たちの学校生活を豊かにする基盤となる学級生活を、自分たちで考えて運営できるように資質・能力のはぐくみを目指す。

<三つの資質・能力を設定する段階>

学級活動では、ステージに合わせて段階を設定し、資質・能力をはぐくむ段階を示す。これを、資質・能力発展表を作成する指針とし、作業に取り組む。その際、1年間の学級づくりのためのテーマを設定し、学級づくりと併せて資質・能力のはぐくみを目指すこととする。

ステージ	段階	各段階の特性	年間のテーマ
第2 ステージ 小1・2	相手を意識できる段階	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の自己中心性が残っている。 ・教師を中心とした学級集団や所属感などの一体感の表れが見え始める。 ・活動の中心となる子供の表れ、自主性の芽生えが見え始める。 	仲よく助け合い、自分もみんなも活躍できて、嬉しくなる活動をつくる
第3 ステージ 小3・4	相手を理解できる段階	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としての閉鎖性が増し、協力して楽しい学級生活を創ろうとする。 ・集団目標の達成に主体的にかかわり始める。リーダー的な子供を中心に、ある程度計画的な行動が可能となる。 	協力し合い、学級の自慢や宝物が増え、自分も仲間も成長する活動をつくる
第4 ステージ 小5・6 中1	互いのよさを認め合える段階	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決めた集団の目標を大切に、役割や責任を自覚して活動を進めるようになる。 	信頼し、支え合い、一人一人のアイデアを生かしながら、学校や地域のためになる活動をつくる
第5 ステージ 中2・3	互いを尊重し生かし合う段階	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士の特性を理解し合い、集団の目標に向かって効率的に活動の推進に取り組む。 	行事の成功に向けた集団の在り方や自分の在り方を考えて仲間の願いを聞く

「社会創造科」 資質・能力発展表

資質・能力		観点	社会創造科の見解	特徴	第2ステージ 小1・2	第3ステージ 小3・4	第4ステージ 小5・6 中1	第5ステージ 中2・3
自己を推進すること	実践を通して自己を見つめ、ひと・もの・ことへの愛情・愛着をもち、見直しをもって問題解決に取り組み、よりよい自分をつくること。	自己の認識	あるがままの自己の姿を見つめ、広い視野、長期的な視点に立って、自己を伸長したり改善したりする視点をとらえること。	自分の特徴をよさととらえ、よりよい自分づくりにつなげていく姿をえがいた。	自分の特徴をよさとしてとらえること。	自分の特徴を自分のよさとしてとらえ、よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにすること。	自分の特徴が地域の中でどのように生かせるかを考え、よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにすること。	自分が地域を構成する一員であることを自覚し、自分の特徴がどのように生かせるかを考え、よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにすること。
		価値の認識	ひと・もの・ことのもつよさをとらえ、それを生かしたり守ったりしていきこうとする愛情や愛着をもつこと。また、持続可能性の視点から地域の資源をとらえ、それを生かしたり守ったりすべきだと考えること。	身の回りや地域にある「ひと・もの・こと」にくりかえしかかわることを通して、愛情・愛着をもったり、よさを見いだしたりする姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」へ繰り返しかかわることを通して愛情を感じ、愛着をもったり、そのよさを見いだしたりすること。	身近な地域の人や人を通して愛情を感じ、愛着をもったり、そのよさを見いだしたりすること。	地域の問題に対して、それにかかわる人の思いや願い、考えを踏まえ、現状をとらえ、地域のよさを見いだすこと。	地域の事象や問題について、それにかかわる人の思いや願い、考えをふまえ、現実を深くみつめ、持続可能な視点から、地域のよさを見いだすこと。
		立志・計画	あるべき姿やなりたい自分を思い描き、それに向かう強い心を持ち、実現に向けて目標や見直しを立てたり段取りをしたりすること。	自分自身のやりたいことから地域の問題を解決したいと、目標や計画を発展していく姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」と楽しくかかわりたいと願い、その実現に向けて、自分で目標を立てたり、活動の手順を考えたりすること。	身近な地域や自然をよりよくしたいと強く願い、その実現に向けて、自分で活動の目標や計画を立てること。	地域の問題を解決したいと強く願い、その実現に向けて、自分で活動の目標や計画を立てること。	地域の問題を解決したいと自ら強く願い、自分で目標や長期的な計画を立て、それに逐次修正を重ねること。
		責任の遂行・粘り強い取組	よりよい社会を築くための自分の役割を自覚し、確実に実行すること。また、うまくいかない現実と直面しても、あきらめずに取り組むこと。	自分の役割に責任をもち、最後までやり遂げていく姿をえがいた。	自分の役割に責任をもって取り組んだり、うまくいかないことがあっても最後まで取り組んだりすること。	自分の役割に責任をもって取り組んだり、自分たちと地域の人の思いや願い、考えが違っても最後まで取り組んだりすること。	自分の立場・役割に責任をもって取り組んだり、自分たちと地域の人の思いや願い、考えが違っても最後までやり遂げたりすること。	自分の立場・役割に責任をもって取り組んだり、地域の現状や実情に対して柔軟に対応しながら、最後までやり遂げたりすること。
相互に交流すること	対話を通して様々な立場の他者とかかわり、協働的に問題解決に取り組み、よりよい人間関係をつくること。	他者の認識	様々な立場の人の思いや願い・考えをとらえ、思いやること。	身の回りから地域の問題解決にかかわる人へとかかわる対象を拡張しながら、相手の思いや願い、考えを大切にしていこう姿をえがいた。	自分の思いや願い、考えだけでなく、仲間にも思いや願い、考えがあることを知り、大切にすること。	自分の考えをよりよくするために、自分の考えと同じように、身近な地域の人や仲間がもっている考えを大切にすること。	地域の問題の解決に向け、それにかかわる人や仲間の思いや願い、考えを大切にすること。	地域の問題解決に向け、それに取り組む人の思いや願い、考えを大切にしたり、実践する過程でかわる様々な人の考えを大切にしたりすること。
		志の共有	様々な立場の人の思いを共感的に理解し、重なる思いを強くしたり、目標の共有に向けて互いのずれを克服しようとしたりすること。	共に活動する対象を拡張しながら、相手の思いや願い、考えを理解し、目標を立てていく姿をえがいた。	一緒に活動するために、仲間の思いや願い、考えを聞き、目標を立てること。	一緒に活動するために、相手の思いや願い、考えを理解し、自分の考えとのずれに気づき、その克服に向けて自分の考えを変化させ、目標を立てること。	地域の問題解決に向け、それに関わる人の思いや願い、考えを共感的に理解し、自分の考えとのずれを明らかにし、その克服に向けて自分の考えを柔軟に対応させ、ともに目標を立てること。	地域の問題解決に向け、それに取り組む人の思いや願い、考えを共感的に理解し、自分の考えとのずれを明らかにし、その克服に向けて自分の考えを柔軟に対応させ、ともに目標を立てること。
		他者との協力	集団の構成者としての互いの立場や役割を理解し、目的に向かって力を合わせて取り組むこと。	共通の目的を達成したり、問題を解決したりする対象を拡張しながら、力を合わせて取り組んでいく姿をえがいた。	目的を達成するために、仲間と考えを出し合い、共に行動すること。	共通の目的を達成するために、考えを出し合いながら、力を合わせて取り組むこと。	地域の問題を解決するために、地域の人と考えを出し合いながら、力を合わせて取り組むこと。	地域の問題を解決するために、さまざまな人と考えを出し合いながら、力を合わせて取り組むこと。
		対話や議論への参加	様々な立場の人との話し合いを充実させるために、準備したり、話し合いの方法を工夫したり、建設的に参加したりすること。	かかわる対象を拡張しながら、話し合いに参加したり、話し合いを進めたりする姿をえがいた。	話し合いで、相手の思いや願い、考えを聞いたり、自分の思いや願い、考えを伝えたりすること。	一緒に活動するための話し合いで、身近な地域の人や仲間の思いや願い、考えを聞き、それを知った上で、自分の思いや願い、考えを伝えること。	地域の問題解決に向け、それに関わる人との話し合いに積極的に参加したり、工夫して話し合いを進めたりすること。	地域の問題解決に向けて、さまざまな人との話し合いに建設的に参加したり、工夫して話し合いを進めたりすること。
新たに開発すること	自ら考えたり、他に考えを求めたりして、問題解決に取り組み、持続可能性の視点に基づいた新たな考えをつくること。	現状の把握・分析	身の回りの事象・現象や、現実には起きている地域の問題をとらえるとともに、その背景や原因・仕組みを、明らかにしていくこと。	身の回りから地域へとかかわる対象を拡張しながら、問題を見だし、自分のこととしてとらえていく姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」へ繰り返しかかわることを通して、問題を見だし、自分のこととしてとらえること。	身近な地域の自然や人にかかわる問題に対して、具体的な事例から問題を見だし、自分の事としてとらえること。	地域の問題に取り組む人とかかわることを通し、現実には起きている地域の問題や実情について、その背景や原因、仕組みを、持続可能な視点からとらえること。	地域の問題に取り組む人とかかわることを通し、現状について、その背景や原因、仕組みを、持続可能な視点からとらえること。
		熟考	身の回りや地域の問題の解決方法について、様々な知識を組み合わせたり、試行錯誤したり、考えの筋道を吟味したりして、よく考えること。	問題解決の仕方が、主観的から客観的に発展していく姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる問題に対して、自分なりの方法を考え、試行錯誤しながら解決を試みること。	身近な地域の自然や人にかかわる問題に対して、根拠のある解決方法を考え、試行錯誤しながら解決を試みること。	地域の問題に対して、様々な知識や情報を収集し、それらを組み合わせ、根拠のある解決方法を考え、試行錯誤しながら解決を試みること。	地域が抱える複雑な問題に対して、幅広い視点で様々な知識や情報を収集し、それらを組み合わせ、根拠を明らかにした解決方法を考え、試行錯誤しながら解決を試みること。
		創造	持続可能性の視点から、新しい問題や課題を掘り起こしたり、解決の新しい形を描き出したり、新しい解決方法や考え方を生み出したりすること。	身の回りから地域へとかかわる対象を拡張しながら、新しい解決方法や考えの生み出し方が発展していく姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる問題に対して、仲間の考えを聞きながら、よりよい考えをつくること。	身近な地域の自然や人にかかわる問題に対して、身近な地域の人や仲間の考えを聞きながら、よりよい考えをつくること。	地域の問題に対して、持続可能な視点からよりよい考えをつくること。	地域が抱える複雑な問題に対して、持続可能な視点で有効なよりよい考え、新たな考えをつくること。
		発信	場面や目的に応じて表現方法を工夫し、自らの思いや願い、考えを効果的に表し、他者や社会を啓発すること。	身の回りから地域へとかかわる対象を拡張しながら、自分の思いや願い、考えの伝え方が発展していく姿をえがいた。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる中で、感じたことを言葉で表したり、取り組んだことを伝えたりすること。	身近な地域の自然や人にかかわる中で、自分の感想や考えを区別して伝えること。	地域の人とかかわる中で、相手に応じて内容をまとめ直したり、表現方法を工夫したりして、自分の思いや願い、考えを伝えること。	地域の様々な人とかかわる中で、相手や場面、目的に応じて表現方法を工夫し、自分の思いや願い、考えを効果的に伝えること。

幼児教育 資質・能力発展表

資質能力		自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
		身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと
観点		「価値の認識」	「他者の認識」	「創造」
特徴		かかわる対象や様相の深まりや広がり、認識の変容をえがいた。	他者とのかわりにより得られる喜びが「安心感→心地よさ→感情の共有→イメージの共有→達成感・連帯感」と変容していく様相をえがいた。	自分のやりたい遊びを具現していく思考の様相をえがいた。
Ⅰ期 〔第1ステージ〕	(3歳児4月～7月)	身の回りにある「ひと・もの・こと」に興味をもつ。	教師の存在から、安心感を得る。	遊びの楽しさを感じる。
Ⅱ期 〔第1ステージ〕	(3歳児8月～4歳児4月)	身の回りにある「ひと・もの・こと」に興味をもって、かかわる。	教師や友達に自分の遊びを見せたり、友達の遊びを見つめたりし、一緒にいる心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いをもち、自分なりに試す。
Ⅲ期 〔第1ステージ〕	(4歳児5月～1月)	「ひと・もの・こと」への興味を広げ、繰り返しかかわる。	友達の遊びをまねたり、友達の遊びに入っていくたりし、一緒に遊ぶ楽しさ、感情を共有する心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いをもち、自分なりに工夫する。
Ⅳ期 〔第1ステージ〕	(4歳児2月～5歳児10月)	「ひと・もの・こと」への興味を広げ、そのよさや特性を感じながら、繰り返しかかわる。	自分の思いを伝えつつ、友達の思いを認め、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、イメージを共有する心地よさを感じる。	遊びをより楽しくしようという思いをもち、自分なりに試行錯誤する。
Ⅴ期 〔第2ステージ〕	(5歳児11月～3月)	「ひと・もの・こと」への願いをもち、そのよさや特性を感じながら、見通しをもって繰り返しかかわる。	友達と共通の願いをもち、考えを伝え合いながら、一緒に遊ぶ楽しさや達成感、連帯感を感じる。	遊びをより楽しくしようとする遊びへの思いを膨らませ、自分なりに試行錯誤する。

※当園では、子供の発達段階に合わせ、年少3歳児から年長5歳児までを、五つの期（Ⅰ期～Ⅴ期）に編成している。

国語科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 価値を自分のものとして つかむこと	相互に交流すること 自他の価値のとらえを話し合い、 共通の目的に向かおうとする 関係を築くこと	新たに開発すること 新たな価値を発見し、 解釈・表現を創り出すこと
観点	「価値の認識」	「志の共有」	「創造」「発信」
特徴	かかわっていく価値が言語レベルから構造へと拡張していく姿をえがいた。	共通の目的に向かう関係が、意欲に支えられながら相手の意図を理解していく姿をえがいた。	創り出される解釈・表現が、他者の解釈・表現を包含して創り出されていく姿をえがいた。
第2ステージ 小1・2	仲間の解釈・表現に関心を持ち、語や文のつながりを考えながら、自他の解釈・表現のよさや不十分さを考える。	仲間の考えやその根拠について最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈・表現の内容や簡単な構成を読み取り、学習した内容を経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことをまとめ、表現する。
第3ステージ 小3・4	自他の解釈・表現の方法や理由に関心を持ち、内容や構成を理解し、よさや不十分さを考える。	仲間の考えを受け止めたり聞き返したりし、根拠や理由を明確にして考え、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈・表現の内容や構成を読み取り、学習した内容を課題や条件と結び付け、感じたり考えたりしたことをまとめ、表現する。
第4ステージ 小5・6 中1	自他の解釈・表現の方法や効果、その理由に関心を持ち、目的に応じて内容や趣旨、構成を理解し、目的に対するよさや不十分さを考える。	「考える視点」に沿って、理由を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き返したりし、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈・表現を相手の立場に立って読み取り、学習した内容を課題や条件と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
第5ステージ 中2・3	自他の解釈・表現の方法や効果、その理由に関心を持ち、目的に応じて内容や論理展開を適切にとらえ、目的に対するよさや不十分さを分析・批評する。	「考える視点」に沿って、理由を明確にして考え、仲間の考えのよさや不十分さを補い合いながら受け止めたり聞き返したりし、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈・表現を相手の論理展開を分析しながら読み取り、引用したり、説明や具体例を加えたりして、説得力が高まるように表現する。

※「仲間の解釈・表現」…学級の仲間の解釈したものや表現したもののこと。

※「自他の解釈・表現」…自分や他人の解釈したものや表現したもののこと。教科書などの教材文も、この「他」の中に入る。

社会科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 社会的事象にかかわっていくこと	相互に交流すること 仲間とともに社会的事象に対する 解釈を深めていくこと	新たに開発すること 自分と社会的事象との 新たな関係を見いだすこと
観点	「自己の認識」「価値の認識」	「他者との協力」	「現状の把握・分析」「創造」
特徴	かかわっていく社会的事象が 時間的・空間的に拡張していく 姿をえがいた。	働かせる思考力が「比較→関連 付け→公正な判断」と発展して いく姿をえがいた。	発達段階により、社会的事象の 把握の仕方が発展していく姿 をえがいた。
第3 ステ ージ 小3・4	地域社会の社会的事象につい て、既宧の経験や知識を生かし ながら考え、事象にかかわって いく。	地域社会の社会的事象について、 自他の解釈を仲間と比較ながら 話し合う。	地域社会の社会的事象を異なる 側面からとらえ、新たな関係 を見いだす。
第4 ステ ージ 小5・6 中1	社会的事象について、既宧の経験 や知識を生かしながら考え、事象 に対するとらえ方の不十分さに気 付き、事象にかかわっていく。	社会的事象について、自他の解 釈を仲間と比較し、関連付けな がら話し合う。	社会的事象を多面的・多角的に とらえ、新たな関係を見いだ す。
第5 ステ ージ 中2・3	社会的事象について、既宧の経験 や知識を生かしながら考え、より 広い視野から事象に対するとら え方を見直していく必要性に気 付き、事象にかかわっていく。	社会的事象について、自他の解 釈を仲間と比較し、関連付け、 公正に判断しながら話し合う。	社会的事象をより広い視野か ら多面的・多角的にとらえ、新 たな関係を見いだす。

算数・数学科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 数学的な問題やその解決方法 を見通し振り返ること	相互に交流すること 考えを数学的な表現で 表し伝え合うこと	新たに開発すること 数学的な知識を とらえ直すこと
観点	「立志・計画」	「他者との協力」	「創造」
特徴	問題解決に向けて経験から既習事項を基に見通しをもち、振り返っていく姿をえがいた。	用いる数学的な表現が発展し、効果的に用いていく姿をえがいた。	見いだした共通点を「関連付け→関係付け、意味付け→体系的に位置付け」発展していく姿をえがいた。
第2ステージ 小1・2	問題解決に必要な既習事項や既存の経験を想起し、解決方法の見当を付けたたり予想したりする。また、見当を付けたたり予想したりした解決方法について振り返る。	自分の解決方法と似ている仲間の解決方法と違う解決方法とを区別しながら、主に具体物・図・言葉・式を用いて説明し合う。	比較して共通点を見いだす。
第3ステージ 小3・4	問題解決に必要な既習事項を想起し、解決方法の見当を付けたたり予想したりする。また、見当を付けたたり予想したりした解決方法について振り返る。	自分の解決方法と似ている仲間の解決方法や違う解決方法を生かしながら、主に具体物・図・言葉・式を用いて説明し合う。	比較して共通点を見だし、関連付ける。
第4ステージ 小5・6 中1	問題解決に必要な既習事項を想起し、解決方法の見当を付けたたり予想したりする。また、見当を付けたたり予想したりした解決方法について振り返る。	自分の解決方法と似ている仲間の解決方法や違う解決方法を効果的に使いながら、主に図・言葉・式や文字を用いて表現を工夫し、説明し合う。	比較して共通点を見だし、関係付けたり意味付けたりする。
第5ステージ 中2・3	問題解決に必要な既習事項を想起し、結論や解決方法の見当を付けたたり予想したりする。また、見当を付けたたり予想したりした結論や解決方法について振り返る。	自分の解決方法と似ている仲間の解決方法や違う解決方法を効果的に使い、関連する定義や性質を引用しながら主に図・言葉・式や文字を用いて解決方法を筋道立てて説明し合う。	比較して共通点を見だし、関係付けたり体系的に位置付けたりする。

理科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
観点	自然事象にかかわり、見通しをもち、疑問を解き明かそうとすること	自然事象に対する見方や考え方のずれを克服しようとする	自然事象を多面的にとらえ、原因や仕組みを明らかにすること
特徴	「価値の認識」「立志・計画」	「志の共有」	「現状の把握・分析」
特徴	かかわる自然事象が身近なものから時間的・空間的に拡張していく姿をえがいた。	自然事象に対する問いを仲間と共有し、その問いを解決しようと「実証性」「再現性」「客観性」が保障された科学的に妥当な知を追い求めていく姿をえがいた。	発達段階に応じて「比較」「関係付け」「条件制御」「推論」などの科学的な思考力を働かせながら、自然事象について明らかにしていく姿をえがいた。
第3ステージ 小3・4	自然の事物・現象に興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとすること。	観察や実験で気付いたことや分かったことをもとに、自分と仲間の考えに、同じところと違うことを見付けることができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の差異点・共通点を明らかにしたり、変化の前後を比較したりすること。 ・自然の事物・現象の変化について、その要因と関係付けること。
第4ステージ 小5・6 中1	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自他の予想や仮説の違いやずれから、観察や実験で明らかにすることを見出し、結果から結論を述べるができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の変化や働きについてある条件を固定して他の条件を変えて観察・実験すること。 ・事物・現象の変化や働きについて、その要因や規則性を推論すること。
第5ステージ 中2・3	自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、自然事象を生活とのかかわりでみようとする。	自他の解釈やその根拠を交流することで、観察・実験の計画を立て、複数の結果から客観性、一般性において妥当な結論を見だし、述べるができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠のある仮説（予想）を設定すること。 ・観察・実験データを基に科学的根拠をもった考察をすること。 ・自然の事物・現象の変化や働きを複数の要素に分解して調べる。 ・分解した要因に従って結果を整理すること。 ・調べたことを根拠に基づいて説明すること。

音楽科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 音楽を感じ取り表すこと	相互に交流すること 音楽の感じ方, 表し方を 認め合うこと	新たに開発すること 新たな音楽の表し方で 伝えること
観点	「自己の認識」	「志の共有」	「創造」「発信」
特徴	音楽の曲想や仕組みの感じ取り方, 表し方が発展していく姿をえがいた。	発達段階に応じて, 音楽の感じ方, 表し方が発展していく姿をえがいた。	発達段階により音楽の表現の工夫が発展していく姿をえがいた。
第1ステージ 小1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分を感じ取る。 ・音色や強弱, 問いと答えなどの働きが生み出すよさやおもしろさ, 美しさを感じ取る。 ・互いの歌声や楽器の音, 伴奏を聴いて, 声や音を合わせる。 ・声や身の回りの様々な音を聴き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を通して仲間との関わりを深める。 ・仲間の思いや願いを知る。 ・体の動きなどで表す。 	歌詞の内容を身近なものとしてとらえ, 思いをもって表現を工夫する。
第2ステージ 小3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想とその変化を感じ取る。 ・音が重なり合って生まれる響きのよさや美しさを感じ取る。 ・伴奏や副次的な旋律を聴いて, 声や音を合わせる。 ・木・金属・皮を素材とする楽器の音色を聴き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の表現のよさを認める。 ・言葉や体の動き, 音楽などで表そうとする。 	歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を試行錯誤し, 思いや意図をもって表現を工夫する。
第3ステージ 小5・6 中1	<ul style="list-style-type: none"> ・要素や構造と曲想とのかかわりやその変化などの特徴を感じ取る。 ・伴奏や指揮と合わせ, 音楽表現の豊かさを感じ取る。 ・声部の役割や全体の響きを感じ取り, 声や音を調和させる。 ・弦・管などの楽器の特徴を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して一つの音楽をつくり上げる。 ・言葉や体の動き, 音楽などで表す。 	歌詞の内容や曲想を生かした表現を試行錯誤し, 思いや意図をもって表現を工夫する。
第4ステージ 中2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想やその変化などの特徴を理解して, 楽曲の構成とかかわらせながら総合的に感じ取る。 ・伴奏や指揮, 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して, 音や声を合わせる。 ・楽器や音素材の音色を聴き取りその特徴を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の意見に共感する。 ・感じたことを言葉や体の動き, 音楽などで伝え合う。 	曲想や楽曲の構成などを総合的に理解し, 曲種にふさわしい発声や楽器の音色を生かした表現を試行錯誤し, 思いや意図をもって表現を工夫する。

図画工作・美術科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
	対象をとらえること：対 主題を決めること：主	思い・願いを伝え表すこと	構想し創りだすこと：構 表現の価値を見いだすこと：表
観点	「価値の認識」「立志・計画」	「他者の認識」「志の共有」	「創造」「発信」
特徴	発達段階により、対象や材料へのかわり方が発展していくようにえがいた。	発達段階により、伝える内容や話し合う方法が発展していくようにえがいた。	発達段階により、表現と鑑賞の一体化が意図的に行われていくようにえがいた。
第2ステージ 小1・2	対見る、触る、聞くなどの感覚を働かせて、対象の特徴や面白さをとらえる。	自他の表現の面白さを伝え合ったり、色や形、材料の工夫などについて気付いたことを話し合ったりする。	構表現活動で話し合ったことを基に、色や形から発想をふくらませ、自分の思いを生かして工夫して表す。
	主材料や場所から感じたことや想像したことを基に、表したいことを決める。		表鑑賞活動で話し合ったことを基に、色や形、表し方の面白さに着目する。
第3ステージ 小3・4	対手や体全体の感覚を働かせて、対象のよさや面白さをとらえる。	自他の表現のよさや面白さを伝え合ったり、表し方や材料による感じ方の違いや工夫について話し合ったりする。	構表現活動で話し合ったことを基に、色や形、材料の組合せなどから発想をふくらませ、自分の思いを生かして工夫して表す。
	主材料や場所に働きかけ、感じたこと、想像したこと、見たことを基に表したいことを決める。		表鑑賞活動で話し合ったことを基に、色や形、表し方、材料の組合せ方のよさや面白さに着目する。
第4ステージ 小5・6 中1	対対象の色や形、特徴などを様々な角度から見たり考えたりしてよさや美しさ、面白さをとらえる。	自他の表現のよさや面白さ、思いや願いを伝え合ったり、よりよく表せる表現方法やアイデアなどを出し合ったりする。	構表現活動で話し合ったことを基に発想し、色や形の生かし方を工夫して自分の思いや願いを生き生きと表す。
	主材料や素材、思いや願いを基に表したいことを決め、表現意図を明確にして主題を決める。		表鑑賞活動で話し合ったことを基に表されている色や形から心情や意図を推し測り、そのよさや美しさ、特徴などを見いだす。
第5ステージ 中2・3	対対象の見方を工夫し、多様な角度からとらえたり考えたりして、色や形、特徴などのよさや美しさ、面白さをとらえる。	自他の表現に込められた思いや願いについて想像し、よりよい表現方法、自他のアイデアのよさや面白さについて感じたことを伝え合ったりする。	構表現活動で話し合ったことを基に発想し、色や形の生かし方を考え、自分の思いや願いをよりよく表現するため試行錯誤しながら生き生きと表す。
	主材料や素材、自分の思いや願いを深めながら表したいことを決め、表現意図を明確にして主題を決める。		表鑑賞活動で話し合ったことを基に、作品に込められた意図や思いなどと関連付いた色や形、構図の美しさに着目し、新しく意味や価値を見いだす。

家庭科，技術・家庭科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 最適な生活の仕方を 自ら選択すること	相互に交流すること 自他の生活の仕方を 伝え合い見直すこと	新たに開発すること 自分の生活に関連付けながら 生活の仕方を工夫すること
観点	「立志・計画」	「他者との協力」	「創造」
特徴	自分や家族の問題から社会の問題へと問題を解決する対象が広がっていく姿をえがいた。	生活の仕方を見直す際に，社会的，環境的及び経済的な側面の検討へと広がっていく姿をえがいた。	工夫の際の視点が，社会的，環境的及び経済的な側面にも広がり，よりよく工夫していく姿をえがいた。
第4ステージ 小5・6 中1	自分や家族の生活の問題を解決するために，自分や家族の生活に合わせた生活の仕方を考え，根拠を基に選択する。	考えた生活の仕方が自分や家族の生活に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し，見直す。	自分や家族の生活に合わせて生活の仕方がよりよくなるように工夫する。
第5ステージ 中2・3	自分の生活や地域，社会の問題を解決するために，社会的，環境的及び経済的な側面から生活の仕方を考え，根拠を基に選択する。	考えた生活の仕方を社会的，環境的及び経済的な側面から根拠を基に仲間と検討し，見直す。	社会的，環境的及び経済的な側面から生活の仕方がよりよくなるように工夫する。

体育科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 動きの高まりを求めること	相互に交流すること 動きを伝え表し、 違いを認め合うこと	新たに開発すること 自分の動きに、新たな見方や 考え方を生かすこと
観点	「自己の認識」「立志・計画」	「他者との協力」	「創造」
特徴	自分の動きをとらえ、改善や修正に向けた解決方法を選択・決定していく姿をえがいた。	自分や仲間の動きを「伝える→アドバイスする→助言を求める」と発展していく姿をえがいた。	仲間のよい動きやモデルとなる動きに近付けるように、自分の動きを変えていく過程を発展的にえがいた。
第2ステージ 小1・2	自分の動きを比喻表現や擬態語、リズム語などでとらえ、よい動きに近付けるための見通しをもつ。	動きのよさを言語や動きで伝える。	仲間のよい動きを見つけて模倣する。
第3ステージ 小3・4	自分の動きのよさや不十分さをとらえ、目指す動きに近付けるための見通しをもつ。	動きのよさや不十分さを伝える中で、修正点や改善点をアドバイスする。	自分と仲間の動きに対する見方・考え方を比べ、見いだしたよさを取り入れて動きを変えていく。
第4ステージ 小5・6 中1	自分の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、動き修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	動きのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の動きに肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりしてとらえた動きの見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きを変えていく。
第5ステージ 中2・3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の動きのよさや不十分さを分析的にとらえ、根拠を基に動きの修正や改善に向けた解決方法の選択・決定をする。 目指す動きに近付くために、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組み、解決方法を見通す。 	動きのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の動きに応じた働きかけをしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	映像の動きや実際の動きを分析的にとらえ、動きの見方や考え方の根拠を明らかにしながら動きを変化させていく。

外国語活動・英語科 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 課題(タスク)の達成に向けて 見直し振り返ること	相互に交流すること 相手が話す考えや情報を 理解するとともに自分の考えを 伝えること (音:音声 文:文字)	新たに開発すること 創造的に英語を活用し、 思いや考えを発信すること (音:音声 文:文字)
観点	「立志・計画」	「志の共有」「他者との協力」	「創造」「発信」
特徴	ステージの進行に伴って、英語を用いた自分の姿や技能の習得に向けた見直しをもつ姿をえがいた。	ステージの進行に伴って、伝達方法や英語表現を高めていく姿をえがいた。	ステージの進行に伴って、よりよい伝達方法や伝達内容を用いて発信していく姿をえがいた。
第3ステージ 小3・4	<ul style="list-style-type: none"> 教師や仲間のモデルを見て、どのような表現の仕方がよいか見直しをもつ。 活動のモデルにどれだけ近付けたか、どのように取り組んだかを振り返る。 	<p>音 相手に関心をもち、相手の話を聞き取り、分かりやすく伝えるための表現を用いて簡単な会話をする。</p>	<p>音 場面や相手を意識し、分かりやすく伝えるための表現を用いながら英語で発表する。</p>
第4ステージ 小5・6 中1	<ul style="list-style-type: none"> 課題(タスク)を理解し、活動を通してどんな自分になりたいか、どのように他とかわかることで課題が達成できるか目標を設定する。 課題の達成状況、取り組み方を振り返り、次の目標を設定する。 	<p>音 相手に関心をもち、相手の話を聞き取り、「会話ポイント」(アイコンタクト、表情、はっきり話す、ジェスチャー、よく聞く)を適切に用いて会話をする。</p> <hr/> <p>文 (情報の補助として内容を想像したり、簡単な文字で表したりする。)</p>	<p>音 場面や相手を意識し、それらに適した「会話ポイント」を用いながら英語で発表する。</p> <hr/> <p>文 (情報の補助として内容を想像したり、簡単な文字で表したりする。)</p>
第5ステージ 中2・3	<ul style="list-style-type: none"> 4技能に関する到達目標を理解し、課題(タスク)解決活動を通して、どんな自分になりたいか、どのように他とかわかることで課題が達成できるか目標を設定する。 到達目標、課題の達成状況、学習の取り組み方を振り返り、次の目標を設定する。 	<p>音 相手の文化的・社会的な背景に関心をもち、相手が伝える情報を聞いたり読んだりして理解する。その上で英語と「英語ストラテジー」を適切に用いて場面や相手に応じた会話をする。</p> <hr/> <p>文 相手の文化的・社会的な背景に関心をもち、相手が伝える情報を聞いたり読んだりして理解する。その上で英語と「英語ストラテジー」を適切に用いて場面や相手に応じたメッセージを書く。</p>	<p>音 場面や相手に適した英語と「英語ストラテジー」を用いて、自分のメッセージを効果的に、また、理由や根拠を付け加えて論理的にスピーチやプレゼンテーションする。</p> <hr/> <p>文 場面や相手に適した英語と「英語ストラテジー」を用いて、自分のメッセージを効果的に、また、理由や根拠を付け加えて論理的にまとまった分量で書く。</p>

「道徳」 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること 自己を理解すること	相互に交流すること 自分と仲間との感じ方・考え方 の違いを認め合うこと	新たに開発すること 道徳的価値を見いだしたり 再構築したりすること
観点	「自己の認識」	「志の共有」	「創造」
特徴	自分自身→身近な人→身近な 集団→社会へと広がるようにえ がいた。	仲間との違いについて、ステー ジがあがることに自分と比較し たり細かいところにまで目が向 いたりする姿をえがいた。	発達段階を考慮し、低・中学年 は、見いだすこと、高学年、中学 校は再構築していくことの姿をえ がいた。
第2ステージ 小1・2	<ul style="list-style-type: none"> 資料の問題状況と似た自分の 経験を想起すること。 自分のこれからの生活の中 でどのように生かせそうか考 える。 	自分と仲間との感じ方・考え方 は違うことがわかる。	自分の生活と照らし合わせて、 道徳的価値を見いだす。
第3ステージ 小3・4	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく仲間や家族な ど他者の経験とも結びつけ て問題をとらえること。 学んだことを、自分のこれか らの具体的な生活場面を想 定してどのように生かせそ うか考える。 	自分と仲間との感じ方・考え方 の違うところと共通するこ ろがわかる。	自分の生活と照らし合わせて、 道徳的価値を見いだす。
第4ステージ 小5・6	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校など身近な集団と の関連で問題をとらえる。 生き方などから学んだこと を、これからの自分の生き方 にどのように生かしていきたい か考える。 	仲間の立場や状況を考慮しな がら、自分と仲間と感じ方・考 え方について違うところに共 感する。	自分の経験や知識を基に、道徳 的価値を再構築する。
第5ステージ 中2・3	<ul style="list-style-type: none"> 社会や集団との関連で問題 をとらえること。 社会や集団の中で、人間とし てどのように生きていくと よいか考えること。 	感じ方・考え方の理由や根拠を 聞き、納得する。	自分の経験や知識を基に、道徳 的価値を再構築する。

学級活動 資質・能力発展表

資質 能力	自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
観点	学級生活の向上を求めること	自分の願いを適切に語り、相手の願いを共感的に聞くこと	共感し合って決議し、生活や活動をつくること
特徴	「責任の遂行・粘り強い取組」	「対話や議論への参加」	「創造」
特徴	目標や振り返りの設定、他者や集団と関連付けて学級生活を向上させていく姿をえがいた。	対話や議論の中での自己主張から他者理解、集団視点へと発展していく姿をえがいた。	発達段階により、合意形成および決議事項への参加の仕方が発展していく姿をえがいた。
第2ステージ 小1・2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の願いを基に、仲間と取り組みたい活動を考える。 活動を振り返り、活動に取り組んだ自分や仲間のよさを見付ける。 	自分の願いを大切にし、自分の考えを仲間に話したり、仲間の考えを最後まで聞いたりする。	自他の考えを主張し合って決議し、決まったことに従って自分たちの生活や活動をつくろうと行動する。
第3ステージ 小3・4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の願いを基に、学級目標とつなげて仲間と取り組みたい活動を考える。 仲間と取り組んだ活動を振り返り、自他のよさを認め合う。 	自分の考えのよさを仲間に理解してもらえるように説明したり、仲間の考えをよく聞き、仲間がなぜそう思うかを理解したりする。	自他の考えを最後まで主張し合って決議し、決まったことには気持ちよく従って自分たちの生活や活動をつくる。
第4ステージ 小5・6 中1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の願いを学級集団の高まりを重ねて考え、仲間を信頼し、支え合って活動を推進する。 仲間と取り組んだ活動を振り返り、集団として学校や地域に貢献できたことを見いだす。 	仲間の考えのよさを自分の考えに取り入れながら、仲間に配慮して自分の考えを主張したり、仲間の考えるわけを理解し、どうすれば自分の考えに取り入れられるか考えて聞いたりする。	自他の考えに折り合いを付けて決議し、自分にも集団にも有益な生活や活動をつくる。
第5ステージ 中2・3	<ul style="list-style-type: none"> 行事に向けた集団の在り方や自分の在り方を考え、成功させるための方策を主体的に考えて行動する。 仲間と取り組んだ活動を振り返り、集団として学校や地域に貢献できたことを見いだす。 	行事の成功に向けた集団の在り方や自分の在り方を考えて願いを語り、仲間の願いを聞く。	望ましい集団の在り方や自分の在り方を描いて行事や活動を決め、創造的な活動をつくる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会創造科(第2ステージ)

学年	単元	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小1 ※5歳児後半については合同活動の中では社会創造科を実施する	大好き 附属長岡小学校	学校探検を行い、見つけたことをクイズや紙芝居にまとめて伝え合う場面	伝える方法に合わせて分担を決め、自分の役割に責任をもって取り組む。	仲間と考えを出し合いながら、役割分担をして伝える。	伝えたいことが伝わるように、仲間の考えを聞きながら、伝え方を考える。
	大きくなってね お花さん	朝顔の花や弦を利用した遊びを年長児に紹介し、一緒に遊ぶ場面	年長児に遊びの楽しさが伝わるように、うまくいかなくても最後まで取り組む。	自分がさせたいことだけでなく、年長児のしたいことも聞きながら交流する。	年長児も楽しめるように遊び方を工夫する。
	遊び発見 大好き栖吉川	自分で考えた栖吉川の遊びがうまくいくように6年生と一緒につくる場面	自分で考えた遊びがうまくできるうちに、最後まで粘り強く遊びづくりに取り組む。	遊びができるように、うまくいかないところを伝えたり、どうすればよいか聞いたりする。	6年生の考えを聞きながら、自分の遊びをより楽しい遊びにする。
	一緒に遊んで 広がる仲間	自分たちのつくった遊びを2年生に紹介して、もっと楽しくなるように一緒に工夫する場面	一緒に遊びを工夫する中で、自分の役割に責任をもったり、工夫できるまで粘り強く取り組んだりする。	遊びの工夫に対して、自分の願いや考えを伝えたり、2年生の願いや考えを受け入れたりしている。	2年生の考えも生かしながら、遊びが楽しくなるように試行錯誤しながら工夫する。
	秋の自然で つくって遊ぼう	秋の自然を生かした遊びを年長児に紹介し、一緒に遊ぶ場面	一緒に遊ぶ中で1年生の立場を考えながら、最後まで取り組む。	楽しく遊べるように、自分から声をかけたり、年長児の願いを聞いたりする。	年長児も楽しめるように、年長児の願いを聞き、試行錯誤しながら遊び方を工夫する。
	つくって遊ぼう	ゴムの力を利用した遊びを年長児に紹介し、一緒に遊ぶ場面	一緒に遊ぶ中で1年生の立場を考えながら、最後まで取り組む。	楽しく遊べるように、自分から声をかけたり、年長児の願いを聞いたりする。	年長児も楽しめるように、年長児の願いを聞き、試行錯誤しながら遊び方を工夫する。
	つくって遊んで なかよしに	年長児の願いも受け入れながら1年生がつくった遊びを紹介して一緒に遊ぶ場面	一緒に遊びながら繰り返しかわる中で仲間やつくった遊びに愛情・愛着をもつ。	一緒に行う遊びについて、自分の願いだけでなく、仲間の願いを知り、自他の願いを伝え合う。	一緒に行う遊びについて、仲間の考えを聞きながら、より楽しい遊び方やかかわり方を考える。
	雪でつくって 一緒に楽しもう	雪を利用したまると倒し遊びを年長児に紹介して一緒に遊ぶ場面	一緒に遊ぶ中で1年生の立場を考えながら、自分の役割を果たす。	楽しく遊べるように、自分から声をかけたり、年長児の願いを聞いたりする。	年長児がまるとを倒せるように試行錯誤しながら遊び方を工夫する。
おめでとう よろしくね 新1年生	新1年生に附属小学校の楽しさをクイズやカルタ、学校探検で伝える場面	新1年生に附属小学校の楽しさが伝わるように役割分担をして伝える。	新1年生が楽しく過ごせるように、願いを聞きながら、紹介する。	新1年生が行きたい場所やしたいことを聞きながら一緒に過ごす。	
小2	学校探検を しよう	1年生に、学校を回りながら各教室の場所や役割を伝える場面	学校探検を一緒に行う中で、役割分担をした役割に責任をもって取り組む。	楽しく過ごせるように、自分から声をかけたり、1年生の願いを聞いたりする。	1年生が行きたい場所を聞きながら学校探検を行う。
	町探検をしよう ①、②	学校周辺の施設を訪れ、施設の工夫や特徴をインタビューする場面	町探検に向けて行ったグループの役割分担に沿って、自分の役割を最後まで果たす。	自分の聞きたいことを聞いたり、施設の方の話を最後まで聞いたりする。	施設の方の話を聞き、施設の工夫や特徴をとらえる。
	大きくなあれ 野菜さん	育てた野菜で何の料理をつくるか保護者と話し合う場面	育てた野菜を美味しく食べたいと願い、料理の仕方や用意するもの考える。	自分の願いを伝えたり、保護者の願いを聞いたりしながら作る料理を決める。	何の料理にするか、保護者の願いも聞きながら、よりよい料理を考える。

手作りおもちゃの遊園地をつくろう	手作りおもちゃを利用した遊びを年長児に紹介し、一緒に遊ぶ場面に遊ぶ場面	一緒に遊びながら繰り返しかかわる中で仲間やつくった遊びに愛情・愛着をもつ。	一緒に行う遊びについて、自分の願だけでなく、年長児の仲間の願いを知り、自他の願いを伝え合いながら交流する。	一緒に行う遊びについて、年長児の仲間の考えを聞きながら、より楽しい遊び方やかわり方を考える。
昔の遊び探検隊	お年寄りから、けん玉やお手玉等の昔の遊びのコツを聞きながら一緒に遊ぶ場面	うまくできなくても、しっかりと話を聞いて粘り強く取り組む。	自分のしたい遊びを伝えたり、お年寄りからコツを聞いたりしながら一緒に活動する。	昔の遊びができるようになるために、試行錯誤しながらよりよいやり方を考える。
お店屋さんごっこをしよう	自分たちでお店屋さんをつくり、年長児を招待して一緒に遊ぶ場面	つくったお店ごとのグループの役割分担に沿って、自分の役割を最後まで果たす。	自分の売りたい願だけでなく、年長児の仲間の何が買いたいか、どこに行きたいかという願を知り、自他の願いを伝え合いながら一緒に活動する。	お店屋さんごっこについて、年長児の仲間の考えを聞きながら、回るお店やかかわり方を考える。
冬のくらしを楽しくしよう	年中児と一緒に雪を利用した遊びを行う場面	一緒に遊ぶ中で2年生の立場を考えながら、自分の役割を果たす。	楽しく遊べるように、自分から声をかけたり、年中児の願いを聞いたりする。	年中児も楽しく遊べるように試行錯誤しながら遊び方を工夫する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会創造科(第3ステージ)

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小3	楽しもう百年の森	一人一人が決めた自分の木についてもっと知りたいことや分からないことをインストラクターに尋ねる場面	自分の知りたいことや分からないことが分かり、自分の木に対する愛着を深める。	インストラクターの木を大切にしていきたいという思いを知った上で、自分の思いや願いを伝える。	話を伺って考えたことや分かったことが伝わるように、インストラクターに伝える。
	もっと楽しもう百年の森	森の木を守るために、インストラクターと一緒に科の植物を駆除する場面	森の木を守るために、つる科の植物を駆除する。	森の木を守っていききたいという共通の目的を実現させるために、考えを出し合いながら、力を合わせて駆除する。	インストラクターにつる科の植物の特徴を聞きながら、よりよい方法で駆除しようとする。
	錦鯉となかよし	錦鯉について自分たちで調べたことを全校に伝える場面	全校に錦鯉のよさを知ってもらいたいという願い、伝える内容を考える。	全校に錦鯉のよさを知ってもらうために、考えを出し合いながら、協力して取り組む。	錦鯉について自分で考えたことや調べた感想を区別して伝える。
	みんなであつくりななかよしフェスティバル	4年生と一緒に出店運営したり、他の出店を楽しんだりする場面	自分の役割に見通しをもち、責任をもって取り組む。	自分の考えだけでなく、ベアアの4年生の考えも大切にしながら出店を運営したり、他の出店を楽しんだりする。	お客により楽しんでもらえるように出店の運営を変更したり改善したりする。
	楽しもう長岡の民話	幼稚園児や1・2年生に民話を楽しんでもらう場面	幼稚園児や1・2年生に楽しんでもらうために自分の役割に責任をもって果たす。	幼稚園児や1・2年生に楽しんでもらうために、仲間と考えを出し合いながら読み聞かせをする。	幼稚園児や1・2年生に合わせた読み聞かせの工夫を工夫する。
小4	栖吉川の昔と今	地域の人と栖吉川は人々の生活に生かされているかについて話し合う場面	栖吉川やそれにかかわる人とかかわることで栖吉川への愛着を深め、そのよさを見いだす。	栖吉川の現状について考えを深めるために、地域の人とお互いの考えを出し合い、それぞれの考えを大切にする。	地域の人や仲間の考えを聞きながら、よりよい考えをつくりだす。
	栖吉川の今と未来	栖吉川の生き物を残していくために自分たちの調べたことや思いを地域振興局の人に伝える場面	栖吉川に棲む生き物を残していきたいという願いを実現するために、自分の考えを地域振興局の人に最後まで伝える。	栖吉川の工事の必要性や地域の人の思いを知った上で、仲間と協力して自分たちの調べたことや思いを地域振興局の人に伝える。	地域振興局の人に調べて分かったことと生き物を残していきたいという思いを区別して伝える。
	おじいちゃんおばあちゃんに会いに行こう	施設の高齢者の思いや願いを基に考えた方法で高齢者と交流する場面	施設の高齢者に繰り返しかわることを通して、愛情をもって接したり、よさを見いだしたりする。	一緒に活動するための話合いで、施設の高齢者の思いや願いを聞いて知った上で、自分たちの思いや願いを伝える。	施設の高齢者と繰り返しかわることを通して、高齢者とのかわりにおける問題点を見だし、自分事としてとらえる。
	みんなであつくりななかよしフェスティバル	3年生と一緒に出店運営したり、他の出店を楽しんだりする場面	出店を準備する自分の役割に責任をもって取り組んだり、最後までやり通したりする。	出店を成功させたいという目的を達成するために、考えを出し合いながら力を合わせて取り組む。	出店を準備する際に表出された問題に対して、根拠のある解決方法を考え、試行錯誤しながら解決を試みる。
	長岡の先人に学ぼう	自分が調べた長岡の先人について、その功績や存在の意義を仲間と話し合う場面	長岡の先人について繰り返し調べたり、話を聞いたりして、愛着をもったり、そのよさを見いだしたりする。	自分の考えをよりよくするために、仲間のもっている考えも大切にしながら話し合う。	地域の先人について学んだ自分の感想や考えを区別して伝える。
	2分の1成人式を成功させよう	自分たちの目標を達成するために、一緒に準備をする場面	今までの自分を振り返り、自分に特徴をよさとしてとらえ、よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにする。	式を成功させるために、仲間と考えを出し合いながら力を合わせて取り組んでいる。	仲間や家族に対して、式の感想や式を通しての自分の考えを区別して伝える。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会創造科(第4ステージ)

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	長岡の会社・企業を通して考えるブランド	地域の方の願いの実現や問題解決のために、何ができるか考え、中学生と共にどうしていけばよいか考えたうえで、自分と地域について話している場面	地域の会社・企業で働く人や商品、行っているイベントなどの良さをとらえ、自分と地域の会社・企業とのつながりを認識する。	会社側の考えに共感し、ブランドとしてもっと会社の良さを伝えるために、仲間や地域の方と共に具体策について話し合う。	会社側のこだわりや願いを踏まえた上で、子供なりの視点で新商品やPR方法を考え、地域の方に提案する。
	長岡野菜を通して考えるブランド	「生産・消費の拡大」「食文化の保存」のどちらを大切にすべきかについて、自分の考えと根拠をもち、地域の人と一緒に話し合いたいと思った場面	長岡野菜の生産や販売、流通等にかかわり、経験や調べたことなど複数のことを結び付けながら、問題を見いだす。	地域の人や中学生の考えや立場を理解し、相手を尊重しながら、自分の考えを伝える。	長岡野菜の生産・消費の拡大や食文化の保存を進めるために、自分ができることを考え行動する。
	長岡のエネルギーのこれからを考えよう	これからの長岡市のエネルギーをどのようにしていけばよいか、中学生と一緒に考えていきたいと思った場面	エネルギーのよりよい利用方法を検討する中で、地域への愛着を深める。	よりよいエネルギーの利用方法について、地域の方に自分の考えを伝えたり、地域の方の意見を聞いたりする。	エネルギーの利用方法について地域の方の意見を踏まえて再考する。
	川を通して考える自然と人が調和する社会	共生の視点で考えた自分なりの栖吉川プランを実現するために、中学生にアドバイスをもらったり、中学生のプランを聞いたりしたいと思った場面	栖吉川の現在の環境か、これからの栖吉川に対する問題点を見いだすし、その解決のための方法を考える。	栖吉川プラン実現のために、中学生と互いの思いや願い、考えを大切にしながら話し合う。	「利水」「環境」「治水」「関心」の4つの観点から、これからの栖吉川の在り方についての考えを提案する。
小6	長岡の中心市街地の活性化を考えよう	大手通りのよさと問題点について整理した状況で、自分になかった中学生の考えや新たな問題点を見いだし、中学生と共にどうしていけばよいか考えたいと思っている場面	経験や調べてきたことながら、中心市街地にかかわる問題を見いだし、調べる方法を考える。	中学生や仲間の考えの共通点や相違点を見だし、互いのよさを取り入れながら、自分の考えを柔軟に対応させ、問題の解決策を考える。	中心市街地にかかわる問題について、分析的に見たり、総合的にとらえたりしながら、自分なりの根拠をもって解決方法を考える。
	山古志の人々の生き方から自分たちの生き方を考えよう	人々の思いや願い、考えに寄り添いながら自分ができることを見だし、その内容を検討していく際、仲間や地域の人と自分の考えを交流させたいと思った場面	山古志の人々の思いや願い、考えに共感し、山古志の人々や地域のために自分ができることを見だし、実行し、こうと計画を立てる。	山古志の人々の思いや願い、考えや自分の生活する地域のために考えた自分ができていることを、仲間や地域の人に伝えたり、一緒に考えたりする。	山古志の人々の思いや願い、考えに共感し、それに自分がどうのようにかかわっていか、試行錯誤しながらできることを見だし、実行する。
	長岡の子育てのこれからを考えよう	幼児との交流活動に取り組んだり、子育てについて学んだことを生かして地域の子育て支援施設で小さな子供とよりよくかわるために、小6と中1が考えた企画について見直しと改善のために話し合う場面	小さな子供とかわった経験や振り返ったり、調査や現地訪問をしたりして子育て支援施設の意義や課題をとらえ、自分ができる活動を粘り強く考えたり、行動しようとしていたりする。	異学年の仲間や地域の方と意見交換をしながら、子育てをめぐる考え方や幼児にかかわる取組は多様であることをとらえ、知恵を出し合いながら多くの人にとって利益のある取組を考える。	子育て支援施設で自分ができることについて、多様な立場や視点からとらえ直し、よりよい取組を見いだす。
	長岡を人にやさしいまちにしよう	地域のお年寄りのために自分ができることを考えた状況で、地域の福祉施設に勤めている方に、自分たちの考えを伝え、それを実現させるためのアドバイスや修正を加えて欲しいと話し合う場面	まちづくりにかわる地域の問題の解決に取り組む人と思いを重ね、持続可能な視点から問題をとらえ、中期的な解決活動や課題を粘り強く行う。	中学生とのグループを組む、議論しながら活動すめ、地域の人とともにまちづくりにかわる地域の問題の解決策を考える。	持続可能な視点から情報を分析・整理し、地域の人からの助言を受けながらまちづくりにかわる地域の問題の解決策についての考えを練り上げ、提案する。

中 1	長岡の子育ての これからを考えよう	地域の子育て支援施設で学んだことや、小学生との交流を通して得た情報をもとに、地域の子育てにどのようにかかわられるかを考えて話し合う場面	少子高齢化が進む中、地域の子育て支援にかかわる人や自分の身の回りの大人への調査から地域の子育ての問題点を見出し、解決に向けて自分なりに考えようとする。	同学年や異学年、そして地域の方と意見交換をする中で、子育てに関する考え方が多様であることをとらえ、地域の子育てのあり方について多面的・多角的に考える。	地域の子育て支援施設に対してどのようにかかわっていきけるか考えることを通して、地域の一人として主体的に参画することの大切さを見いだす。
	持続可能な 地域社会のあり方を 考えよう	持続可能な地域社会とはどのような姿であり、そのためにはどのような取組をしていく必要があるのかを考え、話し合う場面	地域における様々な課題をとらえ、解決に向けて自分なりに取り組んでいこうとする。	地域における様々な課題について、調査や訪問などからつかんだ情報をまとめ、解決に向けて話し合うなかで多面的・多角的に考える。	持続可能な地域社会を創造していくためにはどのような取組が必要で、どのように主体的に参画していけばよいのかを述べる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会創造科(第5ステージ)

学年	単元	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 2	自分たちの住む町・ 長岡の活性化を 図ろう	地域活性化にむけてど のような取組が望まし いかを考え、行動の仕 方を地域の人と一緒に 話し合いたいと願った 場面	地域の事象や問題につい て、かかわる人の思いや願 い、考えをふまえて、持続 可能性の視点からよさを 見出している。	地域の問題解決に向け、そ れに取り組む人の思いや願 い、考えを共感的に理解し、 自分たちの考えを柔軟に 応させ、共通の目標を立て ている。	幅広い視点で、様々な知識 や情報を収集し、それらを 組み合わせ、根拠を明らか にした解決方法を考えたり、 試行錯誤しながら解決を試 みたりしている。
	修学旅行をとおして 持続可能な社会の 在り方を考えよう	対象地域の良さや問題 点をとらえ、自分たち の街との比較をとおし て大切な考え方や概念 を明らかにしたいと願 った場面	他地域の問題や解決に向け た取組を追究することで、 自分の考えをさらに深め、 自らの生き方をとらえ直し ている。	他地域の問題解決に向けて 活動をしている人と、地域 の特色に起因する問題解決 の手法や、有効だと考えら れる考え方についてなどに ついて、質問し合ったり意 見交換をしたりしている。	自分たちの実践について、 他地域の人に対して、具体 的な方法や着眼点、考え方 等を分かりやすく説明して いる。
中 3	地域の活性化を 目指して、企画を 提案しよう	地域の良さを生かして 活性化につなげるため に、どのような行動が できるかを考えたいと 願った場面	地域の事象や問題につい て、それにかかわる人の思 いや願い、考えをふまえ、 持続可能性の視点からよ さを見出している。	地域の問題解決に向けて取 組む人の思いや願い、考 えを大切にしたり、実践す る過程でかかわるさまざま な人の考えを大切にしたり している。	さまざまな人とかかわり、 相手や場面、目的に応じて 表現方法を工夫し、自分の 思いや願い、考えを効果的 に伝えている。
	持続可能な社会の 実現に向け、 地域の人と手を 携えて行動しよう	持続可能な社会の実現 に向け、地域の良さを 生かし、具体的にどの ような行動をすればよ いかを考えたいと願っ た場面	追究の過程で任された自分 の役割に責任をもって取り 組んだり、実践の過程で生 じる問題や、現状・実情に 対して柔軟に対応したりし ている。	地域の問題解決に向け、そ れに取り組む人の思いや願 い、考えを共感的に理解し、 自分たちの考えを柔軟に 応させ、共通の目標を立て ている。	対象とする問題に対して、 持続可能性の視点で有効な よりよい考え、新たな考え をつくっている。
	社会創造科の学びを 振り返り、持続可能な 社会の実現に向け 考えていることを 論文でまとめよう	論文を書く活動におい て、持続可能な社会づ くりのためにどのよう な考えや行動が望まし いかより広い視点や 考えが欲しいと願った 場面	持続可能な社会を創り上げ ていかなければならないと 自覚し、自分の特徴やよ さをとらえ、社会の一員とし て自分がどのように生きて いかなければならないかを 明らかにしている。	仲間の論文を読み、仲間の 実践や論から、重要な概念 を新たに獲得したり、仲間 の認識のよさや特徴を理解 したりしている。	現代社会の問題に対して、 自分が追究してきた具体的 な事例と照らして考え、そ の背景や原因、仕組みを、 持続可能性の視点で整理し ている。

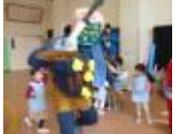
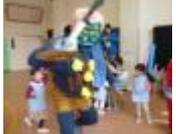
資質・能力を位置付けた保育計画（年少3歳児 1学期）

時期	表出が期待される資質・能力			「遊び」の配列
	自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること	
主な園行事	身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	
4月	I期（年少3歳児4月～7月）			
1学期始業式 入園式	身の回り「ひと・もの・こと」に興味をもつ。	教師の存在から、安心感を得る。	遊びの楽しさを感じる。	「先生と一緒に遊びたい」 ○身の回りの興味ある事象にたくさん触れる。  図鑑で生き物調べ
交通安全教室				「お友達もいるよ」 ○幼稚園には先生とたくさんの友達がいることに気付く。  おうちごっこ
避難訓練				「こうするんだね」 ○元気に登園し、園生活の仕方や流れを知り、先生と一緒にやってみる。  トイレ
こんにはの会				 製作遊び
お花見散歩				 ソフト積み木遊び
5月	<p>「幼稚園って 楽しいな」関連題材 「大好き 幼稚園」 ○表出した資質・能力</p> <p>身の回りの様々な環境の中から、自分のやりたい遊びを見付ける。 教師と場を共有したり、教師と一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。 自分のやりたい遊びを十分に楽しむ。</p>			<p>「先生と一緒に遊びたい」 ○身の回りの興味ある事象にたくさん触れる。  手遊び歌</p> <p> 一緒に製作</p> <p> おひめさまごっこ</p>
研究協議会	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p>「幼稚園って 楽しいな」 ○身の回りの興味ある事象に触れ、その感触を楽しむ。  赤土の山での泥遊び</p> <p> 砂場のお山づくり</p>
6月	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p>「みんなと楽しく」 ○歌ったり体を動かしたり、お話を聞いたりして楽しむ。  絵本の読み聞かせ</p> <p> リトミック</p>
春期教育実習	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p>「こんなこともしたいな」 ○先生や友達と一緒にいろいろな行事を楽しむ。  親子バス遠足</p> <p> わにさん泳ぎ</p>
プール開き	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p>「水って気持ちいいね」 ○プールでの水遊びを通して、水に慣れ親しむ。  水遊び</p>
避難訓練	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p>「またあしたも来るね」 ○身の回りのことについてやり方を覚え、自分がかんばろうとする。  着替え</p> <p> 後片付け</p>
親子バス遠足	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			<p> 七夕飾り</p> <p> お弁当</p>
7月	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			
七夕飾り付け	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			
1学期終業式	<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。 ◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。 ◇子供たちが自分の遊びに入り込めるよう、棚などで仕切りを作りながらも、全体の遊びが見渡せるよう、子供の視線や安全面に配慮して、保育室の仕切り方を工夫する。 □一人一人の発想や工夫のよさを認める声がけをする。 【手だて②】 □子供たちのつぶやきや表情、言葉などから思いをとらえ、教師が子供の思いを受け止めたり、認めたり、子供同士の思いを言語化してつないだりする。</p>			

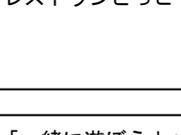
資質・能力を位置付けた保育計画（年少3歳児 2学期）

		表出が期待される三つの資質・能力					
時期	主な園行事	身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	「遊び」の配列		
8月	2学期始業式	Ⅱ期（年少3歳児8月～年中4歳児4月）			「遊び」の配列		
9月	三校園合同運動会	身の回りにある「ひと・もの・こと」に興味をもって、かかわる。	教師や友達に自分の遊びを見せたり、友達の遊びを見つめたりし、一緒にいる心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いをもち、自分なりに試す。	「身体を動かして遊ぼう」 （楽しい運動会） ○外で元気に体を動かして遊ぶ。	「秋になったよ」 ○身近な草花を使って遊びながら秋を楽しむ。	「一人でがんばるよ」 ○自分の身の回りのことや、生活に必要な活動が分かり、自分から進んでしようとする。
秋の交通安全教室		<p>「一緒に遊ぶと楽しいな」 ○表出した資質・能力</p> <p>身の回りの様々な環境の中から、自分のやりたい遊びを見付け、楽しく遊ぶ。</p> <p>教師や友達と場を共有したり、自分の遊びを見せたり、友達の遊びを見つめたりし、教師や友達と一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。</p> <p>遊びのイメージを膨らませ、「もっとこうしたい」という思いをもち、自分なりに工夫しながら遊ぶ。</p>			 <p>かけっこ</p>  <p>綱引き</p>  <p>ダンス</p>	 <p>落ち葉拾い</p>  <p>どんぐり拾い</p>	 <p>給食の配膳</p>  <p>後片付け</p>  <p>エプロンたたみ</p>
10月	避難訓練				「いろいろな見付けたよ」 （探検遠足） ○先生や友達と一緒に悠久山を探検して秋の自然に親しむ。	「秋のおいしいたからもの」 ○みんなで育てたさつまいもを収穫し、一緒に食べることを楽しむ。	
11月	探検遠足				「一緒に遊ぶと楽しいな」 ○身近にある「ひと・もの・こと」に興味・関心をもち、先生や友達とかかわりながら、自分がやってみたくと思った遊びを楽しむ。	園内探検	探検遠足
12月	作品展				「ちょっぴんべったん 楽しいな」 （作品展） ○身近な材料を選び、絵の具やはさみ、のりなどを使いながら、切ったり貼ったり描いたりして製作を楽しむ。	「もうすぐお正月」 ○お家の人や友達、先生と一緒に餅つきを体験し、お正月の行事に親しむ。	
12月	餅つきの会				ヒーローごっこ	いもほり	
2学期終業式					おひめさまごっこ	餅つき大会	
					製作遊び	立体作品作り	
					お店屋さんごっこ	お絵かき	

資質・能力を位置付けた保育計画（年少3歳児 3学期）

		表出が期待される三つの資質・能力					
時期	主な園行事	身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	「遊び」の配列		
1月 3学期 始業式	お正月 お楽しみ会	Ⅱ期（年少3歳児8月～年中4歳児4月）			<p>「お正月遊び」</p> <p>○かるたなどのお正月遊びを楽しみながら、お正月の行事や伝承遊びに親しむ。</p>  <p>かるた大会</p>  <p>お楽しみ抽選会</p>	<p>「小さいくら組さん いらっしやい」</p> <p>○新入園児を迎えるためにプレゼントを用意し、お兄さん・お姉さんになる期待をもつ。</p>  <p>一日入園のプレゼント作り</p>	<p>「雪となかよし」</p> <p>○雪の感触を楽しみ、いろいろな遊びを楽しむ中で、冬の季節を感じる。</p>  <p>雪をほったよ</p>  <p>雪上かけっこ</p>  <p>雪山遊び</p>
お正月 お楽しみ会		<p>身の回りにある「ひと・もの・こと」に興味をもって、かかわる。</p>	<p>教師や友達に自分の遊びを見せたり、友達の遊びを見つめたりし、一緒にいる心地よさを感じる。</p>	<p>楽しく遊びたいという思いをもち、自分なりに試す。</p>			
遊難訓練							
そり遠足							
2月	豆まきの会	<p>「おにはそと ふくはうち」</p> <p>○豆をまいたり、食べたりする体験を通して、節分行事に親しむ。</p>  <p>豆まき大会</p>	<p>「寒くても平気」</p> <p>○手洗い・うがいを毎日行い、風邪を予防する。</p>  <p>手洗い・うがい</p>	<p>「こんなこともできるよ」</p> <p>○一日の生活の仕方が分かり、身の回りのことや、生活に必要なことを自分ですらうとする。</p>  <p>雪遊びの着替え</p>  <p>歯磨き</p>  <p>お部屋の掃除</p>			
豆まきの会							
3月	<p>「友達と楽しく遊べるよ」</p> <p>○表出した資質・能力</p> <p>身の回りの様々な環境にかかわりながら、自分のやりたい遊びを見付け、楽しく遊ぶ。</p> <p>教師や友達とかかわりながら、一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。</p> <p>教師や友達の遊びを見たり、一緒に遊んだりしながら、遊びのイメージを膨らませ、「もっとこうしたい」という思いをもち、自分なりに工夫しながら遊ぶ。</p> <p>○要因となった主な環境構成（◇）と教師の援助（□）</p> <p>【手だて①】</p> <p>◇片付けの時、遊び道具を元の場所に戻しやすいよう、写真や絵などを貼って分かりやすくする。</p> <p>◇子供たちが自分の遊びに没頭できるよう、遊び場やコーナーの配置を工夫する。</p> <p>◇様々な素材を用意し、子供たちが取りやすい場所に提示する。</p> <p>□一人一人の発想や工夫のよさを認める声かけをする。</p> <p>【手だて②】</p> <p>□教師が子供同士の思いを言語化してつなぐなどしながら、うまく折り合いがつけられるような声かけをする。</p> <p>【手だて③】</p> <p>□友達の遊びに気付かせたり、友達とかかわらせたりしながら、子供の「もっとこうしたい」という思いを高めていく。</p>	<p>「おにはそと ふくはうち」</p> <p>○豆をまいたり、食べたりする体験を通して、節分行事に親しむ。</p>  <p>豆まき大会</p>	<p>「寒くても平気」</p> <p>○手洗い・うがいを毎日行い、風邪を予防する。</p>  <p>手洗い・うがい</p>	<p>「こんなこともできるよ」</p> <p>○一日の生活の仕方が分かり、身の回りのことや、生活に必要なことを自分ですらうとする。</p>  <p>雪遊びの着替え</p>  <p>歯磨き</p>  <p>お部屋の掃除</p>			
新入園児 一日入園					<p>「友達と楽しく遊べるよ」</p> <p>○自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりと、友達と遊ぶことができる。</p>  <p>みんなでプリンセスにへんし〜ん!!</p>  <p>みんなでヒーローポーズ!!</p>	<p>「もうすぐばら組さん ありがとうもり組さん」</p> <p>○もうすぐばら組になることを喜び、お世話になったもり組にありがとうの気持ちをもつ。</p>  <p>ありがとうの会</p>  <p>プレゼント作り</p>	
ありがとうの会							
3学期 終業式 卒園式							

資質・能力を位置付けた保育計画（年中4歳児 1学期）

		表出が期待される資質・能力					
時期		自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること			
主な園行事		身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	「遊び」の配列		
4月		Ⅱ期（年少3歳児8月～年中4歳児4月）					
1学期始業式 入園式		身の回りにある「ひと・もの・こと」に興味をもって、かかわる。	教師や友達に自分の遊びを見せたり、友達の遊びを見つめたりし、一緒にいる心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いを持ち、自分なりに試す。	「今日からばら組」 ○進級、入園の喜びを感じて、新しい生活への期待をもつ。	「新しい友達もいっしょ」 ○進級児と新入園児と一緒に遊ぶ中で、互いに知り合い、親しみを深める。	「園庭を探検しよう」 ○園庭を探検し、草花などの様々な自然物、遊具とかかわって遊ぶことを楽しむ。
交通安全教室							
避難訓練					おやつ	赤土の山での泥遊び	桜の花摘み
こんにちはの会						粘土遊び	大型遊具での遊び
お花見散歩		Ⅲ期（年中4歳児5月～1月）					
5月		「ひと・もの・こと」への興味を広げ、繰り返しかかわる。	友達の遊びをまねたり、友達の遊びに入っていくたりし、一緒に遊ぶ楽しさ、感情を共有する心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いを持ち、自分なりに工夫する。	「今日は何をして遊ぼうかな」 ○自分の好きな遊びを見付け、場を同じくした友達と一緒にその遊びを楽しむ。	「なかよし広場の春を見付けよう」 ○外の固定遊具で遊んだり、園庭の草花、昆虫を探したりしながら、春の季節を様々な感覚で味わって遊ぶ。	「植物や生き物の世話をしよう」 ○園庭にいる生き物を飼育することで、生き物への興味や関心をもつ。 ○花や野菜を育てることで、植物に対する親しみの気持ちをもつ。
研究協議会		<p>「今日は何をして遊ぼうかな」関連題材 「一緒に遊ぶと楽しいな」</p> <p>○表出した資質・能力</p> <p>周囲の様々な環境にかかわることを通して、自分の興味・関心を広げ、やりたい遊びを見付け、楽しみながら遊ぶ。</p> <p>共通する思いや願いをもっている友達と一緒に遊ぶことを通して、友達とかかわる楽しさや心地よさを味わう。</p> <p>友達の遊びを見たり、友達の遊びに触れたりすることを通して、遊びのアイデアを広げたり、もっと楽しく遊べるように工夫したりする。</p>			「今日は何をして遊ぼうかな」 ○自分の好きな遊びを見付け、場を同じくした友達と一緒にその遊びを楽しむ。	「なかよし広場の春を見付けよう」 ○外の固定遊具で遊んだり、園庭の草花、昆虫を探したりしながら、春の季節を様々な感覚で味わって遊ぶ。	「植物や生き物の世話をしよう」 ○園庭にいる生き物を飼育することで、生き物への興味や関心をもつ。 ○花や野菜を育てることで、植物に対する親しみの気持ちをもつ。
6月		<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□)</p> <p>【手だて①】</p> <p>◇子供一人一人が、それぞれの思いや願いを大切に遊ぶことができるように、日々の遊びの様子から遊びの展開を予想し、道具や素材などを用意しておく。</p> <p>□子供が安心して、そして、自信をもってやりたい遊びに取り組むことができるよう、一人一人の発想や遊びを認める声かけをする。</p> <p>【手だて②】</p> <p>□教師と一緒に遊ぶことで、友達とかかわるきっかけをつくり、友達と一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じさせる。</p>			「今日は何をして遊ぼうかな」 ○自分の好きな遊びを見付け、場を同じくした友達と一緒にその遊びを楽しむ。	「なかよし広場の春を見付けよう」 ○外の固定遊具で遊んだり、園庭の草花、昆虫を探したりしながら、春の季節を様々な感覚で味わって遊ぶ。	「植物や生き物の世話をしよう」 ○園庭にいる生き物を飼育することで、生き物への興味や関心をもつ。 ○花や野菜を育てることで、植物に対する親しみの気持ちをもつ。
春期教育実習		<p>【手だて③】</p> <p>□友達とのかかわりが遊びの楽しさを膨らませたことを感じさせる声かけをする。</p>			「今日は何をして遊ぼうかな」 ○自分の好きな遊びを見付け、場を同じくした友達と一緒にその遊びを楽しむ。	「なかよし広場の春を見付けよう」 ○外の固定遊具で遊んだり、園庭の草花、昆虫を探したりしながら、春の季節を様々な感覚で味わって遊ぶ。	「植物や生き物の世話をしよう」 ○園庭にいる生き物を飼育することで、生き物への興味や関心をもつ。 ○花や野菜を育てることで、植物に対する親しみの気持ちをもつ。
7月					「一緒に遊ぼうよ」 ○気の合う友達と一緒に、イメージを共有しながら楽しく遊ぶ。	「水遊びって楽しいな」 ○水や色水、泡などに興味を持ち、それらに繰り返しかかわって遊びを楽しむ。	「プール大好き」 ○プールで開放感を味わいながら水遊びをし、初夏の季節を様々な感覚で楽しむ。
七夕飾り付け							
1学期終業式					レストランごっこ	砂場で水遊び	生き物の飼育
							
					ヒーローごっこ	泡作り	輪くぐり
							
					ピクニックごっこ		

資質・能力を位置付けた保育計画（年中4歳児 2学期）

		表出が期待される三つの資質・能力			「遊び」の配列				
時期	主な園行事	身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと					
8月	2学期始業式	Ⅲ期（年中4歳児5月～1月）			「わくわくどきどき運動会」 ○カ一杯体を動かす心地よさを感じたり、みんなで運動会の練習をすることを通して一体感を味わったりする。  ダンス  かけっこ				
9月	三校園合同運動会	「ひと・もの・こと」への興味を広げ、繰り返しかわる。	友達の遊びをまねたり、友達の遊びに入っていくたりし、一緒に遊ぶ楽しさ、感情を共有する心地よさを感じる。	楽しく遊びたいという思いを持ち、自分なりに工夫する。					
9月	秋の交通安全教室	「友達と遊ぶと楽しいね」 ○表出した資質・能力 周囲の様々な環境にかかわることを通して、自分の興味・関心を広げ、やりたい遊びを見つけ、その遊びを繰り返し楽しむ。 共通する思いや願いをもっている友達と一緒に遊ぶことを通して、楽しさや喜びなどの感情を共有し、友達と遊ぶ心地よさを味わう。 友達の遊びを見たり、友達の遊びに触れたり、一緒に遊んだりすることを通して、遊びのアイデアを広げたり、もっと楽しく遊べるように工夫したりする。 ○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□) 【手だて①】 ◇体を動かす遊びのきっかけとなる道具を準備しておく。 □子供が安心して、そして、自信をもってやりたい遊びに取り組むことができるよう、一人一人の発想や遊びを認める声かけをする。 【手だて②】 ◇伸び伸びと体を動かす遊びが展開されるよう遊戯室を活動の場として追加する。 □同じ遊びをしている子供たちの遊びへの思いや遊びを発展させていくアイデアの共有のために、お互いの思いの伝達を補助したり、意見の合意形成のための援助をしたりする。 【手だて③】 □友達とのかかわりが遊びの楽しさを膨らませたことを感じさせる声かけをする。							
10月	避難訓練								
10月	探検遠足								
11月	作品展								
12月	避難訓練								
	餅つき会								
	2学期終業式								

「外遊びを一緒にしようよ」
 ○外での遊びに繰り返し取り組む中で、気の合う友達と一緒に、アイデアを出し合ったり、イメージを共有したりしながら遊びを楽しむとする。



ごちそうづくり

「力を合わせて宝を探すよ」(探検遠足)
 ○悠久山での探検コースをみんなで歩きながら、草花や木の実、虫を見たり触れたりして、秋を様々な感覚で味わう。



お宝発見

「こんな虫がいたよこんな花があったよ」
 ○園庭にいる生き物を飼育することで、飼育方法に興味や関心をもつ。
 ○花や野菜の世話を通して、それらの生長に興味や関心をもち、収穫したり遊びに使ったりする期待感をもつ。



百年の森探検

「みんなで食べよう 秋の宝物」
 ○園庭で栽培したり、実がなっている秋の味覚(柿、芋、芋のつる、栗など)を自分の手で収穫する体験を通して、花や野菜など世話してきたことを思い起こし、喜びを感じる。
 ○秋の味覚を様々な方法で調理、体験し、先人の知恵に驚きを感じたり、それらの秋の味覚を味わったりする。

 **柿もぎ**
 **いもほり**

「みんなで楽しもう 秋遊び」
 ○秋の自然に繰り返しかわることで自然の変化に目を向け、自分からそれらにかかわって遊びを楽しんだり、季節の変化を様々な感覚で味わったりする。



どんぐりネックレス

「友達と遊ぶと楽しいね」
 ○場を同じくした友達と一緒に、遊びを楽しくしようと役割を決めたり、必要なものを用意したりしながら遊ぶ。
 ○様々な人たちと触れ合い、楽しく遊ぶ。



ファッションショーごっこ

「広場へレッツゴー」
 ○広場を散策して、木の実や草花の種を見付けたり、栽培してきた植物の変化に目を向けたりする。
 ○広場の遊具や晩秋の自然に触れて遊びながら、季節の変化を様々な感覚で味わう。



泥水が冷たいと発見

「楽しかったよ もり組さん」
 ○年長児の活動を見せてもらったり、参加させてもらったりして、自分たちも同じようにやってみようと遊びを工夫する。



お店屋さんごっこ

資質・能力を位置付けた保育計画（年中4歳児 3学期）

		表出が期待される三つの資質・能力			「遊び」の配列				
時期	主な園行事	身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと					
1月 3学期 始業式	お正月 お楽しみ会 遊離訓練 そり遠足	Ⅲ期（年中4歳児5月～1月）			<p>「雪遊びを 楽しもう」 ○園庭にある雪や氷を使って思う存分遊ぶ中で、それらの性質に目を向け遊びをもっと楽しくしようとする。</p>  <p>雪の秘密基地</p>  <p>アイス作り</p>	<p>「冬の遊びを 楽しもう」 （お正月遊び） ○お正月遊びを楽しみながら、日本古来の行事に親しみを持つ。</p>  <p>餅つき</p>  <p>カルタとり</p>	<p>「そり遠足に 出発だ」 ○戸外でのそり遊びや雪遊びを通して、体を動かして遊ぶ楽しさを味わうとともに、冬の自然に親しむ。</p>  <p>そりの乗り方</p>		
2月		Ⅳ期（年中4歳児2月～年長5歳児10月）						<p>「元気に楽しく遊ぼう」 ○気の合う友達と一緒に、アイデアを出し合ったり、イメージを共有したりしながら遊ぶ。</p>  <p>ダンスごっこ</p>  <p>おうちごっこ</p>	<p>「ようこそ 小さいさくら組さん （一日入園）」 ○新入園児を迎えようと、アイデアを出し、プレゼントを作ったり、遊びを考えたりする。</p>  <p>お店作り</p>  <p>お店は大繁盛</p>
3月		<p>「元気に楽しく遊ぼう」 ○表出した資質・能力</p> <p>身の回りの素材や遊びの場、友達の様子など、興味をもった対象に主体的に、繰り返しかわる。</p> <p>共通する思いや願いをもっている友達と一緒に遊ぶことを通して、遊びのイメージを共有しながら友達と遊ぶ心地よさを味わう。</p> <p>友達の遊びを見たり、友達の遊びに触れたり、一緒に遊んだりすることを通して、遊びのアイデアを広げたり、もっと楽しく遊べるように試行錯誤したりする。</p>							
3学期 終業式 卒園式		<p>○要因となった主な環境構成(◇)と教師の援助(□)</p> <p>【手だて①】 ◇今まで遊んできたものに加え、少しずつ新しい素材に触れていける環境をつくる。 ◇保育室や遊戯室で子供たちが気に入った遊びを十分楽しめるように場をつくる。 □やりたい遊びを工夫しながら楽しんでいけるよう、子供の発想を大いに称賛する。</p> <p>【手だて②】 □子供たちで相談したり、一緒に創り上げたりする活動を通して、個々の遊びからみんなで楽しむ遊びの楽しさに目を向けていけるように援助していく。</p> <p>【手だて③】 □友達とのかかわりが遊びの楽しさを膨らませたことを感じさせる声がけをする。</p>							

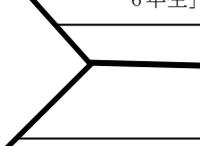
資質・能力を位置付けた保育計画（年長5歳児 1学期）

時期	表出が期待される資質・能力			「遊び」の配列
	自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること	
主な園行事	身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	
4月	IV期（年中4歳児2月～年長5歳児10月）			
1学期始業式 入園式	「ひと・もの・こと」への興味を広げ、そのよさや特性を感じながら、繰り返しかかわる。	自分の思いを伝えつつ、友達の思いを認め、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、イメージを共有する心地よさを感じる。	遊びをより楽しくしようという思いをもち、自分なりに試行錯誤する。	「友達と遊ぼう」 ○早春の自然に触れたり、園内の道具や素材でいろいろなものを作ったりすることを通して、友達とのかかわりを深める。  園庭で草花探し  お祭りごっこ
交通安全教室				
避難訓練				「ばら組さんと出かけよう」 ○進級の喜びを胸に、年長としての自信と自覚をもって生活しようとする。  お花見散歩
こんにちはの会	「みんなで遊ぶと楽しいね」関連題材 「こうすると楽しいよ —あの子に聞いてみよう—」 ○表出した資質・能力 身の回りの素材や遊びの場、友達の様子など、興味をもった対象に主体的にかかわり、自分の遊びに生かそうとする。 面白い製作物や発想など、友達のよさに目を向け、模倣したり、遊びに取り入れたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 友達の遊びも参考にしながらイメージを膨らませ、製作物や場に自分なりの工夫を加えるなど、試行錯誤を楽しむ。			「春をたくさん見つけよう」 ○春の草花や生き物に触れたり、自然の中で遊んだりして、季節の変化を感じる。  桜の花摘み  桜茶作り
お花見散歩				
5月				「みんなで遊ぶと楽しいね」 ○友達を誘ったり、思いや考えを伝え合ったりして、一緒に遊ぶことを楽しむ。  ままごと遊び
研究協議会	○要因となった主な環境構成（◇）と教師の援助（□） 【手だて①】 ◇一人一人が思う存分遊ぶことができるように、各遊びの経緯を踏まえ、必要になるであろう素材や道具を用意しておく。その際、子供同士のかかわりが生まれるように数を精選する。 □一人一人が自他のよさに目を向けるようにするために、適宜教師が遊びに参加し、個々の思いや考えを認め、そのよさを言葉にして価値付ける。 【手だて②】 □子供同士のやり取りを見取り、「どうしたいの?」「こうするといいんだね。」と、うまく言葉にできない思いや考え、行為を言語化して補足・共有させる。 【手だて③】 □かかわりを経て願いを具現できた子に対しては、「○○ちゃんってすごいね。」と友達のよさを価値付けながら喜びに共感する。また、友達を支えた子に対しては、「あなたのおかげだよ。」「○○ちゃん、喜んでいたよ。ありがとう。」と、承認・感謝の言葉で価値付ける。			「水遊びって楽しいな」 (砂・泡・色水) ○これまでの経験を生かして、友達と考えを伝え合いながら、水を使って遊ぶ楽しさを味わう。  雨どいの水路作り
6月				「生き物と仲よし」 ○生き物を捕まえて観察や飼育をすることを通して、新たな発見を楽しみながら生き物への愛着や好奇心をもつ。  虫の観察
春期教育実習				「花や野菜を育てよう」 ○花や野菜の生長に関心をもち、親しみをもって世話をしようとする。  学級畑でのさつまいも植え
プール開き				「水って気持ちいい」(プール) ○水に慣れるとともに、水の心地よさや水を使った遊びの楽しさをたっぷりと感じ、プールでの水遊びを楽しむ。  たらい舟遊び
避難訓練				
親子バス遠足				
7月				「友達と触れ合うゲーム」  友達と触れ合うゲーム
七夕飾り付け				
1学期終業式				

資質・能力を位置付けた保育計画（年長5歳児 2学期）

時期 主な園行事	表出が期待される三つの資質・能力			「遊び」の配列	
	身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと		
8月 2学期始業式	IV期（年長4歳児2月～年長5歳児10月）			<p>「友達ともっと楽しく」（素材の特性を生かして） ○友達と思いや考えを伝え合いながら、好奇心や探究心を持ち、工夫して遊ぶ。</p>  <p>植物の汁や泡で料理作り</p>  <p>流しそうめん遊び</p>  <p>赤土山での水・泥遊び</p> <p>【幼小合同活動】 「小学生と仲よしくなろう」（社会創造科） ○小学1年生と一緒に遊ぶ中で、異年齢の仲間とのかかわりを楽しむ。</p>  <p>「作って遊んで描いてみよう-季節の宝物-」 ○秋・冬の素材から感じたことや考えたことを、様々な方法で表現する。</p>  <p>「作って遊んで仲よしく」 ○小学校の行事に参加し、交流を深める。</p>  <p>仲よしフェスティバル</p>	
9月 三校園合同運動会 秋の交通安全教室	「ひと・もの・こと」への興味を広げ、そのよさや特性を感じながら、繰り返しかわる。	自分の思いを伝えつつ、友達の思いを認め、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、イメージを共有する心地よさを感じる。	遊びをより楽しくしようという思いをもち、自分なりに試行錯誤する。		
10月 遊離訓練 探検遠足	<p>「一緒にやってみよう！」関連題材 「一緒にやってみよう！—みんなのよさが「やりがい」に—」</p> <p>○表出した資質・能力</p> <p>友達・素材・場など、興味をもった対象に主体的にかかわり、「自分はこうしたい」と主張して遊びに生かそうとする。</p> <p>会話を通して自他のよさを遊びに取り入れ、遊びの目的や世界観を共有したり、その実現のために協力したりして遊ぶ。</p> <p>友達と話し合い、遊びのイメージを膨らませたり、新たに発想したりして、自他のよさを生かしながら創意工夫する。</p>				
11月 作品展	V期（年長5歳児11月～3月）				
12月 遊離訓練 餅つきの会	「ひと・もの・こと」への願いをもち、そのよさや特性を感じながら、見通しをもって繰り返しかわる。	友達と共通の願いをもち、考えを伝え合いながら、一緒に遊ぶ楽しさや達成感、連帯感を感じる。	遊びをより楽しくしようとして遊びへの思いを膨らませ、自分なりに試行錯誤する。		
2学期終業式	<p>○要因となった主な環境構成（◇）と教師の援助（□）</p> <p>【手だて①】 □教師が個々のイメージを意図的に強く方向付けたり、子供の創り上げた世界観を壊したりすることのないように、過度に干渉せず、見守る姿勢を大切にする。</p> <p>【手だて②】 □子供同士の遊びの目的や世界観に共感し、適宜言葉で補いながら共有を促す。また、よさを認め合いながら願いを具現する姿を価値付け、「やりがい」を引き出していく。</p> <p>【手だて③】 □友達とかかわりながら願いを具現できた子に対しては、本人の「やりがい」とともに、一緒に遊ぶ友達のよさを価値付けながら、喜びに共感する。</p>				
					<p>「赤勝て 白勝て 運動会」 ○年少、年中児のリーダーとして行動し、カー杯体を動かす気持ちよさを味わう。</p>  <p>中学生と応援練習</p> <p>「力を合わせてゴールを目指そう」（探検遠足） ○秋の自然を味わうとともに、年長児として仲間と協力する大切さを感じる。</p>  <p>園内探検</p>  <p>探検遠足</p> <p>「収穫を喜び合おう」 ○育てた野菜や果物を収穫する経験を通して、食の大切さや栽培の楽しさに触れる。</p>  <p>いもほり</p>  <p>焼いも会</p> <p>「冬の行事を楽しもう」（餅つき、クリスマス） ○季節の行事を通して、親子の触れ合いや季節の移り変わりを楽しむ。</p>  <p>親子餅つき会</p>  <p>プレゼント渡し（終業式）</p>

資質・能力を位置付けた保育計画（年長5歳児 3学期）

		表出が期待される三つの資質・能力					
時期		身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと	友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと	思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと	「遊び」の配列		
1月 3学期 始業式		V期（年長5歳児11月～3月）					
お正月 お楽しみ会		「ひと・もの・こと」への願いをもち、そのよさや特性を感じながら、見通しをもって繰り返しかわる。	友達と共通の願いをもち、考えを伝え合いながら、一緒に遊ぶ楽しさや達成感、連帯感を感じる。	遊びをより楽しくしようと遊びへの思いを膨らませ、自分なりに試行錯誤する。	【幼小合同活動】 「小学生と もっと仲よしに」 （「社会創造科」） ○小学1年生と一緒に遊ぶ中で、異年齢の仲間とのかかわりを楽しむ。  「みんなのスノーヤッホーランドを作ろう」  「雪で遊んで もっと仲よし」  「ありがとう おめでとう もり組さん 6年生」 		
避難訓練					「冬の遊びを工夫して楽しもう」 （雪と氷遊び） ○雪（氷）を使って遊ぶ中で、その特性を生かすと、遊びがもっと楽しくなることに気付く。  かき氷作り  雪の花作り  かまくら作り 		
そり遠足					「冬の行事を楽しもう」 （お正月遊び、お楽しみ会） ○お正月の経験とともに、自分で遊びを作ったり、みんなが昔の遊びを楽しんだりする。  ジャンボかるた大会 		
2月 豆まきの会		「冬も元気に過ごそう —ドッジボール—」 ○表出した資質・能力 進んでドッジボールに参加し、ボールを投げたり、かわしたりする楽しさを感じながら、集中して遊ぶ。 進んでチームの友達に声をかけて応援したり、会話を通して簡単な作戦や目標を共有したりして、友達と仲よく遊ぶ。 自分からボールを取りに行ったり、その場に留まらないように動き回ったりするなど、自分のよさ（得意な面）を自覚し、遊びに生かす。 ○要因となった主な環境構成（◇）と教師の援助（□） 【手だて①】 ◇遊戯室にドッジボールコート常設し、ボールとともに自由に使用できるようにしておく。 □子供の遊びや、その中で見られた動きに着目し、ドッジボールにつながるよさを価値付ける。 （新聞紙のボール作り、キャッチボール遊び等） 【手だて②】 □パス交換や応援、ハイタッチなど、良好なかかわりを見取り、その都度価値付ける。 □適宜遊びに参加しながら、個々の得意な面を言葉にして、周囲の友達に伝えて共有する。 【手だて③】 □競技中や競技後、それ以外の場面で、一人一人の活躍した姿や、友達と仲よくかかわった姿、チームとしてまとまっていた姿を大いに称賛し、価値付ける。 			【幼小合同活動】 「行くぞ、みんなでそり遠足」 ○そり遊びを通して友達と体を動かす遊びの楽しさを味わうとともに、健康・安全な生活に必要な態度を身につける。 ○小学生とそり遊びや雪遊びを通してかかわり、一緒に遊びを楽しむ。  合同そり遊び 		
新入園児 一日入園					「冬も元気に過ごそう」 ○体を動かしたり、うがい等をして、元気に過ごす意欲を高める。  ドッジボール 		
3月 ありがとうの会					「春がそこまで」 ○植物の成長や日の光の強さ、季節の行事などに関心をもちながら、春の訪れを感じる。  一人一鉢（水やり）  ありがとうの会 		
3学期 終業式 卒園式					「もうすぐ1年生 忘れないよ 幼稚園」 ○園生活を振り返り、今までお世話になった方々と一緒に仲良くしてきた年少・年中さんに感謝の気持ちをもつとともに、小学校入学への希望や心構えをもつ。 ○自分の得意なことなど、自分の成長に自信をもつとともに、仲間のよさにも目を向け、認め合う気持ちをもつ。  卒園式 		

資質・能力を位置付けた単元配列表 国語科（「読むこと」領域）

時期	単元	協働 場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	はなのみち	花の一本道ができたときのくまさんの気持ちについて検討する場面	花の一本道ができたときのくまさんの気持ちについて仲間の解釈に関心を持ち、文と文のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	くまさんの気持ちについて、仲間の異なる解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりしたことを、自分の経験と結び付けて、花の一本道ができたときのくまさんの気持ちについて発表する。
	くちばし	自分のつくった問題が答えと整合しているのかを検討する場面	自分のつくった問題の文と絵のつながりを考え、よさや不十分さを考える。	つくった問題の文と絵、答えと絵のつながりについて、仲間の考えを最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の文と絵のつながりのよさを受け入れたり、自分の考えをよりはっきりさせたりし、問題をつくる。
	おむすびころりん	登場人物の会話文の読み方の工夫について検討する場面	登場人物の会話文の読み方の工夫について、仲間の音読表現に関心を持ち、語や文のつながりを考えながら、会話文の読み方のよさや不十分さを考える。	会話文の読み方の工夫について、仲間の根拠や理由を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりして、会話文の読み方を工夫して音読する。
	おおきなかぶ	劇化に向け、登場人物の動作の工夫を仲間と検討する場面	劇にするために、登場人物の動作をどう工夫するのか仲間の表現方法に関心を持ち、繰り返しや順序を考えながら、自他の動作のよさや不十分さを考える。	登場人物の動作の工夫について、繰り返しの表現や仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりして、劇を発表する。
	おはなしをたのしもうゆうだち	二匹が手をつないで走り出したのはなぜかについて、仲間と検討する場面	二匹が手をつないで走り出したのはなぜか、仲間の解釈に関心を持ち、語や文のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	二匹が手をつないでほしり出したのはなぜか、仲間の根拠や理由を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、二匹が手をつないで走り出したのはなぜか発表する。
	こえにだしてよもうくじらぐも	登場人物になったつもりで会話文をつくり、仲間と話し合う場面	自分が選んだ登場人物になりきって、どんな会話文をつくれたか仲間の解釈に関心を持ち、場面を劇化しながら、自他のつくった会話文のよさや不十分さを考える。	仲間のつくった会話文を場面に合っているか考えながら最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、自分が選んだ登場人物の会話文をつくる。
	くらべてよもうじどうしゃくらべ	つくった自動車の文について、仕事と作りが整合しているのかを検討する場面	つくった自動車の文について仲間の表現に関心を持ち、教材文「じどうしゃくらべ」の文章構成と比較しながら、自他の仕事と作りが整合しているかを考える。	つくった自動車の文について、仕事と作りが整合しているか考えながら、仲間の表現の仕方の理由を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間のつくった自動車の文のよさを見出したり、自分の紹介する自動車の文のよさをよりはっきりさせたりし、自動車の文をつくる。
	むかしはなしがいっぱい	お話の紹介の仕方について、発表原稿の書き方を仲間と検討する場面	お話の紹介の仕方について、仲間の表現に関心を持ち、発表の構成を考えながら、自他の書き方のよさや不十分さを考える。	お話の紹介の仕方について、仲間の考えた書き方の工夫を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の書き方を受け入れたり、自分の書き方をよりはっきりさせたりし、お話を紹介する発表原稿をつくる。
	ほんはともだちずうっと、ずっと、大好きだよ	毎晩「ずうっと、ずっと、大好きだよ」と言おうとしているのはなぜかについて検討する場面	毎晩「ずうっと、ずっと、大好きだよ」と言おうとしているのはなぜかについて、仲間の解釈に関心を持ち、主人公の言葉や題名とのつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	主人公の言葉や題名とのつながりを考えながら、仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、毎晩「ずうっと、ずっと、大好きだよ」と言おうとしているのはなぜか自分の解釈を発表する。
	おはなしをたのしもうたぬきの糸車	うれしくてたまらないというように帰っていったのはなぜかについて検討する場面	うれしくてたまらないというように帰っていったのはなぜかについて、仲間の解釈に関心を持ち、場面や人物設定のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	場面や人物設定のつながりを考えながら、仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、たぬきがうれしくてたまらないというように帰っていったのはなぜかについて自分の解釈を発表する。
ちがいをかんがえてよもうどうぶつのお赤ちゃん	大きくなっていく様子の違いについて仲間と検討する場面	大きくなっていく様子の違いについて、仲間の解釈に関心を持ち、ライオンとシマウマの順序を考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	大きくなっていく様子の違いについて、ライオンとシマウマの順序を考えながら、仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、大きくなっていく様子の違いについて自分の解釈を発表する。	

	すきなところをさがしてよもうだってだっておばあさん	お話の好きな場面について仲間と理由を話し合う場面	どの場面が好きなのが仲間の考えに関心をもち、繰り返しや人物設定のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	繰り返しや人物設定のつながりを考えながら、仲間の考えを最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	仲間の解釈を受け入れたり、自分の解釈をよりはっきりさせたりし、お話の好きな場面について発表する。
第2ステージ小2	音読しよう ふきのとう	音読を聞き合い、人物の様子に着目して音読の工夫を検討する場面	仲間の音読に関心をもち、人物の様子とかかわらせながら、自他の表現のよさや不十分さを考える。	仲間の音読を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	ふきのとうについてしていることと結び付けて、感じたり考えたりしたことを音読する。
	読んでわかったことをまとめよう たんぼぼのちえ	たんぼぼにはどのような知恵があるのかについて仲間と検討する場面	たんぼぼの知恵の理由について仲間の解釈に関心をもち、語や文のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	たんぼぼの知恵の理由について仲間の最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	たんぼぼの知恵についての簡単な構成を読み取り、たんぼぼについて知っていることと結び付けて、考えたことをまとめ、表現する。
	お話を読んでかんそうを書こう スイミー	劇化する過程で比喩表現に着目し、表現方法を検討する場面	スイミーが変わった場面についての心情のとらえについて仲間の考えに関心をもち、行動おとかかわらせながら、自他の表現のよさや不十分さを考える。	仲間の劇化する場面のとらえについて最後まで聞く。	スイミーの経験と自分の似た経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現する。
	読んで考えたことを書こう どうぶつ園のじゅうい	時間を表す言葉に着目し、獣医の仕事の順番について検討する場面	仲間の解釈に関心をもち、時間の順序を表す言葉とかかわらせながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	時間を表す言葉に着目した仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	簡単な構成を読み取り、時間の順序と結び付けて、感じたり考えたりしたことをまとめ、表現する。
	音読げきをしよう お手紙	二人が幸せな気持ちで手紙を待っているのはなぜかについて話し合う場面	二人が幸せな気持ちで手紙を待っているのはなぜかについての仲間の解釈に関心をもち、人物の様子とかかわらせながら、自他の表現のよさや不十分さを考える。	二人が幸せな気持ちで手紙を待っているのはなぜかについての仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	二人の言動と自分の経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現する。
	せつめいのしかたを考えよう しかけカードの作り方	分かり易く説明するための方法を見付けるために話し合う場面	分かり易く説明するための方法について仲間の解釈に関心をもち、語や文のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。	簡単な構成を読み取り、学習した内容を経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことをまとめ、表現する。
	詩を楽しもう だれかしら	「だれ」に当たるものは何かを話し合う場面	仲間の解釈に関心をもち、人物の様子とかかわらせながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	分かり易く説明するための方法について仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	「だれ」に当たるものについて、自分の経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現する。
	聞いてたのしもう 三まいのおふだ	一番面白いと思ったところについて、仲間と話し合う場面	一番面白いと思ったところについて仲間の解釈に関心をもち、場面の様子とかかわらせながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	一番面白いと思ったところについて仲間の考えを最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	一番面白いと思ったところについて、自分の経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現する。
第3ステージ小3	知っていることとつなげて読もう おにごっこ	本文中で説明されている鬼ごっこは何鬼なのかを検討する場面	本文中で説明されている鬼ごっこは何鬼なのかについて語や文のつながりを考えながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	本文中で説明されている鬼ごっこは何鬼なのかについて仲間の解釈を最き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。最後まで聞	簡単な構成を読み取り、学習した内容を経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことをまとめ、表現する。
	読んでお話をしよう スーホの白い馬	楽器の音がますます美しく響くのはなぜかについて仲間と検討する場面	楽器の音がますます美しく響くのはなぜかについて仲間の解釈に関心をもち、人物の様子とかかわらせながら、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	楽器の音がますます美しく響くのはなぜかについて仲間の解釈を最後まで聞き、共通の目的に向かおうとする関係を築く。	楽器が美しく響いた理由について、自分の経験と結び付けて、感じたり考えたりしたことを表現する。
	音読しよう きつつきの商売	音を表す言葉に着目して音読を工夫し、仲間と感想を話し合う場面	きつつきの出した音の様子についての解釈を基にした表現方法やその理由に関心をもち、表現のよさや不十分さを考える。	きつつきの出した音の様子について、根拠や理由を明確にして表現方法を考え、仲間の表現を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。	きつつきの出した音の様子について仲間の立場に立って読み取り、きつつきの人物像とかかわらせて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。
	詩を読もう わたしと小鳥とすずとみつけた	二つの詩の似ているところに着目して話し合う場面	二つの詩の共通点について、自他の表現のとらえやその理由に関心をもち、自他のとらえのよさや不十分さを考える。	二つの詩の共通点について根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。	二つの詩の共通点について仲間の立場に立って読み取り、大きさの順序と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。
物語の感想をまとめよう ちいちゃんのかげおくり	二つの「きらきらわらう」を比べて考えたことについて話し合う場面	二箇所「きらきらわらう」についての自他の解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	二箇所「きらきらわらう」について根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。	二箇所「きらきらわらう」について仲間の立場に立って読み取り、設定場面と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。	
説明のしかたを考えよう すがたをかえる大豆	始め、中、終わりの構成ごとに、どのような内容が書かれているのかを仲間と検討する場面	構成を手がかりにして読み取った自他の解釈やその理由に関心をもち、構成や自他の解釈のよさや不十分さを考える。	根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。	自他の解釈を仲間の立場に立って読み取り、学習した内容と課題を結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。	

	<p>民話や物語の組み立てを考えよう 三年とうげ</p> <p>物語を読んでしょうかいしよう モチモチの木</p>	<p>面白いと思ったところその理由について仲間と話し合う場面</p> <p>豆太の心情がおおきく変わったのはどこかについて仲間と検討する場面</p>	<p>面白いと思ったところの解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。</p> <p>登場人物の変容した場面がどこなのかについての自他の解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。</p>	<p>面白いと思ったところの根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>登場人物の変容した場面を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p>	<p>面白いと思ったところの自他の解釈を仲間の立場に立って読み取り、題名と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>登場人物の変容した場面について仲間の立場に立って読み取り、設定場面と結末場面を結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p>
第3ステージ小4	<p>音読げきをしよう 白いぼうし</p> <p>読んで自分の考えをまとめよう 大きな力を出す 動いて、考えて、また動く</p> <p>物語を読んで紹介しよう 一つの花</p> <p>読んで考えたことを話し合おう ごんぎつね</p> <p>説明のしかたについて考えよう アップとルーズで伝える</p> <p>科学読み物をしょうかいしよう ウナギのなぞを追って</p> <p>作品のひみつをさぐる 初雪のふる日</p>	<p>女の子の正体は何者なのかを検討する場面</p> <p>二つの説明文を比べて、構成の似ているところについて検討する場面</p> <p>お父さんが何も言わずに行ってしまったのはなぜかについて検討する場面</p> <p>目をつぶったごんはうれしかったのか、悲しかったのかを検討する場面</p> <p>アップとルーズの特徴の違いについて検討する場面</p> <p>文章と図の対応の意味について検討する場面</p> <p>読後感を話し合う中で、そう感じた理由を話し合う場面</p>	<p>女の子の正体が何者なのかについて、自他の解釈やその理由に関心をもち、考えのよさや不十分さを考える。</p> <p>二つの説明文を比較して似ているところに対する自他の解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。</p> <p>お父さんが何も言わずに行ってしまったのはなぜかに対する自他の解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。</p> <p>ごんがうれしかったのか悲しかったのかについての自他の解釈やその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。</p> <p>アップとルーズの特徴の違いやその根拠や理由に関心をもち、自他の解釈や根拠・理由のよさや不十分さを考える。</p> <p>図と文の対応の意味についての自他の解釈の違いやその理由に関心をもち、自他のとらえのよさや不十分さを考える。</p> <p>自他の読後感やその理由に関心をもち、自他の読後感やその理由のよさや不十分さを考える。</p>	<p>女の子の正体についてのとらえについての根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>二つの説明文の似ていることについて根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>お父さんが何も言わずに行ってしまった根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>ごんがうれしかったのか悲しかったのかについて根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>アップとルーズの特徴の違いについて根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>図と文の対応の意味について根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりする。</p> <p>読後感の根拠や理由を明確にして説明し、仲間の読後感を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。</p>	<p>女の子の正体について仲間の立場に立って読み取り、表現と課題を結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>二つの説明文の似ていることについて仲間立場に立って読み取り、段落の役割と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>お父さんが何も言わずに行ってしまったのはなぜかについて仲間の立場に立って読み取り、お父さんの心情と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>ごんがうれしかったのか悲しかったのかについて仲間の立場に立って読み取り、償いの変化と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>アップとルーズの特徴の違いやその根拠や理由について仲間の立場に立って読み取り、段落の構成と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>図と文の対応の意味について異なる考え仲間の立場に立って読み取り、段落構成の意味と結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p> <p>読後感について仲間の立場に立って読み取り、学習した内容と課題を結び付けて解釈を深めたり、よりはっきりさせたりする。</p>
第4ステージ小5	<p>人物のかかわり合いを読み、感想を書こうのどがかわいた</p> <p>筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう 見立てる 生き物は円柱形</p> <p>伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 百年後のふるさとを守る</p>	<p>登場人物の関係がおおきく変わったところについて検討する場面</p> <p>二つの文章を関係付けて読み、段落毎の役割について検討する場面</p> <p>築堤の意義について検討する場面</p>	<p>登場人物の変容について、自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈に対するよさや不十分さを考える。</p> <p>二つの文章を関連づけながら読み取った内容とその理由に関心をもち、そのよさや不十分さを考える。</p> <p>儀兵の業績の中心である築堤の意義についての自他の解釈とその理由に関心をもち、築堤の目的のよさや不十分さを考える。</p>	<p>登場人物の変容のとらえの違いについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。</p> <p>二つの文章の関係のとらえの違いについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。</p> <p>儀兵の築堤の意義のとらえの違いについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。</p>	<p>登場人物の変容について異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、「水」の意味と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。</p> <p>二つの文章の関係のとらえについて異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、構成の共通点について感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。</p> <p>築堤の意義のとらえについて異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、共通する儀兵の思いを結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。</p>

	作品を自分なりにとらえ、朗読しよう 大造じいさんとガン	じいさんが銃を下ろしたわけについて検討する場面	銃を下ろしたわけについて自他の解釈とその理由に関心をもち、目的に対するよさや不十分さを考える。	銃を下ろしたわけのどらえの違いについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	銃を下ろしたわけのどらえについて異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、じいさんの人物像と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	説明のしかたについて考えよう 天気を予想する	説明の仕方について着目して文章の書かれ方を整理する場面	説明の仕方についてのどらえの違いについて他の解釈とその理由に関心をもち、目的に対するよさや不十分さを考える。	グラフを用いて説明する仕方についてのよさのどらえの違いについて根拠や理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	グラフを用いて説明する仕方についてのよさについて異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、視覚的な効果と結び付けて、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	自分の考えを明確にしながら読もう ゆるやかにつながるインターネット	どのようにゆるやかなつながりを用いていくのかについて、身近な事例と結び付けながら話し合う場面	身近な事例に基づいた自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈に対するよさや不十分さを考える。	「考える視点」に沿って、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈を異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、学習した内容を課題や表現と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	物語を読んで、自分の考えをまとめよう わらぐつの中の様	大工さんが何足もわらぐつを買ったのはなぜかについて検討する場面	大工さんが何足もわらぐつを買ったことへの自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈に対するよさや不十分さを考える。	「考える視点」に沿って、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。合ったり	自他の解釈を異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、学習した内容を課題や表現と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
第4ステージ小6	自分の体験と重ねて読み、感想を書こう カレーライス	「中辛」の意味について検討する場面	「中辛」の意味についての自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈とその理由に対するよさや不十分さを考える。	「中辛」の意味について、根拠と理由を明確にして解釈し、異なる仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	「中辛」の意味を異なる考えの仲間の立場に立ち、父との関係を結び付けて読み取ったり、感じたりしたことを筋道立てて、表現する。
	文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう 感情生き物はつながりの中に	筆者の主張と、根拠・理由の整合を検討する場面	筆者の構成の意図について、自他のどらえの違いに関心をもち、それぞれの考えのよさや不十分さを考える。	3つの文章を比較することを通して根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	筆者の構成の意図について、異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、3つの文章を対比した意味について、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	作品の世界を深く味わおう やまなし	五月と十二月の比較を通してテーマを検討する場面	物語のテーマのどらえについて、自他の場面に対する自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈に対するよさや不十分さを考える。	2つの場面を対比して、根拠と理由を明確にしてテーマについて自分のどらえをもち、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	2つの場面のどらえの違いについて異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、対比の視点から課題や表現と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	ものの見方を広げよう 『鳥獣戯画』を読む	絵巻と漫画やアニメをつなげて述べている根拠・理由を検討する場面	物の見方について内容や展開を適切にとらえながら、漫画とアニメをつなげて述べている根拠・理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	着目した表現のどらえの違いについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	絵や巻物を取り上げた理由について、根拠と理由を明確にして読み取り、学習した内容を課題や表現と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	言葉について考えよう 言葉は動く	言葉は変化し入れかわることについて、自分なりの例を見付け、検討する場面	言葉は変化し入れかわることについての自他の見付けた例に関心をもち、そのよさや不十分さを考える。	言葉は変化し入れかわることについて根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	自他の解釈を異なる考えの仲間の立場に立って読み取り、学習した内容を課題や表現と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。
	物語を読んで、考えを深めよう 海の命	太一がクエをうたなかったのなぜかを検討する場面	太一の行動のわけについて、自他の解釈とその理由に関心をもち、自他の解釈のよさや不十分さを考える。	太一の行動のわけについて、根拠と理由を明確にして解釈し、仲間の解釈を否定せずに受け止めたり聞き合ったりして共通の目的に向かおうとする関係を築く。	太一の行動のわけについてのどらえの違いについて異なる考えの仲間の理由と結び付け、感じたり考えたりしたことを筋道立てて、表現する。

第4ステージ中1	暗やみの向こう側	構成（前半部と後半部に分かれていること）のわけとよさについて検討する場面	自分の解釈について理由を述べながら説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、構成のよさを考える。	構成のわけとよさについて、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりし、そのよさとわけをはっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	構成のわけとよさについて、筋道立てて説明する。
	オツベルと象	最後の一文の意味（「おや、川へはいっちゃいけないっつら。」）の意味を検討する場面	自分の解釈について理由を述べながら説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、最後の一文の意味を考える。	「川とは何を指すか」や、「川へは／入っちゃ」について、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりし、はっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	最後の一文の意味について、感じたり考えたりしたことを説明する。
	少年の目の思い出	クライマックス（主人公の心情が最も変化する部分）がどこか検討する場面	自分の解釈について理由を述べながら説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、クライマックスを考える。	クライマックスについて、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりし、その位置をはっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	クライマックスについて、感じたことを筋道立てて説明する。
第5ステージ中2	タオル	最後の段落の意味（「シライさんがカメラのフラッシュをたいた。～かすかな潮のにおいは、そこにもあった。」）や、主人公の涙の原因は何かを検討する場面	自分の解釈について理由を明らかにして説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、構成をとらえ、最後の段落の意味や、主人公の涙の原因を考える。	最後の段落の意味や、主人公の涙の原因について、理由もとに考え、仲間と考えを受け止めたり聞き合ったりし、その意味や原因をはっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	最後の段落の意味や主人公の涙の原因について、作品中の文言を引用したり、自分なりに解釈を加えたりして、説得力が高まるように説明する。
	夏の葬列	最後の段落の意味（「思いながら、彼はアーケードの下の道を歩いていった。～彼の足どりをひどく確かなものにしていった。」）や、主人公の今後について検討する場面	自分の解釈について理由を明らかにして説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、描写や視点の工夫をとらえ、最後の段落の意味や、主人公の今後について考える。	最後の段落の意味や、主人公の今後について、理由もとに考え、仲間と考えを受け止めたり聞き合ったりし、その意味や主人公の今後についてはっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	最後の段落の意味や主人公の今後について、作品中の文言やその他から引用したり、具体例を用いたりして、説得力が高まるように説明する。
第5ステージ中3	走れメロス	クライマックス（主人公の心情が最も変化する部分）がどこか検討する場面	自分の解釈について理由を明らかにして説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、描写や視点の工夫や構成をとらえ、クライマックスを考える。	クライマックスについて、理由もとに考え、仲間と考えを受け止めたり聞き合ったりし、それをはっきりさせたいという共通の目的を達成しようとする関係を築く。	クライマックスについて、作品中の文言を引用したり、他作品や原文と比較したりして、説得力が高まるように説明する。
	みどり色の記憶	クライマックス（主人公の心情が最も変化する部分）がどこか検討する場面	自分の解釈について理由を明らかにして説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、描写や伏線などの工夫をとらえ、クライマックスを考える。	クライマックスについて、理由を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりし、それをはっきりさせたいという共通の目的に向かおうとする関係を築く。	クライマックスについて、作品中の文言を引用したり、自分なりに具体例を加えたりして、説得力が高まるように説明する。
	故郷	最後の段落（「まどろみかけた私の目に、～人が多くなれば、それが道になるのだ。」）の意味を検討する場面	自分の解釈について理由を明らかにして説明したり、仲間の解釈の理由に関心をもって聞いたりして、作品の背景にある作者の思想をとらえ、最後の段落の意味を考える。	最後の段落の意味について、理由を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き合ったりし、その意味をはっきりさせたいという共通の目的に向かおうとする関係を築く。	最後の段落の意味について、作品中の文言やその他から引用したり、自分なりの説明や調べた具体例を加えたりして、説得力が高まるように説明する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 国語科（「話すこと・聞くこと」領域）

時期	単元	「活動」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	なつやすみのことをはなそう	夏休みの思い出を仲間に伝える内容や表現の仕方よさを見付ける場面	夏休みのどんな思い出を発表するとよいかに関心をもち、思い出がよりよく伝わる表現を考える。	仲間の発表を最後まで聞き、共に夏休みの思い出を楽しもうとする関係を築く。	夏休みの思い出の内容を正しく伝えたり聞き取ったりし、感想を伝えたり質問したりする。
	ともだちにきいてみよう	仲間に尋ねて分かったことを紹介する表現の仕方よさを見付ける場面	仲間に質問して分かったことを紹介する活動に関心をもち、どんなことを質問するか、どんな事柄を選ぶかを考えながら、仲間を紹介する表現のよさや不十分さを考える。	仲間の回答やインタビューを否定せずに受け止め、さらに質問したり答えたりしながら仲間をより理解しようとする関係を築く。	仲間を紹介する発表の内容を正しく伝えたり聞き取ったりし、感想を伝えたり質問したりする。
	これは、なんででしょう	尋ねたり応答したりしながら、二人で話し合っ問題一つつくる場面	相手の考えに関心をもち、どんな問題を作るとよいか考えながら、問題の表現のよさや不十分さを考える。	答えになるものの特徴（色や形、はたらき、様子など）をどのような順番で言うのかを決めながら問題をつくらうとする関係を築く。	仲間のアイデアを取り入れて問題をつくり、他のペアの問題を正しく聞き取って答えを言ったりし、感想を伝えたりする。
第2ステージ小2	あったらいいな、こんなもの	自分が考えた道具について、相手に分かるように説明の仕方を検討する場面	どんな道具を考えるか自他のアイデアに関心をもち、あったらいいと思う理由や、道具の特徴、使い方の内容や順序を考えながら、表現のよさや不十分さを考える。	質問したりアドバイスしたりしながら、自分が考えた道具についてよりよい発表をしようと検討し合う関係を築く。	あったらいいなこんなもの発表で、内容や表現のよさを考えながら感想を伝えたり質問したりする。
第3ステージ小3	つたえよう、新しい学校生活	学校生活の伝えたいことについて、説明の仕方仲間と検討する場面	学校生活のどんな事柄を紹介するのか、自他の説明の仕方やその理由に関心をもち、よさや不十分さを考える。	紹介する事柄について承認したり聞き返したりし、根拠や理由を基によりよい発表をしようと検討し合う関係を築く。	学校生活を紹介する内容や構成を理解し、よりよい説明の仕方やその理由を明確にしていく。
第3ステージ小4	だれもが関わり合えるように	よりよく関わり合うための方法について考えたことの発表内容と組み立てについて仲間と検討する場面	教材文「手と心で読む」を読んで点字や手話、社会の工夫に感心をもち、よりよく関わり合うための方法について考えたことをどのように説明するか、構成とその理由に関心をもち、よさや不十分さを考える。	よりよく関わり合うための方法を分かりやすく説明するための仲間の考えを、否定せずに受け止めたり聞き返したりし、根拠や理由を基によりよい発表をしようと検討し合う関係を築く。	よりよく関わり合うための方法についての発表で、自他の説明の内容や構成を理解し、よりよい説明の仕方やその理由を明確にしていく。
第4ステージ小5	明日をつくるわたしたち	よりよい暮らしのために自分たちでできることを提案するための内容について仲間と検討する場面	現状の課題のとらえについて、自他のとらえとその理由に関心をもち、提案書の書式に合った内容と構成について、そのよさや不十分さを考える。	提案するための「考える視点」に沿って、内容と構成の理由を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き返したりし、よりよい提案書をつくらうと検討し合う関係を築く。	自他の提案の内容や構成を相手の立場に立って読み取り、提案書の条件と結び付け、考えたりしたことを筋道立てて書く。
第4ステージ小6	未来がよりよくあるために	「未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、意見文を書くための内容について、互いの考えの違いや意図をはっきりさせ仲間と検討する場面	「未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、自他のとらえとその理由に関心をもち、意見文の書式に合った内容と構成について、そのよさや不十分さを考える。	意見文の書式に沿って、内容と構成の理由を明確にして考え、仲間の考えを否定せずに受け止めたり聞き返したりし、よりよい意見文をつくらうと検討し合う関係を築く。	自他の意見文の内容や構成を相手の立場に立って読み取り、注釈や引用などを用いて自分の意見が説得力をもつように書く。
第4ステージ中1	伝えよう私の思い～主張文の発表～	事実と意見を区別してひとりひとりが主張を発表する場面	日常生活の話題について、その価値や主張の仕方についてよさや不十分さを考える。	事実と意見を区別して、わかりやすい主張文するために検討し合う関係を築く。	自他の内容や構成の工夫、事実と意見の区別を理解し、改善点やその根拠を明確にしてアドバイスする。
第5ステージ中2	スピーチをしよう～効果的に話すには～	学校における集団生活に関わるスピーチにおいて、図表の使い方などを検討する場面	集団生活に関する話題について、その価値や主張の仕方についてよさや不十分さを考える。	図表の提示の仕方や内容、形式などを交流し、よいスピーチにするために検討し合う関係を築く。	自他の内容や構成の工夫、図表の示し方の意図を理解し、改善点やその根拠を明確にしてアドバイスする。

<p>第5ステージ中3</p>	<p>プレゼンテーションをしよう ～工夫を自己の表現に生かす～</p>	<p>様々な講演を聞いた経験を基に、社会生活に関わる内容についてプレゼンテーションする場面</p>	<p>それぞれのプレゼンテーションについて、その社会的価値や主張の工夫について良さや不十分さを考える。</p>	<p>事実と意見の区別、図表やプレゼンテーションソフトの使い方などをよりよいものするために検討し合う関係を築く。</p>	<p>内容や構成の工夫、図表提示の意図を理解し、改善点やその根拠を明確にしてアドバイスする。</p>
-----------------	---	---	---	--	--

資質・能力を位置付けた単元配列表 国語科（「書くこと」領域）

時期	単元	協働 場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	どうぞよろしくうたにあわせてあいうえおすきなものをあに	渡し合った名刺へ感想を述べ合う場面 3文字や4文字の言葉の平仮名表記を教え合う場面 できた文を読み合い、感想を述べ合う場面	相手や自分の表記に関心をもつ。 平仮名の表記に関心をもつ。	互いの表記のよい所を見つけて伝え合う。 3文字や4文字の単語を考え、平仮名表記を伝え合う。 互いの表記や好きなものの理由のよい所を見つけて伝え合う。	相手や自分の表記のよい所が分かる。 ひらがなが書ける。 マスを守って正しい表記で文字が書けるとよい。
	かけるようになった	できた手紙のよさや誤りを見つけ合う場面	相手や自分の表記に関心をもち、3文以上の文章を書こうとする。	互いの表記のよい所や誤りを見つけて伝え合う。	表記のよさや誤りをみつけて、文章を修正する。
	しらせたいな、見せたいな	知らせたい見せたい内容について、絵と言葉の構想段階でアドバイスし合う場面	知らせたいことや見せたいことを考え、相手に文章で知らせようとする。	知らせたい見せたい内容について、どのようなことを伝えようと分かちやすく伝わるか、構想についてアドバイスし合う。	知らせたい見せたい内容について、自分の考えのよさに気付いたり、新たに付け足す考えに気付いたりし、構想を修正する。
	あつまれ、ふゆの。	集めた言葉からできる文を考え伝え合う場面	冬にかかわる言葉をたくさん集め、班でカルタを作りたいと意欲を高める。	冬に関わる言葉からできる文を伝え合ったり、共に考えたりする。	新たなカルタを作り、増やしていく。
	おみせやさんごっこをしよう	宣伝のチラシをヘッドパイスし合う場面	宣伝のチラシを、読んで相手に来たくなるような表現で書こうとする。	宣伝チラシの文章について、より来たくなる表現をアドバイスし合う。	相手がより来たくなる表現を考えて書く。
	いいこといっぱい、1年生	下書きについてよさや不十分さを見つけ、アドバイスを伝え合う場面	伝えたい場面の様子がよく伝わるように書こうとする。	下書きについてよさや不十分さを見つけ、アドバイスを伝え合う。	アドバイスを基に、自分の伝えたい場面や気持ちがよく伝わるように書く。
第2ステージ小2	今週のニュース	できたニュースについてよさやアドバイスを伝え合う場面	相手が驚くようなニュースを分かりやすく書こうとする。	できたニュースについてよさやアドバイスを伝え合う。	様子を分かりやすく伝える表現に着目してニュースを書く。
	かんざつ名人になろう	様子がよく伝わる表現や観察の視点を話し合い、明らかにする場面	観察したことがよく伝わるように表現を工夫して書こうとする。	様子がよく伝わる表現や観察の視点を話し合う。	観察したことがよく伝わる表現や視点到気をつけて観察記録文を書く。
	お話のさくしゃになろう	お話の困難解決場面の妥当性について伝え合う場面	困難解決場面を取り入れて、伝えたいテーマが伝わる物語を書こうとする。	お話の困難解決場面の妥当性についてアドバイスを伝え合う。	伝えたいことが伝わるように困難解決場面を取り入れて物語を書く。
	友だちのこと知りたいな	「中」に選んだ仲間のよさが伝えたい気持ちと合っているか伝え合う場面	仲間のよさを伝えて心が温くなるような紹介を書こうとする。	「中」に選んだ仲間のよさが伝えたい気持ちと合っているか伝え合う。	伝えたい仲間のよさがより明確に伝わるように「中」の事例を選んで紹介文を書く。
	おもちゃの作り方	おもちゃの作り方が順序よく書けているかアドバイスし合う場面	間違えずにおもちゃが作れるよう、順序よく書こうとする。	おもちゃの作り方が順序よく書けているかアドバイスし合う。	間違えずにおもちゃが作れるよう、つなぎ言葉に注意して説明文を書く。
	見たこと、かんじたこと	作った詩の面白さについて伝え合う場面	お気に入りの詩の文体を真似て自分なりに詩を書こうとする。	作った詩の面白さについて伝え合う。	お気に入りの詩の文体を真似て自分なりに満足のいく詩を書く。
	楽しかったよ、2年生	下書きについてよさや不十分さを見つけ、アドバイスを伝え合う場面	伝えたい場面の様子がよく伝わるように書こうとする。	下書きについてよさや不十分さを見つけ、アドバイスを伝え合う。	アドバイスを基に、自分の伝えたい場面や気持ちがよく伝わるように書く。
第3ステージ小3	ほうこくする文章を書こう	段落の分け方について検討し合う場面	調べたことを段落ごとに分けて書こうとする。	段落が内容のまとまりごとに分かれているか考え、アドバイスし合う。	一段落一事項を理解し、内容のまとまりごとに段落を作って書く。
	手紙を書こう	自分の伝えたい気持ちが伝わるエピソードについてアドバイスを伝え合う場面	自分の伝えたい気持ちが明確に伝わるエピソードを入れて手紙を書こうとする。	気持ちが伝わるエピソードかどうか、アドバイスし合う。	自分の伝えたい気持ちが明確に伝わるエピソードを入れて、手紙の形式で文章を書く。
	食べ物のひみつ教えます	調べたことが難しくないか、意味が伝わるか考え、表現の仕方を共に考える場面	調べたことの中から、例を挙げて説明文を書こうとする。	調べたことが難しくないか、意味が伝わるか考え、表現の仕方を共に考える。	調べたことの中から、自分なりの表現を工夫しながら例を挙げて説明文を書く。
	物語を書こう	出来事の起こり・変化・解決のつながりのよさや不十分さを見つけ、アドバイスし合う場面	物語の構成要素に注意し、筋道立てて物語を書こうとする。	出来事の起こり・変化・解決のつながりのよさや不十分さを見つけ、アドバイスし合う。	「三年峠」で学習した民話の作りを生かし、出来事の起こり・変化・解決のつながりに着目して物語を書く。
	本で調べてほうこくしよう	報告の引用部分や引用の開設について、自分なりに分かりやすい表現になっているか検討する場面	本で調べた驚きや発見を分かりやすく伝えようとする文章を書こうとする。	報告の引用部分や引用の開設について、自分なりに分かりやすい表現になっているか検討する。	報告書の文型に沿って、本で調べた。を自分なりの言葉に直して引用して報告文を書く。

第3ステージ小4	調べたことを報告する文章を書こう	表や図、グラフと関連させた「中」の分かりやすい書き方についてアドバイスし合う場面	表や図、グラフを用いて自分の調べたことを分かりやすく書こうとする。	表や図、グラフと関連させた「中」の分かりやすい書き方についてアドバイスし合う。	アンケートの問いや表すときの順序、形を考えながら、表や図、グラフを用いて自分の調べたことを分かりやすく書く。
	新聞を作ろう	新聞で伝える目的に合わせて内容や割り付けについて検討する場面	目的に合わせて自分の伝えたいことが伝わるような新聞を書こうとする。	新聞で伝える目的に合わせて内容や割り付けについて検討する。	目的に応じた事例を選んだり、一番伝えたい内容を大きく中心に割り付けたりしながら、伝えたいことが伝わる新聞を書く。
	「仕事リーフレット」を作ろう	「始め・中・終わり」の「中1」と「中2」のアップとルーズの使い方について検討する場面	係の仕事内容が分かりやすく伝わるリーフレットを書こうとする。	「始め・中・終わり」の「中1」と「中2」のアップとルーズの使い方について検討する。	仕事全体のことをルーズで、ある部分に着目したことをアップで記述し、仕事内容が分かりやすく伝わるリーフレットを書く。
	野原の仲間になって	できた詩を読み合い、使ってみたいよさを伝え合う場面	想像を広げて「のはらうた」の形式で詩を書こうとする。	できた詩を読み合い、使ってみたいよさを伝え合う。	使ってみたいよさを使って自分の詩を書く。
第4ステージ小5	「ことわざブック」を作ろう	「中」の説明に取り入れることわざの意味を補足するエピソードの妥当性について検討する場面	ことわざの意味がよく分かるように「ことわざブック」を書こうとする。	「中」の説明に取り入れることわざの意味を補足するエピソードの妥当性について検討する。	「中」の説明に、ことわざの意味にふさわしいエピソードを取り入れて「ことわざブック」の説明を書く。
	活動を報告する文章を書こう	グループメンバーで、互いの書いた報告文について分かりやすい表現となっているか書き方を検討する場面	グループで、係や委員会、クラブの分かりやすい活動報告書を書こうとする。	グループメンバーで、互いの書いた報告文について分かりやすい表現となっているか書き方を検討する。	事実と意見・感想を区別したり、引用したり、目的や意図に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりし、分かりやすい表現を意識して書く。
	自分の考えをまとめて、討論をしよう	自分の考えを裏付ける引用部分が妥当であるか検討する場面	あるテーマについて自分の考えを裏付けるよう引用して書こうとする。	自分の考えを裏付ける引用部分が妥当であるか検討する。	自分の考えのキーワードと共通した意味をもつ引用部分を用いて意見文を書く。
	グラフや表を引用して書こう	グラフや表がある場合とない場合の表現の効果について明らかにする場面	グラフや表を用いて自分の意見に説得力をもたせて書こうとする。	グラフや表がある場合とない場合の表現の効果について明らかにするため、意見を訊き合う。	グラフや表の注目する言葉や数字やその意味を示す。で、説得力を持たせて文章を書こうとする。
第4ステージ小6	物語を作ろう	目的や意図に応じた表現や構成の効果となっているかアドバイスし合う場面	表現や構成を工夫して自分の物語を書こうとする。	目的や意図に応じた表現や構成の効果となっているかアドバイスし合う。	例えば音、方言や地の文、書き出しや構成等の表現の効果を理解し、表現の工夫を選んで物語を書く。
	まちのよさを伝えるパンフレットを作ろう	目的や意図に応じて、記事の構成や必要な事例について妥当性立と思う理由を訊き合う場面	町の魅力を紹介するために、仲間と記事を編集し、パンフレットを作ろうとする。	目的や意図に応じて、記事の構成や必要な事例について妥当だと思ふ理由を訊き合い、編集する。	町の魅力を紹介するために、目的や意図に応じて記事や構成を工夫して編集し、紙面を決めていく。
	自分の考えを明確に伝えよう	反論とその反論に対する答えを共に考える場面	あるテーマに対する自分の考えに説得力をもたせて書こうとする。	反論とその反論に対する答えを共に考える。	反論想定をし、反論に対する答えを、引用等を利用して表現することで説得力のある意見文を書く。
	この絵、わたしはこう見る	書く前の構想段階で、立てた問いに対してアドバイスし合う場面	自分で決めた絵に対し、読みとったことや感じたことが伝わるように文章を書こうとする。	書く前の構想段階で、立てた問いが読みとったことや感じたことを伝えることにふさわしいかアドバイスし合う。	読みとったことや感じたことが伝わる適切な問いかどうか考え、構成を決めて、自分の選んだ絵の説明文を書く。
第4ステージ中1	自分を見つめ直して	構成や取り上げるエピソード、記述の仕方についてアドバイスし合う場面	自分の考えが伝わる構成を考えて随筆を書こうとする。	自分たちの考えの変化がよく伝わるように、構成や取り上げるエピソード、記述の仕方についてアドバイスし合う。	自分のたちの考えの変化が伝わるように構成や取り上げるエピソード、記述の仕方を工夫して随筆を書く。
	構成を工夫して書くには	下書きについて「時間」「場所」「事実」「意見」の配置を検討し合う場面	「時間」「場所」「事実」「意見」の配置を工夫する。で文章の構成が整理できる。を見いだす。	互いの構成の意図を訊き合い、より意図にそった構成を検討し合う。	検討を通して見出した修正のポイントを生かして、自分の作品を高める。
	根拠を明確にして書くには	下書きについて、根拠の取り上げ方を検討し合う場面	自分の感じたこととの根拠を言葉で表現することで、自己の理解を深める。	根拠と意見の関係の妥当性を、三角ロジックを用いて検討し合う。	自分の感じ方とその根拠になるものの関係を改めてとらえ直し、文章で表現する。
第4ステージ中1	物語をつくらう	互いの作品のクライマックスを検討し合う場面	「自力読みの観点」を生かして文章を書くことで、魅力のある物語をつくれることを実感する。	互いのクライマックスを予想、検討し合うことで、自他の表現のよさや修正点を見いだす。	検討を通して見出した修正のポイントを生かして、文章全体の構成や統一性をもとに高める。

第5ステージ中2	資料を収集して自分の考えを書くには	社会創造科の追究の成果を交流する場面	資料を効果的に用いて表現することで相手の興味を引き出せることを実感する。	資料を用いて書いた互いの文章を発表し合うことで、より知りたい。を伝え合い、さらに必要な資料を見いだす。	最も表現したいことを効果的に表すために、資料を追加・補充したり、再構成したりする。
	意見文を書こう	異なった考えをもつ相手と、文章を通して意見交換をする場面	二つの文章の比較を通して、自分の考えを文章で表現する意欲をもつ。	相手の論理の構成を、三角ロジックを用いて検討し、反論し合う。	文章を用いた意見交換を通して自分の考えを高め、それを再び文章で表現することで変容を実感する。
	心情が効果的に伝わるように書くには	互いの作った詩を「自力読みの観点」を用いて分析し合う場面	互いの作品を分析し合うことで、より深い相互理解ができることを実感する。	作品（表現）から主題を指摘し合うことで、表現の効果や自己の内面を見いだし、わかり合う喜びを感じる。	交流を通して見出した自己の内面を表現できるように作品を練り直す。
第5ステージ中3	アンソロジーをつくろう	仲間の作品を選んだり並べ替えたりする「編集会議」の場面	作品を選び、並べ替えることでより深まった価値が生まれることを実感する。	互いの編集したものを相互に検討することで、編集の意図をとらえ、修正のポイントを見いだす。	互いの編集したものを相互に検討することで、自分の編集したものに新たな価値を見いだし、それを生かすための修正をする。
	ドキュメンタリーをつくろう	よりよいドキュメンタリー集をつくるために、互いの作品を検討し合う場面	ドキュメンタリーをつくることで相互理解が深まる喜びを実感する。	原稿の交流を通して、書き手と対象のとの差異を明らかにし、修正の方向を見いだす。	それぞれの書いたものを合わせることで一つの作品集としての価値を生み出す。
	説得力のある文章とは	「説得力のある文章のポイント」をもとに、互いの文章を批評する場面	読み手を意識して、感性・論理性の両面から表現を工夫する価値を見いだす。	自分の文章から相手が考えることを訊き合い、より修辭的、論理的な表現を追究する。	自分の表現に対する仲間の批評を参考に、文章を作り直す。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会科（第3ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小3	つながりのある学校のまわりの地域	日曜日の市民体育館に来ていた大勢の人たちはどこから来ているのかを明らかにする場面	日曜日に学校のまわりの地域にある施設を利用している人について、自分の経験や知識を生かしながら考え、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較しながら、日曜日に学校のまわりの地域にある施設を利用している人が多い理由について話し合う。	学校のまわりの地域には施設を利用する様々な地域の人々が訪れていることを見いだす。
	もっと知ろう 長岡市	長岡駅前人が多く集まる理由について明らかにする場面	長岡駅前人が多く集まることについて、自分の経験や知識を生かしながら考え、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較しながら、長岡駅前人が多く集まる理由について話し合う。	長岡駅前は長岡の玄関口となっていて古くから長岡の中心として栄えていることを見いだす。
	沼地でのれんこんづくりのしごと	大口れんこん農家が収穫しにくいだるまを育てている理由について明らかにする場面	れんこん農家の工夫を、生活経験や野菜作りの学習で得た知識を生かしながら考え、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較しながら、れんこん農家が収穫しにくいだるまを育てている理由について話し合う。	れんこん農家は、願いをもち、自然とたたくまながらしごとをしていることを見いだす。
	見つけよう お店の工夫	スーパーマーケットで同じ商品がいろいろな場所に置いて売られている理由について明らかにする場面	スーパーマーケットにおける商品の並べ方の工夫について、自分の経験や知識を生かしながら考え、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較しながら、スーパーマーケットで同じ商品がいろいろな場所に置いて売られている理由について話し合う。	わたしたちの消費生活は、消費者の願いと販売者の工夫により成り立っていることを見いだす。
	長岡の大花火大会を受けつぐ人々	長岡の人々が花火大会を続けている理由について明らかにする場面	長岡の人々が花火大会を続けている理由について、既存の経験や知識を生かしながら考えている。	複数の事象を比較しながら、長岡の人々が花火大会を続けている理由について話し合う。	長岡の大花火大会には、平和と長岡の復興・繁栄への願いがこめられていることを見いだす。
小4	私たちのくらしとごみ	長岡市のごみ処理の量が減っている理由を明らかにする場面	長岡市内のごみ処理の量が減っている理由について、既存の経験や知識を生かしながら考えている。	複数の事象を比較しながら、長岡市内のごみ処理の量が減っている理由について話し合う。	長岡市の廃棄物処理の対策や事業が市民の良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを見いだす。
	私たちのくらしと水	浄水場にプールのような池がたくさんある理由を明らかにする場面	浄水場にプールのような池がたくさんある理由について、既存の経験や知識を生かしながら考えている。	複数の事象を比較しながら、浄水場にプールのような池がたくさんある理由について話し合う。	長岡市の飲料水確保の対策や事業が市民の健康な生活の維持に役立っていることを見いだす。
	災害を防ぐ	地震に備えた品物に食料がない理由を明らかにする場面	災害備蓄品を用意している意味を、既存の経験や知識を生かしながら考えている。	複数の事象を比較しながら、地震に備えた品物に食料がない理由について話し合う。	市役所の人たちは、まず自助、共助、最後に公助という考え方で地震に対する備えをしていることを見いだす。
	交通事故を防ぐ	市内の事故や事件の件数が減ってきている理由を明らかにする場面	市内の事故や事件の件数が減少していることについて、既存の経験や知識を生かしながら考えている。	複数の事象を比較しながら、市内の事故や事件の件数が減ってきている理由について話し合う。	警察や関係機関で働く人々が協力して、市民の安全な生活を守っていることを見いだす。
	わたしたちの新潟県	新潟県の特徴について明らかにしていく場面	新潟県の特徴についてのとらえの不十分さに気付き、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較しながら、新潟県の特徴について話し合う。	新潟県内には特色ある地域が集まっていることを見いだす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会科（第4ステージ）

学	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	日本の国土	日本の中で桜の咲く時期が違う理由を明らかにしていく場面	日本の中で桜の咲く時期が違ふことについてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、日本の中で桜の咲く時期が違ふ理由について話し合う。	国土の南と北、太平洋側と日本海側では気候が異なることを見いだす。
	気候の特色と人々の暮らし	沖縄県でサトウキビの生産が盛んな理由について明らかにしていく場面	沖縄県でサトウキビの生産が盛んであることについてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、沖縄県でサトウキビの生産が盛んな理由について話し合う。	沖縄の人々は気候の特色を生かして農業を営んでいることを見いだす。
	地形の特色と人々の暮らし	野辺山原でレタスの生産が盛んな理由について明らかにしていく場面	野辺山原でレタスの生産が盛んであることについてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、野辺山原でレタスの生産が盛んな理由について話し合う。	野辺山原の人々は、地形の特色を生かして農業を営んでいることを見いだす。
	誇りをもって食料生産を支える人々 一質のよいおいしい米づくりへの挑戦	農家が年間を通して田の水管管理をしていることとおいしいコシヒカリ栽培との関係を明らかにしていく場面	米づくりに携わる人々の工夫や努力についてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、仲間とともに農家が年間を通して水管管理をしていることとおいしいコシヒカリ栽培との関係について話し合う。	質のよいおいしい米づくりへの工夫や努力が、国民の食生活を支えていることを見いだす。
	誇りをもって食料生産を支える人々 水産資源を守る漁師の取組	漁師が、小さい魚をわざと逃がしている理由を明らかにしていく場面	水産業に携わる人々の工夫や努力についてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、仲間とともに漁師が小さい魚を逃がす理由について話し合う。	新鮮でおいしい水産物をとり続ける工夫や努力が、国民の食生活を支えていることを見いだす。
	これからの食料生産	日本が今後も食料の輸入に頼るべきかどうかについて話し合う場面	食料の輸入についてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、食料の輸入に頼るべきかどうかについて話し合う。	食料を安定して確保し続けていくことが日本の農業の課題であることを見いだす。
	特殊紙を生産し続ける工場	北越紙工場の特殊紙を生産し続けている理由について明らかにしていく場面	工場の特殊紙生産の取組と生産への願いとの関係に対するとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	工場の特殊紙生産の取組と生産への願いとの関係について、仲間とともに様々な事実を比較したり関連付けたりしながら考える。	工場では、求めに応えるために生産を続けていることを見いだす。
	世界とつながる日本の工業	原材料の輸入や製品の輸出が多い理由について明らかにしていく場面	原材料の輸入や製品の輸出が多いことについてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、日本が原材料の多くを海外から輸入したり海外へ製品を輸出したりしている理由について話し合う。	貿易や運輸などの働きによって工業生産が支えられていることを見いだす。
	工業生産の今と未来	中小工場のものでづくりの工夫や努力と日本の工業の発展との関係について明らかにしていく場面	中小工場のものでづくりの工夫や努力と日本の工業の発展との関係についてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、中小工場のものでづくりの工夫や努力と日本の工業の発展との関係について話し合う。	我が国の工業生産が、国民の生活を支える重要な役割を果たしていることを見いだす。
	わたしたちの暮らしを豊かにする情報	出版社がフリーペーパーを無料で配布する理由について明らかにしていく場面	出版社がフリーペーパーを配布していることについてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、仲間とともに出版社がフリーペーパーを無料で配布する理由について話し合う。	出版社によって提供されている情報がわたしたちの暮らしを豊かにしていることを見いだす。
情報化社会を生きる	情報ネットワークと豊かな暮らしとの関係について明らかにしていく場面	情報ネットワークと暮らしとの関係についてのとらえの不足分に気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、情報ネットワークと暮らしとの関係について話し合う。	情報ネットワークが国民生活の向上や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを見いだす。	

小6	国の成り立ち	各地に古墳がつけられた理由について話し合い明らかにする場面	各地に古墳がつけられた理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、各地に古墳がつけられた理由について話し合う。	各地に支配者が現れ、大和朝廷による国土の統一が進められていったことを見いだす。
	聖武天皇と奈良の大仏	聖武天皇が、奈良に大仏を建立した理由について話し合い明らかにする場面	聖武天皇が、奈良に大仏を建立した理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、聖武天皇が、奈良に大仏を造営した理由について話し合う。	大仏を造営したころに天皇を中心とした政治が確立されていったことを見いだす。
	武士の政治の始まり	源頼朝が、鎌倉に幕府を開いた理由について話し合い明らかにする場面	源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由について話し合う。	源頼朝が、武士による政治を進めやすいようにしたこと、武士が力を高めていったことを見いだす。
	戦国の世の武士たちと天下統一	織田信長が上杉謙信と同盟を結んでいた理由や、豊臣秀吉が刃狩や検地をしていた理由について話し合い明らかにする場面	織田信長が上杉謙信と同盟を結んでいた理由や、豊臣秀吉が刃狩や検地をしていた理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、織田信長が上杉謙信と同盟を結んでいた理由や、豊臣秀吉が刃狩や検地をしていた理由について話し合う。	織田・豊臣は、周囲の戦国大名を戦いや政策により従え、戦国の世を統一していったことを見いだす。
	江戸の世を築いた徳川の政治	徳川家光が、地方の大名たちの負担になるような参勤交代を続けた理由について話し合い明らかにする場面	徳川家光が、地方の大名たちの負担になるような参勤交代を続けた理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、徳川家光が、地方の大名たちの負担になるような参勤交代を続けた理由について話し合う。	徳川氏が幕府の力を強め、身分制度を確立したことにより、武士による政治が安定していったことを見いだす。
	新しい時代の幕開け	幕末から明治にかけての人々のくらしが大きく変容した理由について話し合い明らかにする場面	幕末から明治にかけての人々のくらしが大きく変容した理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、幕末から明治にかけての人々のくらしが大きく変容した理由について話し合う。	幕末から明治の初めにかけて、日本が近代化を進めていったことを見いだす。
	西洋においつけ	日本が中国やロシアと戦争をすることになった理由について話し合い明らかにする場面	日本が中国やロシアと戦争をすることになった理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、日本が中国やロシアと戦争をすることになった理由について話し合う。	日本の戦争によって国力を高め、国際的地位の向上が図られていったことを見いだす。
	戦争と人々のくらし	戦争当時にくらし人々の思いについて話し合い明らかにする場面	戦争当時にくらし人々の思いについてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、戦争当時にくらしていた人々の思いについて話し合う。	戦争によって国民が大きな被害を受けるとともに諸外国にも大きな損害を与えたことを見いだす。
	平和で豊かなくらしを願った人々	戦後の人口増加と復興との関係について話し合い明らかにする場面	戦後の復興にかかわる事象間の関係についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっていく。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、戦後の人口増加と復興との関係について話し合う。	戦後の日本の復興は、平和で豊かなくらしを願った人々の努力によってなされたことを見いだす。
	わたしたちのくらしと政治	わたしたちのくらしと日本国憲法との関係について明らかにする場面	わたしたちのくらしと日本国憲法との関係についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっている。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、わたしたちのくらしと日本国憲法との関係について話し合う。	我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方と深くかかわっていることを見いだす。
	世界の中の日本	日本の人々が国際社会で働いている理由を明らかにする場面	日本の人々が国際社会で働いている理由についてのとらえの不足さに気づき、事象にかかわっている。	複数の事象を比較したり関連付けたりしながら、日本の人々が国際社会で働いている理由について話し合う。	我が国には、世界の平和や発展のために貢献していく責任や義務があることを見いだす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会科（中学校歴史的分野）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第4ステージ中1	歴史の移り変わりを考える	小学校で学習した歴史上の人物を何人か選択し、プロフィールを作る際にどのような功績を載せるとよいかを話し合う場面	歴史上の人物の功績が、自分たちの生活の中に、どのように息づいているのか見つけ出そうとする。	歴史上の人物の功績について、自分たちの生活とどのようにかかわっているかという視点のもとで多面的・多角的にとらえようとする。	歴史上の人物が自分たちの生活にどのような影響を与えているのかについてとらえ直し、自分の考えを述べる。
	文明のおこりと日本列島	世界の4大文明を比較し、共通点と相違点から文明の要素について明らかにする場面	古代文明がどのような特徴をもっているのか、日本とのかかわりや違いに着目して追究しようとする。	それぞれがとらえた古代文明の特徴について、交流しながら共通点や相違点に着目して分類しようとする。	古代文明が共通してもつ特徴に気付いて文明の要素をとらえ直し、自分の考えを述べる。
	大帝国の出現と律令国家の形成	外国から伝わったもので、日本に大きな影響を与えたものは何か、仲間と意見を交換する場面	外国からもたらされた様々なものやことが、日本の文化、政治、生活などにどのような影響を与えたかとらえようとする。	各自が選択したものやことについて説明したり、意見交換をする中で、それらが日本に与えた影響について多面的・多角的にとらえようとしたりする。	古代日本が外国からもたらされた様々なものやことによって形成されていったことをとらえ、古代日本の特徴についての自分の考えを述べる。
	貴族社会の発展	摂関政治は当時の日本にとって必要な政治形態だったのかどうかについて、意見を交換する場面	摂関政治はなぜ行われ、どのような影響を当時の日本に及ぼしたかをとらえようとする。	摂関政治が必要かどうかについて、政治、文化、対外政策などから分析した各自の解釈を交流し、それがもつ意義を多面的・多角的にとらえようとする。	摂関政治が日本に与えた影響についてとらえ直して自分の考えを述べる。
	世界の動きと武士による政治	鎌倉幕府と室町幕府の特徴をまとめ、貴族の政治と武家政治の比較を通して武家政治の特徴を見いだす場面	貴族の政治と武士の政治がどのように違うのか、それが日本にどのような影響を与えたのかをとらえようとする。	貴族政治と武家政治の違いについて、それぞれの解釈を交流して多面的・多角的にとらえようとする。	武家政治により日本がどのように変化していったのかをとらえ直し、自分の考えを述べる。
第5ステージ中2	世界の動きと全国統一	戦国大名による領国支配の工夫から、天下統一をするために必要な条件を見いだすために、多様な工夫を調べた仲間と意見を交換する場面	諸大名の諸政策を、様々な立場から必要なものかどうかを見定めようとする。	多様な政策を調べた仲間との交流を通して、中背から近世へと移り変わる日本の様子を多面的・多角的にとらえようとする。	領国支配には武力だけでなく様々な視点から政策を進める必要があることをとらえ、近世の特徴について自分の考えを述べる。
	幕藩体制の確立と鎖国	江戸幕府の政治体制の特徴について調べ、今までの幕府と比較してなぜ260年も続いたのかを分析する場面	武士、民衆、宗教、諸外国への対応など、江戸幕府がどのように日本を治めようとしたのかをとらえようとする。	江戸幕府が260年続いた理由を、今までの幕府と比較しながら自分なりに解釈し、他者と交流することで深めようとする。	江戸幕府がなぜ260年間も続いたのか、とらえ直し、自分の考えを述べる。
	経済の成長と幕政の改革	4つの幕政改革（徳川吉宗・田沼意次・松平定信・水野忠邦）のうち、幕政の立て直しに最も効果的だった改革について意見を交換する場面	当時の社会状況を調べ、それぞれの改革でとられた政策がどのような役割を果たしたのかをまとめようとする。	どの改革が幕政の立て直しに効果的だったか、重要な政策をいくつか取り上げながら説明し合うことでそれぞれの改革について深くとらえようとする。	4つの改革の諸政策がそれぞれ当時の社会の状況への対応としてとられたことを理解し、江戸時代中期から後期にかけての幕政の行き詰まりについてとらえ直し、自分の考えを述べる。
	近代世界の確立とアジア	近代ヨーロッパでなぜ市民革命が起き、社会をどのように変えていったのかについて話し合う場面	なぜヨーロッパで市民が権力に立ち向かうようになっていったのか、関心をもって追究しようとする。	名誉革命、アメリカ独立戦争、フランス革命について、背景や内容を調べ、交流することにより市民革命がもつ特徴に気付く。	市民革命がなぜ起き、世界にどのような影響を与えていくのかをとらえ直し、自分の考えを述べる。

	開国と幕府政治の終わり	幕府が開国という選択をしたことが、日本にどのような影響を与えたかについて考えを述べ合う場面	開国がその後の日本にどのような影響を与えるか、メリットとデメリットに分けて追究しようとする。	開国が日本に与えた影響としてもっとも重要なものは何かについて意見を交換することで開国がもつ歴史的意義について理解を深めようとする。	開国により日本がどのような影響を受けたのかをとらえ直し、日本の近代化について自分の考えを述べる。
	明治維新と立憲国家への歩み	明治維新の諸改革について調べ、日本にどのような影響を与えたのかを話し合う場面	明治維新で日本はどのように変化していくのかを主体的に追究しようとする。	各自が解釈した明治維新の諸政策の影響について述べ合い、解釈の妥当性を検討しようとする。	明治維新の諸政策が日本にどのような影響を与えたのかをとらえ直し、自分の考えを述べる。
	激動する東アジアと日清・日露戦争	日清戦争の成果と、日本の国際的な地位の変化について理解を深めたり、日本が日露戦争へと突入した諸要因について根拠を明確にして話し合ったりする場面	日本の国としての在り方と戦争について自分事としてとらえ、よりよい社会を目指して追究しようとする。	日露戦争を起こした根拠について、それぞれの解釈の妥当性を検討しようとする。	日清・日露戦争が日本に与えた影響について分析したり交流したりしてとらえ直し、明治政府が目指した国づくりについて自分の考えを述べる。
	近代の産業と文化の発展	日本の産業革命が社会にどのような影響を与えたのか話し合う場面	ヨーロッパの産業革命と比較しながら日本の産業革命の特徴をとらえようとする。	産業革命の結果をメリットとデメリットに分類し、多面的・多角的にとらえようとする。	産業革命によって日本がどのように変化していくのかをとらえ直し、自分の考えを述べる。
第5 ステージ 中3	第一次世界大戦と民族独立の動き	第一次世界大戦が起きた諸要因について、根拠を明確にして話し合う場面	日本にも大きな影響を与えた第一次世界大戦が、なぜヨーロッパで起きたのか、主体的に追究しようとする。	第一次世界大戦が起きた背景について、それぞれが根拠に基づいて創り上げた解釈の妥当性を検討しようとする。	ヨーロッパにおける様々な対立関係に着目して、第一次世界大戦が起きた背景についてとらえ直し、自分の考えを述べる。
	昭和初期の日本 - 戦争と人々	日本の国際連盟脱退について、賛成するか反対するかを、当時の国際情勢や日本国内の状況を関連付けながら自分なりの解釈を作り、討論する場面	戦争経験者の話や、平和学習で自ら経験し感じたことを振り返ることで、なぜアジア太平洋戦争が起きたのかという問いをもち主体的に追究しようとする。	戦争にかかわる事象同士のつながりについて自他の解釈を交流し、関連をとらえて戦争が起きた背景をとらえようとする。	アジア太平洋戦争の背景をとらえ直し、平和の価値について自分の考えを述べる。
	日本の民主化と冷戦	ポツダム宣言と民主化政策を調べ、現在の日本に最も大きな影響を与えた政策は何だったのかを話し合う場面	現在の自分達の生活を振り返り、戦後の民主化政策とのつながりを考えようとする。	それぞれが調べた、民主化に向けた諸政策の内容と影響について、他者と交流して諸政策の影響をとらえようとする。	戦後の民主化政策についてとらえ直し、当時の日本が目指していた姿について自分の考えを述べる。
	世界の多極化と日本	高度経済成長が日本国民にどのような影響を与えたのかを話し合う場面	高度経済成長が現在の自分達の生活にどのような影響を与えたのか進んで考えようとする。	高度経済成長のメリットとデメリットについて、それぞれの解釈について交流し深めようとする。	高度経済成長が現在の生活にどのような影響を与えたのかをとらえ直し、自分の考えを述べる。
	冷戦の終結とこれからの日本	日本が東アジアの中でどのように他国と関わり、平和で秩序ある関係築いていけばよいかを考える場面	身の回りにある、東アジアの国々との様々な課題を見いだし、解決に向けて考えていこうとする。	それぞれが調べた課題やその背景について交流し、東アジアをめぐる現在の情勢についてとらえようとする。	東アジアの国々との間で信頼関係や協調関係を築いていくために、自分達が何を考え行動していくべきか、自分の考えを述べる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会科（中学校地理的分野）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第4ステージ中1	わたしたちの地球と世界の地域構成	小学校で学習した世界の国に関する知識を発表し合い、地球儀や地図を用いて、緯度と経度、主な国々の名称と位置、地域区分等を大観する場面	小学校での学習を振り返り、地球儀や地図を活用し、自らの知識や技能をより深めようとする。	小学校で学習した互いの知識を発表し合い、世界の地域構成を地球儀や地図を用いて多面的・多角的にとらえようとする。	地球儀や地図の活用で身に付けた知識・技能を生かして、世界の地域構成についてとらえ直し、大まかな世界地図を描き、まとめる。
	人々の生活と環境	様々な自然条件のもとに暮らす人々の営みや工夫を比較し、共通点と相違点からそれぞれの地域的特色を明らかにする場面	自然及び社会的条件から世界各地の地域的特色を理解し、様々な異なる文化を尊重する。	それぞれがとらえた気候の特徴について、交流しながら共通点や相違点に着目して分類しようとする。	人々の生活の様子とその変容について、それぞれの地域的特色をとらえ直し、自分の考えを述べる。
	世界の諸地域（アジア州・アフリカ州）	「人口急増と多様な民族文化」・「モノカルチャー経済下の人々の生活」について、その要因を追究するために仲間と意見を交換する場面	自らの生活と比較して、それぞれの地域ではなぜそのような生活が行われているのか、問いをもち、その要因をとらえようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、アジア州、アフリカ州の地域的特色について自分の言葉で説明する。
	世界の諸地域（ヨーロッパ州・北アメリカ州）	「EUの発展と地域格差」・「大規模農業と工業の発展」について、その要因を追究するために仲間と意見を交換する場面	自らの生活とのかかわりから、それぞれの地域が経済発展に向けてどのような取組を行っているのか、問いをもち、その要因をとらえようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、ヨーロッパ州、北アメリカ州の地域的特色について自分の言葉で説明する。
	世界の諸地域（南アメリカ州・オセアニア州）	「森林破壊と環境保全」・「アジア諸国との結びつき」について、その要因を追究するために仲間と意見を交換する場面	自らの生活と比較して、それぞれの地域で発生している問題とその改善に向けた工夫について問いをもち、そのより有効な解決策を見いだそうとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、南アメリカ州、オセアニア州の地域的特色について自分の言葉で説明する。
第5ステージ中2	日本の地域構成	我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分等をとらえ、世界の中の日本を様々な特徴から多様に表現し合う場面	地球儀や地図を活用して、世界的視野からみた日本の国土の位置や領域の特色を見いだそうとする。	多様な視点からとらえた解釈を発表し合い、世界の中の日本の位置付けを多面的・多角的にとらえようとする。	世界地図を描き、世界的視野からみた日本の国土の位置や領域の特色を生かして、世界の中の日本の位置付けをまとめる。
	世界から見た日本のすがた	我が国の国土の特色や大まかな国内の地域差をとらえるため、多様な視点から比較、分析する場面	自然環境、人口、資源・エネルギー、地域間の結びつきから日本をとらえ、それぞれの視点からみた日本の特徴を見いだそうとする。	多様な視点からとらえた解釈を発表し合い、日本の地域的特色を多面的・多角的にとらえようとする。	多様な視点から見いだした世界の中の日本や国内の地域構成についてとらえ直し、略地図を描き、まとめる。
	日本の諸地域（中国・四国地方）	「人口や都市・村落を中核」として、その特徴や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の人口分布や動態について、過疎・過密問題の解決に向けて課題意識をもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、地域の居住環境や人々の生活の変容について、自分の言葉で説明する。

日本の諸地域 (近畿地方)	「歴史的背景を中核」として、その特徴や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の産業、文化の歴史的背景や開発に関する特色ある歴史について問いをもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、地域の歴史を他地域との結び付きや自然環境等と関連付けて自分の言葉で説明する。
日本の諸地域 (中部地方)	「産業を中核」として、その特徴や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の農業の産地や工業の立地と地理的諸条件との関連について問いをもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、地域の産業を自然条件や消費地他産地との結び付き等と関連付けて自分の言葉で説明する。
日本の諸地域 (関東地方)	「他地域との結び付きを中核」として、その特徴や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の交通・通信網に関する人々や物資、情報の移動の特色や変化について問いをもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、世界や日本の他地域との結び付きの影響で変容する地域のすがたを自分の言葉で説明する。
日本の諸地域 (東北地方)	「生活・文化を中核」として、その特徴や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の伝統的な生活・文化に関する諸事象を成立させている諸条件について問いをもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、交通・通信の発達による生活様式の高質化や見直される伝統文化を自分の言葉で説明する。
日本の諸地域 (北海道地方)	「自然環境を中核」として、その要因や影響、そこで暮らす人々の生活の工夫を追究するために仲間と意見を交換する場面	地域の地形や気候等の特色ある自然環境と人々の生活とのかかわりについて問いをもち、その地域的特色を追究しようとする。	各自が調査した内容を説明し合い、意見交換を通して総合的に解釈することによって多面的・多角的に事象をとらえようとする。	交流によってとらえ直した解釈を用いて、自然環境と密接にかかわる地域の人々の営みの工夫について自分の言葉で説明する。
身近な地域の調査	地域的特色を多様な視点でとらえ、様々な立場から地域の課題や将来像について考察し、よりよい地域社会のあり方を話し合う場面	地域の地理的事象を分布図等にまとめ、その傾向性や規則性について問いをもち、主体的に追究しようとする。	多様な視点からとらえ直した解釈を発表し合い、地域社会の現状と課題、解決に向けた提言等を多面的・多角的にとらえようとする。	多様な視点から見いだした地域の課題やその解決策についてとらえ直し、よりよい地域社会のあり方について自分なりの提言をもつ。

資質・能力を位置付けた単元配列表 社会科（中学校公民的分野）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第5 ス テ ー ジ 中 3	わたしたち が生きる 現代社会	現代日本の特色とし て、少子高齢化、情報 化、グローバル化など がみられ、それらが政 治、経済、国際関係に 影響を与えていること に気付く場面	少子高齢化、情報化、 グローバル化などに 対する関心を高め、 意欲的に追究しよう としている。	少子高齢化、情報化、 グローバル化などが 政治、経済、国際関 係に与える影響につ いて交流し、多面 的・多角的にとらえ ている。	グローバル化により 日本と世界との結び つきが強まるなか で、世界とつながる 意味をとらえて述べ ている。
	現代に つながる 伝統と文化	我が国の伝統と文化に 関心をもち、文化の継 承と創造の意義に気付 く場面	我が国の伝統と文化 の意義や、現代社会 への影響に対する関 心を高め、意欲的に 追究しようとしている。	我が国の伝統と文化 の意義や、それらが 現代社会に与えてい る影響について交流 し、多面的・多角的 にとらえている。	ものの見方や考え 方、価値観などが文 化によって影響を受 けていることに気付 き、それぞれが尊重 し合い共生できる社 会を思い描く。
	わたしたち がつくる 社会	社会生活における物事 の決定の仕方、きまり の意義について考え、 対立と合意、効率と公 正などについて理解す る場面	集団における物事の 決定の仕方、きまり を守ることににつ いて、身のまわりの生 活と関連付けなが ら、意欲的に追究し ようとしている。	多様な問題を解決す る際に何を気をつけ なければならないの か、対立や合意など の重要な概念から多 面的・多角的にとら える。	よりよい社会生活を にはきまりや取り決 めが必要であることを 理解し、「対立と合 意」や「効率と公正」 が必要であることを とらえている。
	民主政治を 支える憲法	日本国憲法が基本的 人権の尊重、国民主権 及び平和主義を基本原 理としていることにつ いての理解を深める場 面	人間の尊重について の考え方と法に対す る関心を高め、それ らを意欲的に追究 し、民主的な社会生 活について考えよう としている。	民主的な社会生活に 関わるさまざまな事 象から課題を見い だし、対立と合意、効 率と公正などの視点 から多面的・多角的 にようとしている。	日本国憲法が基本的 人権の尊重、国民主 権及び平和主義を基 本原理としているこ との意義をとらえ、 自分の考えを述べ る。
	憲法が 保障する 基本的人権	人間の尊重について の考え方を、基本的人 権を中心に深め、法の 意義を理解する場面	日常の具体的な事例 を通して、人間尊重 についての考え方と 法に対する関心を高 め、それらを意欲的 に追究し、民主的な 社会生活について考 えようとしている。	日本の政治が日本国 憲法にもとづいて行 われていることの意 義について、民主的 な社会生活のあり方 をふまえて多面的・ 多角的に考察し、公 正に判断できる。	人間尊重の考え方と 法に関するさまざま な資料を収集し、学 習に役立つ情報を適 切に選択して、読み 取ったり図表などに まとめたりしてい る。
	わたしたち の平和主義	日本国憲法の平和主義 について理解を深め、 我が国の安全と防衛の 問題について考える場 面	世界平和の実現と、 人類の福祉の増大に 関わる国際社会の諸 問題に対する関心を 高め、意欲的に追究 し、人間の生命の尊 さ、平和の尊さを自 覚しようとする。	日本の安全と世界の 平和の実現に向け、 具体的な事例を分析 し、交流して多面 的・多角的にとらえ る。	国際紛争解決の手段 としての戦争を放棄 し、陸海空軍その他 の戦力を保持しない ことを決意した意義 について、自分の考 えを述べる。
	民主主義と 日本の政治	国会を中心とする我が 国の民主政治のしくみ のあらましや政党の役 割を理解し、議会議 民主主義について考 える場面	民主政治における参 政権の重要性を理 解し、参政権が自分 にとってどのような 意義をもつのか、具 体的な事例から意欲 的に調べたり述べ たりしている。	よりよい選挙制度の 在り方や課題につ いて仲間と解釈を述 べ合い、メリットや デメリットの視点 から分析しながら 多面的・多角的 にとらえようとし ている。	政治に関心をもち、 主体的に政治に参 画していくために、 どのように自分が意 識して行動してい くか、根拠を明確 にして述べている。

司法権の 独立と裁判	法にもとづく公正な裁判の保障があること、個人の人権を保障するために三権分立の原則があることを理解し、三権が均衡を保ち、それぞれの役割を果たしていくことの重要性気付く場面	法にもとづく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることに関心を持ち、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて、理解を深めている。	国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法にもとづく公正な裁判の保障があることについて、多面的・多角的にとらえている	憲法で保障された、司法権の独立と法にもとづく公正な裁判に関わる課題についての資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して述べている。
地方自治と 住民の参加	地方自治の基本的な考え方や、政治のしくみを理解し、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を身に付ける場面	地方の政治に対する関心を高め、意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとするとともに、自分にもできることは何かを意欲的に考えようとする。	地方公共団体の役割や地方財政のあり方について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的にとらえている。	住民参加の重要性を理解し、地域の一員としてどのように自治に関わっていくかを考え、述べている。
消費生活と 市場経済	身近な消費生活を中心に、経済活動の意義を理解するとともに、価格のはたらきに注目して、市場経済の基本的な考え方について理解する場面	個人の消費生活に対する関心を高め、経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動についての考えを、さらに深めようとしている。	消費者の自立や、現在の消費者行政について、多面的・多角的に考察し、意見を交わしている。	市場経済について、生産・消費の立場からとらえなおし、自分の考えを述べる。
生産の しくみと 企業・金融	現代の生産や金融などのしくみやはたらきを理解し、社会における企業の役割と責任について考える場面	企業の生産活動や、金融などに対する関心を高め、生産のしくみと企業の経済活動、金融機関の役割と社会的責任について、意欲的に追究しようとしている。	企業の役割や、金融の機能と意義、個人や企業の経済活動のあり方について多面的・多角的にとらえている。	企業や金融のはたらきを理解し、多様な経済活動の在り方について、さまざまな立場から述べている。
財政と 政府の役割	国民の生活と福祉の向上のために、国や地方公共団体が果たしている役割について考えたり、租税の意義と役割について考えたりする場面	財政について、さまざまなはたらきや機能に対する関心を高め、そのしくみや特色について意欲的に追究しようとしている。	政府の経済活動における租税に関連したさまざまな問題点や課題を見だし、多面的・多角的にとらえている。	経済の成長と安定についての理解を深め、自分たちの生活との関連を考慮しながら、今後の日本の経済において政府に求められることを述べる。
労働と 社会保障	社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、具体的な事例をもとに意見を述べ合う場面	職業と労働に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、それに対する関心を高め、さまざまな課題について考えようとしている。	職業の意義や労働条件の重要性について、課題に着目し、意見交換を通して多面的・多角的にとらえている。	職業の意義や労働条件の重要性と課題について、現代社会の特色をふまえながら自分の考えを述べる。
これからの 日本経済の 課題	今後の日本経済が直面する課題をとらえ、日本経済が抱える課題をどのように解決していけばよいのかについて考える場面	これからの日本経済の課題に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、課題の解決に向けた取り組みを考えようとする。	これからの日本経済の課題とそれにむけた国や地方自治体の取り組みについて、多面的・多角的にとらえる。	グローバル化が進む国際社会において、日本の貿易の状況をとらえ、日本経済のこれからのあり方や課題の解決方法を述べる。

国際社会が抱える課題	現在の国際社会が抱えるさまざまな課題の解決のために、どのように協力していくことが大切かを考える場面	現在の国際社会が抱えるさまざまな課題に対して意欲的に追究し、課題の解決に向けた取り組みを考えようとする。	国際社会が抱えるさまざまな課題について、対立と合意、効率と公正などの視点から他者と交流し、多面的・多角的にとらえている。	国際的な協力関係の必要性が強まってきていることを理解し、身近な生活や世界の中でできることを述べている。
国際社会を支えるしくみ	世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、何が大切なのかを考える場面	国際社会の平和と秩序を維持していくために、何が大切なのかを考えようとしている。	グローバル化する国際社会のなかで、われわれが果たすべき役割について、多面的・多角的にとらえようとする。	国際社会において、主権の尊重やそれに基づいた国際協力が大切であることをとらえ、自分の考えを述べる。
持続可能な社会の実現へ向けて	持続可能な社会を形成するという観点から、わたしたちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、考えを見いだす場面	よりよい社会を築いていくためにできる国際支援の方法や課題について、考えを深めようとしている。	持続可能な社会を形成するために解決すべき課題について、多面的・多角的にとらえようとする。	持続可能な社会を形成していくためには何が必要なのかについて、自分の考えを述べる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 算数・数学科 (小：A数と計算領域，中：A数と式領域)

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	十までの数	0から10までの数系列づくりからきまりを見付ける場面	<ul style="list-style-type: none"> 絵や具体物などを用いて、いろいろなものの個数の数え方の見当を付ける。 見当を付けたものの個数の数え方を振り返る。 	いろいろな物の個数の数え方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	0から10までの数系列のきまりを見いだす。
	数の分解	10までの数をいくつといくつに分けたときのきまりを見付ける場面	<ul style="list-style-type: none"> 既習やこれまでの経験を基に、10までの数がいくつといくつに分けられるかについて見当を付ける。 見当を付けた分け方を振り返る。 	10までの数をいくつといくつに分けたときのきまりを仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	10までの数の構成を見いだす。
	順序数	ものの位置を正しく表す方法を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 既習やこれまでの経験を基に、ものの位置を正しく表す方法の見当を付ける。 見当を付けた物の位置を正しく表す方法を振り返る。 	ものの位置を正しく表す方法を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	順序数と集合数のちがいを見いだす。
	たし算①	2つの数をたすときの具体物の動かし方やたし算の式の表し方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作や絵図を用いて、増加の場面や合併の場面の具体物の動かし方を見当を付ける。 見当を付けた具体物の動かし方を振り返る。 	場面に合わせた具体物の動かし方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	加法における増加の場面と合併の場面のちがいを見いだす。
	ひき算①	求差の場面の具体物の動かし方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作や絵図を用いて、求差の場面の具体物の動かし方を見当を付ける。 見当を付けた具体物の動かし方を振り返る。 	求差の場面の具体物の動かし方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	減法における求残の場面と求差の場面のちがいを見いだす。
	十より大きい数	数の大きさが分かる表し方について、図を用いて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作を基に、10より大きい数の大きさが分かる表し方を見当を付ける。 見当を付けた10より大きい数の大きさが分かる表し方を振り返る。 	数の大きさが分かる表し方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	10のまとまりの個数と端数の個数で20までの数が表せることを見いだす。
	三口の計算	三口のたし算やひき算の計算の仕方について考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作を基に、解決の仕方の見当を付ける。 見当を付けた解決の仕方を振り返る。 	具体物の操作をしながら三口の計算の仕方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	計算の意味やその方法を見いだす。
	た算②	どんな式のとときに加数分解や被加数分解、両数分解が計算しやすいか検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作を基に、計算しやすい方法の見当を付ける。 見当を付けた計算しやすい方法を振り返る。 	具体物の操作をしながら、計算しやすい理由を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	繰り上がりのあるたし算は10のまとまりをつくり、10とあといくつで求められることを見いだす。
	ひき算②	どんな式のとときに減加法や減々法が計算しやすいか検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作を基に、計算しやすい方法の見当を付ける。 見当を付けた計算しやすい方法を振り返る。 	具体物の操作をしながら、計算しやすい理由を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	繰り下がりのあるひき算は減加法と減々法によって求められることを見いだす。
	たすのかなひくのかな	一列に並び、前と後ろの人数が分かっているときの全体の人数の求め方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作を基に、全体の人数の求め方を見当を付ける。 見当を付けた全体の人数の求め方を振り返る。 	具体物の操作をしながら、全体の人数の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	順序数で表されているときの全体の人数の求め方を見いだす。
第2ステージ小2	一桁数の計算	(2位数)+(2位数)の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて、(2位数)同士のたし算やひき算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた(2位数)同士のたし算やひき算の仕方を振り返る。 	図を用いて(2位数)同士のたし算やひき算の仕方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	2位数同士のたし算やひき算は、位ごとに計算すればよいことを見いだす。
	千までの数	大きな数の数え方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて、3位数の表し方を見当を付ける。 見当を付けた具体物を用いた3位数の表し方を振り返る。 	図を用いて3位数の表し方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	3位数の数の構成と数系列、十進位取り記数法の仕組みを見いだす。

	たし算の筆算	たし算の筆算の手順や繰り上がりの意味について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて、どんなたし算の筆算でも同じ仕組みやきまりであることについて見当を付ける。 見当を付けたたし算の筆算の手順や繰り上がりの意味を振り返る。 	図を用いてたし算の筆算の手順や繰り上がりの意味について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	たし算の筆算は位ごとに1桁のたし算を基に計算することを見いだす。
	ひき算の筆算	ひき算の筆算の手順や繰り下がりについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて、ひき算の筆算にも仕組みやきまりがあることについて見当を付ける。 見当を付けたひき算の筆算の手順や繰り下がりについて意味を振り返る。 	図を用いてひき算の筆算の手順や繰り下がりについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	ひき算の筆算は位ごとに計算を繰り返せばよいことを見いだす。
	かけ算①	身近なものの数の数え方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて、かけ算を使って、身近なものの数の表し方を見当を付ける。 見当を付けた身近な物の数の数え方を振り返る。 	図を用いて身近な物の数の数え方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	かけ算と同数累加の関係を見いだす。
	かけ算②	2とびや5とびを基に3と4の段の意味を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いて、全体量のかけ算の式の表し方を見当を付ける。 見当を付けた全体量のかけ算の式の表し方を振り返る。 	3と4の段の意味を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	「1つ分の大きさ」や「いくつつ分」に着目したかけ算の式の表し方を見いだす。
	かけ算③	かけ算が用いられる場面のかけ算の式の表し方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いて、全体量のかけ算の式の表し方を見当を付ける。 見当を付けた全体量のかけ算の式の表し方を振り返る。 	全体量がどのようなかけ算の式に表すことができるかについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	「1つ分の大きさ」や「いくつつ分」に着目したかけ算の式の表し方を見いだす。
	かけ算④	九九表のきまりについて仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 九九表を基にかけ算のきまりの見当を付ける。 見当を付けた九九表のきまりを振り返る。 	見つけた九九表のきまりを仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	被乗数、乗数、積の関係を見いだす。
	分数	等分に分けたものを分数でどのように表したらよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図を用いて等分で分けた大きさがどのような分数で表されるか見当を付ける。 見当を付けた分数の表し方を振り返る。 	図を用いて、等分に分けたものを分数でどのように表したらよいかについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	分数の意味を見いだす。
	一万までの数	図や数直線で数をどのように表したらよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や数直線を用いて、数の相対的な大きさの見当を付ける。 見当を付けた図や数直線を用いた数の表し方を振り返る。 	図や数直線でどのように数を表したらよいかについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	3位数や4位数も十進位取り記数法で表されることを見いだす。
	たし算ひき算	どのように演算を決めて立式すればよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> テープ図を用いて、数量の関係をつかみ、どのような式になるか見当を付ける。 見当を付けた立式の仕方を振り返る。 	テープ図からどのような式になるのかについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	加法と減法は逆の関係になっていることを見いだす。
第3ステージ小3	かけ算	乗法に関して成り立つ性質について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> アレー図や具体物を用いて、乗数や被乗数が10の乗法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた乗数や被乗数が10の乗法の計算の仕方を振り返る。 	九九表を基に乗法に関して成り立つきまりについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	乗法に関して成り立つ性質を見いだす。
	計算の仕方を考えよう	12×4の計算の仕方について話し合う場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を基に、既習の乗法九九を用いて計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた12×4の計算の仕方を振り返る。 	12×4の計算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	既習の乗法九九の活用の方法を見いだす。
	わり算	具体的な場面を基に除法の意味について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を基に、除法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた除法の計算の仕方を振り返る。 	除法の意味と具体物の操作の手順を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	除法の計算の仕方を見いだす。
	余りのあわり算	わり切れない場合のあまりの処理の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、わり切れない場合のあまりの処理の仕方の見当を付ける。 見当を付けたあまりの処理の仕方を振り返る。 	図や式を用いてあまりが出る除法の計算の仕方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	あまりが出る場合も除法の立式ができることを見いだす。

	たし算・ひき算	3 位数同士の加法や減法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 2 位数同士の筆算の仕方を基に、3 位数同士の筆算の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた 3 位数同士の筆算の計算の仕方を振り返る。 	3 位数同士の加法や減法の計算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	2 位数同士の加法や減法の計算と関連付け、3 位数同士の加法や減法の計算の仕方を見いだす。
	かけ算の筆算	(2 位数) × (1 位数) の筆算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いて、被乗数を分け、(2 位数) × (1 位数) の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた (2 位数) × (1 位数) の計算の仕方を振り返る。 	具体物を用いて、(2 位数) × (1 位数) の筆算の計算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	既習の計算方法と関連付けて、大きな数のかけ算は部分積の和で積を求めることができることを見いだす。
	大きな数	大きい数の加法や減法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 十進位取り記数法を基に、大きな数の表し方や大小の比べ方の見当を付ける。 見当を付けた大きい数の表し方や大小の比べ方を振り返る。 	大きい数の計算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	1000 より大きい数も、数の大小・記数法など同じ数の構造になっていることを見いだす。
	小数	小数第 2 位までの加法や減法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、小数の加法や減法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた小数の加法や減法の計算の仕方を振り返る。 	小数の加法や減法の計算の仕方について、図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	小数が整数と同じ数の構造であることを見いだす。
	1 桁のかけ算	(2 位数) × (2 位数) の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、既習の乗法や計算のきまりを基に、(2 位数) × (2 位数) の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた (2 位数) × (2 位数) の計算の仕方を振り返る。 	(2 位数) × (2 位数) の計算の仕方について、図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	大きな数の乗法は位ごとの部分積の和で積を求めることができることを見いだす。
	分数	簡単な分数の加法や減法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、単位分数を基に同分母分数の加法や減法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた同分母分数の加法や減法の計算の仕方を振り返る。 	簡単な分数の加法や減法の計算の仕方について、図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	分数の表し方や仕組みを見いだす。
	そろばん				
第 3 ステージ 小 4	大きな数	位が千万以上の数の表し方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 十進法を基にして、位が千万以上の数の表し方の見当を付ける。 見当を付けた位が千万以上の数の表し方を振り返る。 	数構造の一般化を絵図や位取り表を使って説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	位が千万以上の数とこれまでの数の構造の共通点を関連付け、一般化することができる。
	わり算	除法の式を順序よく並べ、除法の性質を見付ける場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、除法の式を順序よく並べることで、除法の性質の見当を付ける。 見当を付けた除法の性質を振り返る。 	図や式を用いて、除法の性質を相手に効果的に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	除数・被除数・商を限定した場合の除法の性質を見いだす。
	1 桁でわるわり算	1 桁でわる除法の商の求め方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九を基に、1 桁でわる除法の商の求め方の見当を付ける。 見当を付けた 1 桁でわる除法の商の求め方を振り返る。 	図や式を用いて、どのように商を求めるのかを仲間に効果的に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	桁数が大きくなり算もこれまでのわり算と同じ手順で計算できることを見いだす。
	小数	小数と整数の共通点を探し出す場面	<ul style="list-style-type: none"> かさの単位を基に、小数点以下の数の表し方の見当を付ける。 見当を付けた小数点以下の数の表し方を振り返る。 	図や数直線を用いて、小数の大きさを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	小数は、十進法になっていることを見いだす。
	1 桁でわるわり算	仮の商の立て方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 概数の見方や考え方を基に、2 けたでわる除法の商について見当を付ける。 見当を付けた 2 けたでわる除法の商について振り返る。 	図・表や式を用いて、どのように商を求めるのかを仲間に効果的に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	概数にすると、乗法九九を基に適切な商を立てることができることを見いだす。
	概数	四捨五入の意味を説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 日常の数の感覚を基にして、数をおよその数として表すことについて見当を付ける。 見当を付けたス数のおよその大きさを振り返る。 	数直線を用いて、およその数を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	数をおよその数にするときには、切り捨て、切り上げ、四捨五入があることを見いだす。
	そろばん				
	式計算	四則計算が混合した式の計算のしかたを考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 実際の場面を基に、四則計算が混合した式の表し方の見当を付ける。 見当を付けた四則計算の表し方を振り返る。 	式や図を用いながら自分の考えをもったり、話し合いの場面では仲間の似た考えにつけたししながら、四則計算のきまりを説明したりする。	典型的なもの(左から順に計算)と非典型的なもの(括弧がある、加減と乗除が混合している)の共通点や相違点を明らかにし、四則計算の関係を見いだす。

	小数のかけ算とわり算	乗法・除法の計算の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 整数の乗法・除法を基に、小数の乗法・除法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた小数の乗法・除法の計算の仕方を振り返る。 	式や図を使いながら自分の考えをもち、話し合いの場面では仲間の似た考えに付けたしながら、小数の乗法・除法のきまりを説明する。	整数と小数の計算を比較し、共通点や相違点を明らかないすることから、整数・小数はどれも位毎に計算していることを見いだす。
	分数	同値分数を見付け出す場面	<ul style="list-style-type: none"> 式や図を用いて、単位分数の大きさを基に、分数の表し方の見当を付ける。 見当を付けた分数の表し方を振り返る。 	式や図を用いて、分数の大きさを仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	分数には分子や分母が異なっても同値を表す数があることを見いだす。
第4ステージ小5	小数と整数	小数の表し方や仕組みについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 十進位取り記数法を基に、10倍、100倍、1/10、1/100の数の作り方の見当を付ける。 見当を付けた小数の表し方や仕組みについて振り返る。 	小数の大小の比べ方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	十進位取り記数法による小数の仕組みを見いだす。
	小数のかけ算	小数点の付け方の意味を仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 整数の乗法を基に、小数の乗法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた小数の乗法の計算の仕方を振り返る。 	小数の乗法の計算の仕方を図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	小数の乗法の意味や計算の仕方を見いだす。
	小数のわり算	小数点の付け方の意味を仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 小数÷整数の除法を基に、小数÷小数の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた小数÷小数の計算の仕方を振り返る。 	小数÷小数の計算の仕方を図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	小数の除法の意味や計算の仕方を見いだす。
	高さ比べ	2つの長さの比較の仕方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 整数倍を基に小数倍の表し方の見当を付ける。 見当を付けた小数倍の表し方を振り返る。 	一方の何倍が他方になるのかについて図や式を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	小数倍になっても整数倍と変わらないことを見いだす。
	倍数と約数	最小公倍数や最大公約数の見つけ方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 倍数や約数の意味から、倍数や約数の見つけ方の見当を付ける。 見当を付けた倍数や約数の見つけ方を振り返る。 	最小公倍数や最大公約数の見つけ方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	倍数や約数の規則性を見いだす。
	分数	異分母分数の大小比較の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図や面積図を用いて、大きさの等しい分数の見当を付ける。 見当を付けた異分母分数の大小比較の仕方を振り返る。 	数直線図や面積図を用いて異分母分数の大小比較の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	場面に応じた整数・小数・分数の使い方を見いだす。
	分数のたし算とひき算	異分母分数の加法や除法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 同分母分数の加法や減法の計算の仕方を基に、異分母分数の加法や減法の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた異分母分数の加法や減法の仕方を振り返る。 	数直線や図を用いて、異分母分数の加法や減法の計算の仕方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	異分母分数の加法や減法の計算の仕方を見いだす。
	分数のかけ算とわり算	分数の乗法や除法の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 既習の分数の性質や計算を基に、分数×整数の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた分数の乗法や除法の計算の仕方を振り返る。 	分数÷整数の計算の仕方について図を用いて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	単位分数や累加の考えと関連付け、分数の乗法や除法の意味や計算の仕方を見いだす。
第4ステージ小6	分数のかけ算	分数×分数の立式の仕方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図を用いて、分数の乗法の式について見当を付ける。 見当を付けた分数の乗法の式について振り返る。 	分数の乗法の立式の根拠について、言葉の式や図を用いて、相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	整数や小数の時の考え方と結び付けて、分数の乗法の意味や計算の仕方を見いだす。
	分数のわり算	数直線図上に1がないときに、どのように求めたらよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図を用いて、分数のわり算の式について見当を付ける。 見当を付けた分数の除法の式について振り返る。 	数直線図を用いて、どのようにして立式し、求めたのかを相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	数直線図と結び付け、分数のわり算は、割合の考え方を用いて立式することができることを見いだす。
	倍々割割	ある2量で一方はもう一方の量の何倍になっているかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図を用いて、2量の関係からどのような式になるかについて見当を付ける。 見当を付けた2量の関係からの立式について振り返る。 	数直線図を用いて、比べられる量やもとにする量の求め方を相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	倍を使って、割合を正しく表すこともあることや2量のどちらをもとにする量にするかで割合も変わることを見いだす。

	小数と分数の計算	分数と小数のどちらにそろえて計算するとよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 整数・小数・分数の四則計算の仕方を基に、混合算の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた混合算の計算の仕方を振り返る。 	整数・小数・分数の混合算の計算の仕方を相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	分数と小数の表し方や計算の仕方のちがいやよさを見いだす。
第4ステージ中1	正の数・負の数	数直線や線図などを用いて加法の意味を説明する場面	2次元表で正の数・負の数における二数の和を予想し、そうなるわけを説明するのに用い、図や方法の見当を付ける。見当を付けた説明するのに用いた図や方法のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えとを区別しながら、各自の選択したモデルについて数直線や線図の考えを用いて考えを筋道立てて説明し合う。	数直線やテープ図などでとらえていた既習の量のみの数の計算の仕方を基に、方向と量の視点から数の計算の仕方と数直線や線図などを関係付ける。
		各自が選択したモデルに基づいて乗法の意味を説明する場面	正の数・負の数における二数の積を予想し、そうなるわけを説明するのに用い、図や法則の見当を付ける。見当を付けた説明するのに用いた図や法則のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、各自の選択したモデルについて数直線や線図を用いて考えを筋道立てて説明し合う。	数直線やテープ図などでとらえていた既習の量のみの数の計算の仕方を基に、方向と量の視点から数の計算の仕方と数直線や線図などを関係付ける。
		正の数・負の数の四則計算が混合した式の計算の仕方を考える場面	実際の場面を基に、有符号数の四則計算が混合した式の表し方を予想し、説明するのに用い、図や法則の見当を付ける。見当を付けた説明するのみ用いた図や法則のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、四則計算のきまりを、絵・図、式を用いて表現を工夫し、説明し合う。	典型的なもの(左から順に計算)と非典型的なもの(括弧がある、四則混合)の共通点や相違点を明らかにし、四則計算の関係に気付く。
第4ステージ中2	文字式	きまりを帰納的に見だし図や文字式で説明したりする場面	数量の求め方を具体数の場合で数式を予想し、そうなるわけを説明するのに用いる図や文字式の見当を付ける。見当を付けた説明するのみに用いた図や文字式のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、具体数の場合と図を用いて考えを筋道立てて説明し合う。	数量の求め方を具体数の場合で表現した数式を、任意一般性の視点から文字式でとらえ直す。具体数の場合で表現した数式と文字式とを関係付ける。
		1元1次方程式の解き方を、両辺相殺の原理(等式の性質)で考え説明する場面	1元1次方程式の解を、移項を使わずに求める方法を基に、両辺相殺(等式の性質)で説明する方法の見当を付ける。見当を付けた両辺相殺(等式の性質)で説明する方法のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、どういう等式の形をサブゴールとして目指すか、どの等式の性質を用いるかという視点を用いて方程式の解を演繹的に導く過程を、筋道を立てて説明し合う。	バランスのとれた天秤モデルを基に、両辺を対等に扱い同時に操作する方法を考えることで、既習の計算基本法則を左辺から右辺を導出する方法としてとらえ直す。
第5ステージ中2	式の計算	多項式と単項式の積を考え、図や法則を使って説明する場面	数量の求め方を具体数の場合で数式を予想し、見当を付けた説明をするのに用いた図や文字式のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、数量や図形の性質などを、文字式を用いた表現と計算を用いて筋道を立てて説明し合う。	元、次、項という視点をもつことで、式のしくみをとらえ直し、式を系統的にみる。帰納的に命題や結論を見だし、文字式を用いた表現と計算、式の構造の読み取りを行って説明することを通して、文字式の役割をとらえ直し、命題の価値を見いだす。
		連立方程式の解法選択の視点や筋道を追求する過程で、解法の特徴を検討する場面	加減法、代入法、倒置法のどの解法も使えて、解法の優位性がはっきりしないものに対して、見当を付けた1元1次方程式に還元する方法を基に説明するよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、方程式の形や係数に応じて、どの未知数を消去するためにどの解法を用いるか説明し合う。	元、次、項の視点で既習の方程式をとらえ直し、方程式を系統的にみる。既習の等式の性質を、2つの異なる等式を操作する原理をとらえ直し、複数の解法(加減法、代入法、等置法)を1元1次方程式に還元する方法に統合できることを見いだす。
第5ステージ中3	平方根	「仮説演繹法」を用いて速算法の仕組みを解明する場面	数量の求め方を具体数の場合で数式を予想し、見当を付けた説明をするのに用いた図や文字式のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、数量や図形の性質などを、文字式を用いた表現と計算を用いて筋道を立てて説明し合う。	帰納的に命題や結論を見だし、文字式を用いて表現し目的に応じて展開や因数分解を行い式の構造を読み取ることを通して、文字式を利用して説明する意味をとらえ直し、命題の価値を見いだす。
		面積が3cm ² の正方形の存在について追求させる場面	面積が3cm ² の正方形の存在を予想する上で、見当を付けるのに用いた平方とその逆演算とを対比し、それぞれの計算や結果を正方形の面積と1辺との関係を基に説明するよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、面積が3cm ² の正方形の1辺の長さを、絵・図、式を用いて筋道を立てて説明し合う。	小数と分数との間の変換の可能性を考えることを通して、既習の数を有理数、平方根数を無理数ととらえ直し、いずれも数直線上に表される数として統合できることを見いだす。
		平方根数の積を予想し、そうなるわけを説明する場面	平方根数の積の見当を付けるのみに用いた図や法則のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、ドット図にかかれた正方形や長方形の辺の長さや面積との関係を用いて平方根の四則計算の仕方について筋道を立てて説明し合う。	平方根数を無理数ととらえ直し、いずれも数直線上に表される数として統合できることを見いだす。
	1元2次方程式	1元2次方程式を解法選択の視点や筋道を追求する過程で、解法の特徴を検討する場面	複数の解法(因数分解、平方完成)を1元2次方程式に還元する方法を基に、見当を付けた説明をするのに用いた統合できる方法のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを生かしながら、1元2次方程式の解法を既習の因数分解や平方根の定義を方程式の形や係数に応じた解法選択の視点を用いて筋道を立てて説明し合う。	複数の解法(因数分解、平方完成)を1元1次方程式に還元する方法に統合できることを見いだす。また、平方完成の解法を基に、2次方程式の解の公式を導く。

資質・能力を位置付けた単元配列表 算数・数学科 (小：B量と測定領域)

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	時計	短針と長針の位置から時計を読み取る場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を基に、時計の読み取り方の見当を付ける。 見当を付けた時計の読み取り方を振り返る。 	時計の読み取り方を相手に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	時計の仕組みを見いだす。
	大きさ比べ	広さを比べるためにどのような任意単位を用いて並べるとよいかについて検討していく場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を基に、どのような比べ方をすると測定できるのか見当を付ける。 見当を付けた比べ方を振り返る。 	任意単位を選び、どのようにして調べるかを相手に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	測定する量に合わせた任意単位を用いることで、量を正しく比べられることを見いだす。
第2ステージ小2	時刻・時間	時や分が混じった時刻や時間を求める場面	<ul style="list-style-type: none"> 帯時計や模型時計を用いて、時刻や時間の求め方の見当を付ける。 見当を付けた時刻や時間の求め方を振り返る。 	帯時計や模型時計を用いて時刻や時間の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻の求め方を見いだす。
	長さ	二つの長さのたし算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位を基に二つの長さのたし算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた長さのたし算の仕方を振り返る。 	単位をそろえ、二つの長さのたし算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	c mとmmの単位の間接関係を見いだす。
	水のかさ	二つのかさのたし算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> かさの単位を基に二つのかさのたし算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた傘のたし算の仕方を振り返る。 	単位をそろえ、二つのかさのたし算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	mL, dL, Lの単位の間接関係を見いだす。
	長さ②	具体的な長さを測定したり比較したりするときの表し方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な長さに合わせてどの単位を用いれば適切に表すことができるのか見当を付ける。 見当を付けた適切な単位を用いた表し方を振り返る。 	長さの適切な単位を用いた表し方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	mとc mの単位の間接関係を見いだす。
第3ステージ小3	時刻・時間	繰り上がりや繰り下がりのある時間の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 時と分の関係を基に、繰り上がりや繰り下がりのある時間の計算の仕方の見当を付ける。 見当を付けた繰り上がりや繰り下がりのある時間の計算の仕方を振り返る。 	具体物や図、式を用いて繰り上がりや繰り下がりのある時間の計算の仕方について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	時間や時刻は12・24・60進法になっていることを見いだす。
	長さ	測定するものに合わせた測定の方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> どの計器を用いれば測定することができるのか見当を付ける。 見当を付けた測定の方法を振り返る。 	測定するものに合わせて計器を選び、どのように測定するかについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	適切な単位を選択することで効率的に測定できたり、分かりやすく表したりすることを見いだす。
	重さ	ものの重さを比べる方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの量の比べ方を基に、物の重さを比べる方法の見当を付ける。 見当を付けたものの重さを比べる方法を振り返る。 	てんびんやはかりなどを用いて、ものの重さを比べる方法について仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	ものの重さの測定の方法やgとkgの単位の間接関係を見いだす。
第3ステージ小4	角	角の大きさの測り方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 180度を越える角の大きさの測り方の見当を付ける。 見当を付けた180度を越える角の大きさの測り方を振り返る。 	分度器を用いた180度を越える角の大きさの測り方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	角の大きさは辺の長さによらないことを見いだす。
	面積	広さの比べ方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの量の比べ方を基に、広さを比べる方法の見当を付ける。 見当を付けた広さを比べる方法を振り返る。 	図や数、式を用いて、正方形や長方形の面積の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	面積は、等積変形、倍積変形などを使って求積できることを見いだす。
第4ステージ小5	単位量当たりの大きさ	混み具合の比べ方を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数直線や図、式を用いて、どちらかの条件をそろえて、混み具合を比べる方法の見当を付ける。 見当を付けた混み具合を比べる方法を振り返る。 	数直線や図、式を用いて、混み具合の比べ方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	単位量当たりの意味や表し方を見いだす。
	体積	体積の比べ方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの量の比べ方を基に、体積を比べる方法の見当を付ける。 見当を付けた体積を比べる方法を振り返る。 	具体物を用いて、直方体や立方体の体積の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	体積の大きさを表す単位や直方体や立方体の求積公式を見いだす。
	図形の面積	三角形の面積の求め方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、倍積変形や等積変形を用いた三角形の面積の求め方の見当を付ける。 見当を付けた三角形の面積の求め方を振り返る。 	図や式を用いて、三角形の面積の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	求積方法の共通点から面積の公式を明らかにし、様々な求積公式を見いだす。

第4ステージ小6	曲線のある形の面積	円の面積の求め方について仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> これまでの面積の求め方を基に、円の面積の求め方の見当を付ける。 見当を付けた円の面積の求め方を振り返る。 	図や式を用いて、円の面積の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	等積変形での求積方法から円の求積方法を見いだす。
	速さ	速さの比べ方について仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 単位量当たりの考えや道のりと時間が比例関係にあることなどを基に、速さの比べ方の見当を付ける。 見当を付けた速さの比べ方を振り返る。 	数直線や図、式を用いて速さの比べ方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	速さ、道のり、時間の求め方を見いだす。
	立体の体積	角柱の求め方について仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 直方体や立方体の体積の面積の求め方を基に、角柱の体積の求め方の見当を付ける。 見当を付けた角柱の体積の求め方を振り返る。 	式や言葉を用いて、角柱や円柱の体積の求め方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	角柱や円柱の体積は、底面積×高さで求められることを見いだす。
	量と単位	身の回りで使われている単位の仕組みについて仲間と検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 長さを基に面積や体積の単位の仕組みの見当を付ける。 見当を付けた単位のしくみについて振り返る。 	長さとの関係から面積や体積の単位の仕組みについて仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	メートル法の単位の仕組みを見いだす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 算数・数学科 (小：C図形領域，中：B図形領域)

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	かたち(1)	立体図形の分類の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> さいころ型や円柱型の箱のかたちの特徴から分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた箱の分類の仕方を振り返る。 	積み木などの操作を基に自分の考えをもち、話し合いの場面では具体物を用いながら説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	立体図形を転がしたり積んだりしながら、形の共通点を見いだす。
	かたち(2)	色板を用いて形を構成する場面	<ul style="list-style-type: none"> 形の特徴から色板を用いた構成の見当を付ける。 見当を付けた色板を用いた構成を振り返る。 	色板の操作を基に自分の考えをもち、話し合いの場面では色板を用いて説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	色板を操作しながら、いろいろな形の構成の共通点を見いだす。
第2ステージ小2	三角形四角形	三角形と四角形の分類の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 辺や頂点の数量を基に、三角形や四角形の分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた三角形や四角形の分類の仕方を振り返る。 	具体物や図を用い、辺や頂点の数量から自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	辺や頂点の数量から、三角形の仲間や四角形の仲間の共通点を見いだす。
	箱の形	複数の面を組み合わせる箱の形をつくる場面	<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素や相等関係から箱の形ができるか見当を付ける。 見当を付けた箱の形を振り返る。 	図形の構成要素を基に対象となる図形に対しての自分の考えをもち、話し合いの場面では具体物や図を用いて説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	箱の形には、図形の構成要素の数(辺が12本、頂点が8つ、面が6つ)や相等関係(同じ面が向かい合っている)といった共通点があることを見いだす。
第3ステージ小3	円と球	球の直径を測定する場面	円の直径を基に、球の直径の測定の仕方の見当を付ける。見当を付けた球の直径の測定の仕方を振り返る。	具体物や図を用いて、球の直径の測定の仕方について自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	円や球には、共通の構成要素(中心、半径、直径)があることを見いだす。
	三角形	三角形の分類の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さ、角の大きさから三角形の分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた三角形の分類の仕方を振り返る。 	具体物や図を用いて、図形の構成要素を視点として自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	三角形の構成要素(辺の長さ、直角)を視点として、三角形の仲間の共通点を見だし、それぞれの図形を関連付ける。
第3ステージ小4	四角形	四角形の分類の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 辺や角の数量や位置関係を基に、四角形の分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた四角形の分類の仕方を振り返る。 	具体物や図を用い、辺や角の相等関係や位置関係から自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	辺や角の数量や位置関係から、四角形の共通点を見だし、四角形同士を関連付ける。
	直方体と立方体	直方体や立方体の展開図が立体になるか判断する場面	<ul style="list-style-type: none"> 展開図の構成要素や相等関係から立体になるか判断の仕方の見当を付ける。 見当を付けた立体になるか判断の仕方を振り返る。 	具体物や図を用いて、立体図形の構成要素の関係を説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	立体図形とその展開図には図形の構成要素や相等関係が共通していることを見だし、関連付ける。
第4ステージ小5	図形の合同	図形が基の図形と合同になっているか判断する場面	<ul style="list-style-type: none"> 対応する辺や角の数量や位置関係を基に、合同かどうかについての見当を付ける。 見当を付けた合同かどうかの調べ方を振り返る。 	定義や性質を用い、対応する辺や角の数量や位置関係から合同かどうか自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	対応する辺や角の数量や位置関係から、図形の共通点を見だし、図形同士を関係付ける。
	図形の角	四角形の内角の和を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の内角の和を基に、四角形の内角の和の見当を付ける。 見当を付けた四角形の内角の和の求め方を振り返る。 	三角形の内角の和を基に、四角形の内角の和の求め方について自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	多角形の内角の和の共通点を見だし、図形の角の数と内角の和を関係付ける。
	正多角形と円	正多角形の作図方法を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 中心点の位置、対角線の長さから正多角形の作図の仕方の見当を付ける。 見当を付けた正多角形の作図の仕方を振り返る。 	図や記号、図、図形の定義や性質を用いて自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	正多角形は円の中に作図できることから、中心点の位置、対角線の長さを視点として円と正多角形の共通点を見だし、円と正多角形を関係付ける。

	立体図形	立体図形の分類の仕方を考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 底面の形、側面の形、柱体、錐体から立体図形の分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた立体図形の分類の仕方を振り返る。 	図、図形の定義や性質を用いて自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	底面の形、側面の形、柱体、錐体であることなどを視点として立体図形の共通点を見だし、それぞれの立体図形を関係付ける。
第4ステージ小6	対称	点対称や線対称の図形の性質を見付ける場面	<ul style="list-style-type: none"> 対称の軸の数、対称の中心から平面図形の分類の仕方の見当を付ける。 見当を付けた平面図形の分類の仕方を振り返る。 	図形の性質・対応関係について、図や記号、図、図形の定義や性質を用いて自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	線対称な図形と点対称な図形の性質を視点として線対称な図形と点対称な図形の共通点を見だし、平面図形を分類し関係付ける。
	拡大図と縮図	図形が基の図形の拡大図や縮図になっているか判断する場面	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さの比、頂点の位置関係から、拡大図と縮図の判断の仕方の見当を付ける。 見当を付けた拡大図と縮図の判断の仕方を振り返る。 	図形の性質・対応関係について、図や記号、図、図形の定義や性質を用いて自分の考えを説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	拡大図と縮図の作図の際に、頂点の位置や辺の長さを決定するために、割合の考えを用いている共通を見だし、拡大図と縮図と比の学習内容を関係付ける。
第4ステージ中1	平面図形	垂線と垂直二等分線の作図方法を考え説明する場面	垂線と垂直二等分線を作図するために、たこ形やひし形の性質の用い方について見当を付ける。見当を付けたたこ形やひし形の性質を用いるよさを振り返る。	垂線と垂直二等分線の作図方法を、たこ形やひし形の性質を用い、筋道立てて互いに示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	たこ形やひし形の性質を視点に、作図を検討し、作図の手順を定式化する。垂直二等分線の性質に等距離性があることと作図の手順を関係付ける。
	空間図形	円錐の表面積の求め方を考え説明する場面	円錐の側面である扇形の面積を求めるために、弧と底面の円周との関係や、弧と中心角との関係の用い方について見当を付ける。見当を付けた弧と中心角との関係の用い方を振り返る。	円錐の側面の求積方法を、弧と底面の円周との関係や、弧と中心角との関係を用い、筋道立てて互いに示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	弧と底面の円周との関係や、弧と中心角との関係を視点に、求積方法を検討し、定式化する。扇形の中心角を求めずに、求積する方法と弧と底面の円周との関係や弧と中心角との関係を関係付ける。
第5ステージ中2	図形の調べ方	三角形の内角定理の説明の仕方を考え説明する場面	三角形の内角の和は 180° になることの実測や実験によらない説明方法を考え、平行線補助線を用いて見当を付ける。見当を付けた平行線補助線を用いるよさを振り返る。	三角形の内角定理の証明を、平行線の性質を用い、筋道立てて互いに示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	補助線と根拠を視点に、性質の説明を検討し、性質を平行線系に位置付ける。移動による説明の曖昧さや循環論の非合理性と補助線と根拠の視点を関係付ける。
	図形と合同	二等辺三角形の底角定理の証明を考え説明する場面	二等辺三角形の性質とその証明方法を考え、補助線を用いた三角形の合同の示し方について見当を付ける。見当を付けた補助線を用いた三角形の合同の示し方のよさを振り返る。	二等辺三角形の底角定理の証明を、三角形の合同条件等を用い、筋道立てて互いに示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	仮定と補助線、根拠を視点に、性質の証明を検討し、性質を合同系に位置付ける。用いる補助線は条件の最小限性が重要であることと性質の証明を関係付ける。
		平行四辺形の性質の証明を考え説明する場面	平行四辺形の性質とその証明方法を考え、補助線を用いた三角形の合同の示し方について見当を付ける。見当を付けた補助線を用いた三角形の合同の示し方のよさを振り返る。	平行四辺形の性質の証明を、平行線の性質と三角形の合同条件等を用い、筋道立てて示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	仮定と補助線、根拠を視点に、性質の証明を検討し、性質を平行線系と合同系を関係付ける。
第5ステージ中3	相似な図形	相似の位置の作図と性質の証明を考え説明する場面	相似の中心を変更して、相似図形の作図の仕方の特徴を見当付けながら作図に取り組む。作図結果の妥当性の判断では、三角形の相似条件を用いることについて見当を付ける。相似の位置の性質を予想し、証明方法を考えるよさを振り返る。	中心拡大による相似図形の作図の仕方を類比的に示す。作図結果の妥当性や相似の位置の性質を、三角形の相似条件等を用い、筋道立てて示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	相似の中心から頂点までの倍率を視点に、作図方法を検討し、三角形の相似条件を視点に作図結果を検討し、相似の位置を相似の定義と同等に位置付ける。相似の位置と作図結果から得た平行性とを関係付ける。
	円	円周角の性質の証明を考え説明する場面	円周角と中心角の関係とその証明方法を、場合を尽くして考え、補助線を選択して証明方法の見当を付ける。補助線を用いた証明のよさを振り返る。	円周角と中心角の関係を、二等辺三角形の性質等を用い、筋道立てて示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	仮定と補助線、根拠を視点に、性質の証明を検討し、性質と合同系を関係付ける。円周角の性質に不変性があることを見いだす。
	三平方の定理	直角三角形の性質の証明を考え説明する場面	直角三角形の斜辺を1辺とする正方形の求積を基に、直角三角形の性質とその証明方法の見当を付ける。正方形の求積を直角三角形の性質とその証明方法の見当を付けるよさを振り返る。	直角三角形の性質を、三角形の内角定理や平行線の性質、式の計算原理等様々な性質を総動員し、筋道立てて示すとともに、相手の考えを受け止めようとする。	仮定と補助線、根拠を視点に、性質の証明を検討し、性質を平行線系と合同系、相似系とを関係付ける。証明方法に双対性があることや、直角三角形の性質に再帰性があることを見いだす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 算数・数学科 (小：D数量関係領域，中：C関数領域 (関)，D資料の活用領域 (資))

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	かずしりべ	身の回りにあるいろいろな数を整理する方法を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図などを用いて、ものの個数を数える方法の見当を付ける。 見当を付けたものの個数を数える方法を振り返る。 	整理した資料を用いて、ものの数や特徴を相手に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	資料を整理するよさを見いだす。
第2ステージ小2	ひょうとグラフ	簡単な資料を落ちなく分類整理する方法を検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な表やグラフに分かりやすくまとめる方法の見当を付ける。 見当を付けた簡単な表やグラフに分かりやすくまとめる方法を振り返る。 	簡単な資料を分類整理した表やグラフから数値や傾向を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	簡単な資料を分類整理し手帳やグラフに表すと、その資料が比べやすくなることを見いだす。
第3ステージ小3	表グラフ	資料整理の観点を決め、それに応じた分類整理の方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 資料を分かりやすく整理する方法の見当を付ける。 見当を付けた資料を整理する方法を振り返る。 	棒グラフから集団のもつ全体的な傾向を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	棒グラフに表わすと、最大値や最小値、量の比較がしやすくなることを見いだす。
	□を使った式	文脈通りの数量の関係の表し方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や□を用いて、数量の関係を表す方法の見当を付ける。 見当を付けた図や□を用いた数量の関係を表す方法を振り返る。 	数量の関係を図や□を使った式に表して仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	数量の関係を□を使った式に表わすと、簡潔に図や式に表せるよさを見いだす。
第3ステージ小4	折れ線グラフ	数量の変化を分かりやすく表す方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 数量の変化の様子を読み取るためには、折れ線グラフのどこに着目したらよいか見当を付ける。 見当を付けた折れ線グラフの着目するところを振り返る。 	折れ線グラフから数量の変化の様子を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	同じ数量の変化を表した表と折れ線グラフの共通点を見だし、変化の様子を見いだす。
	しりよりの整理	どのような観点で分類整理したらよいかについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 二つの観点で分類整理する方法の見当を付ける。 見当を付けた分類整理する方法を振り返る。 	図や表を用いて、必要な項目ごとに資料を分類整理する方法を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	二次元表をもとに資料を読み取る方法を見いだす。
	ともなって変わる量	ともなって変わる二つの数量の関係について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 2つの変量を□や△に当てはめ、□や△を用いた式の見当を付ける。 見当を付けた□や△を用いた式を振り返る。 	身の回りの二つの数量の関係を表やグラフと関連付けて説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	二つの数量の関係を調べ、変化の特徴を見いだす。
第4ステージ小5	比例	比例関係にある二つの数量の関係について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の関係を表や□や○などを用いた式に表す方法の見当を付ける。 見当を付けた表や式に表す方法を振り返る。 	比例関係にある二つの数量の対応や変化の仕方を、言葉の式や、□や○などを用いた式に表して仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	比例の関係にある二つの数量の対応や変化の仕方の特徴を見いだす。
	割合グラフ	二量の比較の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 表や式、図などを用いて、二量の比較の仕方の見当を付ける。 見当を付けた二量の比較の仕方を振り返る。 	表や式、図などを用いて、二量の比較の仕方を仲間に説明したり、仲間の考えを受け止めたりしようとする。	割合の意味や表し方を見いだす。
第4ステージ小6	文字式	加減と乗除の混じった文字を用いた式の計算の仕方について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 文字の値を求めるためにどのように確かめたらよいか見当を付ける。 見当を付けた文字の値の求め方を振り返る。 	式や図や表を用いて、どのようにして文字の値を求めるのかを効果的に相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	文字を用いると数量の関係を簡潔に式に表すことができることを図と結び付けてとらえ直す。
	ならべ方を組み合わせ方	組み合わせ方を求める方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や表を用いて、ならべ方や組み合わせ方を見当を付ける。 見当を付けたならべ方や組み合わせ方を振り返る。 	図や表を用いて、ならべ方や組み合わせ方が何通りあるかを効果的に相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	ならび方や組み合わせ方の意味や求め方を見いだす。
	比その応用	等しい比を見付ける方法について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> 図や式を用いて、等しい比の見つけ方を見当を付ける。 見当を付けた等しい比の見つけ方を振り返る。 	図や式を用いて、等しい比の見つけ方を相手に説明したり、相手の考えを受け止めたりしようとする。	比の意味や表し方を見いだす。

	比例と反比例	伴って変わる二つの数量の関係を表した表、グラフ、式の関連性について検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象から取り出した二つの数量の変化や対応を調べ、比例や反比例の関係の見当を付ける。 ・見当を付けた比例や反比例の関係を振り返る。 	比例の関係や反比例の関係の変化や対応の特徴を、表や、グラフ、式と関連付けて説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	変化や対応及びグラフの特徴を検討し、 $y=a \times x$ を「比例」、 $y=a/x$ を「反比例」と判断して位置付ける。
	資料の調べ方	柱状グラフのよさについて検討する場面	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表や柱状グラフから二つの資料の違いを調べる観点の見当を付ける。 ・見当を付けた資料の違いを調べる観点を振り返る。 	度数分布表や柱状グラフから考察したことを、資料全体の特徴や傾向を根拠に説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	度数分布表や柱状グラフを様々な観点から考察して共通点を見だし、関係付ける。
第4ステージ中1	比例と反比例関	身の回りで見られるともなって変わる二つの数量関係について仲間と検討する場面	日常の事象から取り出した二つの数量の変化や対応を基に、比例や反比例の関係であることの見当を付ける。見当を付けた関係やその見方・考え方のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを区別しながら、変化や対応の特徴、表や、グラフ、式の考えを用いて比例や反比例の関係にあることを筋道立てて説明し合う。	変化や対応及びグラフの特徴を検討し、 $y=a \times x$ を「比例」、 $y=a/x$ を「反比例」、それ以外の関係と判断して位置付ける。
	比例と反比例関	三つ以上の数量関係について比例や反比例の関数関係をもとに仲間と検討する場面	変化や対応の様子を調べ、比例、反比例の関係を見いだした考えを用い、複比例の特徴についての見当を付ける。見当を付けた特徴やその見方・考え方のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを区別しながら、変化や対応及びグラフの特徴を用いて複比例の関係を比例や反比例と比較し、互いの考えを筋道立てて説明し合う。	変化や対応及びグラフの特徴を検討し、比例、反比例を一意対応一決定関係と判断し、関数関係に位置付ける。
	資料の活用資	資料の大きさに差がある複数の資料を比較し解釈したことについて仲間と検討する場面	資料の大きさに差がある資料を比較するための方法について見当を付ける。見当を付けた方法やその見方・考え方のよさを振り返る。	資料の大きさを等しくするための補正の仕方を、度数分布表や度数折れ線に反映させて表して、その方法と比較結果を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	資料の大きさを等しくするための補正の仕方の一つとして相対度数があることをとらえるとともに、複数の資料を関連付ける。
			資料の分布が大きく異なる場合の資料の特徴について仲間と検討する場面	目的や資料の分布の特徴と照らして、根拠とする代表値の見当を付ける。見当を付けた事柄やその見方・考え方のよさを振り返る。	代表値を求め、それを根拠に資料の特徴を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。
第5ステージ中2	一次関数関	比例や反比例と比較し一次関数の特徴について仲間と検討する場面	日常の事象から取り出した二つの数量の変化や対応を比例の考え方に基に、一次関数の関係であることの見当を付ける。見当を付けた関係やその見方・考え方のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを区別しながら、変化や対応及びグラフの特徴を用いて一次関数の関係を比例や反比例と比較し、互いの考えを筋道立てて説明し合う。	変化や対応及びグラフの特徴を検討し、一次関数を一意対応一決定関係と判断し、関数関係に位置付ける。
	確率資	確率の実験をして起こり得る場合の特徴を検討することを、仲間と協力して行う場面	画鋲の針が上向きになることと下向きになることの起こりやすさの違いや、画鋲の表が出ることと裏が出ることの起こりやすさの違いを予想する。それを確かめる実験方法について見当を付ける。見当を付けた方法やその見方・考え方のよさを振り返る。	画鋲と硬貨を用いた実験結果を柱状グラフに表して比較し、それぞれで起こり得る場合の特徴を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	画鋲と硬貨を用いた実験を通して起こりやすさを比較して、硬貨の表が出ることと裏が出るのが同じ程度であることを、「同様に確からしい」という視点からとらえ直す。
		数学的確率の考え方を見いだすことやその考え方の応用の仕方を検討することを仲間と共に行う場面	確率の問題の条件と照らして、起こり得るすべての場合を効率よく求める方法について見当を付ける。見当を付けた方法やその見方・考え方のよさを振り返る。	起こり得るすべての場合を2次元表や樹形図に表して調べ、数学的確率の考え方による求め方を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	確率の意味を期待値としてとらえ直すとともに、数学的確率の計算方法をとらえる。復元事象と非復元事象のちがいを確率の求め方に関連付けてとらえる。
第5ステージ中3	関数 $y=ax^2$ 関	階段状に積み重ねた正方形の中から、段数の変化にもなって変わる数量について調べ、関数関係を説明する場面	2共変量の変化や対応の様子を調べ、新たな関数関係として関数 $y=ax^2$ を見いだした経験を基に、その特徴を帰納的に考えたり、1次関数から類推したりして関数関係の見当を付ける。見当を付けた関係やその見方・考え方のよさを振り返る。	自分の考えと似ている仲間の考えと異なる考えを区別しながら、表や式を用いて関数 $y=ax^2$ を既習の関数と比較しながら検討付けた変化や対応及びグラフの特徴を説明し合う。	変化や対応及びグラフの特徴を検討し、関数 $y=ax^2$ を2乗に比例する関数と判断し、関数関係に位置付ける。
	標本調査資	標本調査の妥当性を仲間と帰納的に確かめる場面	様々な無作為抽出の仕方でも仲間と標本調査を行い、標本平均を推定する。推定の仕方やその見方・考え方のよさを振り返る。	互いの標本平均の求め方と結果を説明したり、仲間の考えを受け止めたりする。	全数調査と標本調査の目的と方法の違いをとらえる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 理科（粒子領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第3ステージ小3	物と重さ	同じ体積でも、ものによって重さに違いがあるのか調べ、実験結果を基に考察する場面	物の形が同じでも、素材によって重さが違うことを、手で持った感覚や実験で調べた数値によってとらえる。	自分もっていた概念と実際に持った感覚とのずれ数値を調べることで克服しようとする。	分解しても、形を変えてもものの重さや変わらないことを自分の言葉で説明できる。
第3ステージ小4	空気と水の性質	空気鉄砲の玉が飛ぶ理由について考え、空気が縮むイメージ、水が縮まないイメージについて互いの考えを話し合う場面	どうすれば玉が遠くまで飛ぶのか調べるために、どのように実験すればよいのか、追究に見通しをもつ。	玉の飛ばし方について、互いのやり方や考え方を交流し、どうすればよく飛ぶのかについて明らかにしようとする。	空気と水を圧縮した時の違いについて、粒子のモデルを使った説明を理解することができる。
	金属、水、空気と温度	金属、水、空気それぞれの温まり方の違いを考え、実験結果を基に考察する場面	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールランプやサーモインク、サーモテープ、蝋など、実験で扱う器具の使い方を理解し、実験に見通しをもつ。 ・お風呂や冷暖房など、学習内容が生活とつながっていることをとらえる。 	観察・実験結果を基に、理由を話し合い、解釈のずれを克服しようとする。	水や空気の温まり方と金属の温まり方の違いについて、水や空気が動くことと関連付けて説明できる。
第4ステージ小5	物の溶け方	物が均一に溶けるのかどうか考え、実験方法を話し合ったり、実験結果から考察したりする場面	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の均一性について調べる方法を検討し、実験に見通しをもつ。 ・水にものが溶けた時、溶けた物は水溶液の全体に広がっていることをとらえる。 	物の溶け方についてもつイメージを交流し、互いの見方や考え方のずれを克服しようとする。	物が溶けた時の広がり方について、粒子のモデルを使って説明できる。
第4ステージ小6	燃焼の仕組み	物が燃えるために必要なものについて、実験方法を検討したり、校査察したりする場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを燃やすための気体を調べるため、比較の仕方や気体の集め方など、観察・実験の見通しをもつ。 ・火の燃え方について生活の中で気をつけていたことと学習内容がつながることをとらえる。 	物が燃えるための要素について話し合い、互いの解釈のずれを克服しようとする。	物が燃えるためには酸素が必要であることについて、火の燃やし方や消し方など生活場面とつなげて説明できる。
	水溶液の性質	水溶液の性質について基本的な種類を学んだ後、正体不明の水溶液を調べ、明らかにしていく場面	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような手順で調べるかについて複数の実験の見通しをもつ。 ・イオンは生活の様々な場面に関係していることをとらえる。 	実験方法の妥当性を検討し、互いの考えのずれを克服しようとする。	水溶液の正体について、実験結果を基に分析し、明らかにすることができる。

第4 ステージ 中1	物質の性質	状態変化の様子を粒子モデルで考え、体積は変化するが、質量は変化しないことを説明する場面	ロウの状態変化について、実験結果を予想する中で、粒子モデルを使った説明に見通しをもつ。	実験結果をもとに、粒子モデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	状態変化では質量は変わらないが、体積は変化することを粒子モデルで説明できる。
	気体の性質	気体の性質について特徴を明らかにする場面			
	水溶液の性質	物質が水に溶けるとはどのようなことか説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 粒子モデルを使って、観察・実験から、水に溶ける現象の説明に見通しをもつ。 水に溶ける現象は、粒子が細かく均一に散らばる現象ととらえ直す。 	観察・実験結果をもとに、水に溶ける現象の粒子モデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	水に溶けるという現象を、粒子モデルで説明できる。
第5 ステージ 中2	物質の成り立ち	分解について、原子・分子の考えを基に説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 実験を通して、分解について、原子・分子を使った説明に見通しをもつ。 物質の違いは、原子の種類や個数の違いで説明できることをとらえる。 	実験結果をもとに、分解についての原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	分解について、原子・分子のモデルで説明できる。
	いろいろな化学変化	化学変化について検討する場面	原子・分子のモデルを使って、化学変化について見通しをもって実験に取り組む。	実験結果をもとに、化学変化について原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	化学変化について、原子・分子のモデルで説明できる。
	イオン	物質が化合する質量比について調べる場面	物質が化合する質量比について、見通しをもって実験に取り組む。	実験結果をもとに、化合する質量比について原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	物質が化合する質量比について、原子・分子の考えを使って説明できる。
第5 ステージ 中3	酸とアルカリ	イオンの存在について調べる場面	観察・実験を通して、イオンの存在とその性質について、見通しをもつ。	観察、実験結果について、イオンのモデルで表現し、解釈のずれを克服しようとする。	原子がイオンになるしくみについて、電子の移動をモデルで説明できる。
	電池	酸とアルカリの中和について調べる場面	中和について、観察・実験から、現象の説明について見通しをもつ。	観察、実験結果について、イオンのモデルで表現し、解釈のずれを克服しようとする。	中和について、イオンのモデルを使いながら、根拠にもとづいて説明できる。
	電池	電池のしくみについて調べる場面	<ul style="list-style-type: none"> 電池のしくみについて、見通しをもって実験に取り組み、説明の根拠を見いだす。 イオンは生活の様々な場面に関係していることをとらえる。 	実験結果を示すイオンのモデルの妥当性を検討し、ずれを克服しようとする。	電池のしくみについて、イオンや電子の移動を、モデルを使いながら、根拠にもとづいて説明できる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 理科（エネルギー領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第3ステージ小3	風やゴムの働き	風やゴムの力を使ったゲームを設定し、同じグループになった仲間と車などの形状を相談したり、試行したりする場面	<ul style="list-style-type: none"> 風やゴムの力を使って車などの物をより遠くへ、あるいはちょうどよい位置へ動かすためには風やゴムをどのように変えればよいか明らかにしようとする。 風やゴムの力が生活の中で生かされていることに気付く。 	風やゴムの力をうまく生かす方法について、互いの結果を仲間と共有し、普遍的な決まりを見いだすことができる。	風の強さの違いによるものの動き方の違いを比べたり、ゴムを伸ばした長さやゴムの太さ（本数）の違いとものの動き方の違いを比べたりする。
	光の性質	光を反射させたり集めたりした結果を共有し、考察する場面	光がもつ明るさや温かさという性質が、自分の生活や季節や時間などの自然事象にかかわっていることに気付く。	光を反射させたり、集めたりするために、仲間と一緒に実験する。	光を当てた場所と当てない場所の明るさや温かさを比べる。
	磁石の性質	磁石に鉄が引き付けられる理由や磁化した鉄の性質について、互いの解釈を交流する場面	磁石の性質が生活に利用されていることに気づき、極や磁化などの性質を明らかにしようとする。	磁石の性質を明らかにするために繰り返し実験を行い、結果を仲間と共有する。	磁石に引きつけられる物を比べたり、磁石同士を近づけた際の異極と同極の違いを比べたりする。
	電気の通り道	電気の通り道を電気がどのように通っていくのか解釈を交流する場面	金属が電気を通すことを理解し、身のまわりの電気を使った道具には必ず電気の通り道があることに気付く。	電気の通り道について予想や予想の根拠を話し合い、ずれを明らかにしようとする。	電気を通すものと通さないものや、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方を比べる。
第3ステージ小4	電気の働き	電池のつなぎ方による働きの違いをモデルを用いて説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 電池の数とつなぎ方を変えた時の電球やモーターの違いを明らかにしようとして実験方法を計画する。 光電池の働きや利用の仕方について理解する。 	電池のつなぎ方の違いによる電気の働きの違いについて、予想や結果を交流しながら明らかにしていく。	電球を点けたりモーターを回したりする電気の働きの変化と、電池の数やつなぎ方とを関係付けて説明する。
第4ステージ小5	振り子の運動	実験方法を共有し、問いを解決しようと協力して実験を行う場面	メトロノームやブランコなど、生活の中にあるものにも振り子の法則が当てはまることに気付く。	振り子が一往復する時間を決める要因は何か明らかにしようとして、自分だけでなく複数の結果を基に結論を得ようとする。	振り子が一往復する時間の要因として予想される「振幅」「振り子の長さ」「重りの重さ」について条件制御しながら調べる。
	電流の働き	電流を流すことで鉄心が磁化されることについて、自他の解釈を交流する場面	<ul style="list-style-type: none"> 電磁石の強さの違いを調べるための実験を計画する。 電磁石の仕組みがモーターに使われていることを理解する。 	電磁石を強くしたいという願いを共有し、そのための要件を明らかにしようとして実験したり、話し合ったりする。	「電流の強さ」「巻き数」などの条件を変えながら、電磁石の強さを調べる。
第4ステージ小6	てこの規則性	てこの規則性について分かったことを説明する場面	身のまわりにてこを利用した道具がたくさんあることに気付く。	てこの規則性について明らかにしようとして、グループの仲間と協力しながら実験を行う。また、他グループと結果を交流し、より科学的に妥当な結論を得ようとする。	てこのつり合いと重さの関係について、条件制御をして調べたり、推論を重ねたりしながら明らかにしていく。
	電気の利用	身のまわりにある電化製品は、それぞれ電気を何に変換して利用されているのか話し合う場面	身のまわりには電気を光、音、熱などに変換して利用している道具があることに気付く。	電気がどのように生活に利用されているのかを明らかにしようとして、実験器具の使い方を互いに確認し合いながら調べる。	電流の強さや電熱線の太さなど条件を制御しながら、電気が光、熱、音などに変換された時の性質を明らかにする。

第4ステージ中1	力と圧力	状態変化の様子を粒子モデルで考え、体積は変化するが、質量は変化しないことを説明する場面	ロウの状態変化について、実験結果を予想する中で、粒子モデルを使った説明に見通しをもつ。	実験結果をもとに、粒子モデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	状態変化では質量は変わらないが、体積は変化することを粒子モデルで説明できる。
	光と音	物質が水に溶けるとはどのようなことか説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 粒子モデルを使って、観察・実験から、水に溶ける現象の説明に見通しをもつ。 水に溶ける現象は、粒子が細かく均一に散らばる現象と捉え直す。 	観察・実験結果をもとに、水に溶ける現象の粒子モデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	水に溶けるという現象を、粒子モデルで説明できる。
第5ステージ中2	電流	分解について、原子・分子の考えを基に説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 実験を通して、分解について、原子・分子を使った説明に見通しをもつ。 物質の違いは、原子の種類や個数の違いで説明できることを捉える。 	実験結果をもとに、分解についての原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	分解について、原子・分子のモデルで説明できる。
	電流と磁界	化学変化について検討する場面	原子・分子のモデルを使って、化学変化について見通しをもって実験に取り組む。	実験結果をもとに、化学変化について原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	化学変化について、原子・分子のモデルで説明できる。
		物質が化合する質量比について調べる場面	物質が化合する質量比について、見通しをもって実験に取り組む。	実験結果をもとに、化合する質量比について原子・分子のモデルの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	物質が化合する質量比について、原子・分子の考えを使って説明できる。
第5ステージ中3	運動の規則性	イオンの存在について調べる場面	観察・実験を通して、イオンの存在とその性質について、見通しをもつ。	観察、実験結果について、イオンのモデルで表現し、解釈のずれを克服しようとする。	原子がイオンになるしくみについて、電子の移動をモデルで説明できる。
	力学的エネルギー	酸とアルカリの中和について調べる場面	中和について、観察・実験から、現象の説明について見通しをもつ。	観察、実験結果について、イオンのモデルで表現し、解釈のずれを克服しようとする。	中和について、イオンのモデルを使いながら、根拠にもとづいて説明できる。
	エネルギー	電池のしくみについて調べる場面	<ul style="list-style-type: none"> 電池のしくみについて、見通しをもって実験に取り組み、説明の根拠を見いだす。 イオンは生活の様々な場面に関係していることをとらえる。 	実験結果を示すイオンのモデルの妥当性を検討し、ずれを克服しようとする。	電池のしくみについて、イオンや電子の移動についてモデルを使いながら、根拠にもとづいて説明できる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 理科（生命領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第3ステージ小3	昆虫と植物	モンシロチョウがキャベツの葉の裏に卵を産みつける理由について、モンシロチョウの天敵や食糧と関係付けながら話し合う場面	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や植物の育て方を調べ、適切な世話をする。 昆虫や植物の育ち方を観察し、記録を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫を育てようと餌についての情報を交換したり、体のつくりについて気付いたことを交流したりする。 植物を育てるために、種まきや水やりなどの作業を協力して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や植物の育ち方を調べ、共通点を見いだす。 昆虫や植物の体のつくりを、時間経過と共に観察し、どのように変化しているか調べる。
	身近な自然の観察	様々な生物が「食糧」「天敵」「棲みか」などの関係でつながっていることを話し合う場面	昆虫が生きるためには食糧があることや棲みかとなる環境が不可欠であることや、それぞれの生物に天敵がいることに気付く。	身近な自然の中で昆虫などの生き物を探し、捕まえた生き物を見せ合ったり、発見したことを共有したりする。	身の回りの自然を観察し、生き物を捕まえようとする中で、生き物がどこにいるかを知る。
第3ステージ小4	人の体のつくりと運動	骨と筋肉の働きについてモデルを用いて説明する場面	自分の体にも骨や筋肉があり、その働きによって体を動かすことができることに気付く。	体が動く仕組みについて明らかにしようと、知識を話し合ったりモデル実験を行った結果を共有したりする。	骨と筋肉、また関節の働きについて関係付けながら説明する。
	季節と生物	季節による生き物の様子の違いについて話し合う場面	季節ごとに生物の様子を観察したり、気温の変化を調べたりし、記録を継続していく。	季節ごとの生物の様子の違いについて、気付いたことや知っていることを交流する。	季節ごとの植物や動物の活動と気温とを関係付けて理解する。
第4ステージ小5	植物の発芽・成長・結実	発芽、成長、受粉と結実の条件や条件を制御しながら調べる方法について話し合う場面	<ul style="list-style-type: none"> 条件制御に目を向けながら、植物の発芽、成長、結実の仕組みについて調べるために実験の計画を立てる。 種子には茎や根のものになる部分と養分が含まれていることに気付く。 	発芽や成長、結実の条件について予想を交流し、互いの考えのずれを克服しようとする。	植物が発芽する条件や成長する条件、受粉と結実の関係について、条件制御しながら実験を行い調べる。
	動物の誕生	魚や人の誕生についてまとめ、互いに説明する場面	植物の発芽と魚の誕生、人の誕生について共通点と違いを見いだす。	水中の生物を観察したいという願いを共有し、実験器具の使い方や発見したことを伝え合う。	メダカが卵の中で成長する様子や水中の小さな生物の様子を観察する。
第4ステージ小6	人の体のつくりと働き	臓器の働きについて調べたことを基にモデルを使って説明し合う場面	調べた臓器の働きが自分自身の体や人以外の動物にも当てはまることに気付く。	人の体のつくりと、臓器の働きについて明らかにしようと、協力して調べたり、話し合ったりする。	呼吸、消化・吸収、血液の循環について調べ、それぞれに関係する臓器の位置や働きと関係付けながら説明する。
	植物の養分と水の通り道	でんぷんの出来方と植物の成長の関係について話し合う場面	でんぷんの出来方や水の通り道について調べる方法を考える。	でんぷんのでき方や水の通り道について明らかにしようという問いを共有し、複数の植物で調べる。	でんぷんのでき方や水分の通り道について予想し、実験で明らかにする。
	生物と環境	食物連鎖など生物相互のかかわりについて話し合う場面	人間も含めた生物全てがかかわり合いながら生きていることに気付く。	生物と環境とのかかわりについて仲間と協力しながら調べ、まとめる。	生物同士のつながりを、それぞれの食べ物と関係付けて説明する。

第4ステージ中1	植物の体のつくりと働き	植物の体のつくりと働きについて調べる場面	植物のつくりと働きの巧妙さに気付く。働きを確かめるために、条件を制御し、見直しをもつ。	実験結果をもとに、作りと働きについての妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	既習事項と実験結果を分析・解釈し、妥当な説明をすることができる。
	植物の仲間	種子植物や種子をつくらない植物について、観察結果をもとにそれぞれの特徴を明らかにする場面	<ul style="list-style-type: none"> 様々な植物の観察結果から、特徴に合わせて分類する見直しをもつ。 植物が体のつくりの特徴に基づいて分類できることをとらえる。 	観察結果をもとに、植物の分類の仕方の妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	植物の分類の仕方について、体のつくりの特徴を根拠に説明できる。
	生物の観察	身近な動植物について、環境に合わせて生活していることを明らかにする場面	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動植物の観察結果から、生育する場所や生育状況についての規則性を見出す見直しをもつ。 環境によって生活する動植物の種類や生育状況に相違があることをとらえる。 	観察結果をもとに、動植物の生育する場所や生育状況についての規則性の妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	環境によって生活する動植物の種類や生育状況に相違があることを、観察結果を根拠に説明できる。
第5ステージ中2	動物の体のつくりと働き	動物がどのように生命活動を維持しているのかを明らかにする場面	<ul style="list-style-type: none"> 消化や呼吸、血液の循環の観察、実験結果から、生命を維持する仕組みの説明に見直しをもつ。 体の様々な器官が働くことによって、動物が生命を維持していることをとらえる。 	観察、実験結果をもとに、動物が生命を維持する仕組みの妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	動物が生命を維持する仕組みについて、消化や呼吸、血液の循環の観察、実験結果を根拠に説明できる。
	動物の仲間	脊椎動物や無脊椎動物について、観察結果をもとにそれぞれの特徴を明らかにする場面	<ul style="list-style-type: none"> 脊椎動物や無脊椎動物の観察結果から、観点に基づいて分類する見直しをもつ。 動物が呼吸の仕方や体温などの観点に基づいて、いくつかの仲間に分類できることをとらえる。 	観察結果をもとに、動物の分類の仕方の妥当性を検討し、解釈のずれを克服しようとする。	動物の分類の仕方について、呼吸の仕方や体温などの観点を根拠に説明できる。
第5ステージ中3	生物の成長と殖え方	生物の成長や殖え方の特徴について調べる場面	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験結果から、生物の成長や殖え方の違いを説明する見直しをもつ。 細胞は分裂によって殖えることや有性生殖と無性生殖との違いをとらえる。 	観察、実験結果をもとに、細胞の増え方や二つの生殖の特徴についての解釈のずれを克服しようとする。	生物の成長と殖え方について、細胞分裂や二つの生殖方法を根拠に説明できる。
	遺伝の規則性と遺伝子	親の形質が子や孫に伝わる時の規則性について明らかにする場面	<ul style="list-style-type: none"> 交配実験の結果から、遺伝の規則性を説明する見直しをもつ。 染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わることや遺伝子は世代を超えて伝えられることをとらえる。 	実験結果をもとに、遺伝の規則性についての解釈のずれを克服しようとする。	遺伝の規則性について、染色体に関する図やモデルを活用した実験を根拠に説明できる。
	生物と環境	自然界のつり合いや影響を与える要因について調べる場面	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果から、自然界のつり合いの仕組みについて説明する見直しをもつ。 自然界では、生態系の中でつり合いが保たれていることや人間の活動などの様々な要因が影響を与えていることをとらえる。 	調査結果をもとに、自然界のつり合いの仕組みについての解釈の妥当性を検討し、ずれを克服しようとする。	自然界のつり合いの仕組みについて、調査結果を根拠に説明できる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 理科（地球領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第3ステージ小3	太陽と地面の様子	影の変化と太陽の位置の変化の関係についてモデルを用いて考える場面	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の位置や影の向きと長さの変化を継続して調べる。 太陽の動きが地面の温かさや日当たりに関係していることに気付く。 	太陽の位置変化や地面の様子の違いについて話し合い、とらえ方のずれを克服しようと観察したり考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の位置や影の向きと長さの違いを、時間ごとに観察し、違いを比べる。 日なたと日陰の暖かさや湿り気の違いを比べる。
第3ステージ小4	天気の様子	水の自然蒸発と結露の関係について実験結果をもとに考察する場面	<ul style="list-style-type: none"> 水が蒸発することで雲ができ、雨が降るという水の循環について、身近な生活とつなげて考える。 天気による1日の気温の変化を継続的に調べ記録する。 	水が蒸発したり結露したりすることについての素朴な見方・考え方を交流し、互いのとらえ方のずれを克服しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> 水が蒸発したり結露したりすることについて実験を通して明らかにする。 1日の気温の変化と天気とを関係付けて理解する。
	月と星	月の形の変化や天球上の動きについてモデルを用いて考える場面	月の形や位置を継続的に観察し記録する。	月の形や位置の変化を明らかにしようとして調べ、気付いたことを交流する。	観察結果をもとに、月の形や位置が時間や日によって変化していることを理解する。
第4ステージ小5	流水の働き	<ul style="list-style-type: none"> モデル実験を行い、水を流したことによる変化について話し合う場面 学習したことを基に水害を防ぐ防災モデルを考える場面 	<ul style="list-style-type: none"> 川の流れが土地の形状を決めていることや、流れる水の働きを考慮して身近な川が整備されていることに気付く。 雨の降り方と増水、土地に及ぼす影響について関係付けて考える。 	流れる水の働きについて明らかにしようとしてモデル実験を行い、結果を交流することでより妥当な結論を得ようとする。	<ul style="list-style-type: none"> 流す水の量や斜度、川の道筋など条件を考慮しながらモデル実験を行う。 水の量や速さと流れる水が土地に及ぼす変化とを関係付けて考える。 上流から下流までの石の様子を比べる。
	天気の変化	雲の種類や量と天気の変化についてまとめ、説明する場面	<ul style="list-style-type: none"> 雲の量と天気の変化の関係を継続的に観察したり、インターネットなどを活用して調べたりする。 雲の位置を調べることで天気を予想することができることに気付く。 	天気の変化と雲との関係を明らかにしようとして、知っていることや観察して分かったことを話し合う。	雲の量や種類と天気の変化を比べ、それぞれの関係を見いだす。
第4ステージ小6	土地のつくりと変化	観察した地層の様子や地層モデルを基に、土地のつくりや変化について話し合う場面	我々が生きている土地や大地は、長い年月を経て層が重なるように形成されていることに気付く。	大地の様子を明らかにしようとして地層を観察したり、予想を交流したりする。	露頭の様子から地層の空間的広がりや、時間的な変化を推論する。
	月と太陽	月の形と太陽の位置との関係についてモデルを用いて説明する場面	月の形や位置の変化には規則性があり、太陽との位置関係の変化に周期があることや、その周期が暦などの生活に利用されてきたことに気付く。	月の形や位置、表面の様子について明らかにしようという問いを共有し、モデルを用いて考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 月の形の変化を太陽の位置と関係付けながら説明する。 月の位置の変化と太陽の位置の変化を比べる。

第4ステージ中1	火山と地震 地層の重なり	地層観察の結果と既習事項から、地層のでき方や時間的変化、地質年代、地層の広がりについて明らかにする場面	地層観察を通して、地層のでき方や時間的変化、地質年代、地層の広がりに関する疑問について、既習事項をもとに見通しをもって解き明かそうとする。	地層の観察結果をもとに、地層のでき方や時間的変化、地質年代、地層の広がりに関する解釈のずれを克服しようとする。	既習事項と観察結果をもとに、地層のでき方や時間的変化、地質年代、地層の広がりについて分析・解釈し、説明できる。
第5ステージ中2	天気の変化	雲がでる雨が降るしくみについて明らかにする場面 ----- 前線と天気の関係について明らかにする場面	雲がでる雨が降るしくみについて疑問をもち、生活体験や既習事項をもとに見通しをもって解き明かそうとする。 ----- 前線と天気の関係について、生活体験や既習事項をもとに見通しをもって解き明かそうとする。	雲がでる雨が降るしくみについて、実験・観察結果の解釈のずれを克服しようとする。 ----- 前線と天気の関係について、前線のモデル実験や気象観測の結果についての解釈のずれを克服しようとする。	雲がでる雨が降るしくみについて、実験・観察結果について分析・解釈し、説明できる。 ----- 前線と天気の関係について、前線のモデル実験や気象観測の結果を分析・解釈し、説明できる。
第5ステージ中3	天体の動き	日周運動、年周運動のしくみについて明らかにする場面	日周運動、年周運動のしくみについて、見通しを持って解き明かそうとする。	日周運動、年周運動のしくみについて、モデル操作や観測結果をもとに、解釈のずれを克服しようとする。	日周運動、年周運動のしくみについて、モデル操作や観測結果をもとに、分析・解釈し、説明できる。

資質・能力を位置付けた題材配列表 音楽科（第2ステージ）

学年	題材 主教材	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小1	うたで なかよしに なろう	「ひらいたひ らいた」で手をつ なぎ、遊ぶ場 面	「ひらいたひらいた」の楽曲 の気分を感じ取る。	歌遊びを通して、仲間との関 わりを深める。	「ひらいたひらいた」の音楽 に合わせて仲間と体を動かし て表現を工夫する。
	はくを かんじて あそぼう	「なまえあそ び」をグループ で行う場面	「なまえあそび」の問いと 答えの働きが生み出すよさ や面白さを感じ取る。	グループで「なまえあそび」 を行うで、仲間との関わりを 深める。	拍に合わせて、食べ物の名前 を感じ取ったり、表現を工夫 したりする。
	はくを かんじて リズムを うとう	「しろくまの ジェンカ」でリ ズムを演奏す る場面	「しろくまのジェンカ」の 楽曲の気分を感じ取る。	仲間とリズム打ちをするを通 して、仲間との関わりを深め る。	歌詞の面白さを感じ、思いを もって表現を工夫する。
	どれみで うたったり ふいたり しよう	「なかよし」を 友達とまねっ こ遊びする場 面	「なかよし」の伴奏を聴い て、声を合わせたり、鍵盤 ハーモニカで音を合わせた りする。	まねっこ遊びを通して、仲間 との関わりを深める。	歌と鍵盤ハーモニカに分かれ て演奏するで、全体としてき れいな演奏を目指す表現を工 夫する。
	ようすを おもいうかべ よう	「はるなつあ きふゆ」を歌う 場面	「はるなつあきふゆ」を聴 き、楽曲の気分を感じ取る。	「はるなつあきふゆ」の表現 方法を考え、仲間の思いや願 いを知る。	「はるなつあきふゆ」の歌詞 を考えるで、歌詞の内容を身 近なものとしてとらえ、思い をもって表現を工夫する。
	いろいろな おとを たのしもう	「おとさがし」 で1つの楽器 からいろい ろな音の出し方 を見付ける場 面	トライアングルと鈴のいろ いろな音の違いを聴き取 る。	仲間と互いの音のよさを認め ながら、仲間との関わりを深 める。	トライアングルと鈴のいろい ろな音の違いを見付け、思い をもって表現を工夫する。
	にほんの うたを たのしもう	「おちゃらほ い」を仲間と手 遊びをする場 面	日本の音楽のよさや、手遊 び歌の面白さを感じ取る。	遊び歌を通して仲間との関わ りを深める。	「おちゃらかほい」の手遊び を自分たちで考えるにより、 思いをもって表現を工夫す る。
おとを あわせて たのしもう	「やまびごご っこ」を交互唱 する場面	「やまびごごっこ」の問い と答えの働きが生み出す面 白さを感じ取る。	「やまびごごっこ」を交互唱 するで、仲間との関わりを深 める。	「やまびごごっこ」の強弱や 歌い方を考え、思いをもって 表現を工夫する。	
小2	うたで ともだちの わを ひろげよう	「ロンドンば し」を仲間と行 う場面	「ロンドンばし」の伴奏を 聴いて、伴奏や仲間の声に 合わせる。	「ロンドンばし」の遊びを行 うで、仲間との関わりを深め る。	「ロンドンばし」の速さを変 えたり、歌詞を変えたりし て、思いをもって表現を工夫 する。
	はくの まとまりを かんじとろう	「トルコこう しんきょく」を 鑑賞する場面	「トルコこうしんきょく」 の楽曲の気分を感じ取る。	感想発表を通して、仲間の思 いや願いを知る。	曲に合わせてリズムを打ち、 思いをもって表現を工夫す る。
	音の たかさの ちがいを かんじとろう	「かえるのが っしょう」を鍵 盤ハーモニカ で演奏する場 面	互いの鍵盤ハーモニカの演 奏を聴いて、自分の音を合 わせる。	全体で演奏するで、仲間との 関わりを深める。	歌詞の内容から、思いをもっ て表現を工夫する。
	ひょうしを かんじて リズムを うとう	「いるかはざ んぶらこ」のリ ズムを打ちな がら歌う場面	「いるかはざんぶらこ」の 歌詞の楽しさや楽曲の気分 を感じ取る。	「いるかはざんぶらこ」の曲 の気分を、体の動きなどで表 す。	歌詞の面白さや3拍子のリズ ムを感じ、思いをもって表現 を工夫する。
	いろいろな 音を たのしもう	「虫のこえ」を 歌う場面	「虫のこえ」の楽曲の気分 を感じ取る。	2つのグループに分かれて交 互唱するで、仲間との関わり を深める。	それぞれの虫の声を実際に聴 いたり、虫を写真で見たりす る中で、歌詞の中身を身近な ものとしてとらえ、思いをも って表現を工夫する。

ようすをおもいうかべよう	「夕やけこやけ」を歌う場面	互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせる。	感想発表から、仲間の思いや願いを知る。	夕焼けの写真や想像から、歌詞の内容を身近なものとしてとらえ、思いをもって表現を工夫する。
日本のうたを楽しもう	「ずいずいずっころばし」の手遊びをしながら歌う場面	日本の音楽が醸し出す面白さや美しさを感じ取る。	歌遊びを通して、仲間との関わりを深める。	手遊びの仕方を工夫するなど、思いをもって表現を工夫する。
音をあわせて楽しもう	「こぐまの二月」を演奏する場面	「こぐまの二月」の楽曲の気分を感じ取る。	演奏を通して、仲間との関わりを深める。	副次的な旋律をどのように入れたらきれいに聴こえるか考えながら、思いをもって表現を工夫する。

資質・能力を位置付けた題材配列表 音楽科（第3ステージ）

学年	題材 主教材	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小3	明るい歌声をひびかせよう	「海風きって」を工夫しながら合奏する場面	音の高さの違いや旋律を聴き取り、その特徴を感じ取る。	仲間と協力しながら「海風きって」をつくり上げる。	「ドレミで歌おう」の曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	リコーダーとなかよしになろう	「とどげようこのゆめを」で、歌とリコーダーを合わせる場面	リコーダーの音色を聴き取り、その響きのよさを感じ取る。	仲間と協力して、「とどげようこのゆめを」をつくり上げる。	「小さな花」の曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	拍のながれにのってリズムをかんじとろう	「手拍子でリズム」で仲間とリズムづくりをする場面	友達の楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら、自分の音を合わせる。	拍の流れにのって手拍子でリズムを打ち表し、音楽をつくり上げる。	情景を思い浮かべたり、曲の雰囲気を味わったりしながら、思いや意図をもって表現を工夫する。
	せんりつのとくちょうをかんじとろう	「あの雲のように」で歌とリコーダーを合わせる場面	旋律の特徴を感じ取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取る。	仲間と協力して、「山のホルカ」をつくり上げる。	「ふじ山」の歌詞の内容にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	いろいろな音のひびきをかんじとろう	「パフ」でリコーダーの合奏をする場面	音色やその重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取る。	友達の楽器の音やほかのパートの旋律を聴きながら、自分の音を合わせて、合奏をつくり上げる。	楽器の音の組み合わせや重ね方、反復の仕方などを試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	日本の音楽に親しもう	「ラドレの音でせんりつづくり」で仲間と旋律をつなげ、まとまりのある音楽をつくる場面	郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取る。	仲間と協力して、お囃子の旋律をつくり上げる。	ラドレの三つの音を使って旋律を工夫し、どのような旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもって表現を工夫する。
	音を合わせて楽しもう	「エーデルワイス」で二部合唱や二重唱をする場面	友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせる。	仲間と協力し、「エーデルワイス」をつくり上げる。	「歌おう声高く」の歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
小4	明るい歌声をひびかせよう	「歌のにじ」で仲間のつくった旋律に合わせて歌う場面	二重唱で歌われる音楽の楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取る。	仲間と協力して、「歌のにじ」をつくり上げる。	「いいありそう」の歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	拍の流れにのってリズムを感じ取ろう	「まきばの朝」で発声や発音に気をつけながら仲間と歌をつくり上げる場面	打楽器の音色やリズムと旋律の重なりが生み出す曲想を感じ取る。	仲間の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れにのって、音楽をつくり上げる。	リズムの特徴を理解して、拍の流れにのって、反復、問いと答え、変化などを生かしたリズムアンサンブルをつくり、思いや意図をもって表現を工夫する。
	せんりつのとくちょうを感じ取ろう	「聖者の行進」で仲間と音を合わせてリコーダー二重奏をする場面	楽器の音色、旋律の特徴等が醸し出す曲想とその変化を感じ取る。	友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて二部合唱をつくり上げる。	歌詞の内容や旋律の特徴にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。
	せんりつと重なりを感じ取ろう	「もみじ」を主旋律と副次的な旋律に分かれて二部合唱する場面	仲間の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせる。	仲間と協力しながら「パレードホッポー」をつくり上げる。	「雨の公園」の歌詞や曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。

<p>いろいろな音のひびきを感じ取ろう</p>	<p>「音のカーニバル」で歌と楽器のリズムを合わせて合奏する場面</p>	<p>旋律の特徴や楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取る。</p>	<p>仲間と協力しながら、音の重ね方、反復や変化など音楽の仕組みを生かして、まとまりのある音楽をつくり上げる。</p>	<p>「茶色の小びん」の曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。</p>
<p>日本の音楽に親しもう</p>	<p>「ソーラン節」の特徴に合った歌い方を話し合う場面</p>	<p>箏の音色の特徴、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取る。</p>	<p>仲間と協力して、「ソーラン節」をつくり上げる。</p>	<p>郷土の音楽やその曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。</p>
<p>曲の気分を感じ取ろう</p>	<p>「赤い屋根の家」の歌詞の内容を話し合い、つくり上げていく場面</p>	<p>「赤い屋根の家」の楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取る。</p>	<p>仲間と協力して、「オーラリー」をつくり上げる。</p>	<p>「赤い屋根の家」の歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を試行錯誤し、思いや意図をもって表現を工夫する。</p>

資質・能力を位置付けた題材配列表 音楽科（第4ステージ）

学年	題材 主教材	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	ゆたかな 歌声を ひびかせよう	「すてきな一 歩」を合唱する 場面	「すてきな一歩」の曲想の変 化を感じ取る。	仲間と合唱するで、仲間の表 現のよさを認める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	いろいろな 音のひびきを 味わおう	「いつでもあ の海は」を合唱 する場面	伴奏と合わせ、音楽表現の豊 かさを感じ取る。	仲間と合唱するで、仲間の表 現のよさを認める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	和音の 美しさを 味わおう	「静かにねむ れ」の合奏をす る場面	声部の役割や全体の響きを感じ 取り、声や音を調和させ る。	合奏するで、仲間の表現のよ さを認める。	曲想を生かした表現を試行錯 誤し、思いや意図をもって表現 を工夫する。
	曲想を 味わおう	「威風堂々第 1番」を鑑賞す る場面「まっか な秋」を合唱す る場面	音楽を特徴づけている要素や 構造と曲想との関わりやその 変化などの特徴を感じ取る。	感想発表から、仲間の表現の よさを認める。	曲想を生かした表現を試行錯 誤し、思いや意図をもって表現 を工夫する。
	詩と音楽を 味わおう	「山田耕筰の 歌曲」を歌つた り鑑賞したり する場面	音楽を特徴づけている要素や 構造と曲想との関わりやその 変化などの特徴を感じ取る。	感想発表から、仲間の表現の よさを認める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	日本と世界の 音楽に 親しもう	「音楽の音で 旋律づくり」で 五音音階を生 かして旋律を つくる場面	音楽を特徴づけている要素な どの特徴を感じ取る。	自分がつくった旋律の発表か ら、仲間の表現のよさを認め る。	音楽を特徴づけている要素を 生かした表現を試行錯誤し、思 いや意図をもって表現を工夫 する。
	心をこめて 表現しよう	「大空がむか える朝」を合唱 する場面	要素や構造と曲想との関わり やその変化などの特徴を感じ 取る。	仲間と合唱するで、仲間の表 現のよさを認める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
小6	豊かな歌声を ひびかせよう	「星空はいつ も」を合唱する 場面	声部の役割や全体の響きを感じ 取り、声や音を調和させ る。	合唱し、互いの声部を聴き合 うで、仲間の表現のよさを認 める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	いろいろな 音のひびきを 味わおう	「木星」を鑑賞 する場面 「われは海の 子」を合唱する 場面	音楽を特徴づけている要素や 構造と曲想との関わりやその 変化などの特徴を感じ取る。	感想発表から、仲間の表現の よさを認める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	和音の 美しさを 味わおう	「星の世界」を 合唱する場面	声部の役割や全体の響きを感じ 取り、声や音を調和させ る。	合唱し、互いの声部を聴き合 うで、仲間の表現のよさを認 める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	曲想を 味わおう	「風を切って」 を合奏する場 面	声部の役割や全体の響きを感じ 取り、声や音を調和させ る。	合奏するで、仲間の表現のよ さを認める。	曲想を生かした表現を試行錯 誤し、思いや意図をもって表現 を工夫する。
	詩と音楽を 味わおう	「ふるさと」を 合唱する場面	声部の役割や全体の響きを感じ 取り、声や音を調和させ る。	合唱し、互いの声部を聴き合 うで、仲間の表現のよさを認 める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	日本と世界の 音楽に 親しもう	「楽器による 世界の国々の 音楽」を鑑賞す る場面 「越天楽今様」 を歌う場面	音楽を特徴づけている要素や 構造と曲想との関わりやその 変化などの特徴を感じ取る。	鑑賞した国々の音楽のよさを 言葉で表す。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。
	心をこめて 表現しよう	「あおげばど うとし」を合唱 する場面	伴奏や指揮と合わせ、音楽表 現の豊かさを感じ取る。	合唱し、互いの声部を聴き合 うで、仲間の表現のよさを認 める。	歌詞の内容や曲想を生かした 表現を試行錯誤し、思いや意 図をもって表現を工夫する。

中 1	音楽の 楽しさを 味わおう1 ～声で表現 する魅力～	表現の感じ方 や聴き方の見 方や考え方を 広げる場面	音楽の要素や構造と曲想との かかわりや、その変化の特徴 を感じ取る。	表現の良さに着目して音楽を 聞き、認める。 表現の良さを言葉などで伝え る。	工夫を加えた結果、新しい響き をとらえる。
	表現を練り 上げよう1 ～個が主体 となる 合唱表現～	自分がやりたい 表現やその 方向をより明 確にする場面	・声部の役割や全体の響きを感じ取り、声を合わせる。 ・楽曲の諸要素や構造と曲想とのかかわりやその変化の特徴を感じ取る。 ・指揮者伴奏と合わせた音楽表現の豊かさを感じ取る。	・仲間の歌声の良さを見つけ、言葉や態度（身振りや相づち、オノマトベなど）で伝える。 ・相手の意見を尊重する態度をもつ。	思いや意図をもって、曲想やその変化をとらえて表現を工夫する。
	表現を 高めよう ～音楽の 諸要素の 追究を とおして～	より深い表現 を目指して可 能性を見出す 場面	曲想を感じ取り、積極的に音楽表現を工夫しようとする。	音楽の要素や構造とのかかわりについて、考えを他者と交流し、よさを認め合って共有する。	音楽の要素や構造について新しい気づきから、工夫して表現する。
	音で イメージを 表現しよう	より広い視点 から表し方を見 つめ直す場 面	表したいイメージをもち、自分なりの表し方で表現する。	互いのアイディアや考えの良さを見つけ、積極的に言葉や態度で賞賛する。	交流をとおして得た新たな視点から表現を見つめ直し、新しい工夫を加える。
	新しい 響きを 体験しよう	新しい響きの 良さを見出す 場面	混声四部合唱の響きを実感し、合唱の新たな魅力を感じ取る。	混声四部合唱の響きの良さや特徴について、共感的に捉える。	混声四部合唱の響きを感得するをとおして、発声や音色について考え、表現を工夫しようとする。

資質・能力を位置付けた題材配列表 音楽科（第5ステージ）

学年	題材 主教材	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 2	音楽の楽しさを 味わおう2 ～表現の可能性～ 表：夏の日の贈りもの, 夏の思い出, 他 鑑：ショパン「革命」, 他	自分の表現や感じ方, 聴き方を見つめ直す場 面	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの表現をするために、追究の方向性を見出す。 音楽の要素や構造と曲想とのかかわりや、その変化の特徴を自分なりに感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の歌声の良さを探し、言葉や態度(身振りや相づち, オノマトペなど)で伝えている。 自分と相手の表現や聴き取ったこと, 感じ方などを比較し, 特徴や良さをとらえている。 様々な視点から改善点を見出して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流を通して得た視点をもとに, 表現を工夫する。 交流を通して得た視点をもとに, 自分の聴き方を見つめ直す。
	表現を 練り上げよう2 ～個が表現し合う 合唱表現～ 表：「時の旅人」. 他	相手に伝わる表現を工 夫する場面	<ul style="list-style-type: none"> より良い表現への方向性を持ち, 自分なりに追究していく。 声部の役割や全体の響きを感じ取り, 声を合わせる。 指揮や伴奏と合わせた音楽表現の豊かさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の歌声の良さを見出し, 言葉や態度(指揮表現や身振り, 相づち, オノマトペなど)で伝えている。 相手の意見を受け止めることに肯定的である。 	交流を通して得た視点をもとに, 聴き手に伝わる表現となるように工夫を加えている。
	さまざまな音楽ど かかわろう1 ～日本とアジアの 民族音楽～ 鑑：能と狂言, 歌舞伎, 京劇, オペラ, ミュージ カル, 箏曲「六段の調」, カヤグム, アジェン, 他	音楽表現の特徴や共通 点などを見出す場面	日本やアジアの音楽の 特徴をとらえ, その関 連性に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 曲を聴いて感じたイメージや思いを, 言葉などであらわしている。 仲間の意見を肯定的に受け取るのか」と, 新たな見方や感じ方に気づいている。 	日本とアジアの音楽について比較したり関連させたりしながら, 表現の特徴や共通点を見だし, 文章でまとめている。
	思いを込めて 表現しよう1 ～平和への願いを 込めた合唱表現～ 表：相思樹の歌, 青葉の 歌(混四), 他 鑑：沖縄の伝統音楽, レ クエイム(フォーレ), プ ラハのための音楽 1968, 広島平和祈念コン サート, 他	メッセージをより伝え るために表現を工夫す る場面	<ul style="list-style-type: none"> 平和への願いと音楽表現とのかかわりという視点から, 音楽の果たす役割について捉え直す。 沖縄の音楽の特徴を聴き取り, 良さや雰囲気を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に込められた思いや願いについて, 互いの考えを伝え合っている。 	平和への願いというメッセージを伝えるために, 音楽をどのように表現すれば良いかを考え, 工夫する。

<p>中 3</p>	<p>音楽の楽しさを 味わおう3 ～新しい響き～ 表：大地讃頌（混 四），「花」，他</p>	<p>響きをより深めるため に歌い方を工夫する場 面</p>	<p>テノールとバスの重なり や、混声四部の深み のある響きを感じ取り 、合唱表現に対して 新たな可能性を見出 す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手の歌声の良さを積極的に見つけ、言葉や態度（身振りや相づち、オノマトペなど）で伝えている。 様々な視点から改善点を見だし、アドバイスを積極的に伝えている。 	<p>交流を通して、方策を 試行錯誤しながらより 美しい混声四部合唱の 響きを作り出してい る。</p>
	<p>表現を 練り上げよう3 ～表現の豊かさを 求めて～ 表：「春に」（混 四）.他</p>	<p>豊かな表現を求めて、 表現を練り上げる場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな表現を求めて、歌詞の解釈、発声、ハーモニーづくり、曲想表現など、あらゆる角度から楽曲について考え、方向性をもちながら追究する。 声部の役割や全体の響きを感じ取り、声を合わせて調和させる。 指揮や伴奏と合わせた音楽表現の豊かさや美しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の歌声の良さを積極的に見出し、言葉や態度（指揮表現や身振り、相づち、オノマトペなど）で伝え、自分の表現に生かそうとしている。 相手の意見を受け止めることに肯定的である。 	<p>交流を通して、歌詞の 解釈、発声、ハーモニ ーづくり、曲想表現な ど、あらゆる角度から 追究し直し、表現を深 めている。</p>
	<p>さまざまな音楽と かかわろう2 ～音楽の色彩と スタイル～ 鑑：フーガ ト短 調、「運命」展覧 会の絵、喜びの島 （ピアノ版、吹奏 楽版）、ボレロ、 惑星（オーケスト ラ版、シンセ版）、 ノヴェンバーステ ップス、他</p>	<p>音楽表現の特徴や共通 点などを見出す場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> バロックから現代までの音楽について、表現の特徴を聴き取り、特質や雰囲気を感取っている。 音色の変化を聴き取り、音楽における色彩感を感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 時代における様式や楽器についての特徴について聴き取ったことや感じ取ったことを互いに伝え合う。 仲間の意見を肯定的に受け止め、「そのような見方もあるのか」と、新たな見方や感じ方の良さを感じている。 	<p>仲間との交流を通して より多くの視点を加え て音楽の特徴を比較、 関連させ、表現の特徴 や共通点を様々な視点 から捉えている。</p>
	<p>思いを込めて 表現しよう2 ～自分の思いや 願いを込めた 合唱表現～ 表：青葉の歌（混 四）、春に（混四）、 旅立ちの日に、他</p>	<p>思いや願いを重ね合わ せて表現するための方 策を練る場面</p>	<p>音楽と自分とのかかわ りについて考え、自分 にとっての音楽の大切 さを実感している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に対する相手や仲間の思いを肯定的に受け止め、視野を広げている。 音楽に対する様々な見方や考え方に触れ、価値観を広げている。 	<p>歌詞の意味をより深く 捉え、自分の思いや願 いに重ね合わせて表現 することができる。</p>

資質・能力を位置付けた題材配列表 図画工作・美術科（第2ステージ）

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小1	すきなもの いっぱい (絵)	経験したことや感じたこと、想像したことから発想を広げたり、構想したりする場面	経験したことや感じたこと、想像したことから発想して、表したい好きなことのイメージを明確にする。	自他の表現の面白さや工夫を伝え合い、色や形の工夫について気付いたことを話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、線、形、色から発想して表現方法を見いだしたりする。
	チョッキンパで かざろう (工作)	紙の折り方や切り方、並べ方やつなぎ方を試しながら発想を広げたり、構想したりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、並べ方やつなぎ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした紙の折り方や切り方、並べ方やつなぎ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形、色を生かした表現方法を見いだしたりする。
	いろいろならべて (造形遊び)	材料や場所の特徴を確かめながら、面白い並べ方のイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想したりする場面	材料や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、面白い並べ方のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、遊びながら見いだした材料の使い方や並べ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな材料の使い方を工夫したり、材料や場所の特徴を生かした表現方法を見いだしたりする。
	みて みていっぱい つくったよ (立体)	粘土のいろいろなつくり方を試しながら発想を広げたり、構想したりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、いろいろなつくり方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現の面白さや工夫を伝え合い、形やつくり方の工夫について気付いたことを話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	しぜんとなかよし (造形遊び)	材料や場所の特徴を確かめながら、面白い並べ方や組み合わせ方のイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想したりする場面	材料や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、面白い並べ方や組み合わせ方のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、遊びながら見いだした材料の使い方や並べ方、組み合わせ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな材料の使い方を工夫したり、材料や場所の特徴を生かした表現方法を見いだしたりする。
	でこぼこはっけん (鑑賞)	でこぼこの形を紙や粘土で写し取ったり、写した形から考えて表現したりして感じた、形の面白さや表し方の工夫を共有する場面	でこぼこの形を紙や粘土で写し取って感じたことや写した形から発想して、表したいイメージを明確にする。	でこぼこの形を紙や粘土で写し取って感じたことや写した形から考えた表現のよさを伝え合い、形の面白さや表し方の工夫について話し合う。	でこぼこの形を紙や粘土で写し取ったり、写した形から考えて表現したりしたことを基に、自他の感じ方のよさや、動きや形の面白さを見いだす。
	どうぶつむらの ピクニック (立体)	空き箱の形から想像したこと、試しの活動でできた形から発想を広げたり、構想したりする場面	空き箱の形から想像したこと、試しの活動でできた形から発想して表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方、組み合わせ方やつけ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	できたらいいな こんなこと (絵)	経験したことや見たこと、想像したことから発想を広げたり、構想したりする場面	経験したことや見たこと、想像したことから発想して、表したいやってみたいことのイメージを明確にする。	自他の表現の面白さや工夫、イメージを伝え合い、色や形の工夫について気付いたことを話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、線、形、色から発想して表現方法を見いだしたりする。
	うつしてあそぼう (絵)	いろいろなものを写した形や色から発想を広げたり、構想したりする場面	いろいろなものを写した形や色から発想して、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方、形や色の組み合わせ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形や色から発想して表現方法を見いだしたりする。
ゆめのまち 3ちょうめ (工作)	空き箱の形から想像したこと、切ったり開いたり重ねたりしてできた形から発想を広げたり、構想したりする場面	空き箱の形から想像したこと、切ったり開いたり重ねたりしてできた形から発想して、表したい家や飾りのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方、組み合わせ方や飾り方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。	

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小2	すきなことなあに (絵)	経験したことや感じたこと、想像したことから発想を広げたり、構想したりする場面	経験したことや感じたこと、想像したことから発想して、表したい好きなことのイメージを明確にする。	自他の表現の面白さや工夫を伝え合い、色や形の工夫について気付いたことを話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、線、形、色から発想して表現方法を見いだしたりする。
	マグネットマスコット (工作)	用具や材料の使い方やつなぎ方を試しながら発想を広げたり、構想したりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、つなぎ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方やつなぎ方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形、色、つなぎ方を生かした表現方法を見いだしたりする。
	なぞのギルモア (立体)	創作話を聞いて感じたことや想像したこと、試しの活動でできた形から発想を広げたり、構想したりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したこと、試しの活動でできた形から発想して表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	光のプレゼント (造形遊び)	材料や場所の特徴を確かめながら、面白いひかりのイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想したりする場面	材料や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、面白いひかりのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、遊びながら見いだした用具や材料の使い方や組み合わせの工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、材料や場所の特徴を生かした表現方法を見いだしたりする。
	すてきなもの いっぱい (鑑賞)	お気に入りのものを集めたり並べたりして感じ取った、色や形の面白さや並べ方の工夫を共有する場面	お気に入りのものを集めたり並べたりして感じ取った、色や形の面白さや並べ方の工夫をとらえる。	お気に入りのものを集めたり並べたりして感じ取ったことを伝え合い、色や形の面白さや並べ方の工夫について話し合う。	お気に入りのものを集めたり並べたりして感じ取ったことについて話し合ったことを基に、自他の感じ方のよさや、動きや形の面白さを見いだす。
	ペーパーランドの 大工さん (立体)	創作話を聞いて感じたことや想像したこと、試しの活動でできた形から発想を広げたり、構想したりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したこと、試しの活動でできた形から発想して表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方の工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	ビッグアニマル ランドに あそびに行こう (絵)	創作話を聞いて感じたことや想像したり、材料の使い方や組み合わせを試したり、刷りの効果を確認したりしながら発想を広げたり、構想したりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したり、材料の使い方や組み合わせを試したりしながら発想して表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方による感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	絵の具名人に なろう 見て見てお話 (絵)	創作話を聞いて感じたことや想像したり、材料の使い方や組み合わせを試したりしながら発想を広げたり、構想したりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したり、材料の使い方や組み合わせを試したりしながら発想して表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方による感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形から発想して表現方法を見いだしたりする。
	コロコロ 大きくせん (工作)	いろいろな転がり方を試しながら発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした、転がり方から発想して、転がり方に合う形や色のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした転がり方や転がり方に合う形や色の工夫について話し合う。	自分のイメージに合った動きや形になるように、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、転がり方に合う形や色を見いだしたりする。

資質・能力を位置付けた題材配列表 図画工作・美術科（第3ステージ）

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小3	絵の具と水のハーモニー（絵）	用具や材料の使い方や組み合わせの効果を試しながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた線、形、色から発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、線、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	キラクルモビール（立体）	回転しながら光ったり色が変化したりするつくり方を試しながら、回転のさせ方や組み合わせ方についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形や仕組みから発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいモビールのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした回転のさせ方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	自分のイメージに合ったモビールになるように、光ったり色が変化したりする仕組みを生かした回転のさせ方や組み合わせ方を見いだす。
	タイヤをつけて出発進行（工作）	タイヤが回転する仕組みや車の動きを試しながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした、タイヤが回転する仕組みや材料の組み合わせから発想して、車の形や動きのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした仕組みや材料の組み合わせによる動きや感じ方の違いについて話し合う。	自分のイメージに合った動きや形になるように、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、回転する仕組みや組み合わせ方を見いだしたりする。
	いつもの場所で（造形遊び）	材料や場所の特徴を確かめながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	材料や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、楽しい空間のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、遊びながら見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、材料や場所の特徴を生かした組み合わせを見いだしたりする。
	タッチ キャッチ さわりごち（鑑賞）	いろいろな材料を触って感じ取った、障り心地の違いや組み合わせや並べ方の面白さを共有する場面	いろいろな材料を触って感じ取ったことを基に、障り心地の違いや組み合わせや並べ方の面白さをとらえる。	いろいろな材料を触って感じ取ったことを伝え合い、自他の感じ方の違いや組み合わせや並べ方の面白さについて話し合う。	障り心地の違いや組み合わせや並べ方の面白さについて話し合ったことを基に、自他の感じ方のよさや組み合わせや並べ方の面白さを見いだす。
	どこにでも行けるのりものスーパーアドベンチャー号（絵）	表したい思いについて構想したワークシートやアイデアスケッチを基に、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したことから発想して、表したい場所や表したいことのイメージを明確にする。	自他のイメージやアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、中心がはっきりする表し方や、これまでに経験した絵の具遊びの技法を生かした表現方法について話し合う。	表したいイメージを表すために、中心がはっきりする表し方を考えたり、新たな用具や材料の使い方や組み合わせ方を見いだしたりする。
	くつ下や手ぶくろにまほうをかけると（立体）	用具や材料の使い方や組み合わせの効果を試しながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	はんで広げたゆめ（絵）	材料の使い方や組み合わせを試したり、刷りの効果を確認したりしながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、材料の組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした材料の使い方や組み合わせ、刷り方による感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな材料の使い方や刷り方を工夫したり、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	小さなはこの物語（工作）	材料の使い方や組み合わせを試したことや、表したい思いについて構想したワークシートやアイデアスケッチを基に、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したことから発想したり、材料の組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージやアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、大切なものがはっきりする表し方や、用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、大切なものがはっきりする表し方を考えたり、新たな材料の使い方や形、色組み合わせ方を見いだしたりする。

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小4	ギョギョコロコロ 楽しいなかま (工作)	材料の使い方や組み合わせを試したことや、表したい思いについて構想したワークシートやアイデアスケッチを基に、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいもののイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした切り方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	自分のイメージに合ったものになるように、新たな用具や材料の使い方や工夫したり、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	立ち上がりねん土 (立体)	ねん土を立たせる方法を試しながら、ねん土の立たせ方や立ち上がったねん土の形の生かし方についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、ねん土の立たせ方を工夫したりして、表したいもののイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだしたねん土の立たせ方や立ち上がったねん土の形の生かし方による感じ方の違いや工夫について話し合う。	自分のイメージに合ったものになるように、ねん土の立たせ方や立ち上がったねん土の形の生かし方を見いだす。
	絵の具刑事 (デカ) (絵)	用具や材料の使い方や組み合わせの効果を試しながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた線、形、色から発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、線、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	光とかげから 生まれる形 (造形遊び)	材料や場所の特徴を確かめながら、面白いかげのイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	材料や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、面白いかげのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、遊びながら見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、材料や場所の特徴を生かした組み合わせを見いだしたりする。
	からだで かんしょう (鑑賞)	作品の動きを模倣して感じ取った、作品の特徴や、動きや形の面白さを共有する場面	作品の動きを模倣して感じ取った、作品の特徴や、動きや形の面白さをとらえる。	作品の動きを模倣して感じ取ったことを伝え合い、作品の特徴についての自他の感じ方の違いや、動きや形の面白さについて話し合う。	作品の特徴や、動きや形の面白さについて話し合ったことを基に、自他の感じ方のよさや、動きや形の面白さを見いだす。
	願いの種から (立体)	用具や材料の使い方や組み合わせの効果を試しながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形から発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな用具や材料の使い方を工夫したり、形、色の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	願いがかんやう 不思議な本 シークレット ストーリー (絵)	表したい思いについて構想したワークシートやアイデアスケッチを基に、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	創作話を聞いて感じたことや想像したことから発想して、表したい場所や表したいことのイメージを明確にする。	自他のイメージやアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、中心がはっきりする表し方や、これまでに経験した絵の具の技法を生かした表現方法について話し合う。	表したいイメージを表すために、中心がはっきりする表し方を考えたり、新たな用具や材料の使い方や組み合わせ方を見いだしたりする。
	ほって すって 見つけて (絵)	彫刻等の使い方や版の組み合わせを試したり、彫りの効果を確かめたりしながら、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた線や形から発想したり、彫刻等の選び方や版の組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした彫刻刀の使い方や版の組み合わせ、彫り方や刷り方による感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、新たな彫刻刀の使い方や刷り方を工夫したり、彫刻刀の効果や版の組み合わせを生かした表現方法を見いだしたりする。
	コロコロ 3D アドベンチャー (工作)	材料の使い方や組み合わせを試したことや、表したい思いについて構想したワークシートやアイデアスケッチを基に、表したいイメージを表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動でできた形やビーズの動きから発想したり、材料の組み合わせ方を工夫したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージやアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、表したいテーマに合った表し方や、用具や材料の使い方や組み合わせによる感じ方の違いや工夫について話し合う。	表したいイメージを表すために、テーマがはっきりする表し方を考えたり、新たな材料の使い方や形、色組み合わせ方を見いだしたりする。

資質・能力を位置付けた題材配列表 図画工作・美術科（第4ステージ）

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	季節を感じて (絵)	表したいイメージについて構想したアイデアスケッチを基に、表したいイメージや季節感をよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	身近にあるものや生活の中の季節を感じるものやことをもとに、表したいことを決め、表したいイメージを明確にする。	自他のアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、表したいイメージや季節感がよりよく表れる構図や表現方法を出し合う。	表したいイメージや季節感をよりよく表すために、視点やものの配置を考えたり、描材を組み合わせた表現方法を見いだしたりする。
	糸のこドライブ (立体)	曲線切りした板の形や色を生かした組み合わせを試しながら、立たせ方や組み合わせ方についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	板の曲線切りによってできた形からつくりたいものを発想したり、組み合わせ方を工夫したりして、表したいオブジェのイメージを明確にする。	自他の板の切り方、組み合わせ方、立たせ方のよさや工夫を伝え合い、表したいオブジェのイメージがよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	自分のイメージに合ったオブジェになるように、板の形や色を生かした立たせ方、組み合わせ方を見いだす。
	浮き出す 飛び出す 紙アート (工作)	浮き出したりとび出したりする仕組みを確かめながら、イメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした、浮き出したりとび出したりする仕組みを生かして、自分の思いを伝える「紙アート」のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、浮き出したりとび出したりさせる方法やイメージに合った動き、色や形の組み合わせ方の工夫についてアイデアを出し合う。	自分のイメージをよりよく表すために、効果的な動きを発想したり、思いが伝わる形や色の組み合わせ方を見いだしたりする。
	めざせ ローラーの達人 (絵)	用具や材料の使い方や組み合わせの効果を確かめながら、表したいイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	これまでに経験したローラー遊びや絵の具遊びの技法を思い起こしたり、試しの活動で見いだしたローラーや絵の具の使い方を生かしたりして、表したい色と形の世界のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、用具や材料の使い方や組み合わせの効果を生かした表現方法についてアイデアを出し合う。	表したいイメージをよりよく表すために、新たな用具の使い方を工夫したり、形や色の組み合わせや重なりを生かした表現方法を見いだしたりする。
	見つけたことを 話してみよう (鑑賞)	見いだした、親しみのある美術作品のよさや美しさ、面白さを共有する場面	親しみのある美術作品の色や形、動きや奥行きなどの造形的特徴をもとに、よさや美しさ、面白さをとらえる。	色や形、動きや奥行きなどの造形的特徴を伝え合い、よさや美しさ、面白さについて考えを出し合う。	親しみのある美術作品のよさや美しさ、面白さについて話し合ったことをもとに、作品の中の人やものについて、新たな発想をする。
	光のハーモニー (造形遊び)	光のあて方や材料による雰囲気の違い、組み合わせや場所の特徴を確かめながら、光がより美しく見える方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	材料に光をあてた時の効果や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、光が美しく見える空間のイメージを明確にする。	感じ取った、光のあて方や材料による雰囲気の違い、組み合わせや場所の特徴を生かした工夫を伝え合い、光がより美しく見える方法やアイデアを出し合う。	光がより美しく見えるように、光のあて方や材料による雰囲気の違い、組み合わせや場所の特徴を生かした表現方法を見いだす。
	つくろう わたしの 音と形 (立体)	材料や動きの組み合わせ方を確かめながら、表したい音や形をよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだしたお気に入りの音を出す仕組みを生かして、音の出る形を発想したり、音を表す色や形を想像したりして、表したいイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、表したい音や形がよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	表したい音や形をよりよく表すために、材質の違う材料を組み合わせたたり、動き方を組み合わせたりする表現方法を見いだす。
	色を重ねて ゆめを広げて (絵)	彫りの効果や、色を重ねて刷る際の配色や組み合わせの効果を確かめながら、「夢の世界」のイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした彫りの効果や、色を重ねて刷る際の配色や組み合わせの効果を確かめて、表したい「夢の世界」のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした彫りの効果や、刷る際の配色や組み合わせの工夫についてアイデアを出し合う。	自分のイメージをよりよく表すために、表したい「夢の世界」のイメージに合った彫刻刀や色を選んだり、新たな彫り方や色の組み合わせ方を見いだしたりする。
	線を集めて (工作)	線状の材料の形や色、組み合わせを確かめながら、表したい飾りのイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	線状の材料の形や色、組み合わせなどを試しながら、それらがつくり出す形の特徴をとらえ、自分の表したい飾りのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした形や色の組み合わせ方や、材料を編んだり組んだりする方法についてアイデアを出し合う。	自分のイメージをよりよく表すために、飾りのイメージに合った材料を選んだり、新たな編み方や組み合わせ方を見いだしたりする。

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小6	いのちのカタチ (絵)	消してできる形や生命を感じる色や形について確かめながら、表したい「いのち」のイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	消してできる形から発想したり、生命を感じる色や形を想像したりして、いのちのカタチのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、いのちのカタチのイメージがよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	表したい「いのち」のイメージをよりよく表すために、新たな発想をしたり、消しゴムやコンテの使い方を工夫した表現方法を見いだしたりする。
	ココロのまどをあけて (絵・立体)	材料の色や質感、形の特徴を確かめながら、表したい感情をよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	材料の色や質感、切り抜いた形の特徴から感情を発想したり、感情を表す色や形を想像したりして、ココロのまどのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、表したい感情がよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	表したい感情をよりよく表すために、色や形を工夫したり、材料を組み合わせたり、質感をかえたりする表現方法を見いだしたりする。
	ここにしかめないカタチ (立体)	自分型土器をつくりながら、表したいイメージと表現のつながりについて考える場面	心に留まったものの特徴から形を発想したり、実体のないものの形を想像したりして自分型土器のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、表したいイメージがよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	表したいイメージをよりよく表すために、粘土の可塑性を生かした新たな発想や表現方法を見いだす。
	針金タワー (立体)	針金の効果や可能性を確かめながら、立たせ方や装飾の方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	針金を曲げたり巻いたりしながら形を発想したり、立たせ方を工夫したりして、表したい針金タワーのイメージを明確にする。	自他の針金の曲げ方、巻き方、立たせ方、装飾の方法のよさや工夫を伝え合い、表したいイメージがよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	自分のイメージに合った形になるように、針金の特徴を生かした立たせ方や装飾の方法を見いだす。
	白い物語 (造形遊び)	材料や場所の特徴を確かめながら、表したい物語がよりよく表れる方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	身近な白い材料の特徴や場所の特徴を生かして発想したり、試したりして、表したい物語を明確にする。	感じ取った材料の形、色、手触りの違い、組み合わせや場所の特徴を生かした工夫を伝え合い、表したい物語がよりよく表れる方法やアイデアを出し合う。	表したい物語がよりよく表れるように、材料の形、色、手触りの違い、組み合わせや場所の特徴を生かした表現方法を見いだす。
	わたしの お気に入りの場所 (絵)	表したい場所や表したい思いについて構想したアイデアスケッチを基に、表したい場所の特徴や思いをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	これまでの生活の中で感じたことをもとに、表したい場所や表したい思いを決め、表したい場所や人物の表し方のイメージを明確にする。	自他のアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、表したい場所の特徴や思いがよりよく表れる構図や表現方法を出し合う。	表したい場所の特徴や思いをよりよく表すために、中心がはっきりする構図を考えたり、描材を組み合わせる表現方法を見いだしたりする。
	一瞬をカタチに (立体)	針金の効果や可能性を確かめながら、人物の動きについての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	自分の経験を想起したり、材料の特徴や組み合わせを試したりして表したい思いを決め、人物の動きや周りの情景の表し方のイメージを明確にする。	自他の思い、表現のよさや工夫を伝え合い、思いの伝わる人物の動きや周りの空間を生かした表現方法についてアイデアを出し合う。	伝えたい思いがはっきりするように、人物の動きや周りの空間を生かした新たな発想や表現方法を見いだす。
	「和」を味わう (鑑賞)	見いだした、身の回りにある「和の形」や日本の美術作品のよさや美しさ、面白さを共有する場面	身の回りにある「和の形」や日本の美術作品の色や形、特徴を様々な角度から見たり考えたりして、よさや美しさ、面白さをとらえる。	身の回りにある「和の形」や日本の美術作品の色や形の特徴を伝え合い、受け継がれてきた日本の美術のよさや美しさについて考えを出し合う。	日本の美術のよさや美しさについて話し合ったことをもとに、身の回りにある「和の形」や美術作品を探したり、新たな「和の形」を発想したりする。
	墨のうた (絵)	墨の特徴や、筆遣いの効果を確かめながら、表したいイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした墨の特徴や、筆遣いのいろいろな効果を生かして、表したい白と黒の世界のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、墨の濃淡や筆遣いの効果や紙の質感を生かした表現方法についてアイデアを出し合う。	表したいイメージをよりよく表すために、画面構成を工夫したり、墨の濃淡や筆遣い、紙の質感を生かした表現方法を見いだしたりする。
	うつつて見つけた わたしの世界 (絵)	用具の効果や、刷る際の配色や版の組み合わせの効果を確かめながら、「私の世界」のイメージをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだした用具の効果や、刷る際の配色や版の組み合わせの効果を生かして、表したい世界のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、イメージを伝え合い、試しの活動で見いだした用具の効果や、配色や版の組み合わせの工夫についてアイデアを出し合う。	自分のイメージをよりよく表すために、「私の世界」のイメージに合った用具や色を選んだり、新たな用具の使い方や版の組み合わせ方を見いだしたりする。
形と色が 動き出す！ (工作)	コマ撮りアニメーションの仕組みを確かめながら、自分のストーリーをよりよく表す方法についての発想を広げたり、構想を具体的にしたりする場面	試しの活動で見いだしたコマ撮りアニメーションの仕組みを生かして、変化させたい形や色、表したいストーリーのイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、ストーリーを伝え合い、形や色を変化させる方法やストーリーに合った動きの工夫についてアイデアを出し合う。	自分のストーリーをよりよく表すために、面白い動きを発想したり、形や色を変化させる方法を見いだしたりする。	

資質・能力を位置付けた題材配列表 図画工作・美術科（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中1	感じたことを話し合おう (鑑賞)	作品を見て感じ取ったことを話し合い、作品の見方や感じ方、気付くことは人それぞれであることを感じるため、意見を交換し想像を広げる場面	作品に描かれている形や色彩から、自分が感じたことをもとにイメージを膨らませ、自分なりの解釈を明確にする	作品に描かれている形や色彩に着目し、それらの特徴から生じる感情やイメージを根拠にして話し合う。	話し合いにより想像をふくらませたことを通して、自分一人で鑑賞した時には気付かなかった形や色の美しさから、新たな作品の見方を見いだす。
	見つけた、触れた、ひらめいた！ (絵や彫刻など)	自然物の特徴を生かして構想したアイデアスケッチをもとに、表したいイメージがよりよく表れる方法を見つけるため、自然物の生かし方を試す場面	自然物の材料の面白さを感じ取り、特徴から発想する活動を通して、形や色彩の面白さを感じ取り、表したいイメージを明確にする。	見つけた自然物の色や形の面白さや美しさを生かした自他のアイデアスケッチのよさや工夫を伝え合い、表したいイメージがよりよく表れる方法やアイデアを試しながら話し合う。	自分のイメージに合った造形になるように、自然物の形や色のよさや組合せ方、つくる場所の特徴を生かした表現方法を見いだす。
	見て描く楽しみ (絵や彫刻など)	作成途中の互いの作品を鑑賞し合い、対象物がかつ雰囲気や、影の様子などをとらえ、画面構成や鉛筆で濃淡を表現する方法について話し合う場面	身近なものを見つめ、形のおもしろさや色合い、質感、全体的なイメージなどを自分の感じ方ととらえる。	互いの作品を見合い、対象物の雰囲気や思いが表されるように、鉛筆の使い方を工夫して表す方法を出し合う。	表したいものの特徴や表したい思いが伝わるように、画面構成や影のよりよい表現方法を新たに見いだす。
	文字が動き出す (デザインや工芸など)	楽しく情報を伝えるために、どんな形や色を使えばよいか、アイデアスケッチをもとに話し合い、様々な可能性を探る場面	絵文字の鑑賞を通して、文字の形や色彩の工夫に気付き、自由な発想から楽しく情報を伝える文字のイメージを明確にする。	文字のもつ意味と視覚的な形の可能性を探究し、見る人に強い印象を与える絵文字になるための表現方法についてアイデアを出し合う。	文字の形や意味などから表現方法について話し合ったことをもとに、伝えたい情報をはっきりするような色や形を決定して自分らしい表現方法を見いだす。
	文様、飾りの小宇宙 (デザインや工芸など)	アイデアスケッチに表した自他の文様を見せ合い、自分の発想になかったアイデアのよさを見つける場面	日本や諸外国の文様を鑑賞したことを生かして、身の回りの自然をもとに、表したい文様のイメージを明確にする。	自他の表現のよさや工夫、表したいイメージを伝え合い、連続して文様を配置した時の色や形の面白さや美しさよりよく表れるような方法についてアイデアを出し合う。	自分のイメージをよりよく表すために、イメージに合った文様の並べ方や配色について考え、できあがっていく経過を楽しみながら作品のよさを新たに見いだしたりする。
	形を丸ごと感じてみよう (絵や彫刻など)	制作途中の作品を鑑賞し合い、共に対象物を観察し合う場を設定し、色や形、質感などを特徴がよりよく表れるような表現方法について試行錯誤する場面	身近なものを立体に表そうとする活動を通して、対象の形や色彩、質感をとらえ、表したい特徴や美しさを明確にする。	対象を観察する活動から、新たに見つけ出した色や形の特徴や美しさを伝え合い、表したいイメージがよりよく表れる画材の使い方などの方法についてアイデアを出し合う。	表現したい対象物の特徴がよりよく表れるような色や形の表現方法を新たに見いだしたり、用具の使い方を新たに開発したりする。

資質・能力を位置付けた題材配列表 図画工作・美術科（第5ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中2	形と色の挑戦 (絵や彫刻など)	抽象作家作品の鑑賞において、自分の考えにはなかった作品のよさや面白さに気付いたことを構想に生かすために、それぞれが作品から感じたことを、話し合う場面	抽象作家の作品を鑑賞する活動を通して、形や色から自分が感じた印象をもとに、伝えたいことを決め、表現したいイメージを明確にする。	様々な作家の探究の例を理解する活動の中で、形や色彩の特徴や組合せ方などに着目させて、効果を生かした表現や偶然がもたらす表現の価値に気付いたことを基に話し合う。	表現したい言葉や音楽、自分の感情を基に構想し、自分のイメージに合った形や色の特徴や組合せ方を見いだす。
	環境こけこむかたち (デザインや工芸など)	自分が構想した彫刻作品は、設置場所のよさを生かしているか、自分が表現したいことは形や色彩から伝わっているか確かめるために交流しようと投げかけ、交流場面を設定する。相手のアイデアスケッチから感じたよさや面白さを伝え合う場面	作品と設置場所との関係の大切さに気付き、その場所のよさを生かした作品について考える。形や色彩、材料や光などを考慮して、表現したいイメージを明確にする。	互いのアイデアスケッチを見せ合い、自分の表現に新しいよさや面白さに気付いたり、相手の構想から見いだしたよさや面白さを伝え合ったりする。	置く場所や作品を取り巻く環境を考えて、安全性や公共性、伝えたい思いや願いを表現するには、どのような形や大きさ、色彩や素材を選ぶとよいか考え、自分なりの価値を見いだして工夫をする。
	心をともしあかり (絵や彫刻など)	材料による光の透け方や漏れ方などを試しながら、自分が欲しいあかりをつくる技を見つけ出すために話し合う場面	安らぎやぬくもりなど、あかりが人の気持ちに与える効果を意識して、自分が欲しいあかりを言葉やアイデアスケッチを通してイメージを明確にする。	どのように和紙を使えば、自分が表現したい雰囲気をもつあかりをつくることができるか、光の透け方や漏れ方を実際に試し、見付けた和紙の使い方を基に話し合う。	和紙の重なり具合や形や色による雰囲気の違いから、あかりの効果の出し方を工夫し、自分が欲しいあかりの表現方法を見いだす。
	浮世絵から学ぶ 江戸の職人技 (鑑賞・絵や彫刻など)	彫りによる線の効果と摺りによる色彩の効果、また、それらがもたらす感情に気付かせる場面	浮世絵作品の過程とそれを支えた分業の仕組みについて知り、伝統文化に対する理解を深めた上で、自分が面白いと感じた浮世絵の作風を基に下絵を描き、イメージを明確にする。	彫りや摺の技術、使用された顔料の色合いから感じたことや、浮世絵に対する理解を深めたことを基に、自分が気に入った作品から、江戸の粋な美しさを見付け出したことを説明し合う。	彫りや摺の手順を考え、気に入った作品のよさや面白さを手本にし、形や色を選び、自分に合った表現方法を見いだす。
中3	学友会キャラクター 総選挙 (デザインや工芸など)	キャラクターをつくるにあたり大切にしたい要素を絞り込むため、既存のキャラクターを鑑賞して話し合う場面	キャラクターが担う役割について考え、学友会のスローガンや自分たちの校風や学校の特徴を考え、学友会に相応しいキャラクターの条件を絞り込みながら、表現したいイメージを明確にする。	構想したキャラクターが4つの表現のキーワード(公共性・独自性・明確なコンセプト・単純化)に合っているかを規準に話し合う。	より相手に伝わりやすい形や色になるよう単純化したり、コンセプトが明確に伝わるように特徴を強調したりすればよいことに気付きながら、キャラクターを完成させる。
	自画像、 今を生きるあなたへ (絵や彫刻など)	自分をあらわすのにふさわしい表現方法や材料、形や線、色彩などを考えて表現したことを作文にまとめたことを伝え合い、様々な表現がもたらす雰囲気の違いを味わう場面	参考作品と説明を合わせて鑑賞し、感じ取ったことについて意見交換することで、同じ教室にいても人それぞれ様々な思いをもっていることを感じる。自分の気持ちを見つめ、どんな表現が自分を表す作品になるかイメージを明確にする。	今を生きる自分や将来になりたい自分を基に広がった発想を作文にまとめ、完成した作品と合わせて鑑賞会をする。相手に伝えようと考えをまとめたことで、自分の作品に対する思いが深まったことを話し合う。	自分の感情や特徴、考えを表すのにふさわしい表現方法や描画材、技法を選び、自分なりに工夫する。選択した形や色に意味づけをし、表現された作品を客観的に鑑賞してよさや美しさを改めて見いだす。
	体験しよう！美術館 (鑑賞)	作家の作品を仲間と鑑賞しながら、一人では気付くことができなかった作品のよさや面白さに気付く場面	作品の形や色から、自分なりに想像を膨らませたり、感じ取ったことを言葉にしたりしながら、作品に対するイメージを明確にする。	作品を鑑賞して、自分がもったイメージについて仲間と感じたことを自由に伝え合う。	伝え合ったことを基に、様々な作品の見方や感じ方があることに気付き、仲間と一緒に鑑賞する楽しみを見いだす。
	みんなのための デザイン (デザインや工芸など)	ユニバーサルデザインの視点から使いやすさを考えた自分のデザインについて、クライアント役の友達にプレゼンする場面	どんな形や機能、色彩や多くの人にとって使いやすいか、ユニバーサルデザイングッズを分析し、多くの人に使いやすくデザインされているものの条件を見いだす活動を通して、表現したいイメージを明確にする。	似ている要素をもつ道具を選んだ仲間と、使いやすさについて話し合いながら構想を練り上げ、工夫したことを別の種類の道具を構想している仲間にクライアント役を交代してプレゼンし合う。	クライアント役から出た要望(改善点)を基に、より使いやすい形や機能を考え、材料や作り方を工夫する。クライアント役から得た自分のデザインのよさを受け止め、ユニバーサルデザインの新しい考え方を見いだす。
	水墨で表す (絵や彫刻など)	様々な墨の表現を見付け出し合い、墨・和紙・水・道具の関係を法則化して多くの友達に伝承する場面	墨のにじみやかすれなどの表現の豊かさを味わい、イメージしたことを基に、表現したい作品のイメージを膨らませる。	墨ならではの無彩色の表現、墨と和紙の関係、墨と水の表現特性、道具との関係など、墨のよさや特徴をたくさん見付け出し、技を言葉や見本で伝え合う。	水の量や筆の使い方を工夫し、学び合ったことを効果的に表現に生かす工夫をして、空間がもつよさを感じるながら作品として仕上げた面白さや墨がもつ和の美しさを見いだす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 家庭科（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	ガイダンス	家庭で自分が取り組むことを考え学習計画を立てて仲間と話し合う場面	家庭で自分が取り組むことを考え、根拠を基に選択する。	自分が取り組む計画が実現できるかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	自分の取り組む計画がよりよくなるように工夫する。
	お茶を入れてみよう	家族に合わせたおいしいお茶の入れ方を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家族に合わせておいしいお茶の入れ方を考え、根拠を基に選択する。	考えたお茶の入れ方が、家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族に合わせてお茶の入れ方がよりよくなるように工夫する。
	家族が喜ぶ家庭の仕事	家庭の仕事を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家族が喜ぶ家庭の仕事を考え、根拠を基に選択する。	考えた家庭の仕事が、家族が喜ぶものになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族が喜ぶ家庭の仕事がよりよくなるように工夫する。
	つくりだそう 家族のために 一生活で役立つ 小物づくり	考えた工夫で小物を製作し、製作上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせた小物の製作を考え、根拠を基に選択する。	考えた小物の製作が、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて小物の製作がよりよくなるように工夫する。
	家族が喜ぶ ホットサラダを作ろう！ 一上手な材料の使い方	材料を把握し量等の工夫について仲間と話し合う場面	家族が喜ぶ材料の使い方を考え、根拠を基に選択する。	考えた材料の使い方が、家族が喜ぶものになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族が喜ぶ材料の使い方がよりよくなるように工夫する。
	私の家の整理・整頓	家庭生活に合わせた使いやすい整理・整頓をするにはどうしたらよいか仲間と話し合う場面	家庭生活に合わせて「使いやすい」を考えた整理・整頓を考え、根拠を基に選択する。	考えた整理・整頓が、家庭生活に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活に合わせて「使いやすい」を考えた整理・整頓がよりよくなるように工夫する。
	わが家の味！ おいしいごはんのみそ汁をつくろう	わが家のごはんや味噌汁を家庭で実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家族の好みや健康を考えた、ごはんの炊き方や味噌汁のだしやみそ、実の組み合わせを考え、根拠を基に選択する。	考えたごはんや味噌汁づくりが、家族の好みや健康を考えたものになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族の好みや健康を考えたごはん・味噌汁づくりがよりよくなるように工夫する。
	私と家族の生活を快適にする そうじ	考えた清掃の仕方を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせて清掃の仕方を考え、根拠を基に選択する。	考えた清掃の仕方が家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて清掃の仕方がよりよくなるように工夫する。
	わが家の冬を快適に過ごそう	家族みんなが暖かくきれいな空気で過ごすための工夫を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせた冬の快適な過ごし方を考え、根拠を基に選択する。	考えた冬の快適な過ごし方が、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて冬の快適な過ごし方がよりよくなるように工夫する。
	目指そう！ 買い物名人	家族のためにおにぎりを作る際、入れる具について模擬店での選び方を仲間と話し合う場面	家族の好みや健康、安全を考えて食品を、根拠を基に選択する。	考えた食品の選び方が、家族の好みや健康、安全を考えたものになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族の好みや健康、安全を考えて食品の選び方がよりよくなるように工夫する。
ミシンを使って小物を作ろう	考えた工夫で小物を製作し、製作上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせたミシンを使った小物の製作を考え、根拠を基に選択する。	考えたミシンを使った小物の製作が、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせてミシンを使った小物の製作がよりよくなるように工夫する。	
私の家の簡単な朝食	家族が毎日朝食を作ってくれる理由について仲間と話し合う場面	家族の朝の過ごし方に合わせて、卵料理を主菜とした簡単な朝食を考え、根拠を基に選択する。	考えた簡単な朝食が、家族の朝の過ごし方に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族の朝の過ごし方に合わせて卵料理を主菜とした簡単な朝食がよりよくなるように工夫する。	

小6	ガイダンス	第5学年で学習したことを踏まえ、家庭で自分が取り組むことを考え学習計画を立てて仲間と話し合う場面	第5学年で学習したことを踏まえ、家庭で自分が取り組むことを考え、根拠を基に選択する。	自分が取り組む計画が実現できるかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	自分の取り組む計画がよりよくなるように工夫する。
	家族と一緒に楽しい時間を過ごそう	団らんの工夫を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせた家族との団らんを考え、根拠を基に選択する。	考えた家族との団らんが、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて家族との団らんがよりよくなるように工夫する。
	わが家の夏を快適に過ごそう	家族みんながすずしく過ごすための工夫を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせた夏の快適な過ごし方を考え、根拠を基に選択する。	考えた夏の快適な過ごし方が、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて夏の快適な過ごし方がよりよくなるように工夫する。
	私にできる日常着の手入れ	考えた手洗い洗濯の仕方を実践し、実践上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせた手洗い洗濯の仕方を考え、根拠を基に選択する。	考えた手洗い洗濯の仕方が、家庭生活と家族に合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて手洗い洗濯の仕方がよりよくなるように工夫する。
	家族のための夕食の主菜をつくらう	家庭生活と家族に合わせるための視点の何を選択し工夫すると、家族のための夕食の主菜をつくるかについて仲間と話し合う場面	家庭生活と家族に合わせて、家族の好みや健康を考えた夕食の主菜を考え、根拠を基に選択する。	家庭生活と家族に合わせて選んだ視点と夕食の主菜が、家族の好みや健康を考えたものになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家庭生活と家族に合わせて、家族の好みや健康を考えた夕食の主菜となるようによりよく工夫する。
	家族に思いが伝わる小物をつくらう	考えた工夫で小物を製作し、製作上の問題点の解決方法について仲間と話し合う場面	家族の使用目的や使いやすさ、好みを考えたミシンを使った小物の製作を考え、根拠を基に選択する。	考えたミシンを使った小物の製作が、家族の使用目的や使いやすさ、好みに合っているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族の使用目的や使いやすさ、好みを考えてミシンを使った小物の製作がよりよくなるように工夫する。
	卒業プロジェクト大作戦	家族や学校、地域の人々に対して、今までの感謝の気持ちを伝える家庭科の学習を生かしたプロジェクトを成功させるための工夫について仲間と話し合う場面	家族や学校、地域の人々に今までの感謝の気持ちを伝える家庭科の学習を生かしたプロジェクトを考え、根拠を基に選択する。	考えたプロジェクトが、家族や学校、地域の人々に、今までの感謝の気持ちを伝える家庭科の学習を生かしたプロジェクトになっているかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	家族や学校、地域の人々に今までの感謝の気持ちが伝わるプロジェクトとなるようによりよく工夫する。
	2年間の家庭科の学びと自分の成長を見つめよう	2年間の家庭科の学習を基に、これから家庭で自分が取り組んでいくことを考え、計画を立てて仲間と話し合う場面	2年間の家庭科で学習したことを踏まえ、家庭でこれから自分が取り組んでいくことを考え、根拠を基に選択する。	これから家庭で自分が取り組んでいく計画が実現できるかどうか根拠を基に仲間と検討し、見直す。	これから家庭で自分が取り組んでいく計画がよりよくなるように工夫する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 技術・家庭科 家庭分野（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 1	ガイダンス	小学校で学習したことも生かしながら、家族・家庭の機能を考え家庭で自分が取り組むことを考え学習計画を立てる場面	小学校で学習したことを踏まえ、家庭で自分が取り組んでいくについて考え、根拠を基に選択する。	自分が取り組む計画が実現できるかどうかを仲間と検討し、自分の学習計画を見直す。	自分の学習計画がよりよくなるように、取組を工夫する。
	自分らしく着る	TPOに合わせたコーディネートを考える場面	TPO、自分に似合う色、自分の手持ちの衣服など、自分の生活に合わせてコーディネートを考え、根拠をもって選択する。	仲間の「コーディネート」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように意見を伝える。仲間からの意見を理解し、自分の工夫を検討し、見直す。	生活に合わせてよりよいコーディネートになるように工夫する。
		既成服購入計画を立てる場面	自分の手持ちの衣服状況、好み、機能性など既成服購入にあたって必要な観点を決め衣服の購入計画を立てる。	仲間の衣服の購入計画の良さや不具合がわかり、相手に分かるように意見を伝える。	生活に合わせてよりよい購入計画となるように工夫する。
		衣服の手入れの仕方の工夫を考える場面	洗濯、補修など衣服の手入れの仕方の工夫を考える	仲間の衣服の手入れ良さや不具合がわかり、相手に分かるように意見を伝える。	生活に合わせてよりよい衣服の手入れとなるように工夫する。
	安全な住まい方	自分や家族の生活に応じた安全な住まい方の工夫を考える場面	自分の家族にとって自分たちの住まいが安全なものになるように実現可能な工夫を考え、実行する。	仲間の「住まいの安全にかかわる工夫」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「住まいの安全にかかわる工夫」がよりよいものになるようにする。
		教室環境を改善する工夫を考える場面	自分たちの学校生活が安全なものになるように実現可能な工夫を考え、実行する。	仲間の「学校生活の安全にかかわる工夫」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「学校生活の安全にかかわる工夫」がよりよいものにし、実践する。
	生活を豊かにする布製小物を作ろう	製作計画を見直す場面	・自分や家族の生活が豊かになる小物の製作計画をたてる。 ・どのような生活の問題点があり、どのような解決方法が考えられ、どのような工夫ができるか考える。	考えた小物の工夫が、自分や家族が使う用途に合っているかどうか仲間と検討し、見直す。	小物入れの製作計画をよりよく工夫する。
学習のまとめ	今年家庭科の学習を基に、これから家庭で取り組んでいきたいについて考える場面	2年間の家庭科で学習したことを踏まえ、家庭でこれから自分が取り組んでいくについて考え、根拠を基に選択する。	これから家庭で取り組む計画が実現できるかどうかを仲間と検討し、見直す。	これから家庭で取り組む計画がよりよくなるように、工夫する。	

資質・能力を位置付けた単元配列表 技術・家庭科 家庭分野（第5ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中2	ガイダンス	1学年次に学習したことを生かしながら、2学年次の考え学習計画を立てる場面	既習事項や自分の家庭生活を踏まえ学習計画をすすんでたてる。	自分が取り組む計画が実現できるかどうかを仲間と検討し、自分の学習計画を見直す。	自分の学習計画がよりよくなるように、取組を工夫する。
	私たちの食生活	「健康的な生活」を考える場面	健康と食とのかかわりを考え、どう生活していくがよいのか根拠をもって選択する。	仲間の生活の良さや不具合が分かり、相手に分かるように意見を伝える。仲間からの意見を理解し、自分の工夫を検討し、見直す。	生活に合わせたよりよい食生活を送ることができるように工夫する。
		1日分の献立を立てる場面	栄養や調理法、季節など献立作成にあたって必要な観点を考え献立を立てる。	仲間の献立の良さや不具合がわかり、相手に分かるように意見を伝える。	よりよい献立となるように工夫する。
		食品の購入・保存の仕方の工夫を考える場面	食品の購入・保存の仕方について栄養・経済性・家族の生活の仕方や社会状況に配慮し工夫を考える。	仲間の生活の仕方の良さや不具合がわかり、相手に分かるように意見を伝える。	生活に合わせてよりよい食品の購入・保存の仕方となるように工夫する。
		「地域の食材を用いた料理」を自分の生活に合わせて工夫できるを考える場面	自分の調理技能や食材の特徴を生かした料理を考え、決定する。	仲間の「地域の食材を用いた料理」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「地域の食材を用いた料理」がよりよいものになるようにする。
		弁当の献立を考える場面	栄養や調理法、季節など献立作成にあたって必要な観点を考え献立を立てる。	仲間の献立の良さや不具合がわかり、相手に分かるように意見を伝える。	よりよい献立となるように工夫する。
		安全や環境に配慮し、よりよい社会を考えて調理のできる工夫を考える場面	安全なものになるように実現可能な工夫を考え、実行する。	仲間の「工夫」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「工夫」がよりよいものにし、実践する。
学習のまとめ	今年の家庭分野の学習を基に、これから家庭で取り組んでいきたいについて考える場面	2年間の家庭分野で学習したことを踏まえ、家庭でこれから自分が取り組んでいくについて考え、根拠を基に選択する。	これから家庭で取り組む計画が実現できるかどうかを仲間と検討し、見直す。	これから家庭で取り組む計画がよりよくなるように、工夫する。	
中3	ガイダンス	2学年次に学習したことを生かしながら、2学年次の考え学習計画を立てる場面	既習事項や自分の家庭生活を踏まえ学習計画をすすんでたてる。	自分が取り組む計画が実現できるかどうかを仲間と検討し、自分の学習計画を見直す。	自分の学習計画がよりよくなるように、取組を工夫する。
	環境に配慮した消費生活	買い物方法によるメリット・デメリットを考える場面	自分が購入するもの、自分の生活に合わせて買い物方法を考え、根拠をもって選択する。	仲間の「買い物方法選択」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように意見を伝える。仲間からの意見を理解し、自分の工夫を検討し、見直す。	生活に合わせたよりよい消費になるように工夫する。
		環境に配慮した消費生活となるような行動指針を考える場面	自分の家族にとって自分たちのくふうが安全なものになるように実現可能な工夫を考え、実行する。	仲間の考えた「行動指針」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「環境に配慮した消費生活となるような行動指針」がよりよいものになるようにする。
	幼児の生活	自分の幼児の頃を振り返り幼児の特徴を考える場面	さまざまな資料をもとに自分の幼児の頃についてまとめる。	仲間の幼児の頃の様子と自分の幼児の頃の様子を比べ共通点や相違点を見出す	自分や仲間の幼児の頃の様子から幼児の特徴についてまとめる。
		幼児とのふれあい体験活動の内容を考え計画を立てる場面	幼児の特徴に配慮した計画を考える。	仲間の「計画」の良さや不具合が分かり、相手に分かるように伝える。検討し、見直す。	「幼児ふれあい体験」が、幼児や自分たち実現可能なよりよいものになるようにする。
	地域社会と私たち	よりよい地域社会をつくるためにできることを考える場面	どのような生活の問題点があり、どのような解決方法が考えられ、どのような工夫ができるか考える。	仲間の指摘した問題点やその解決方法を理解し、また自分の考えを仲間に分かるように伝える。	自分の考えや仲間の考えを検討し自分たちにできることを具体的に表す。
	学習のまとめ	3年間の家庭分野の学習を基に、これから生活で取り組んでいきたいについて考える場面	中学校家庭分野で学習したことを踏まえ、これからの生活で自分が取り組んでいくについて考え、根拠を基に選択する。	これからの自立した生活を送るために実現できるかどうかを仲間と検討し、見直す。	これからの生活で取り組むがよりよくなるように、工夫する。

資質・能力を位置付けた題材配列表 技術・家庭科 技術分野（第4ステージ）

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中1	ガイダンス	現代の生活と過去の生活の違いの比較から、現在から未来の生活について思考を深める場面	今までの技術の変遷を学び、今後に生かせる知識や技術を理解する。	過去にあったもののよさを学び、それらが現在どのように受け継がれ変化しているか考えを交流させる。	未来に起こりうることを考えながら、さらに便利になるや新しく開発されるに自分なりの考えをもつ。
	C 生物育成に関わる技術 長岡野菜の特徴を知り、栽培方法を考えよう	有機質肥料と無機質肥料の特徴をとらえ、自らの栽培にどちらを採用し栽培をしていくか決定していく場面	社会的、環境的および経済的な側面を考慮して栽培計画を立てる。	相互の考えを踏まえて、より社会的、環境的および経済的な側面から施肥について考えが深まる。	生物育成を支える土壌品質改良について自分なりの根拠をもって生物育成を実施する。
		栽培の状況を確認して現状を把握し、栽培計画の見直しや改善を図る場面	新たな手立てを考えたり、当初の予定と変更を加えたりしながら、栽培計画に沿って生物育成を続ける。	病害虫や土壌について問題点となることを伝え合い、これから必要となる手立てを探る。	病害虫や土壌の問題点について、生育場所や生育条件などを考慮して、持続可能な視点から生物育成が継続できるかどうか考えをもつ。
	A 材料と加工に関わる技術 自らの生活を振り返って、あると便利なものをつくろう	製作したいもののモデルをつくり、検討しこれからの製作に必要な視点を明確にする場面	自分の生活と結びつけて、あるとよいもので、製作が可能なものを選択する。	製作品に対するアイデアを伝え合い、よりよいものになるように検討する。	製作品の設計において、自分の生活と関連付けながら、独自の考えを入れた工夫をする。
		完成した製作物を相互評価する場面	自分の生活と結びつけて製作したものについて社会的、環境的、および経済的な側面から製作をとらえる。	製作品に対するアイデアを伝え合い、次回の製作に向けた更なる案を検討する。	独自の工夫を社会的、環境的、経済的な側面から再度評価し、今後の製作に向けて工夫のあり方を考える。
	B エネルギー変換に関する技術 持続可能な社会をつくりあげる視点を学ぼう	エネルギーの種類や取り扱う上での注意点を基にどのような生活をしていくか必要なのか議論し考えを深める場面	自分の生活スタイルをとらえ、社会的、環境的、経済的な側面から最適な選択をする。	自らの考えを伝え、事象を多角的にとらえる。	多角的にとらえた情報を基に、今までの自分との違いや考えの相違をとらえ、根拠をもつができる。

資質・能力を位置付けた題材配列表 技術・家庭科 技術分野（第5ステージ）

学年	題材	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中2	ガイダンス	現代の生活と過去の生活の違いの比較から、現在から未来の生活について思考を深める場面	今までの技術の変遷を学び、今後に生かせる知識や技術を理解する。	過去にあったもののよさを学び、それらが現在どのように受け継がれ変化しているか考えを交流させる。	未来に起こりうることを考えながら、さらに便利になるや新しく開発されるに自分なりの考えをもつ。
	Bエネルギー変換に関する技術 めざせ！思いどおりに動くロボット	作業部の構想を練り、その構想が妥当かどうかを考察する場面 試作したロボットを動かしながら更なる改善を加える場面 ロボット製作を振り返って、これからの自らの生活とロボットの関係について考える場面	ロボットコンテストのレギュレーションを踏まえ、製作が可能なもので効率的なロボットを選択する。	ロボットに対する考えやアイデアを伝え合い、よりよいものになるように検討する。	ロボットの設計・製作においてルールを踏まえながら、製作における変容において根拠をもつ。
	D情報に関する技術 ホームオートメーションを考えよう	計測制御の技術を学び、自らの生活に役立つ場面を構想する場面	自らや身のまわりの環境を振り返り、それらが安全にかつ便利に過ごすための方策を考える。	生活に役立つ考えやアイデアを伝え合い、よりよいものになるように検討する。	検討したことを受けて、現状を把握し、幅広い視点でさらに情報を集めて新たな考えを深めていく。
中3	D情報に関する技術 同世代に向けた情報モラル啓発資料をつくらう	事例について啓発すべき内容が効果のあるものになっているか検討する場面	身近に存在する情報通信端末について特徴を知り、それらが実生活にもたらす影響がわかった上で使用する態度をもつ。	身近な情報通信端末の使用方法や使用上で発生する責任を考え、それらを伝え合い、よりよいものになるように検討する。	これからの高度情報化社会の方向性を踏まえながら、そのうえで独自の願いやアイデアを入れた工夫をする。
	Bエネルギー変換に関する技術 D情報に関する技術 LEDライトで全員で文字をつくって感謝の言葉をあらわそう	LEDライトの点灯時間や見え方について検討し、制御技術の確かさを感じる場面	プログラミングし、実行したときの課題が分かる。	どのような意図でプログラミングしたのか説明し、現行案のよさや改善策について話し合う。	プログラミングを通して、考えと実際の動きの違いを認識し、制御技術の有用性を考えていく。
	技術分野の学習を今後の生活に生かそう	技術分野の授業を振り返って今後の生活を見通す場面	現在の生活を振り返り、今後の生活に向けて技術分野の学習がどのように生かすができるか考える。	自らの課題を明確にし、その課題から今後の生活を展望し、そのための方策を考える。	社会的、環境的、経済的な側面をとらえながら、今後の生活をどのように過ごしていくか考え、行動しようとする。

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（陸上競技領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	走の運動遊び	いろいろな形状の線上を蛇行して走ったり、真っ直ぐに速く走ったりするための工夫について話し合ったり、紹介し合ったりする場面	いろいろな形状の線上を蛇行して走ったり、真っ直ぐに速く走ったりするための工夫を比喻や擬態語で表す。	いろいろな形状の線上を蛇行して走ったり、真っ直ぐに速く走ったりするための工夫を言語や動きで伝える。	いろいろな形状の線上を蛇行して走ったり、真っ直ぐに速く走ったりするための工夫を真似する。
	跳の運動遊び	遠くに跳んだり、高く跳んだりする工夫について話し合ったり、紹介し合ったりする場面	助走を付けて片足で踏み切って遠くや高く跳ぶ動きを比喻や擬態語で表す。	助走を付けて片足で踏み切って遠くや高く跳ぶ動きを言語や動きで伝える。	助走を付けて片足で踏み切って遠くや高く跳ぶ動きの工夫を真似する。
第2ステージ小2	走の運動遊び	上手に相手の手の平にタッチしたり、バトンを渡したりするための工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	上手に相手の手の平にタッチしたり、バトンを渡したりするための工夫を比喻や擬態語で表す。	上手に相手の手の平にタッチしたり、バトンを渡したりするための工夫を言語や動きで伝える。	上手に相手の手の平にタッチしたり、バトンを渡したりするための工夫を見付けて真似する。
	跳の運動遊び	片足や両脚で連続して上に跳ぶための工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	片足や両脚で連続して上に跳ぶリズムや強さの工夫を比喻や擬態語で表す。	片足や両脚で連続して上に跳ぶリズムや強さの工夫を言語や動きで伝える。	片足や両脚で連続して上に跳ぶリズムや強さの工夫を見付けて真似する。
第3ステージ小3	かけっこ・リレー	素早く走り出すための動きの工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	腕の振り方や上体の位置のよさや不十分さをとらえ、素早く走り出すための見通しをもつ。	素早く走り出すための腕の振り方や上体の位置のよさや不十分さを伝える中で、腕を大きく振ることや体を前に倒すことをアドバイスする。	自分と仲間の走り出しのクフに対する見方・考え方を比べ、見いだした走り方の工夫を取り入れて動きを変えていく。
	小型ハードル走	小型ハードルをいろいろなリズムよく走り越す動きを見合ったり、相互評価したりする場面	小型ハードル間リズムのよさや不十分さをとらえ、勢いよく走り越すための見通しをもつ。	走り越えるリズムのよさや不十分さを伝える中で、勢いを落とさずに走り越すためのリズムを伝える。	走り越えるリズムを比較したり、映像でとらえたりすることで、リズムに対する見方や考え方を確かにししたり、取り入れたりして走り越える動きを変えていく。
	幅跳び	より遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方の工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	より遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さをとらえ、より遠くに跳ぶための助走や踏み切りについての見通しをもつ。	より遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さを伝える中で、勢いよく助走し、力強く踏み切る動きについてアドバイスする。	助走の仕方や踏み切りの仕方を比較したり、走り越える映像を見てとらえた動きの見方や考え方を確かにししたり、取り入れたりして跳び方を変えていく。
	高跳び	より高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方の工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	より高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さをとらえ、より高く跳ぶための助走や踏み切りについての見通しをもつ。	より高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さを伝える中で、リズムにのって助走し、タイミングよく踏み切るための動きについてアドバイスする。	助走の仕方や踏み切りの仕方を比較したり、跳び越える映像を見てとらえた動きの見方や考え方を確かにししたり、取り入れたりして跳び越え方を変えていく。
第3ステージ小4	かけっこ・リレー	テイクオーバーゾーン内で素勢いを落とさずにバトンパスをするための工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	バトンパスの際の動きよさや不十分さをとらえ、勢いを落とさずにバトンパスをするための工夫について見通しをもつ。	バトンパスの仕方のよさや不十分さを伝える中で、走りながらパスをすることや渡す際に声を掛けることをアドバイスする。	自分と仲間のバトンパスの仕方に対する見方・考え方を比べ、見いだしたバトンパスの工夫を取り入れて動きを変えていく。
	小型ハードル走	小型ハードルを一定のリズムで勢いよく走り越す動きを見合ったり、相互評価したりする場面	小型ハードル間の歩幅や走り越えるときの動きのよさや不十分さをとらえ、勢いよく走り越すための見通しをもつ。	走り越える動きのよさや不十分さを伝える中で、勢いよく走り越すための歩幅や越え方についてアドバイスする。	小型ハードル間の歩幅動を比較したり、走り越える映像を見てとらえた動きの見方や考え方を確かにししたり、取り入れたりして走り越える動きを変えていく。

	幅跳び	タイミングよく踏み切って遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方の工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	タイミングよく踏み切って遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さをとらえ、より遠くに跳ぶための助走や踏み切りについての見直しをもつ。	タイミングよく踏み切ってより遠くに跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さを伝える中で、勢いよく助走し、力強く踏み切る動きについてアドバイスする。	勢いを付ける助走の仕方やタイミングよく踏み切る跳び方を比較したり、走り越える映像を見てとらえた動きの見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳び方を変えていく。
	高跳び	リズムのよい助走からタイミングよく踏み切って高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方の工夫について話し合ったり、見合ったりする場面	リズムのよい助走からタイミングよく踏み切って高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さをとらえ、より高く跳ぶための助走や踏み切りについての見直しをもつ。	リズムのよい助走からタイミングよく踏み切って高く跳ぶための助走の仕方や踏み切りの仕方のよさや不十分さを伝える中で、助走のリズムや踏み切る位置や強さについてアドバイスする。	助走のリズムや踏み切る位置や強さを比較したり、跳び越える映像を見てとらえた動きの見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳び越え方を変えていく。
第4ステージ小5	短距離走・リレー	スタンディングスタートから素早く加速して走るための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	スタートから素早く走り出す動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、素早く加速して走るための修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	スタートから素早く走り出す動きのよさや不十分さを伝える中で、素早く加速して走るための動きの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	スタートから素早く走り出す動きを比較したり、映像でとらえたりすることで、素早く加速するための動きの見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして走り越える動きを変えていく。
	ハードル走	第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越える動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	第1ハードルを決めた足で踏み切ることのよさや不十分さを多面的にとらえ、決めた足で踏み切るための修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	第1ハードルを決めた足で踏み切るための工夫のよさや不十分さを伝える中で、ハードルを決めた足で踏み切るための動きの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	第1ハードルを決めた足で踏み切るための工夫を比較したり、映像でとらえたりすることで、ハードルをリズムカルに走り越すための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして走り越える動きを変えていく。
	走り幅跳び	リズムカルな助走から踏み切り板でタイミングよく踏み切り遠くに跳ぶための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	助走から踏み切り板で踏み切る動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、リズムカルな助走からタイミングよく踏み切るための動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	助走から踏み切り板で踏み切る動きのよさや不十分さを伝える中で、助走のリズムや踏み切りタイミングの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	助走のリズムや踏み切るタイミングを比較したり、映像でとらえたりすることで、リズムカルな助走から踏み切り板でタイミングよく踏み切り遠くに跳ぶための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳ぶ動きを変えていく。
	走り高跳び	リズムカルな助走からタイミングよく踏み切って高く跳ぶための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	助走から踏み切る動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、リズムカルな助走からタイミングよく踏み切るための動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	助走から踏み切る動きのよさや不十分さを伝える中で、助走のリズムや踏み切りタイミングの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	助走のリズムや踏み切るタイミングを比較したり、映像でとらえたりすることで、リズムカルな助走からタイミングよく踏み切り高く跳ぶための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳び越え方を変えていく。
第4ステージ小6	短距離走・リレー	ていくオーバーゾーン内で勢いを落とさずにバトンパスをする工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	走り出すタイミングのよさや不十分さを多面的にとらえ、仲間の走力によって走り出すタイミングの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	走り出すタイミングのよさや不十分さを伝える中で、仲間の走力によって走り出すタイミングの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	走り出すタイミング比較したり、映像でとらえたりすることで、勢いを落とさずにバトンパスするための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして仲間の走力によって走り出すタイミングを変えていく。
	ハードル走	ハードルをリズムカルに走り越すための動きを見合ったり、相互評価したりする場面	ハードルの跳び越し方のよさや不十分さを多面的にとらえ、リズムカルに跳び越すためのインターバルや跳び越し方の修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	ハードルの跳び越し方のよさや不十分さをとらえ、インターバルや跳び越し方のよさや不十分さを伝える中で、ハードルをリズムカルに跳び越すための動きの違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	ハードルの跳び越し方のよさや不十分さをとらえ、インターバルや跳び越し方を比較したり、映像でとらえたりすることで、ハードルをリズムカルに走り越すための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして走り越える動きを変えていく。
	走り幅跳び	リズムカルな助走から踏み切り板でタイミングよく踏み切り遠くに着地するための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	助走から踏み切り板で踏み切り、着地する動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、より遠くに着地するための動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	助走から踏み切り板で踏み切って着地する動きのよさや不十分さを伝える中で、着地の仕方の違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	着地の仕方を比較したり、映像でとらえたりすることで、より遠くに着地するための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳び方を変えていく。

	走り高跳び	リズムカルな助走から上体を起こしてタイミングよく踏み切り足から着地するための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	踏み切り足と抜き足の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、バーに体が当たらないように跳び越して着地するための動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	踏み切り足と抜き足の動きのよさや不十分さを伝える中で、跳び越し方の違いを認め、相手の工夫に肯定的な評価をする。	踏み切り足と抜き足の動きを比較したり、映像でとらえたりすることで、より高く跳んで着地するための見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして跳び越え方を変えていく。
第4ステージ中1	短距離	<ul style="list-style-type: none"> スタートから前傾姿勢を保ち、加速していく技能についてポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	スタートからフィニッシュまでの各局面を滑らかに疾走するための動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組むことができる。	スタートからフィニッシュまでの各局面を滑らかに加速するための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、スタートから加速するための動きについて互いの違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の疾走フォームの分析を生かした動きを理解し、見方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして自分の動きに生かす。
	ハードル	<ul style="list-style-type: none"> スタートからアプローチ局面についてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに走り越える動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、粘り強く練習に取り組む。	スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに走り越える動きのよさや不十分さを伝え合う中で、アプローチ局面からのスピードを生かした動きについての互いの違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の疾走フォームやハードリング動作の分析を生かし、各局面の動き方を理解し、自分の動きに取り入れたいして動きに生かす。
	幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> 助走から踏み切りまで自己に適した歩数や距離についてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	助走から踏み切りへ移る時、助走スピードを維持したまま踏み切るための動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、粘り強く練習に取り組む。	助走から踏み切りへ移る時、助走や踏み切りための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、自己に適した助走距離や歩数についての互いの動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の助走の分析から動き方を理解し、自分の動きに取り入れたいして動きに生かす。
第5ステージ中2	短距離	<ul style="list-style-type: none"> スタートからスピードを維持し中間疾走の走り方についてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	スタートからフィニッシュまでの各局面滑らかな動きや腕と脚の調和に取れた動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して動きの修正・改善に向けた解決方法を選択・決定する。	スタートからフィニッシュまでの各局面滑らかな動きや腕と脚の調和に取れた動きのよさや不十分さを伝え合う中で、自己に応じたビッチやストライドの動きや、腕や脚の動きについて具体的に助言をし合う。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の疾走フォームの分析を生かし、各局面の走り方を理解し、見方・考え方を確かにしたり、取り入れたいして自分の動きに変化を付ける。
	ハードル	<ul style="list-style-type: none"> ハードリング動作やインターバルの走り方についてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに走り越える動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して動きの修正・改善に向けた解決方法を選択・決定する。	スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに走り越える動きを伝え合う中で、安定したハードリング動作やインターバル間の走り方についての動きの違いを認め、具体的に助言する。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の疾走フォームやハードリング動作の分析を生かし、各局面の動き方を関連付けて理解し、自分の動きに取り入れたいして動きに変化を付ける。
	幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> 助走から踏み切りまで自己に適した歩数や距離を見つけ、踏み切り動作についてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	助走から踏み切りへ移る時、助走スピードを維持したまま踏み切るための動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組む、解決方法を見通す。	助走から踏み切りへ移る時、助走や踏み切りための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、助走スピードを維持したまま踏み切るまでの動きの違いを認め、相手の動きに応じた助言をしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の助走や踏み切り動作の分析から個人技能と各局面の動き方を関連付けて理解し、見方・考え方を確かにしたり、取り入れたいしながら、自分の動きに変化を付ける。
第5ステージ中3	短距離・リレー	<ul style="list-style-type: none"> スピードを生かしたバトンパスについてのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	腕と脚の調和に取れた動きやスピードを生かしたバトンパスを目指した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分や仲間の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組む、解決方法を見通す。	腕と脚の調和に取れた動きやスピードを生かしたバトンパスの動きのよさや不十分さを伝え合う中で、スタートからの加速を生かし、滑らかな腕と脚の動きなどについての違いを認め、相手の動きに応じた助言をしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、分析的にとらえた個人技能と各局面のポイントを踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方の根拠を明らかにしながら、自分の動きを変化させる。

ハードル	<ul style="list-style-type: none"> スタートフィニッシュまでのポイントを挙げ、相互評価をしていく場面 ペアやグループのタイムを縮めるために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	<p>スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに低く走り越える動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組み、解決方法を見通す。</p>	<p>スタートからフィニッシュまでの各局面をリズムカルに低く走り越えるための動きを伝え合う中で、安定したハードリング動作やインターバル間の走り方についての動きの違いを認め、具体的な動きを助言し合う。</p>	<p>目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、客観的に見た自他の疾走フォームやハードリング動作の分析を生かし、各局面の動きの見方・考え方の根拠を明らかにしながら動きを変化させる。</p>
幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> 助走から着地までの一連の技能について、相互評価をしていく場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	<p>助走スピードとリズムカルな動きを生かして力強く踏み切り、脚を前に投げ出す着地動作のよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組み、解決方法を見通す。</p>	<p>踏み切り動作や着地の空間動作の動きのよさや不十分さを伝え合う中で、助走スピードとリズムカルな動きを生かして力強く踏み切り着地するまでの動きの違いを認め、相手の動きに応じた助言をしたり、自分の動きに助言を求めたりする。</p>	<p>目指す動きと比較したり、映像分析したりして、客観的に見た自他の助走から着地動作までの動き方を分析的にとらえ、個人技能と各局面の動き方を関連付けて理解し、見方・考え方の根拠を明らかにしながら、自分の動きを変化させる。</p>

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（ダンス領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	表現遊び	広場にいる生き物の特徴や様子を表した動きについて話し合ったり、紹介し合ったりする場面	生き物の特徴や様子や動きを比喻表現や擬態語、リズム語、簡単な図などで表す。	生き物の特徴や様子を表す動きのよさを言語や動きで伝える。	仲間の生き物の動きを真似して遊ぶ。
第2ステージ小2	リズム遊び	音楽に合うように仲間と即興でステップや振り付けを考えたり、工夫したりする場面	自分や仲間の弾む動きや回る動き、スキップなどの動きを比喻表現や擬態語、リズム語、簡単な図などで表す。	弾む動きや回る動き、スキップなどの動きの工夫を言語や動きで伝える。	弾む動きや回る動き、スキップなどの動きのよさを真似して一緒に踊る。
第3ステージ小3	表現	洗濯機や探検の様子などを題材に祖述する表現のストーリーについて話し合ったり、創作した振り付けを互いに見合ったりする場面	創作した動きのよさや不十分さをとらえ、目指す動きに近付くための見通しをもつ。	創作した動きのよさや不十分さを伝える中で、修正点や改善点をアドバイスする。	グループで創作した動きを見合い、互いのよさを取り入れて表現を変えていく。
第3ステージ小4	リズムダンス	仲間とリズムに合わせて対応した踊りを創作したり、創作した動きを見合ったりする場面	対応する動きのよさや不十分さをとらえ、目指す動きに近付くための見通しをもつ。	対応する動きのよさや不十分さを伝える中で、修正点や改善点をアドバイスする。	グループで創作した動きを見合い、互いのよさを取り入れて踊りを変えていく。
第4ステージ小5	表現	創作するストーリーの「はじめ-なか-おわり」の場面について話し合ったり、探索した表現を相互評価したりする場面	創作した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、動き修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	創作した動きのよさや不十分さを伝える中で、表現の違いを認め、相手の動きに肯定的に働きかける。	グループで創作した動きを見合ったり、映像で比較したりしてとらえた動きの見方や考え方を自分たちの表現に取り入れて動きを変えていく。
第4ステージ小6	フォークダンス	踊りが生まれた国や地域の文化や特徴について話し合ったり、互いの踊りを相互評価したりする場面	互いの踊りのよさや不十分さを多面的にとらえ、動き修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	互いの動きのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の動きに肯定的に働きかける。	グループで踊りを見合ったり、映像で比較したりしてとらえた動きの見方や考え方を自分たちの踊りに取り入れ動きを変えていく。
第4ステージ中1	フォークダンス	互いのダンスの出来栄をよりよくするために相互評価したり、ダンスの背景を汲み取った表現ができていないか話し合ったりする場面	踊り方の特徴をとらえ、特徴的なステップや動き、組み方のよさや不十分さを多面的にとらえ、良い動きを目指して粘り強く取り組む。	踊り方の由来や背景などが動きで表現されるための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、動きの違いを認め、肯定的に働き掛ける。	目指す動きとの比較や映像分析によって、特徴的なステップや、難しい動き方に対する動きの見方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きに生かす。

第5ステージ中2	現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> 互いのダンスの出来栄をよりよくするために相互評価したり、動きやすいビートとテンポを選んで練習したりする場面 仲間やグループ間で見せ合って助言し合い、試行を繰り返す場面 	リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせながら動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	リズムに変化を付けて踊ったり、手をつなぐなど相手と対応したりしながら踊るための動きのよさや不十分さを認め、具体的に動きについて助言し合う。	目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、リズムをとらえて踊ったり、動きを組み合わせでいったりする動きの見方や考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きに変化を付ける
第5ステージ中3	創作ダンス	<ul style="list-style-type: none"> 多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選び、相手を意識した動きの表現を共有する場面 個人や集団で自分たちの動きがテーマを表現できているか検討し、試行していく場面 	テーマにふさわしいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的な動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組み、解決方法を見通す。	個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方についてや、変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成についてのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の動きに応じた働きかけをしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	映像の動きやテーマや構成に対応した実際の動きについて分析的にとらえ、動きの見方や考え方の根拠を明らかにしながら動きを変化させていく。

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（器械運動領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	マット遊び	よい転がり方を引き出す場 を使って、仲間と動きを見合 ったり、相互評価したりする 場面	いろいろな方向へ転がる動き を比喻表現や擬態語、リズム語 で表す。	いろいろな方向へ転がる動き のよさを言語や動きで伝え合 う。	仲間のよい転がり方を見て、模 倣する。
	鉄棒遊び	いろいろなぶらさがりの動き を引き出す場で、仲間と動き を見合ったり、相互評価し たりする場面	いろいろなぶら下がりの動き を比喻表現や擬態語、リズム語 で表す。	いろいろなぶら下がりの動き のよさを言語や動きで伝え合 う。	仲間のよい下がり方を見て、模 倣する。
第2ステージ小2	マット遊び	後ろ転がりをするための動き を引き出す場を使って、仲間 と動きを見合ったり、相互 評価したりする場面	前転がり、後ろ転がり、丸太転 がりなどの転がり方比喻表現 や擬態語、リズム語、簡単な図 で表す。	前転がり、後ろ転がりの動きの よさを言語や動きで伝え合う。	仲間のよい転がり方を見付け て、模倣する。
	鉄棒遊び	地球回りやだるま回りをす るために必要な動きを引き 出す場で、仲間と動きを見合 ったり、相互評価したりする 場面	ぶら下がり、地球回り、足抜き 回り、だるま回り、ふとんほし の動きを比喻表現や擬態語、リ ズム語、簡単な図で表す。	跳び上がりや跳び下り、ぶら下 がりや回転の動きのよさを言 語や動きで伝え合う。	仲間のよい回り方を見付けて、 模倣する。
	跳び箱遊び	よい踏み切りや跳び方をす るための動きを引き出す場 を使って、仲間と動きを見合 ったり、相互評価したりする 場面	幅跳び遊び、ケンパー跳び遊 び、ゴム跳び遊びの動きを比喻 表現や擬態語、リズム語、簡単 な図で表す。	助走を付けて片足で踏み切り、 前方や上方に跳んだり、片足や 両足で連続して跳んだりする 動きのよさを言語や動きで伝 え合う。	仲間のよい踏み切りや跳び方 を見付けて、模倣する。
第3ステージ小3	マット運動	・目指す回転技や倒立技をす るためのポイントとなる 動きについて話し合う場 面 ・目指す回転技や倒立技をす るための動きを引き出す場 を選んで、仲間と動きを見 合ったり、相互評価したり する場面	前転、後転、壁倒立、腕立て横 跳び越しの動きのよさや不十 分さをとらえ、よい動きを目指 して粘り強く取り組む。	回転技や倒立技の動きのよさ や不十分さを伝え合う中で、自 分の動きの高まりを自覚し伝 える。	自分と仲間の回転技や倒立技 に対する見方・考え方を比べて 見いだしたよさを取り入れて 動きを変える。
	跳び箱運動	・目指す開脚跳びや台上前転 をするためのポイントと なる動きについて話し合 う場面 ・目指す回転技や倒立技をす るための動きを引き出す 場を選んで、仲間と動きを 見合ったり、相互評価し たりする場面	開脚跳び、台上前転の動きのよ さや不十分さをとらえ、よい動 きを目指して粘り強く取り組 む。	切り返し系の技や回転系の技 の動きのよさや不十分さを伝 え合う中で、自分の動きの高ま りを自覚し伝える。	自分と仲間の切り返し系の技 や回転系の技に対する見方・考 え方を比べて見いだしたよさ を取り入れて動きを変える。
	鉄棒運動	・目指す上がり技、回転技、 おり技をするためのポ イントとなる動きにつ いて話し合う場面 ・目指す上がり技、回転技、 おり技をするための動 きを引き出す場を選 んで、仲間と動きを見 合ったり、相互評価 したりする場面	腰掛け振り上がり、補助逆上 がり、抱え込み回り、後方片膝 かけ回転、前回り下り、転向前 下り、両膝掛け倒立下りのよ さや不十分さをとらえ、よい動 きを目指して粘り強く取り組 む。	上がり技、支持回転技、下り技 のよさや不十分さを伝え合う 中で、自分の動きの高まりを自 覚し伝える。	自分と仲間の上がり技、支持回 転技、下り技に対する見方・考 え方を比べて見いだしたよさ を取り入れて動きを変える。
第3ステージ小4	マット運動	・目指す回転技や倒立技をす るためのポイントとなる 動きについて話し合う場 面 ・目指す回転技や倒立技をす るための動きを引き出す 場を選択して、仲間とアド バイスをしたり、相互評価 したりする場面	新しい技に挑戦したり、技を組 み合わせたりしながら、動きの よさや不十分さをとらえ、よい 動きを目指して粘り強く取り 組む。	回転技や倒立技を組み合わせた 動きのよさや不十分さを伝え 合う中で、自分の動きの高まり を自覚し伝える。	自分と仲間の回転技や倒立技 をつなぐ技に対する見方・考 え方を比べて見いだしたよさ を取り入れて動きを変える。

第4ステージ小5	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す開脚跳びや台上前転をするためのポイントとなる動きについて話し合う場面 ・目指す回転技や倒立技をするための動きを引き出す場を選択して、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	開脚跳びや台上前転の動きのよさや不十分さをとらえ、リズムカルに安定した動きを目指して粘り強く取り組む。	切り返し系の技や回転系の技の動きのよさや不十分さを伝え合う中で、自分のリズムカルに安定した動きの高まりを自覚し伝える。	自分と仲間の切り返し系の技や回転系の技に対する見方・考え方を比べて見いだしたよさを取り入れて動きを変える。
	鉄棒運動	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した上がり技、支持回転技、下り技のポイントとなる動きについて話し合う場面 ・選択した上がり技、支持回転技、下り技を組み合わせで表現する場で、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	新しい技に挑戦したり、技を組み合わせたりしながら、動きのよさや不十分さをとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。	上がり技、支持回転技、下り技を組み合わせた動きのよさや不十分さを伝え合う中で、自分の動きの高まりを自覚し伝える。	自分と仲間の上がり技、支持回転技、下り技を組み合わせる動きに対する見方・考え方を比べて見いだしたよさを取り入れて動きを変える。
	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりするためのポイントとなる動きについて話し合う場面 ・技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりするための動きや場を選択・決定して、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	回転技や倒立技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりしながら、動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。	回転技や倒立技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりするための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりして、回転技や倒立技を組み合わせやシンクロナイズドするための動きの見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたたりして動きを変える。
	鉄棒運動	<ul style="list-style-type: none"> ・技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりするためのポイントとなる動きについて話し合う場面 ・技を組み合わせたり、シンクロナイズドさせたりするための動きや場を選択・決定して、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	自分の支持回転の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、なめらかな回転を目指して粘り強く取り組む。	なめらかに支持回転するためのポイントについて伝え合う中で、回転の違いを認め、肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりして、支持回転、上がり技、下り技の組み合わせ、なめらかに回るための動きの見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたたりして動きを変える。
第4ステージ小6	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した跳び越しをするためのポイントとなる動きについて話し合う場面 ・安定した跳び越しをするための動きや場を選択・決定して、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	切り返し系、回転系の技の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、リズムカルに安定した跳び越しを目指して粘り強く取り組む。	リズムカルで安定した跳び越しをするための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、踏み切りや着手のタイミングなどの動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりして、踏み切りや着手のタイミング、空中姿勢を調節する動きの見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたたりして動きを変える。
	鉄棒運動	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した支持回転をするためのポイントとなる動きについて話し合う場面 ・安定した支持回転をするための動きや場を選択・決定して、仲間とアドバイスをしたり、相互評価したりする場面 	自分の支持回転の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、なめらかに回転することを目指して粘り強く取り組む。	なめらかな回転するためのポイントや練習方法について伝え合う中で、回転する動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりして、回転中の姿勢や、手首の使い方に対する動きの見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたたりして動きを変える。
第4ステージ中1	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの技のできばえをよりよくするために練習方法を考えたり、技と技のつなぎの方法を工夫したりして一連の技の流れに見通しをもつ場面 ・技をよりよく行うために互いに比較分析ながら試行を繰り返す場面 	回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行いながら組み合わせながら動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。	回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行いながら組み合わせるための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	動きを比較したり、映像を見たりして、回転力を高める動き方や全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方などの動きの見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたたりして動きに生かす。

	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> 技のできばえをよりよくするために場の工夫を考えたり、ポイントを検討したりして見直しをもつ場面 踏み切りや着手、空中姿勢を互いに比較・検討しながら試行を繰り返す場面 	<p>切り返し系、回転系の技の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに行って跳び越すことを目指して粘り強く取り組む。</p>	<p>踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに行って跳び越すための動きのよさ不十分さを伝え合う中で、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミングなどの動きの違いを認め、肯定的に働きかける。</p>	<p>動きを比較したり、映像を見たりして、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミング、空中姿勢を調節する動きの見方・考え方を確かめたり、取り入れたりして動きに生かす。</p>
第5ステージ中2	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> 互いの技のできばえをよりよくするために練習方法を考えたり、技と技のつなぎの方法を工夫したりして一連の技の流れに見直しをもつ場面 技をよりよく行うために互いに比較分析ながら試行を繰り返す場面 	<p>回転系や巧技系の技を滑らかに組み合わせながら動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。</p>	<p>回転系や巧技系の技を滑らかにしながら組み合わせるための動きのよさや不十分さを伝え合う中で、動きの違いを認め、具体的に助言し合う。</p>	<p>動きを比較したり、映像を見たりして、回転力を高める動き方や全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方などの動きの見方・考え方を確かめたり、取り入れたりして動きに生かす。</p>
	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> 技のできばえをよりよくするために場の工夫を考えたり、ポイントを検討したりして見直しをもつ場面 踏み切りや着手、空中姿勢を互いに比較・検討しながら試行を繰り返す場面 	<p>切り返し系、回転系の技の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに行って跳び越すことを目指して粘り強く取り組む。</p>	<p>踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに行って跳び越すための動きのよさ不十分さを伝え合う中で、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミングなどの動きの違いを認め、具体的に助言し合う。</p>	<p>動きを比較したり、映像を見たりして、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミング、空中姿勢を調節する動きの見方・考え方を確かめたり、取り入れたりして動きに生かす。</p>
第5ステージ中3	マット運動	<ul style="list-style-type: none"> 互いの技のできばえをよりよくするために練習方法を考えたり、技と技のつなぎの方法を工夫したりして一連の技流れに見直しをもつ場面 技をよりよく行うために互いに比較分析ながら試行を繰り返す場面 	<p>回転系や巧技系の滑らかに安定させ、条件を変えたり、発展させたりして構成した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。</p>	<p>回転系や巧技系の滑らかに安定させ、条件を変えたり、発展させたりして構成した動きのよさや不十分さを伝え合う中で、動きの違いを認め、具体的に助言し合う。</p>	<p>動きを比較したり、映像を見たりして、回転系や巧技系の滑らかに安定させ、条件を変えたり、発展させたりして構成した動きの見方・考え方を確かめたり、取り入れたりして動きに生かす。</p>
	跳び箱運動	<ul style="list-style-type: none"> 技のできばえをよりよくするために場の工夫を考えたり、ポイントを検討したりして見直しをもつ場面 踏み切りや着手、空中姿勢を互いに比較・検討しながら試行を繰り返す場面 	<p>切り返し系、回転系の技を安定させて行い、条件を変えたり、発展させたりした動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに行って跳び越すことを目指して粘り強く取り組む。</p>	<p>踏み切りから着地までの一連の流れを滑らかに安定した跳び越しをするための動きのよさ不十分さを伝え合う中で、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミングなどの動きの違いを認め、具体的に助言し合う。</p>	<p>動きを比較したり、映像を見たりして、力強い踏み切り方や、着手の位置やタイミング、空中姿勢を調節する動きの見方・考え方を確かめたり、取り入れたりして動きに生かす。</p>

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（球技領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	ボール投げゲーム	ねらったところに強く投げる動きについて話し合ったり、見合ったりする場面	ねらったところに強く投げる投げ方の工夫を比喻や擬態語、動きなどで表す。	ねらったところに強く投げるための投げ方の工夫について言語や動きで伝える。	仲間のよい投げ方を真似する。
	ボール蹴りゲーム	ねらったところに強く蹴る動きについて話し合ったり見合ったりする場面	ねらったところに強く蹴る投げ方の工夫を比喻や擬態語、動きなどで表す。	ねらったところに強く蹴るための投げ方の工夫について言語や動きで伝える。	仲間のよい蹴り方を真似する。
第2ステージ小2	ボール蹴りゲーム	ねらったところに素早く投げたり、素早くよけたり、捕ったりするための動きについて話し合ったり、見合ったりする場面	ねらったところに素早く投げたり、しっかりと捕ったりするための動きの工夫を比喻や擬態語、動きなどで表す。	ねらったところに素早く投げたり、しっかりと捕ったりするための動きの工夫について言語や動きで伝える。	仲間のよい投げ方や取り方の工夫を真似する。
	ボール蹴りゲーム	ねらったところに素早く蹴ったり、しっかりと足で受け止めたりするための動きについて話し合ったり、見合ったりする場面	ねらったところに素早く蹴ったり、しっかりと足で受け止めたりするための動きの工夫を比喻や擬態語、動きなどで表す。	ねらったところに素早く蹴ったり、しっかりと足で受け止めたりするための動きの工夫について言語や動きで伝える。	仲間のよい蹴り方や受け止め方の工夫を真似する。
第3ステージ小3	ゴール型ゲーム	安全に相手のゴールにボールを運ぶための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	ボールの移動の仕方のよさや不十分さをとらえ、より早くボールを移動させるためにパスやドリブルを使って移動する仕方に粘り強く取り組む。	より早くボールを移動させるための動き方を伝える中で、パスの仕方やドリブルの仕方をアドバイスする。	自分と仲間のボールを移動させるための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの移動の仕方を変えていく。
	ネット型ゲーム	ねらったところへボールを打つための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	ねらったところへボールを打つための動きのよさや不十分さをとらえ、ボールの打ち方や仲間への付かぎ方の練習に粘り強く取り組む。	ねらったところへボールを打つための動きを伝える中で、ボールを打ち方やつなぎ方をアドバイスする。	ねらったところへボールを打つための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの打ち方や仲間へのつなぎ方をを変えていく。
	ベースボール型ゲーム	ねらったところへ打ったり、素早く捕球したりするための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	ねらったところへ打ったり、素早く捕球したりするための動きのよさや不十分さをとらえ、ボールの打ち方や確実な捕球の仕方の練習に粘り強く取り組む。	ねらったところへ打ったり、素早く捕球したりするための動きを伝える中で、ボールを打つための体の使い方をアドバイスする。	ねらったところへ打ったり、素早く捕球したりするための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの移動の仕方を変えていく。
第3ステージ小4	ゴール型ゲーム	ボールを素早くゴールへ移動させて得点するための仲間の位置について話し合ったり、相互評価したりする場面	素早くボールの移動させるための移動の仕方のよさや不十分さをとらえ、パスの出し方や受け方の練習に粘り強く取り組む。	素早くボールの移動させるためのパスの出し方や受け方を伝える中で、より素早いパスの仕方をアドバイスする。	素早くボールを移動させるためのパスの仕方や受け方を比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの打ち方や捕球の仕方を変えていく。

	ネット型ゲーム	相手が捕りにくいところへボールを返したり、味方が受けやすいところにつないだりするための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	相手が捕りにくいところへボールを返したり、味方が受けやすいところにつないだりするための動きのよさや不十分さをとらえ、ボールの打ち方や仲間への付きぎ方の練習に粘り強く取り組む。	相手が捕りにくいところへボールを返したり、味方が受けやすいところにつないだりするための動きを伝える中で、ボールの打ち方やつなぎ方をアドバイする。	相手が捕りにくいところへボールを返したり、味方が受けやすいところにつないだりするための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの打ち方や仲間へのつなぎ方を変えていく。
	ベースボール型ゲーム	ねらったところへ打ったり、素早く捕球して送球したりするための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	ねらったところへ打ったり、素早く捕球して送球したりするための動きのよさや不十分さをとらえ、強弱を付けたボールの打ち方や確実に捕球して送球する動きの練習に粘り強く取り組む。	ねらったところへ打ったり、素早く捕球して送球したりするための動きを伝える中で、ボールを打ったり、確実に捕球して送球したりするための体の使い方をアドバイする。	ねらったところへ打ったり、素早く捕球して送球したりするための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの打ち方や捕球の仕方、送球の仕方を変えていく。
第4ステージ小5	ゴール型ゲーム	ゴール付近のスペースを使ってパスをつないで得点するための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	素早く安全にボールの移動させるための移動の仕方のよさや不十分さをとらえ、スペースに移動してパスを受けたり、シュートをしたりするための動きを粘り強く練習する。	素早く安全にボールの移動させるための動きを伝える中で、スペースに移動してパスを受けたり、シュートをしたりするための動きについてアドバイする。	素早く安全にボールの移動させるためのスペースへの動き方を比べ、見いだしたよさを取り入れて動きを変えていく。
	ネット型ゲーム	相手が捕りにくいところへボールを打ち返したり、味方が捕りやすいところにつないだりするための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	相手が捕りにくいところへボールを打ち返したり、味方が捕りやすいところにつないだりするための動きのよさや不十分さをとらえ、仲間へつなぎための打ち方の練習に粘り強く取り組む。	相手が捕りにくいところへボールを打ち返したり、味方が捕りやすいところにつないだりするための動きを伝える中で、ボールの打ち方やつなぎ方をアドバイする。	相手が捕りにくいところへボールを打ち返したり、味方が捕りやすいところにつないだりするための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れてボールの打ち方や仲間へのつなぎ方を変えていく。
	ベースボール型ゲーム	効率よく得点をとるための出塁と進塁の仕方について話し合ったり、相互評価したりする場面	相手の守備位置に応じた出塁と進塁をするための動きのよさや不十分さをとらえ、仲間を進塁させるための打ち方の練習に粘り強く取り組む。	相手の守備位置に応じた出塁と進塁をするための動きを伝える中で、仲間が進塁する方向の逆をねらって打つ工夫をアドバイする。	相手の守備位置に応じた出塁と進塁をするための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れて仲間を進塁させるための打ち方を変えていく。
第4ステージ小6	ゴール型ゲーム	スペースを使って、仲間とパスをつなぎ連携しながら素早く攻撃するために話し合ったり、相互評価したりする場面	素早く安全にボールを移動させるための動きのよさや不十分さをとらえ、スペースにパスを出したり、スペースに移動してパスを受けたりシュートをしたりする動きを粘り強く練習する。	素早く安全にボールを移動させるための動きを伝える中で、スペースにパスを出したり、スペースに移動してパスを受けたりシュートをしたりする動きについてアドバイする。	素早く安全にボールを移動させるためのパスの出し方や受け方を比べ、見いだしたよさを取り入れて動きを変えていく。
	ネット型ゲーム	味方と連携して相手が捕りにくいところへボールを打ち返すための動きについて話し合ったり、相互評価したりする場面	味方と連携して相手が捕りにくいところへボールを打ち返すための動きのよさや不十分さをとらえ、仲間と連携してボールを打ち返す攻撃の練習に粘り強く取り組む。	味方と連携して相手が捕りにくいところへボールを打ち返すための動きを伝える中で、仲間と連携して攻撃する仕方をアドバイする。	味方と連携して相手が捕りにくいところへボールを打ち返すための動きを比べ、見いだしたよさを取り入れて仲間と連携して攻撃する仕方を変えていく。
	ベースボール型ゲーム	相手の出塁や進塁を阻止するための守備隊形や守備の連携の仕方について話し合ったり、相互評価したりする場面	相手の出塁や進塁を阻止するための守備隊形のよさや不十分さをとらえ、仲間と連携してアウトにするための練習に粘り強く取り組む。	相手の出塁や進塁を阻止するための守備隊形や守備の連携の仕方を伝える中で、得点を与えないための守備隊形の工夫や連携の仕方の工夫をアドバイする。	相手の出塁や進塁を阻止するための守備隊形や守備の連携の仕方を比べ、見いだしたよさを取り入れて仲間と打者や走者をアウトにするための守備の仕方を変えていく。
第4ステージ中1	ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで助言し合ったり、作戦を試行したりする場面 	ボールや用具の操作や定位置に戻るなどを知り、動くための方法やポイントのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組むことができる。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、空間をめぐる攻防を展開するための動きについての違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、個人技能をチームの作戦に生かした動きを理解し、味方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして自分の動きに生かす。

	ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やフォーム、空間を意識した動きなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで助言し合ったり、作戦を試行したりする場面 	安定したボールや用具の操作、空間を意識した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、粘り強く練習に取り組む。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、ボール操作やボールをもたない時の動きについての違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、個人技能とチームの作戦を踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方を確かにし、取り入れたりして自分の動きに生かす。
第5ステージ中2	ネット型	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じたボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで動きについて助言し合ったり、相手を意識した作戦を試行したりする場面 	ボールや用具の操作や定位置に戻るなどを知り、ラリーを続けるための動き方や相手のいない空間を意識した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して動きの修正・改善に向けた解決方法を選択・決定する。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、空間をめぐる攻防を展開するための動きについて具体的に助言をし合う。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、分析的にとらえた個人技能とチームの作戦を踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方を確かにし、取り入れたりして動きに変化を付ける。
	ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで連携した動きについて助言し合ったり、作戦を試行したりする場面 	用具の操作と走塁での攻撃、ボール操作や守備などの動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して動きの修正・改善に向けた解決方法を選択・決定する。	用具やボール操作、攻撃や守備の動きを伝え合う中で、安定したバットやボール操作や、連携した守備についての動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、仲間と連携した攻守や自他の特徴を生かした作戦を立ててゲームを展開するための見方・考え方を確かにし、取り入れたりして動きに生かす。
	ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じたボール操作やフォーム、空間を利用した動きなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで動きについて助言し合ったり、相手を意識した作戦を試行したりする場面 	安定したボールや用具の操作、空間を意識した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、粘り強く練習に取り組む、解決方法を見通す。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、空間に走り込んだり、作りだしたりする動きなどについての違いを認め、具体的な助言をし合う。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、個人技能とチームの作戦を踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方を確かにし、取り入れたりして動きに変化を付ける。
第5ステージ中3	ネット型	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じたボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで連携した動きを助言し合ったり、相手の動きに応じた作戦を試行したりする場面 	ボールや用具の操作や定位置に戻るなどを知り、ラリーを続けるための動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組む、解決方法を見通す。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、空間をめぐる攻防を展開するために、ボールをもたない時の動きなどについての違いを認め、相手の動きに応じた助言をしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、分析的にとらえた個人技能とチームの作戦を踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方の根拠を明らかにしながら、自分の動きを変化させる。
	ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じたボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 チームで連携した動きについて助言し合ったり、相手を意識した作戦を試行したりする場面 	用具の操作と走塁での攻撃、ボール操作や守備などの動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して動きの修正・改善に向けた解決方法を選択・決定する。	用具やボール操作、攻撃や守備の動きを伝え合う中で、安定したバットやボール操作や、連携した守備についての動きの違いを認め、具体的な動きについて助言し合う。	目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、仲間と連携した攻守や自他の特徴を生かした作戦を立ててゲームを展開するための見方・考え方の根拠を明らかにしながら動きを変化させる。
	ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じたボール操作や打撃フォーム、定位置に戻るなどの個人技能習得のための相互評価の場面 ペアやグループで連携した動きを助言し合ったり、相手の動きに応じた作戦を試行したりする場面 	安定したボールや用具の操作、空間を意識した動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組む、解決方法を見通す。	チームの作戦や動き方を比較・分析しながらよさや不十分さを伝え合う中で、空間に走り込んだり、作りだしたりする動きなどについての違いを認め、相手の動きに応じた助言をしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	目指す動きと比較したり、映像分析したりして、分析的にとらえた個人技能とチームの作戦を踏まえた動きを関連付けて理解し、見方・考え方の根拠を明らかにしながら、自分の動きを変化させる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（水泳領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第2ステージ小1	水遊び	水につかって移動する遊びの工夫について話し合う場面	水につかって移動する動きを比喩や擬態語で表す。	移動する動きの工夫を言語や動きで伝える。	仲間の移動の仕方を真似する。
第2ステージ小2	水遊び	水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりする遊びの工夫について話し合う場面	水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりする動きの工夫を比喩や擬態語で表す。	水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりする動きの工夫を言語や動きで伝える。	水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりする工夫を真似する。
第3ステージ小3	浮く・泳ぐ運動	いろいろな浮き方やけ伸びの仕方について話し合ったり、相互評価したりする場面	いろいろな浮き方のコツやけ伸びのポイントをとらえる。	いろいろな浮き方のコツやけ伸びのポイントをアドバイスする。	仲間の浮き方やけ伸びのポイントを比べ、見いだした浮き方の工夫を取り入れて浮き方を変えていく。
第3ステージ小4	浮く・泳ぐ運動	補助具を使って呼吸をしながら泳ぐための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	ビート板やヘルパーを使って呼吸をしながら泳ぐための見通しをもつ。	ビート板やヘルパーを使って呼吸をしながら泳ぐためのコツやポイントをアドバイスする。	仲間の泳ぎ方を比べ、見いだしたよさを取り入れて呼吸の仕方を変えていく。
第4ステージ小5	水泳	クロールで続けて長く泳ぐための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	プルやキックの動きのよさをとらえ、泳ぎ方の改善に向けた解決方法を選択・決定する。	プルやキックのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の泳ぎ方に肯定的に働きかける。	プルやキックの動きを比較したり、画像を見たりしてとらえた動きのよさを確かにしたたり、取り入れたりして泳ぎ方を変えていく。
第4ステージ小6	水泳	平泳ぎで続けて長く泳ぐための工夫について話し合ったり、相互評価したりする場面	プルやキックに合わせた呼吸の仕方をとらえ、泳ぎ方の改善に向けた解決方法を選択・決定する。	プルやキックに合わせた呼吸の仕方を伝える中で、動きの違いを認め、相手の泳ぎ方に肯定的に働きかける。	プルやキックに合わせた呼吸の仕方を比較したり、画像を見たりしてとらえた動きのよさを確かにしたたり、取り入れたりして泳ぎ方を変えていく。
第4ステージ中1	水泳	<ul style="list-style-type: none"> 泳法に応じた手足の動きと呼吸動作がタイミングよく行われているか相互評価する場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	泳法に応じた手足の動きと呼吸動作を合わせた一連の動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組む。	泳法に応じた手足の動きと呼吸動作を合わせた一連の動きのよさや不十分さを伝え合う中で、互いの動きの違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きとの比較や映像分析によって、泳ぐ目的に合わせた動きや、タイミングを合わせた手足の動きと呼吸動作についての見方・考え方を確かにしたたり、取り入れたりして動きに生かす。
第5ステージ中2	水泳	<ul style="list-style-type: none"> 泳法に応じた手足の動きと呼吸動作がタイミングよく行われているか相互評価する場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	泳法に応じた手足の動きと呼吸動作を合わせた一連の動きを組み合わせながら、動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、動きの修正や改善に向けた解決方法を選択・決定する。	泳法に応じた手足の動きと呼吸動作を合わせた一連の動きを組み合わせるための動きのよさや不十分さを話し合う中で互いの動きの違いを認め、具体的な動きについて助言し合う。	目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、泳ぐ目的に合わせた動きや、タイミングを合わせた手足の動きと呼吸動作についての見方や考え方を確かにしたたり、取り入れたりして動きに変化を付ける。
第5ステージ中3	水泳	<ul style="list-style-type: none"> 一連の動きがタイミングよく行われているか、ターン動作が滑らかにできているかなど相互評価する場面 互いの課題を解決するために練習方法を考案したり、繰り返し試行したりする場面 	一連の動きを組み合わせや、局面をつなぐターン動作などの動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、自分の動きの実際を確かめながら、粘り強く練習に取り組み、解決方法を見通す。	一連の動きを組み合わせるための動きや、局面をつなぐターン動作などのよさや不十分さを伝える中で、動きの違いを認め、相手の動きに応じた働きかけをしたり、自分の動きに助言を求めたりする。	目指す動きとの比較や映像分析をもとにして、泳ぐ目的に合わせた動きや、タイミングを合わせた手足の動きと呼吸動作のやターン動作についての見方・考え方の根拠を明らかにしながら、自分の動きを変化させる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 体育科（武道領域）

時期	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
第4ステージ中1	柔道	グループで互いの技能を見合い、課題を焦点化しながら固め技のかけ方、受け身の取り方を追究する場面	相手の動きに応じた基本動作や受け身、固め技の固め方や返し方を練習しながら、動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組むことができる。	受け身や固め技の固め方や返し方のよさや不十分さを伝え合う中で、安全を考えた体の動かし方や、相手に応じた動き方について違いを認め、肯定的に働きかける。	目指す動きと比較したり、映像を見たりして、手足の使い方や相手の動きに応じた体の動かし方などの動きの見方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きに生かす。
第5ステージ中2	柔道	グループで互いの技能を見合い、課題を焦点化しながらよりよい技の投げ方、受け身の取り方を追究する場面	相手の動きに応じた基本動作や受け身、投げ技における受と取の技に応じた動きを練習しながら、動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組むことができる。	受け身や投げ技における受と取の技に応じた動きのよさや不十分さを伝え合う中で、安全を考えた体の動かし方や、相手に応じた崩しや体さばき、技のかけ方について違いを認め、具体的に助言し合う。	目指す動きと比較したり、映像を見たりして、投げ技に応じた受け身の仕方などの動きの見方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きに生かす。
第5ステージ中3	選択柔道	グループで互いの技能を見合い、課題を焦点化しながらより滑らかな連続した技の投げ方を追究する場面	相手の動きに応じた基本動作や受け身、固め技の固め方や返し方を練習しながら、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開していく動きのよさや不十分さを多面的にとらえ、よい動きを目指して粘り強く取り組むことができる。	投げたり抑えたりするなどの攻防を展開していく動きのよさや不十分さを伝え合う中で、安全を考えた受け身の仕方や、相手に応じた崩し方や体さばき、連絡技について違いを認め、具体的に助言し合う。	目指す動きと比較したり、映像を見たりして、既習の技を発展させながら投げ技から固め技、投げ技から投げ技へと相手の動きに応じた動きの見方・考え方を確かにしたり、取り入れたりして動きに生かす。

資質・能力を位置付けた単元配列表 外国語活動・英語科（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5	世界の言葉であいさつしよう	外国語であいさつする際、どのようなことに気をつけてあいさつすればよいか、仲間と話し合う場面	外国語を用いた自分のあいさつが、どれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	表情や声の大きさを意識しながら仲間と「名刺交換ゲーム」を行う。	表情や声の大きさを意識しながら、ALTやHRTとあいさつを交わす。
	ギネスレコードに挑戦しよう	「聞き取りシート」を用いて数え棒のつかみ取りをしながら、いくつ取れたか、その時の気持ちはどうかについて聞き合う場面	学級のギネスレコードをつくるために、表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	ペアと協力して「つかみ取りギネス」を行う際に、自分の気持ちを英語で表し、互いの表現について聞く。	ジェスチャーなどの非言語的な表現を用いて、「つかみ取りギネス」の際にいくつ取れたか、その時の気持ちはどうかを伝える。
	好きなものを伝えよう	「好き」「嫌い」といった気持ちを伝えるためにはどのように表現すればよいか仲間と話し合う場面	好き嫌いを尋ねたり、答えたりする表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「会話ポイント」や抑揚を付けた表現を用いて仲間と好きなものを尋ね合う。	「Who am I?」クイズで、「会話ポイント」や抑揚を付けた表現を用いて質問する。
	英語クイズにチャレンジしよう	クイズの出し方やヒントの聞き方、答え方を、相手に言いたいことが伝わるようにするにはどうすればよいか話し合う場面	英語クイズを行う際の表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「会話ポイント」を意識してクイズの出し方、答え方、聞き方を仲間と練習する。	「会話ポイント」を意識して質問をしたり、相手の反応を確かめながらクイズを出したりする。
	こんな活動をしているよーALTに伝えようー	学校紹介を別のALTに見てもらい、伝わりやすくするにはどうすればよいか話し合う場面	新しいALTに学校紹介をするために表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「会話ポイント」や言語によらない表現を意識して、仲間と学校紹介の練習をする。	「会話ポイント」や言語によらない表現を用いてALTに学校紹介を伝える。
	私の服はどれでしょう	ペアで衣服の特徴を詳しく伝えるためにはどうすればよいか相談する場面	「私の服はどれでしょう」クイズを行う際の表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	ペアで衣服の特徴を伝えるための英語表現を相談しながら買い物ゲームをする。	自分の好みをはっきり伝えたり、衣服の特徴が分かるように伝えたりする。
	アルファベットをさがそう	欲しいものを分かりやすく尋ねたり、答えたりするにはどうすればよいか話し合う場面	欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	抑揚やジェスチャーを付ける表現を意識してほしいものを尋ねたり、答えたりする。	抑揚やジェスチャーを付ける表現を用いて「カード集めゲーム」で欲しいものを尋ねたり、答えたりする。
	夢の時間割を作ろう	理想の時間割について分かりやすく尋ねたり、答えたりするにはどうすればよいか話し合う場面	「夢の時間割」を紹介するための表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「夢の時間割」を作る際に、はっきり話したり、ジェスチャーを付けたりすることを意識して仲間伝える。	「夢の時間割紹介」で、はっきり話したり、ジェスチャーを用いたりして紹介する。
	オリジナル給食メニューを作ろう	オリジナル給食メニューを伝える際にどうすれば分かりやすく伝わるか話し合う場面	オリジナル給食メニューを伝えるための表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	相手の反応を確かめながら紹介することを意識してオリジナル給食メニューを伝える練習をする。	相手の反応を確かめながらオリジナル給食メニューの紹介をする。

資質・能力を位置付けた単元配列表 外国語活動・英語科（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小6	新しいALTに学校紹介をしよう	ALTに学校紹介を分かりやすく伝えるための表現について仲間と話し合う場面	新しいALTに学校紹介をするために表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	ALTに伝わるように説明するために、「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて会話をしたり、簡単な文字で表したりする。	抑揚を付けて話したり、文字とイラスト、具体物を併用したりするといった表現を用いて伝える。
	仲間とつくりたい 附属長岡PR	研究会参加者に伝わるように学校紹介を工夫するために、仲間と話し合う場面	自分たちの考えた学校紹介がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	研究会参加者の外国人に伝わるように説明するために、「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて紹介したり、簡単な文字で表したりする。	強調して話したり、必要に応じて文字やジェスチャー、さらに絵や写真を用いたりして伝える。
	できることを紹介しよう	自分のできることや仲間のできることを分かりやすく伝えたり、尋ねたりするためにはどうすればよいか話し合う場面	自分のできることを伝えたり、仲間のできることを尋ねたりする表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	仲間やALTに自分のできることを分かりやすく伝えたり、尋ねたりするために、「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いたり、簡単な文字で表したりする。	できることを強調して話したり、ジェスチャーやイラストを用いて伝えたりする。
	道案内をしよう	ALTに長岡市の道案内をする表現を仲間と話し合う場面	長岡市の道案内をする表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「学校案内ゲーム」で仲間を案内する際に、「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて説明したり、簡単な文字で表したりする。	ジェスチャーを用いたり、必要に応じて絵や文字で表したりしてALTのために長岡市を案内する。
	友達を旅行に誘おう	「行きたい」という自分の思いをはっきりと伝えるためにはどうすればよいか仲間と話し合う場面	自分の行きたい国を伝える表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	「行きたい」という自分の思いをはっきりと伝えるために「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて説明したり、簡単な文字で表したりする。	行きたい国を強調して話したり、必要に応じて理由やその国の特徴を加えたりして伝える。
	附属長岡小学校を世界に発信しよう	全世界の人に附属長岡小学校のことを分かりやすく伝えるためにはどのように発信すべきか仲間と話し合う場面	インターネット上で発信する際に、自分たちの考えた学校紹介がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	全世界の人に伝わるように学校紹介をするために、「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて紹介したり、簡単な文字で表したりする。	強調して話したり、必要に応じて文字やジェスチャー、さらに絵や写真を用いたりして伝える。
	一日の生活を紹介しよう	一日の生活の様子を分かりやすく伝えるためにはどのように紹介すればよいか仲間と話し合う場面	一日の生活の様子を表す表現がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	一日の生活の様子が相手に伝わるように「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて紹介したり、簡単な文字で表したりする。	ジェスチャーを用いたり、自分の生活が分かる絵や写真を用いたりして紹介する。
	オリジナルの物語を作ろう	自分たちの選んだ物語を発表する際、どのような表現を用いて発表すると分かりやすく伝わるか仲間と話し合う場面	自分たちの選んだ物語の発表がどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、次の学習に向けて見通しをもつ。	物語で自分の発表する場面が分かりやすく伝わるように「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて発表したり、簡単な文字で表したりする。	言葉を強調すること、間をとること、読速さといった読み方の工夫や絵、ジェスチャー、具体物といった場面の様子を伝える工夫を取り入れて発表する。
	「夢宣言」をしよう	就きたい職業について分かりやすく伝えるためにはどうすればよいか仲間と話し合う場面	将来の夢についてのShow and Tellがどれだけ目指す姿に近づいたか振り返り、一年間の自分の成長を自覚する。	自分の将来の夢が分かりやすく伝わるように「会話ポイント」や分かりやすく伝わる表現を用いて発表したり、簡単な文字で表したりする。	「会話ポイント」や聞き手の反応を確かめること、さらに必要に応じてその夢をもった理由や思いを加えながらShow and Tellをする。

資質・能力を位置付けた単元配列表 外国語活動・英語科（第4ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 1	英語を学ぼう	簡単なあいさつや自己紹介の場面	簡単なあいさつや自己紹介の方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	簡単なあいさつや自己紹介の練習を行い、お互いに聞いたり話したりする。	あいさつや自己紹介についてより良いものにするために、より良い表現を工夫する。
	身近なものを説明しよう	身近な人やものを紹介する場面	This, that, he, she などを使って身近なものを紹介する方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	What を用いて質問したり、その応答をしたりして、お互いに情報を交換する。	身近なものを説明したり、聞いたりするために、より良い表現を工夫する。
	好きなことを紹介しよう	好きなことについて紹介したり、それを尋ねたりする場面	have, like, play などの一般動詞を用いて、自分の好きなものや好きなことを紹介する方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	お互いの好きなことやものについて話したり尋ねたりして、情報を交換する。	好きなことや嫌いなこと等について即興で会話をする。
	ものの言い方を学ぼう	複数のものについて言ったり、尋ねたりする場面	複数形や数の尋ね方、命令文について理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	お互いに持っているものについて、話したり尋ねたりして、情報を交換する。	複数形や命令文を使って、身の回りのものについて正しく表現する。
	色々な質問をしよう	疑問詞を使って尋ねたり、それに応答したりする場面	だれ、どこなどの尋ね方と him/her の用法を理解し、身に付ける。	だれ、どこなどの情報について尋ねたりそれに応答したりする。	疑問詞を用いて、自分の聞きたいことを、正しく表現する。
	お気に入りの人を紹介しよう	第三者の情報について尋ねたり、それに応答したりする場面	第三者の情報を伝える方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	お互いのお気に入りの人を紹介し合い、情報を交換する。	身近な人物や事物について、数分程度のスピーチをする。
	自分のできることを話そう	自分や友達のできることにについて話し合う場面	助動詞 can を用いて自分や友達のできることにについて伝える方法を身に付ける。	お互いのできることにについて、情報を交換し合う。	自分のできることにについて即興で会話をする。
	今していることを話そう	今していることにについて尋ねたり、応答したりする場面	現在進行形を用いて、今現在していることにについて伝える方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	ジェスチャーゲームをしながら、相手の動作について情報を述べる。	写真の内容について、現在進行形を用いて正しく表現する。
	1年の思い出について話そう	過去にしたことにについて尋ねたり、応答したりする場面	一般動詞の過去形を用いて、過去の情報を伝える方法を理解し、そのための知識や語彙を身に付ける。	お互いの過去の内容を尋ねたり、それに応答したりする。	手本を参考にして簡単な絵はがきやカードを書く。

資質・能力を位置付けた単元配列表 外国語活動・英語科（第5ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 2	日記を書こう	お互いの日記について感想を述べ合う場面	日記を書くために必要な過去形の文法知識や語彙などを得る。	仲間と意見交換することによって、他者の考えの良さに気付く。	相互に交流した結果、仲間の考えの良さに学んで、それを自分の考えに反映させて、新たな日記を書く。
	予定を立てよう	お互いの予定表を読み合う場面	自分の予定を伝えるためにwillやbe going toなどの未来表現や語彙などを得る。	仲間が自分の予定について書いた表を読んで、他者の記述内容や記述方法の良さに気付く。	相互に交流した内容に基づいて、他者の記述内容や記述方法の良さを自己の原稿にも取り入れて書く。
	道案内をしよう	仲間とお互いに道案内をし合う場面	英語特有の道案内に必要な表現を得る。	仲間と道案内の練習をしたり、タスクに基づいた道案内をしたりする中で、他者の発話の良さに気付く。	仲間の発信方法の良さを自己の発信に生かす。
	自分の考えを述べよう	教師が提示するテーマに基づいて、自分の考えを伝え合う場面	自分の意見を伝えるために必要なI think (that)などの表現や語彙などを得る。	他者と意見交換を行い、他者の発表の良さに気付く。	仲間の考えや発信内容の良さに学んで、自己の発表に生かす。
	町の名所を紹介しよう	自分の町の名所を紹介する場面	自分の町を紹介するにあたって、there is(are)～の表現や語彙などを得る。	自分の町を紹介しながら、その発話内容や方法の良さに気付く。	仲間の発話内容や発話方法の良さを自分のものに取り入れて発信する。
	自分の夢を語ろう	自分の夢についてお互いに伝え合う場面	to不定詞の表現を活用に気付く、自分の夢について他者に伝えるために必要な文法知識や語彙などを得る。	自分の夢を伝え合い、他者の発表内容や発表方法の良さに気付く。	仲間のアイディアの良さを自分の発表内容や発表方法に取り入れる。
	電話で友人やALTを誘おう	電話での会話特有な表現を使って、電話での会話をする場面	電話での会話における英語特有の表現を獲得する。	仲間と電話での会話の練習をしたり、タスクに基づいた電話による会話をしたりする中で、他者の発話の良さに気付く。	仲間の発信方法の良さを自己の発信に生かす。
	テーマについて意見交換をしよう	教師が示したテーマについて意見交換をし合う場面	テーマに沿った会話を行うために、必要な文法や語彙の知識を得る。	仲間と英語を用いて会話をする中で、他者の発話内容・方法や聞き取り方法の良さに気付く。	仲間の発話内容や発話方法、聞く態度の良さに学んで、自己の発話内容・方法や聞く態度に生かす。
	好きなことを伝え合おう	自分の好きなことについて伝え合う場面	自分の好きなことを紹介するにあたって、必要な文法知識や語彙などを得る。	自分の好きなことを紹介しながら、相手の発話内容や方法の良さに気付く。	仲間の発話内容や発話方法の良さを自分のものに取り入れて発信する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 外国語活動・英語科（第5ステージ）

学年	単元	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 3	メッセージを 発信しよう	修学旅行での平和学習 や社会創造科での学習 を参考にした、イメージ マップ作成の場面	メッセージ発信の方法や、その 発信のために受け身形の文法知 識、語彙などを得る。	仲間と意見交換することによっ て、平和や街づくりに関する他 者の考えの良さや発表方法の良 さに気付く。	平和や街づくりに関する仲間の 考えの良さに学んで、自己の発 表原稿やその発表に生かす。
	日本の伝統文化を 紹介しよう	日本の伝統文化を紹介 するプレゼンテーショ ンの場面	プレゼンテーションの方法や、 日本の伝統文化を紹介するた めの現在完了形（継続用法）な どの文法知識、語彙などを得る。	仲間と意見交換することによっ て、日本の伝統文化に関する他 者の考えの良さや発表方法の良 さに気付く。	日本の伝統文化に関する仲間の 考えの良さに学んで、自己の発 表原稿やその発表に生かす。
	自分の経験を 語ろう	ゲストティーチャーを 迎えた発表会の場面と そこに向かうまでの発 表原稿の練り上げの場 面	自分が経験したことを伝えるた めに必要な現在完了形（経験用 法・完了用法）などの文法知識、 語彙などを得る。	仲間と意見交換することによっ て、他者の原稿や発表の良さに 気付き、理想の姿に近づくため に生徒同士でアドバイスをし合 う。	仲間のアイディアの良さに学ん で、自己の発表に生かす。
	外国の生活事情に ついて考えよう	日本と外国の文化の同 一性や差異性について 意見を交換する場面	日本と外国の文化差を知り、そ れをもとに意見交換をするため に必要な文法知識、語彙などを 得る。	仲間と意見交換することによっ て、自分が気づいていなかった 自文化・異文化の同一性や差異 性に気付く。	仲間のアイディアの良さに学ん で、それ以後の自己の考えに生 かす。
	外国のくらしや 街の様子に関心も とよう	道案内や買い物など、場 面に応じた特有な表現 を獲得する場面	道案内や買い物に特有な表現を 身に付ける。	仲間と会話の練習をしたり、実 際の会話を楽しんだりする中 で、仲間の発話内容や態度の良 さに気付く。	仲間の発話内容や発表方法の良 さに学んで、自分の発話や態度 に生かす。
	大切なことを 伝えよう	グループ発表に向けた 原稿の練り上げの場面 と実際の発表の場面	既習表現を活用し、自分にとつ て大切なことを伝える。	仲間と意見交換することによっ て、他者の考えを理解し、その 考えの良さに気付く。	自分が大切に思っていることに ついて、他者との交流からさら に考えが深まり、またそれを発 信していく。
	身近な人や物を 紹介しよう	身近な人や物を紹介す るために練習をする場 面とその発表本番の場 面	自分にとって身近な人や物につ いて紹介するために、現在完 了形や接続詞などの必要な文法 知識や語彙などを得る。	身近な人や物の発表を show & tell で伝えるために事前練習で 他者の良さに気付く。また、発 表本番で他者の良さに気付く。	仲間のアイディアの良さに学ん で、自己の発表に生かす。
	ディスカッション に挑戦しよう	教師が指定したテーマ について実際にディス カッションを行う場面	ディスカッションをするために必 要な文法知識や語彙などを得る。	仲間と意見交換することによっ て、他者の発表の良さに気付く。	仲間のアイディアの良さに学ん で、次回の自己の発表に生かす。
	世界や日本の偉人 について知ろう	世界や日本の偉人を紹 介し合う場面	自分が知っている偉人につい て、紹介するために、現在分詞 や過去分詞などによる後置修飾 の表現など、必要な文法知識や 語彙などを得る。	仲間が紹介する発表を聞き、自 分の発表を仲間聞いてもら い、互いに感じたことや、他者 の発表の良さに気付く。	仲間の発表の良さに学び、自己 の発表に生かす。
	社会貢献について 考えよう	社会創造科で学んだこ となどを生かしながら、 社会を形成していくた めに必要なことを検討 する場面	言語材料としては疑問詞+to～ の表現等を理解するとともに、 表現に必要な語彙の知識を得 る。	仲間と意見交換することによっ て、他者の考えの良さに気付く。	仲間のアイディアの良さに学ん で、自己の考えに取り入れる。
仲間と英語で 話そう	テーマに沿って生徒同 士で会話をし合う場面	テーマに沿った会話を行うため に、必要な文法や語彙の知識を 得る。	仲間と英語を用いて会話をする 中で、他者の発話内容・方法や 聞き取り方法の良さに気付く。	仲間の発話内容や発話方法、聞 く態度の良さに学んで、自己の 発話内容・方法や聞く態度に生 かす。	

資質・能力を位置付けた主題配列表「道徳」（第2ステージ）

学年	主題 (内容項目)	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小 1	わたしとしぜん (自然愛護) 資料「さかせようぼく をわたしを」	これからの季節でど んな楽しいことがあ るか話し合う場面	四季それぞれの自分の 経験とつなげて問題場 面をとらえたり、春の 季節で楽しみなことを これからの生活で生か そうとしたりする。	これからの季節で楽し みなことについて異な る感じ方・考え方の仲 間と感じ方・考え方の 異なる場所と共通す るところと共通するこ ろがわかる。	自分たちは自然に包 まれて生活し、身近な 自然の中に季節の移り 変わりを感ずることが 大切なことを見いだ す。
	もののこころ (節度、節制) 資料「いたい いたい」	主人公がものを粗末 に扱った理由につい て話し合う場面	自分の使っているもの の扱い方について自分 の生活とつなげて問題 場面をとらえたり、も のを大切に扱うことを これからの生活で生か そうとしたりする。	主人公の行為の理由に ついて異なる感じ方・考 え方の仲間と感じ方・考 え方の異なる場所と共 通する場所がわかる。	一つ一つのものには ものとしての役割があ ることを見いだす。
	たのしいなきゅうしょく (友情、信頼) 資料「給食の場面で」 (自作)	給食の配膳を進んで 行っている人と自分 の分が配膳されてい ない人の気持ちにつ いて話し合う場面	給食の配膳について自 分の生活とつなげて問 題場面をとらえたり、 楽しく給食を食べるた めに配膳に協力してい こうとすることをこれ からの生活で生かそう としたりする。	主人公と相手のそれぞ れの気持ちについて異 なる感じ方・考え方の 仲間と感じ方・考え 方の異なる場所と共 通する場所がわかる。	自分の分がない人の 気持ちを考えていくこ とが大切なことを見 いだす。
	ありがとう (礼儀) 資料「なんといいですか」	相手に嫌な思いをさ せてしまったときに どうすればよいか話 し合う場面	相手に嫌なことをし てしまったことにつ いて自分の生活とつな げて問題場面をとら えたり相手に嫌な思 いをさせてしまったら きちんと謝ろうとす ることをこれからの 生活で生かそうとし たりする。	主人公の行為の理由に ついて異なる感じ方・考 え方の仲間と感じ方・考 え方の異なる場所と共 通する場所がわかる。	相手に嫌なことをし たらきちんと謝ること が大切なことを見 いだす。
	あいてのきもち (親切、思いやり) 資料「あめの日」	迷惑を掛けられて いる人物の気持ちに ついて話し合う場面	誰かから迷惑なこ とをされていること について自分の生活 とつなげて問題場 面をとらえたり、似 たような立場の人を 思いやることをこれ からの生活で生かそう としたりする。	迷惑を掛けられて いる人の気持ちに 対して異なる感じ 方・考え方の仲間 と感じ方・考え 方の異なる場所 や共通する場所 がわかる。	自分の過ちには 気が付くこ とを見いだす。
	ヤッホー広場はだれの もの (友情、信頼) 資料「ヤッホー広場で」 (自作)	ヤッホー広場で遊 んでいる時に隣のク ラスの人がどんな ことを思っている か話し合う場面	ヤッホー広場で遊 んだ自分の経験と つなげて問題場 面をとらえたり、 仲間と仲良くして 遊ぶことをこれ からの生活で生か そうとしたり する。	隣のクラスの人の 気持ちについて異 なる感じ方・考 え方の仲間と感 じ方・考え方の 異なる場所と 共通する場所 がわかる。	仲良く遊ぶには 相手の気持ち を考えること が大切なこと を見いだす。
	じぶんのこころ (希望と勇気、努力と 強い意志) 資料「ぼくのなかのぼく」	やりたくない気持 ちとやらなければ いけないという 気持ちの違 いについて話 し合う場面	これまで努力して きたことについて 自分の経験とつ なげて問題場 面をとらえたり、 自分のやらな ければいけない ことにも進んで 取り組むことを これからの生活 で生かそうとし たりする。	主人公の気持ちに ついて異なる感 じ方・考え方の 仲間と感じ方・考 え方の異なる 場所と共通す るところがわ かる。	仲間のために 考えて行動 すると仲が 深まるこ とを見いだ す。
	うつくしいこころ (感動、畏敬の念) 資料「七つの星」	不思議なことが おきた理由に ついて話し 合う場面	自然の不思議さ について自分の 生活とつなげ て問題場 面をとら えたり、感 動した気 持ちは これからの 生活で生 かそう とし たり す る。	不思議なことが 起きた理由に ついて異なる 感じ方・考 え方の仲間 と感じ方・考 え方の異 なる場所 と共通す るところ がわか る。	人間の力を 超えた神秘 の世界があ ることを 見いだ す。

<p>自分のしごと (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「しょくじのようい ができたよ」</p>	<p>主人公が上手に食事を並べられたときの気持ちについて話し合う場面</p>	<p>家庭での手伝いについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで他の人のために働こうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>自分の仕事をする和家人が喜んでくれることを見いだす。</p>
<p>生きる力 (生命の尊さ) 資料「ありさん が泓ぼって」</p>	<p>ありに話しかけている主人公の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>身近な生き物について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで生き物の命を大切にしようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>小さな生き物にも命があることを心にとめておくことが大切なことを見いだす。</p>
<p>あかるいあいさつ (礼儀) 資料「なんと いいですか」</p>	<p>主人公があいさつをしなかったらどうなるか話し合う場面</p>	<p>あいさつについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 学級の中や家族の生活で人と人を結ぶ言葉を使うことをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公がこれからどうなるのかについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>自分の思いを言葉にすることが大切なことを見いだす。</p>
<p>おもいきって (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「花びらのぼうけん」</p>	<p>主人公の花びらが, ありさんの「助けて」にどうこたえるか話し合う場面</p>	<p>進んで行動したことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 前向きに生きていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公がこれからどんな行動をするのかについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>何事にも意欲敵に取り組むことが大切なことを見いだす。</p>
<p>あかるいこころ (正直, 誠実) 資料「えがおいっぱい」</p>	<p>「にこにこ」と「ぷりぷり」のどちらの表情がすきかについて話し合う場面</p>	<p>家族の笑顔について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 明るい雰囲気や誠実に生きていこうとしたりする。</p>	<p>2つの表情について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>自分の気持ちは表情を通じて周りに伝わることを見いだす。</p>
<p>みんながつかうもの (規則の尊重) 資料「1年1くみの赤いボール」</p>	<p>主人公が, はりがみを見てはっとしたわけについて話し合う場面</p>	<p>きまりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 自分から進んでみんなが使う物を片付けようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>みんなでする物は進んで片付けたりすることが大切なことを見いだす。</p>
<p>昼休みの楽しい すごしかた (親切, 思いやり) 資料「おひるやすみ」</p>	<p>どうしたら楽しい昼休みにできるかについて話し合う場面</p>	<p>昼休みの過ごし方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間と優しくしながら楽しく過ごすことをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>楽しい過ごし方について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>みんなが楽しく過ごすにはひとりぼっちの子や困っている子に声をかけるなどの思いやりの気持ちをもつことが大切なことを見いだす。</p>
<p>わたしの だいすきなところ (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「わたしのだいすきなところ」</p>	<p>校舎の周りの自分の好きなおところについて話し合う場面</p>	<p>校舎の周りについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 学校の周りのよいところを大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>学校の周りのすきなところについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>大好きなおところには様々なよさがあることを見いだす。</p>

<p>一位になっても (親切, 思いやり) 資料「リレーきょうそう」</p>	<p>リレー競争で一番になること以外でうれしいことがあるか話し合う場面</p>	<p>リレー遊びについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間のがんばりを認めながら過ごすことをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>リレー競争の問題点について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>仲間と協力したり自分が精一杯やったりすることが大切なことを見いだす。</p>
<p>しょうじきに (正直, 誠実) 資料「おおかみと少年」</p>	<p>うそを言う少年をどう思うかについて話し合う場面</p>	<p>うそをついた自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 相手の心を受け入れその人の願いを思い, 誠実に生きていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>うそをつくことについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>うそをつかれても信じようとする心が大切であることを見いだす。</p>
<p>がまんするところ (節度, 節制) 資料「かぼちゃのつる」</p>	<p>「かぼちゃ」の行動や気持ちのどんなところに問題があったか話し合う場面</p>	<p>がまんすることについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 回りのことを考えながら自分らしく過ごしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の行動や気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>いきいきと生きるためには他者への配慮が必要であることを見いだす。</p>
<p>あの子のえがおのために (親切, 思いやり) 資料「のっぺいよ」 (自作)</p>	<p>1年生にターザンロープを譲った後どんな気持ちになるか話しあう場面</p>	<p>年下の子とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 相手のことを考えながら行動していこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>幼い人のことを考えて親切にすると相手だけでなく自分もうれしくなることを見いだす。</p>
<p>わたしのともだち (友情, 信頼) 資料「よいところカード」</p>	<p>仲間のよいところには, どんな工夫や努力がかけられているのか話し合う場面</p>	<p>自分や仲間のよさについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間のよさを認めさらに仲良くしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>仲間のよさの中にある工夫や努力について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>互いのよさを聞き合える関係をつくるのが大切であることを見いだす。</p>
<p>かていのあたたかさ (家族愛, 家庭生活の充実) 資料「にょい」</p>	<p>「にょい」がどんなことを言っているのか話し合う場面</p>	<p>家庭のにおいについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 家族を大切にして生活していこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>家庭のにおいについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>家庭のにおいは家族の思いと重なっていることを見いだす。</p>
<p>どうするのかな (自然愛護) 資料「どうするのかな」</p>	<p>主人公のような場面に合った時に自分ならどうするかについて話し合う場面</p>	<p>遠足や社会創造科で自然とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで遠足や登下校や校外でのこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>どのように行動したらよいかについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>自分たちの行動で自然を守ることができることを見いだす。</p>

<p>すばらしい自然 (感動, 畏敬の念) 資料「きたかぜ」</p>	<p>風の色について話し合う場面</p>	<p>自然のすばらしさについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 冬の自然についてその中につつまれる幸せを感じようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>風の色について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところが共通するところがわかる。</p>	<p>自然の中にすばらしさを見つけ出そうとすることが大切であることを見いだす。</p>
<p>お兄さんありがとう (感謝) 資料「ぼうし」</p>	<p>「お兄さん」がどうしてありがとうと言ったのか話し合う場面</p>	<p>上級生とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 上級生のお兄さんお姉さんのようによりよい生活をしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>「お兄さん」がありがとうと言ったわけについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>上級生には自分たちにはない優しさがあることを見いだす。</p>
<p>なかまにこころをよせて (友情, 信頼) 資料「どんぐりと松まつり」</p>	<p>自分も欲しかった松ぼっくりを仲間にあげた時の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>仲間とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間のことを考えて行動していこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>互いに困っているときに助け合うことで仲間のよさを感じ, 仲よくなっていくことを見いだす。</p>
<p>ろうかパトロール (規則の尊重) 資料 廊下歩行の様子のビデオ</p>	<p>自分達の廊下歩行はこれでよいか話し合う場面</p>	<p>廊下歩行について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 強い気持ちをもってきまりを守ろうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>廊下を走ってしまう原因について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>きまりを守るには強い気持ちが大切であることを見いだす。</p>
<p>あたたかいこころ (親切, 思いやり) 資料「タンポポ」</p>	<p>主人公がお母さんの言葉を聞いたときの気持ちについて話し合う場面</p>	<p>新1年生とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 幼い人を温かく包み込んでいこうとすることをこれからの生活の中で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>幼い人には優しい気持ちで接することが大切なことを見いだす。</p>
<p>かわいいいのち (生命の尊さ) 資料「ハムスターの赤ちゃん」</p>	<p>ハムスターの赤ちゃんの体にはどんな力がつまっているのか話し合う場面</p>	<p>ウサギ小屋のウサギと触れ合った経験とつなげて問題場面をとらえたり, これからも命あるものを大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>ハムスターの赤ちゃんの力について異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>身近な生き物にもかけがえのない生命がやどっていることを見いだす。</p>
<p>一年かんのおもいで (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「ともだち」</p>	<p>いろいろな友達がいる良さは何かについて話し合う場面</p>	<p>学級の中の1年間の経験とつなげて問題場面をとらえたり, これからも学級の友達を大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>友達のよさについて異なる感じ方・考え方の仲間と感じ方・考え方の異なるところがわかる。</p>	<p>友達のよさを感じる学級の雰囲気大切であることを見いだす。</p>

小 2	ゆうきをだして (善悪の判断, 自律, 自由と責任) 資料「ぼんたとかんた」	主人公が仲間の誘いを断った理由について話し合う場面	仲間から誘われた自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 自分で判断することをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	善くないことは仲間から誘われても自分で判断して断ることが大切なことを見いだす。
	あいさつがないと (礼儀) 資料「たびに出て」	今まであいさつをしなかった主人公があいさつをしようと思った理由について話し合う場面	あいさつについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んであいさつすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	進んであいさつをする と周りの人と気持ちが通じて気持ちよくなることを見いだす。
	ほかの人もつかうもの (規則の尊重) 資料「黄色いベンチ」	主人公が自分たちがしたことで他の人が困っているのを見かけ, この後どうするか話し合う場面	みんなで使う物の使い方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 他の人のことを考えてみんなのものを使おうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行為について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	みんなで使う物は, 他人のことを考えて使うことを見いだす。
	自分のもの (節度, 節制) 資料「絵本のひとりごと」	どうして主人公が「ごめんね。」と言ったのか話し合う場面	自分の身の周りの様子について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 身の周りを規則正しく整えようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	身の周りを整えることが大切なことを見いだす。
	あいてやほかの人はどうおもうかな (規則の尊重 友情, 信頼) 資料「ぼくのキャラクター」	他の人が考えたものを勝手に使ったり広めたりしてはいけない理由について話し合う場面	自分の身の周りのものの使い方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 他人のものを大切にすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行為に対して自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	他の人が考えたことは他の人のものであることを見いだす。
	すなおで明るい気もち (正直, 誠実) 資料「お月様とコロ」	主人公が謝るかどうか迷っている時の気持ちについて話し合う場面	素直になれなかったことについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 自分の過ちを素直に認めることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	素直に自分の過ちを認めると気持ちがすっきりすることを見いだす。
	2年生でもっとできる自分たちになるには (友情, 信頼) 資料「だめだよ」(自作)	仲良しの仲間にご注意をした主人公の気持ちについて話し合う場面	普段の仲間とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間のために考えて行動することをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	仲間のためを考えて行動すると仲が深まることを見いだす。
	小さな一歩と大きなゆめ (努力と強い意志) 資料「小さな力のかさねー二宮金次郎ー」	金次郎が勉強することをあきらめなかった理由について話し合う場面	自分が普段継続して取り組んでいることについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, あきらめず継続することをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	大変なことがあってもあきらめずに続けてやることが大切なことを見いだす。
	みんなのよろこぶかお (勤労, 公共の精神) 資料「森のゆうびん屋さん」	手紙を読んだ「くまさん」の気持ちについて話し合う場面	係活動や当番活動, 家庭での手伝いについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで他の人のために働こうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	他の人のために働くことみんなが笑顔になることを見いだす。

<p>じぶんのくにとはちがうこと (国際理解, 国際親善) 資料「ALT の先生のすんでいるところ」(自作)</p>	<p>日本とALTの出身国の生活の様子で異なるところを話し合う場面</p>	<p>ALTの出身国の生活の様子について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで外国の生活を理解しようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自分の国と他の国では, いろいろな違いがあることを見いだす。</p>
<p>じぶんのはせきにももって (節度, 節制) 資料「かめ」</p>	<p>かめの世話について母親に言われた後主人公がどうするか話し合う場面</p>	<p>自分の生活の中でやらなければいけないこととつなげて問題場面をとらえたり, やらなければいけないことはきちんと行うことをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自分がやらなければいけないことをきちんと行うことが大切なことを見いだす。</p>
<p>しぜんをよくかんさつすると (自然愛護) 資料「虫が大すきーアンリ・ファーブル」 (「わたしたちの道徳」)</p>	<p>ファーブルの観察が終わった虫をにがしてあげた時の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>虫や生き物, 植物などについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 動植物には優しい心で接することをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>動植物には優しい心で接することが大切なことを見いだす。</p>
<p>ぼくのわたしのじまんの学校 (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「学校のよいところみつけ」</p>	<p>自分たちの学校のよいところについて話し合う場面</p>	<p>学校について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで学級や学校生活をよりよくしようとしたりすること</p>	<p>学校のよいところについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>学級や学校生活をよりよくしようとするを見いだす。</p>
<p>いのちをたいせつにするには (生命の尊さ) 資料「ベラカブくん」</p>	<p>主人公が飼っているカブトムシを逃がすべきか話し合う場面</p>	<p>虫や生き物, 植物などについて自分が飼った経験とつなげて問題場面をとらえたり, 動植物の命を大切にすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>動植物の立場に立ち動植物の命を大切にすることを見いだす。</p>
<p>ちいきのおまつりにさんかして (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「ぎおんまつり」</p>	<p>主人公がおはやしの練習を続けられた理由について話し合う場面</p>	<p>地域のお祭り等の行事について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 地域の行事に積極的に参加することをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>地域の行事には続けられてきたよさがあり進んで行事に参加することが大切なことを見いだす。</p>
<p>みんなでまもるきれいなしぜん (自然愛護) 資料「みんなのうみ」</p>	<p>きれいな海にするために自分たちができることについて話し合う場面</p>	<p>海辺や森林等での過ごし方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 身近な自然の美しさを守ろうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>自分ができることについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>身近な自然を守るために自分ができることを見いだす。</p>
<p>おばあちゃんのおかげで (感謝) 資料「おばあちゃんの手まりうた」</p>	<p>主人公がまりを成功させた時の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>祖父母とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり, 祖父母に感謝して過ごすことをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>祖父母に進んでかかわり感謝しようとする見いだす。</p>

<p>みんなでつかうものなのに (規則の尊重) 資料「いいのかな」</p>	<p>主人公が一輪車を見てこの後どうするか話し合う場面</p>	<p>学校の竹馬やホッピング、一輪車の使い方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、動植物には優しい心で接することをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>他の人が使う物は自分の都合だけではなく他の人のことも考えて使うことが大切なことを見いだす。</p>
<p>なかよくあそぶには (友情, 信頼) 資料「ぼくもしたい」 (「生きる I」)</p>	<p>ドッジボールに入れてもらえない仲間を見たとき「ぼく」はどうするか話し合う場面</p>	<p>ドッジボールや鬼ごっこなどみんなで遊ぶ遊びについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、みんなで遊ぶ時にはいろいろな立場の仲間の気持ちを大切にすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>みんなで遊ぶ時にはいろいろな立場の仲間の気持ちを大切にすることを見いだす。</p>
<p>やりとげたその先に② (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「木琴の練習」(自作)</p>	<p>主人公が遊びに行かず音楽会の練習をすることを決めた後の主人公の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>学習や習い事について自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、自分のやらなければいけないことをやりとげようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>弱い心に負けず自分のやらなければならないことをやりとげると、自分に自信がもてることを見いだす。</p>
<p>だれにでもすすんであいさつすると (礼儀) 資料「しらない人にも」</p>	<p>主人公の兄が知らない人にもあいさつをしている理由について話し合う場面</p>	<p>普段のあいさつについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、誰にでも進んであいさつしようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>人物の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>あいさつは相手との心の結び付きをつくるものであることを見いだす。</p>
<p>かぞくの中のじぶん (家族愛, 家庭生活の充実) 資料「ねえおにいちゃん」</p>	<p>主人公と一緒に走っていかなかった時の気持ちについて話し合う場面</p>	<p>普段の家族とのかかわりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、進んで家族の役に立とうとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>家族は自分のことを大切にしてくれていることを見いだす。</p>
<p>思いやりの中にある気もち (思いやり, 親切) 資料「でん車の中で」</p>	<p>主人公が男の人の行動から感じたことについて話し合う場面</p>	<p>バスや電車での過ごし方について自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、困っている相手のことを考えて行動しようとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>人物の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>困っている相手のことを考え温かい心で接することが大切であることを見いだす。</p>
<p>なかまのえがおでじぶんもえがおに (勤労, 公共の精神) 資料「休み時間になったら」 (自作)</p>	<p>主人公が休み時間になっても本の整理を続けるかどうか話し合う場面</p>	<p>係活動での取り組み方について自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、進んで仲間のために働こうとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>これからの主人公の行動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>仲間のために働くとき自分もよい気持ちになることを見いだす。</p>
<p>たくさんあるじぶんのよいところ (個性の伸長) 資料「じぶんのよいところ」 (自作)</p>	<p>主人公が自分の好きなところや得意なところについて思いつかずに迷っている理由について話し合う場面</p>	<p>好きなことや得意なことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、自分のよいところを見つけていこうとするをこれからの生活で生かそうとしたりする。</p>	<p>主人公の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自分の好きなことや得意なことが自分のよさにつながることを見いだす。</p>

		主人公が思い切って自分の思っていることを伝えたときの気持ちについて話し合う場面	普段の仲間とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、自分の思っていることを勇気を出して伝えようとするのをこれからの生活の中で生かそうとしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分の思ったことを勇気を出して伝えると仲間とのかかわりが深まることを見いだす。
正じきなこころ (正直, 誠実) 資料「金のおの」		女神がなぜ両方の斧を渡したのか話し合う場面	うそをついてしまった自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、うそやごまかしをしないで過ごそうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	人物の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	うそやごまかしをしないで過ごすことが大切なことを見いだす。
いのちのつながり (生命の尊さ) 資料「おはかまいり」 (「わたしたちの道徳」)		主人公が「もちろん。」と言ったわけについて話し合う場面	お墓参りについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、自分や他の人の命を大切にしようとするのをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分の命は家族や先祖の人たちがつないできたものであることを見いだす。
かぞくのあたたかさ (家族愛, 家庭生活の充実) 資料「あしたはいじょうぶ」		主人公が「うん。」と言ったわけについて話し合う場面	困ったことや悩んでいることがあるときの家族とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、進んで家族とかかわろうとすることをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	家族は自分の支えになってくれていることを見いだす。
ともだちの見え目 (公正, 公平, 社会正義) 資料「おおかみさんがひっこしてきた」 (「生きる I」)		おおかみのところへいくかまのところへいくか話し合う場面	仲間とのかかわりについて自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、見た目だけで人のことを判断せず誰とでも仲良くしようとするのをこれからの生活で生かそうとしたりする。	自分の選択について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	見た目や雰囲気などで人のことを決めてはいけないことを見いだす。
自分をぎせいにしてでも (感動・畏敬の念) 「しあわせの王子」		最後の王子とつばめの気持ちについて話し合う場面	困っている人を見た時の自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、困っている人の力になろうとする気持ちをこれからの生活で生かそうとしたりする。	人物の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	困っている他の人のために自分を犠牲にすることは美しいことであることを見いだす。
じぶんのちいきのじまん (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「がんばれまごべえ」		主人公やお客さんはなぜ角突きを見に来ているのか話し合う場面	地域の行事について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、進んで地域の行事に参加することをこれからの生活で生かそうとしたりする。	主人公や人物の行動のわけについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分たちの地域の行事には、他の地域にはないことや他の人をひきつけるものがあることを見いだす。

資質・能力を位置付けた主題配列表「道徳」（第3ステージ）

学年	主題 (内容項目)	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小 3	心のことば (礼儀) 資料「心のことば」	主人公が仲間の誘いを断った理由について話し合う場面	仲間から誘われた自分の経験とつなげて問題場面をとらえたり、自分で判断することをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	善くないことは仲間から誘われても自分で判断して断ることが大切なことを見いだす。
	通い合う心 (友情, 信頼) 資料「はじめてのグループ」	今まであいさつをしなかった主人公があいさつをしようと思った理由について話し合う場面	あいさつについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、進んであいさつすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	進んであいさつをすると周りの人と気持ちが通じて気持ちよくなることを見いだす。
	節度をもって (節度, 節制) 資料「すな時計」	主人公が自分たちがしたことでも他の人が困っているのを見かけ、この後どうするか話し合う場面	みんなで使う物の使い方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、他の人のことを考えてみんなのものを使おうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	みんなで使う物は、他の人のことを考えて使うことを見いだす。
	ゆずり合いで みんな楽しく (親切, 思いやり)	どうして主人公が「ごめんね。」と言ったのか話し合う場面	自分の身の周りの様子について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、身の周りを規則正しく整えようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	身の周りを整えることが大切なことを見いだす。
	トキは友だち (生命の尊さ) 資料「トキはともだち」	なぜ、高野さんはトキのためにえさ場を作ったのか話し合う場面	トキについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、貴重な自然環境を大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	高野さんの行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	生きている動物や環境の大切にするを見いだす。
	みんなのために (規則の尊重) 資料「音のこうずい」	電車の中でみんなが気持ちよく乗るために気をつけなくてはいけないことは何か話し合う場面	電車やバスの中の様子について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、公共のマナーを大切にすることをこれからの生活で生かしたりする。	公共でのマナーについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	みんなが公共のマナーを守ることの大切さを見いだす。
	だれに対しても (親切, 思いやり) 資料「きゅうしょく」	どうしてあきらさんにだけ文句を言うのだろうか話し合う場面	人とかかわり方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、誰にでも公平に接しようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	相手によって態度を変えることがひきょうな行為であり、誰に対しても公平な態度で生活することが大切なことを見いだす。
	美しいものに (感動, 畏敬の念) 資料「ぼくのまわりに」	自分も夢のような光を感じたことはあるか話し合う場面	自分の身の周りの美しい物について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、美しいものを大切にしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	美しいものを見た経験について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	美しいものや、気高いものに感動する気持ちの大切さを見いだす。

いつでもできる (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「わたしのれいぞうこしよう」	あずささんが習字を続けることができたのはどうしてか話し合う場面	自分ががんばれた経験について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 決めたことは最後までやりとげようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分で行おうと決めたことは, ねばり強くやりとげようとする ことが大切なことを見いだす。
相手の気持ち (親切, 思いやり) 資料「子ねこのネネ」	自分は, たっちゃんのようにできるか話し合う場面	困った人等に出会った時の経験について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 身の周りの人に思いやりをもって接しようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行為の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	難しいながらも思いやることの大切さを見いだす。
命のあさがお (生命の尊さ) 資料「こうすけくんのあさがお」	お母さんはどのような気持ちなのか話し合う場面	命について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, かけがえない命を大切にしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	こうすけくんのお母さんの気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	かけがえない命の大切さを見いだす。
はたらくことによるこび (勤労, 公共の精神) 資料「お母さんの朝市」	大きな声で言えるようになったのはなぜか話し合う場面	働くことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 人の役に立てることを見つけて行動しようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	働くことの大切さを見いだす。
うけつぐ心 (伝統と文化, 国や郷土を愛する態度) 資料「ガラスの風りん」	自分は, このような伝統工芸品ガラスの風りんをどのように思うか話し合う場面	昔からあるものについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 受け継がれてきた物を大切にしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	風鈴を見て自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	地域に受けつがれたものの大切さを見いだす。
意見のおしつけ (友情, 信頼)	意見の押しつけについて自分の考えはどうしたらよいのか話し合う場面	意見のおしつけについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 互いの立場を考えようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	意見の押しつけについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	お互いの立場でそれぞれ考えることの大切さを見いだす。
おばあちゃんの花火 (伝統と文化, 国や郷土を愛する態度) 資料「おばあちゃんの花火」	うれしそうなおばあちゃんの気持ちについて話し合う場面	地域の行事について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 昔から続いている伝統を大切にしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	おばあちゃんの気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	身近な伝統の大切さを見いだす。
チャレンジ (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「1分間スピーチ」	勇気を出してチャレンジをすることのよさは何か話し合う場面	思い切ってやれたことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 自分のことを思い切って伝えるのをこれからの生活で生かしたりする。	チャレンジすることのよさについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分のことをしっかりと伝えることの大切さを見いだす。
反省の大切さ (正直, 誠実) 資料「きじばとのポッポ」	自分にもポッポのようにお母さんの心の中だったことはあるか話し合う場面	反省することについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, よく考えて行動していこうとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公のような経験について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	よく考えて行動し, 過ちは素直に改める大切さを見いだす。

あたりまえのこと (節度, 節制) 資料「ロバ売りの親子」	自分は、このように人に 言われて大事なことを決 めるか話し合う場面	当たり前のことについ て自分の生活とつなげ て問題場面をとらえ たり、節度ある暮らし をしていこうとす ることをこれからの 生活で生かしたり する。	物事を決める際の判 断の仕方について自 分と仲間との感じ 方・考え方は違 うことがわかる。	自分で行動すること の大切さを見い だす。
土とともに (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「ふるさとの里山」	どこに行ってもく ーの心にぽっかり 穴があいてしま うのはどうして か話し合う場面	地域の生活にか かわる様々な事 実や考え方に ついて自分の 生活とつな げて問題場 面をとらえ たり、進んで 地域にか かわって いこうと するこ とをこれ からの 生活で 生か したり する。	主人公の言動の理由 について自分と仲間 との感じ方・考え 方は違 うこ と が わ か る。	地域で暮らす人達 と親しみ、仲良く していくことの 大切さを見い だす。
正直に生きる (正直, 誠実) 資料「かえしたゆびわ」	若者は、二十年間、 どんな気持ちで すごしていた のか話し合う 場面	正直について自 分の生活とつな げて問題場 面をとらえ たり、明る く元気に 生きてい こうと するこ とを これ から の 生 活 で 生 か し た り す る。	主人公の気持ちに ついて自分と仲間 との感じ方・考 え方は違 うこ と が わ か る。	自分に誠実な心 を持つことの 大切さを見 い だ す。
まごころがさ (礼儀) 資料「かりたかさ」	自分は、人に物を 貸した時、どの ように返される のがうれしい か話し合う 場面	礼儀について 自分の生活 とつなげて 問題場面 をとらえ たり、感謝 の気持ちを 真直で表 してい こうと する こ と を こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	について自分と 仲間との 感じ方・考 え方は違 うこ と が わ か る。	礼儀の大切さ を見い だ す。
だれとでもなか よく (友情, 信頼) 資料「かえるとへび」	自分の生活の中 に似たよう なことはない か話し合う 場面	心の弱さにつ いて自分の 生活とつな げて問題 場面をと らえたり、 乗り越 え、支 え合っ て共に 生きて いこう とす るこ とを こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	主人公と似た自 分の経験に ついて自分 と仲間 との感 じ方・考 え方は 違 う こ と が わ か る。	自分の心に 潜む共生 を妨げ ている 偏見 や心 の弱 さを 乗 り 越 え る こ と の 大 切 さ を 見 い だ す。
人のせい (規則の尊重) 資料「みんながおく から」	「みんなが」と いう経験 について 話し合う 場面	慣習につ いて自 分の生 活と つな げて 問題 場 面 を と ら え たり、 公徳 を大 切に して い こ う と す る こ と を こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	主人公と似た 経験につ いて自分 と仲間 との感 じ方・考 え方は 違 う こ と が わ か る。	社会生活 でのき まり や約 束を 守る こと の 大 切 さ を 見 い だ す。
心の中で (親切, 思いやり) 資料「心の中で」	目の見え ないおば あちゃん が友だ ちのお 見舞い に行 こうと するの はどん な気 持ち から か話 し合 う場 面	障害につ いて自 分の生 活と つな げて 問題 場 面 を と ら え たり、 支 え よ う と す る こ と の 大 切 さ を 考 え て 生 活 し て い こ う と す る こ と を こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	主人公の 気持ち につ いて自 分と 仲間 との 感 じ 方・考 え 方 は 違 う こ と が わ か る。	障害がある からこそ できる こと がある こ と を 見 い だ す。
電車のやくそく (規則の尊重)	電車の中 のおやつ 禁止に ついて 話し 合う 場面。	電車の中 につ いて自 分の 生 活 と つ な げ て 問 題 場 面 を と ら え たり、 み ん な の た め の 約 束 や き ま り を 守 ろ う と す る こ と を こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	について 自分と 仲間 との 感 じ 方・考 え 方 は 違 う こ と が わ か る。	みんなが 気持ち よく 過 ご せ る よ う に す る こ と が 大 切 な こ と を 見 い だ す。
おとうさんの じまん (家族愛, 家庭 生活の充実) 資料「お父 さんの 自まん」	自分も「 しあわせ だなあ。」 と思 うこ と は あ る か 話 し 合 う 場 面	自分たち の生 活を 支 え て い る 人 々 に つ い て 自 分 の 生 活 と つ な げ て 問 題 場 面 を と ら え たり、 感 謝 の 気 持 ち を も っ て 接 し て い こ う と す る こ と を こ れ か ら の 生 活 で 生 か し た り す る。	主人公と 似た 経験 に つ い て 自 分 と 仲 間 と の 感 じ 方・考 え 方 は 違 う こ と が わ か る。	尊敬と 感謝 の気 持ち を も つ こ と が 大 切 な こ と を 見 い だ す。

	もやもや書き (親切, 思いやり) 資料「もやもや書き」	ひさおさんは, どんな気持ちでさげんだのだから話しか合う場面	差別について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 誰に対しても思いやりをもって接しようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	にかかわる様々な事実や考え方を明らかにする中で, 他者と同じ立場に立って気持ちの思いやることの大切さに気づき, という意欲を高めることができる。
	むしよの愛 (友情, 信頼) 資料「泣いた赤鬼」	赤鬼の目の前からいなくなった青鬼について話しか合う場面	友情について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間を信じて行動していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	登場人物の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	相手のことを思いやっていくことの大切さを見いだす。
	みんなが楽しく (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「みんなが楽しく」	附属小学校でも, みんなが楽しくなることや, うれしくなることはないか話しか合う場面	普通の学校生活について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 明るく楽しい学級や学校をつくらうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	学校生活について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	他の学年の人々に親しみをもつことの大切さを見いだす。
小4	本当の親切 (親切, 思いやり) 資料「本当の親切」	自分は, どの吹き出しにどんな気持ちを書きたいか話しか合う場面	思いやりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 温かく親切にしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	相手のことを思いやって親切にすることが大切なことを見いだす。
	生まれたお金 (節度, 節制) 資料「生かされたお金」	2人の登場人物のどちらに自分は近いか話しか合う場面	お金の使い方について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 節度ある生活をしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	登場人物の言動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分で出来ることは自分でやることの大切さを見いだす。
	気持ちのよいあせ (勤労, 公共の精神) 資料「気持ちのよいあせ」	どうしてふきだしたあせが気持ちよく感じられたのか話しか合う場面	働くことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 進んで自分から仕事をしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	進んで仕事をするすがすがしさの大切さを見いだす。
	命の大切さ (生命の尊さ) 資料「命のにぎりめし」	自分に近い登場人物は誰か話しか合う場面	生命について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 生命あるものを大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	登場人物の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	命の尊さを感じるものの大切さを見いだす。
	仲間はずれ (公正, 公平, 社会正義)	仲間はずれは, していいのか話しか合う場面	仲間とのかかわりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間と仲良くしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	仲間はずれについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	相手の気持ちを考えることの大切さを見いだす。
	学校のよさ (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「さくら」	どうしてグラウンドの真ん中にさくらの木を残したのだから話しか合う場面	学校のよさについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, みんなで協力し合っ楽しい学校を作っていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	グラウンドの真ん中に木がある理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	学校を思っている様々な立場の人の大切なことを見いだす。

<p>ごめんねと言う勇気 (善悪の判断, 自律, 自由と責任) 資料「ぼくとのおんちゃん」</p>	<p>横道に隠れたり, 男の子 を注意したりした時のぼ くの気持ちの違いを話し 合う場面</p>	<p>勇気について自分の生 活とつなげて問題場 面をとらえたり, 自分が 考えたその場にふさわ しい行為を進んで行 おうとすることをこれか らの生活で生かしたり する。</p>	<p>主人公の気持ちの違い について自分と仲間と の感じ方・考え方は違 うことがわかる。</p>	<p>勇気をもって行動す ることの大切さを見 いだす。</p>
<p>動植物を守る (自然愛護) 資料「はたる」</p>	<p>5匹しか育たないのに, 飼育しているのはなぜか 話し合う場面</p>	<p>貴重な生き物について 自分の生活とつなげて 問題場面をとらえたり, 自然を守っていこう とすることをこれか らの生活で生かしたり する。</p>	<p>主人公の行動の理由に ついて自分と仲間と の感じ方・考え方は違 うことがわかる。</p>	<p>身近な自然の大切さ を見いだす。</p>
<p>礼儀の大切さ (礼儀) 資料「礼儀の心」</p>	<p>日本の学生は音をたてた のが, 本当にいけなかつ たのか話し合う場面</p>	<p>礼儀について自分の生 活とつなげて問題場 面をとらえたり, だれに 対しても真心をもって 接しようとするこ とをこれからの生活で生 かしたりする。</p>	<p>日本の学生の行動につ いて自分と仲間との感 じ方・考え方は違うこ とがわかる。</p>	<p>礼儀の大切さを見い だす。</p>
<p>よく考えて (善悪の判断, 自律, 自由と責任) 資料「金色の魚」</p>	<p>自分も似たような経験は ないか話し合う場面</p>	<p>よく考えて行動するこ とについて自分の生活 とつなげて問題場 面をとらえたり, よく考 えて行動し, 過ちはすぐ に改めようとする素直 な気持ちをもって過 そうとすることをこれ からの生活で生かしたり する。</p>	<p>登場人物と似た経験に ついて自分と仲間との 感じ方・考え方は違 うことがわかる。</p>	<p>自分を振り返ること の大切さを見いだ す。</p>
<p>思い出の写真 (家族愛, 家庭生活の 充実) 資料「一まいの写真」</p>	<p>明君のように大事にして いるものはあるか話し 合う場面</p>	<p>家族について自分の生 活とつなげて問題場 面をとらえたり, 楽しい 家庭をつくらうとす ることをこれからの生活 で生かしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちにつ いて自分と仲間との感 じ方・考え方は違 うことがわかる。</p>	<p>父母, 祖父母を尊敬 し, みんなで協力し 合うことの大 切さを見いだす。</p>
<p>美しい町 (規則の尊重) 資料「美しい町」</p>	<p>罰金をとることが, 本 当に美しい町につな がることなのだろうか 話し合う場面</p>	<p>人の役に立つことにつ いて自分の生活とつ なげて問題場 面をとらえたり, 公共 的な場所を守って いこうとすることを これからの生活で 生かしたりする。</p>	<p>罰金をとることにつ いて自分と仲間 との感じ方・考 え方は違 うことがわかる。</p>	<p>みんなのところを守 ろうとする役目 の大切さを見 いだす。</p>
<p>コスモスの思い出 (正直, 誠実) 資料「コスモスの思い出」</p>	<p>自分は, 先生に正直に打 ち明けることが, でき るか話し合う場面</p>	<p>正直について自分の生 活とつなげて問題場 面をとらえたり, 元 気よく生活しよう とすることをこれ からの生活で 生かしたりする。</p>	<p>主人公と似た経験に ついて自分と仲間 との感じ方・考 え方は違 うことがわかる。</p>	<p>正直に明るい心 で過ごすこと の大切さを見 いだす。</p>
<p>このままではいけない (親切, 思いやり) 資料「このままでは いけない」</p>	<p>ぼくは, みつるさんのた めにどうしたらよ いのだろうか話し 合う場面</p>	<p>思いやりについて自分 の生活とつなげて 問題場 面をとらえたり, いろ いろな場面で周囲 のことを相手の 気持ちを考 えた行動をして いこうとす ることをこれ からの生活で 生かしたり する。</p>	<p>主人公の言動の理由 について自分と 仲間との感 じ方・考 え方は違 うことが わかる。</p>	<p>誰に対しても差別 をしないで接 することの 大切さを見 いだす。</p>

<p>本当の知恵 (個性の伸長) 資料「仙がいさん」</p>	<p>仙がいさんのよいところはどんなところだろうか話し合う場面</p>	<p>自分のがんばりたいところ伸ばしたいところについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、これから自分のがんばりたいことを続けようとするをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>登場人物のよさについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自分のよいところを伸ばそうとすることの大切さを見いだす。</p>
<p>お母さんありがとう (家族愛、家庭生活の充実) 資料「きつねとぶどう」</p>	<p>ぶどうがそこになっているのを知って、きつねはどんな気持ちになったか話し合う場面</p>	<p>自分を支えている人について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、その方々から支えられていることにこれからも感謝していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>学校を思っている様々な立場の人に感謝することの大切さを見いだす。</p>
<p>知恵の値段 (善悪の判断、自律、自由と責任) 資料「知恵の値段」</p>	<p>知恵売りの言いたいことは、何か話し合う場面</p>	<p>知恵について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、節度ある生活をしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自分でできることは自分でやることの大切さを見いだす。</p>
<p>今いる自然のすばらしさ (感動、畏敬の念)</p>	<p>自分らしく自然とかかわるにはどうしたらいいか話し合う場面</p>	<p>自然について感動したことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、生活の中でそのときどきの自然の素晴らしさを再び感じながら、これからも生活していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>自然とのかかわり方について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>自然の中で自分らしく自然の素晴らしさを感じていくことの大切さを見いだす。</p>
<p>かっこよさは (個性の伸長) 資料「白いスポーツカー」</p>	<p>本当にかっこいいこととは、どういうことか話し合う場面</p>	<p>かっこよさについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、公德心をもとうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>本当のかっこよさについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>約束や社会のきまりを守ることに大切さを見いだす。</p>
<p>とべ、白さぎ (自然愛護) 資料「とべ白さぎ」</p>	<p>自然に返したほうがいいのかというつづやきを聞いてぼくはどんな気持ちになったのだろうか話し合う場面</p>	<p>貴重な生き物について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、これからも自然を大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>身近な自然のよさの大切さを見いだす。</p>
<p>認め合う仲間とは (相互理解、寛容)</p>	<p>新しい仲間づくりには、どんな自分になればいいのか話し合う場面</p>	<p>仲間とのかかわりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり、これから出会う様々な仲間づくりの中で自分らしさを生かして仲間とかかわっていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。</p>	<p>仲間作りについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。</p>	<p>仲間とのよりよい関係は、相手を受け入れられたり相手から受け止められたりしてつくられることが大切なことを見いだす。</p>

月の光 (正直, 誠実) 資料「月の光」	迷ったときに, 正しいことへのきっかけをつかんだことはないか話し合う場面	正直について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 元気よく生活していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公と似た経験について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	明るく元気なことの大切さを見いだす。
礼儀の心 (礼儀)	国が違っても同じことでも違う気持ちに取られることがあるか話し合う場面	外国と日本との違いについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 誰に対しても真心をもって接していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	外国との違いについて自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	誰に対しても礼儀が大切なことを見いだす。
幸せはどこに (家族愛, 家庭生活の充実) 資料「幸せはどこに」	おじいさんの言葉の先にはどんな言葉が続くのだろうか話し合う場面	家族について自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 自分の家族に愛情をもって接していこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	登場人物の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	家族のことを思いやった行動の大切さを見いだす。
あきらめないで (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「僕の版画」	自分は主人公のようにあきらめないでできるか話し合う場面	あきらめずに努力したことについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, これから何事も続けていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	決心したことは最後までやり通すことの大切さを見いだす。
どうすればよかったのだろう (親切, 思いやり) 資料「どうすればよかったのだろう」	こうすけくんの様子がへんなことに気がついていざは, どうすることがよかったのだろうか話し合う場面	思いやりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 親切にしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の言動について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	相手のことを思いやることの大切さを見いだす。
みんなのできること (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「みんなのためにできること」	金子さんが, 給食の生ごみを集めようと思ったのはなぜか話し合う場面	給食の生ごみを回収し, 再利用していることについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 自分にできる仕事を進んでしようとするのをこれからの生活で生かしたりする。	主人公の行動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	自分にできることを進んで行おうとすることが大切なことを見いだす。
友だち (友情, 信頼) 資料「友達」	自分だったら, それからどうするか話し合う場面	仲間とのかかわりについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 仲間のことを理解し合いながら仲良くしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	主人公と似た経験について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	仲間と理解し合うまでの過程が大切なことを見いだす。
いのち (生命の尊さ) 資料「いのち」	自分のいのちの色は何色だろうか話し合う場面	命にかかわることについて自分の生活とつなげて問題場面をとらえたり, 家族にとってかけがえのない命を大切にしていこうとすることをこれからの生活で生かしたりする。	命の色について自分と仲間との感じ方・考え方は違うことがわかる。	命の尊さを感じることも大切さを見いだす。

<p>わたしの町の火の用心 (伝統と文化の尊重, 国 や郷土を愛する態度) 資料「わたしの町の火の 用心」</p>	<p>おとうさんがすてきに見 えるのはどんな理由から だろうか話し合う場面</p>	<p>地域の中での家族につ いて自分の生活とつな げて問題場面をとらえ たり, これから地域を よりよくしていこうと することをこれからの 生活で生かしたりする</p>	<p>主人公の気持ちについ て自分と仲間との感じ 方・考え方は違うこと がわかる。</p>	<p>身近な地域のよさの 大切さを見いだす。</p>
<p>日本のよさ (伝統と文化の尊重, 国 や郷土を愛する態度) 資料「しょうぶ湯のふえ」</p>	<p>日本にはしょうぶ湯の他 にどんなよいところがあ るだろうか話し合う場面</p>	<p>日本の伝統と文化につ いて自分の生活とつな げて問題場面をとらえ たり, 外国の人々や文 化に関心をもとうとす ることをこれからの生 活で生かしたりする。</p>	<p>日本のよさについて自 分と仲間との感じ方・ 考え方は違うことがわ かる。</p>	<p>文化や伝統に親し み, 国を愛する心を 持つことが大切なこ とを見いだす。</p>

資質・能力を位置付けた主題配列表「道徳」（第4ステージ）

学年	主題 (内容項目)	「協働」場面の 位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小 5	時と場をこころえて (礼儀) 資料「すれちがい」	自分にも、声をかけられなかったことはあるか話し合う場面	あいさつについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接しようとするのが大切なことと道徳的価値を再構築する。
	感動する心 (感動、畏敬の念) 資料「きじばとの親子」	体の震えが止まらなかったのはなぜか話し合う場面	美しいものについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	美しいものに感動する心や、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を持つようとするのが、大切なことと道徳的価値を再構築する。
	負けない心 (希望と勇気、努力と強い意志) 資料「ガリレオ・ガリレイ」	自分は、このようにできるか話し合う場面	自分の考えを貫くことについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、ガリレオの生き方から学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	勇気と希望をもって自分の考えを貫くことが大切なことと道徳的価値を再構築する。
	集団登校 (勤労、公共の精神)	「先に行く」と「待つ」はどちらがよりよいのだろうか話し合う場面	集団登校について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	仲間の判断について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	仲間の安全や思いを考慮することが大切であることと道徳的価値を再構築する。
	ぼくの一言 (善悪の判断、自律、自由と責任) 資料「ぼくの一言」	弟とぼくの言葉には、どんな違いがあるか話し合う場面	自由について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	自由の中に規律ある行動をしようとするのが大切であると道徳的価値を再構築する。
	心の道しるべ (友情、信頼) 資料「ライバル」	ぼくはだめだと思っていたのに練習を続けることができたのはどうしてだろう話し合う場面	友情について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	互いに信頼する事が大切であると道徳的価値を再構築する。
	誠実な心 (正直、誠実) 資料「花ぬす人」	自分は、主人公・母どちらの立場に近いか話し合う場面	誠実について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。	主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。	自己に対する誠実さが大切であると道徳的価値を再構築する。

<p>父の願い (家族愛, 家庭生活の充実) 資料「お父さんの作戦勝ち」</p>	<p>自分だったら, 続けてやることができるか話し合う場面</p>	<p>家族の幸せについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, お父さんの生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>家族の幸せのための自分の役割を自覚することが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>ほのぼのテスト (規則の尊重) 資料「ほのぼのテスト」</p>	<p>ブレーキテストを知らされたおじいさんの気持ちはどうか話し合う場面</p>	<p>自他の権利について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自他の権利を共に守ることが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>地球はだれのもの (自然愛護) 資料「地球はだれのもの」</p>	<p>なぜ, 地球を第二のヒューマン王国にはいけないのか話し合う場面</p>	<p>地球について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自然の中の自分たち人類あり, 自然の中での共存の在り方を考えていくことが大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>ぼくの中の他人 (相互理解, 寛容) 資料「ぼくの中の他人」</p>	<p>ゆうくんの心をちくちくさせるものは何だろうか話し合う場面</p>	<p>友情について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>, 互いに認め合い信頼する事が大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>反省する心を求めて (善悪の判断, 自律, 自由と責任) 資料「言葉をしゃべった犬」</p>	<p>犬が言葉をしゃべって, 主人の悪口を言ったのはなぜか話し合う場面</p>	<p>節度について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>犬がしゃべった理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>生活を振り返り, 節度を守ることの大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>少年の日のゆめ (個性の伸長) 資料「少年の日のゆめ」</p>	<p>五十五歳を過ぎてから, なぜ忠敬は日本全国を歩いたのか話し合う場面</p>	<p>自分の特徴について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 忠敬の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>忠敬の行動について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自分の中のよさを大切さにすることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>大人はずるい (規則の尊重) 資料「中学生の言い分」</p>	<p>「大人はずるい」と言う中学生は何を訴えたかったのか話し合う場面</p>	<p>公德心について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>中学生の言ったことについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>法やきまりを守り進んで義務を果たそうとすることが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>

<p>こづかい (節度, 節制) 資料「ひとみのこづかい」</p>	<p>お金や時間は何によって大切なのか話し合う場面</p>	<p>こづかいについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>生活を振り返り, 節度を守って節制を心がけようとするのが大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>情報に振り回されな いために (親切, 思いやり) 資料「メール」</p>	<p>相手のために, どうすることがよいか話し合う場面</p>	<p>携帯電話やパソコンについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>相手の立場に立って行動をすることが大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>日本を愛する心 (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する 態度) 資料「ことだま」</p>	<p>「ことだま」とは, 何なのか話し合う場面</p>	<p>愛国心について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>ことだまという言葉について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>郷土やわが国の文化と伝統を大切にしようとする先人が努力してきたことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>愛のリレー (生命の尊さ) 資料「愛のリレー」</p>	<p>一つの命を救うために様々な人が努力したことをどう思うか話し合う場面</p>	<p>命について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>生命がかけがえのないものであり, 自他の生命を尊重しようとするのが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>おばあさんの心 (相互理解, 寛容) 資料「ひよこの話」</p>	<p>自分は, おばあさんの優しさに耐えられるか話し合う場面</p>	<p>謙虚さについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>広い心をもち広い心で自分と異なる意見や立場を尊重していこうすることが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>感じ取る心 (真理の探究) 資料「エンドレス百瀬」</p>	<p>困難な問題を解決し続ける百瀬さんの取り組みで大切だと思うことは何だろうか話し合う場面</p>	<p>真理について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 百瀬さんの生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>進んで新しいものを求め, 工夫して生活をよりよくしようとするのが大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>一つの願い (感動, 畏敬の念) 資料「一つの願い」</p>	<p>なぜ, おじいさんの棺に指輪を入れてしまったか話し合う場面</p>	<p>美しいものについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>人間の力を超えたものに畏敬の念を持とうとするのが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>

<p>希望を求めて (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「パンドラの箱」</p>	<p>「希望」が最後に出てきた時, 自分はどう思ったか話し合う場面</p>	<p>希望について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>高い目標を立て, 希望と勇気をもってくじけないで努力しようとするのが大切であると道徳的価値を再構築する。</p>
<p>切られた心 (公正, 公平, 社会正義) 資料 生きるIII 「切られた心」</p>	<p>久美さんが悪い, としていいのか話し合う場面</p>	<p>差別について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>どんな理由があっても人を差別してはいけないことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>生きる (生命の尊さ)</p>	<p>生きることは, なぜ単なる心臓の鼓動ではないのか話し合う場面</p>	<p>生命について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>命がかげがえのないものであることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>はたらくことの きびしさ (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「列車事故で」</p>	<p>自分もけがをしているのに救助活動をする三本さんをささえているのは何か話し合う場面</p>	<p>働くことについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 三本さんの生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>社会に役立つ喜びが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>本当の男女平等とは (公正, 公平, 社会正義)</p>	<p>「男だから女だから」と区別することはよくないことか話し合う場面</p>	<p>異性について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>男女平等について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>男女にとらわれずその人らしさを考えることが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>心の支え (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「悲願の金メダル」</p>	<p>上野選手は苦しくても投げ通すことができたのはなぜか話し合う場面</p>	<p>オリンピック選手について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 上の選手の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることの大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>ルーツの重さ (伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「ルーツの重さ」</p>	<p>「日本の学校についてのニュース」に対して, どんな気持ちか話し合う場面</p>	<p>学校のルーツについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>日本の学校についてのニュースについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>先生や学校の人々への敬愛を深めることが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>

	<p>附属の子 (伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態 度)</p>	<p>「附属の子」の持つ意 味について話し合う場 面</p>	<p>附属の子について学級 や学校など身近な集団 との関連で問題をとら えたり、仲間の言動な どから学んだことを、 これからの自分の生き 方にどのように生かし ていきたいか考えたり する。</p>	<p>附属の子について自分 と仲間との感じ方・考 え方の違うところに共 感する。</p>	<p>学校の一員としてよりよ くならうという気持ちをも つことが大切なことと 道徳的価値を再構築す る。</p>
	<p>自分らしさとは (個性の伸長)</p>	<p>自分のこれまでの学習 は、どのように生かさ れるのか話し合う場面</p>	<p>自分らしさについて学 級や学校など身近な集 団との関連で問題をと らえたり、仲間の言動 などから学んだこと を、これからの自分の 生き方にどのように生 かしていきたいか考え たりする。</p>	<p>自分らしさについて自 分と仲間との感じ方・ 考え方の違うところに 共感する。</p>	<p>自分の学んできたことや 自分を大切に生きてい こうと道徳的価値を再 構築する。</p>
	<p>世界と日本 (国際理解、国際 親善) 資料「世界の食事」</p>	<p>日本でも外国でも食事 で大切にしていくこと は何だろうか話し合う 場面</p>	<p>日本と外国の食事につ いて学級や学校など身 近な集団との関連で問 題をとらえたり、仲間 の言動などから学んだ ことを、これからの自 分の生き方にどのよう に生かしていきたいか 考えたりする。</p>	<p>日本と外国の食事につ いて自分と仲間との感 じ方・考え方の違うと ころに共感する。</p>	<p>自分の国や相手の国の文 化伝統を尊重しようと することが大切であると 道徳的価値を再構築す る。</p>
小 6	<p>さわやかなあいさつ (礼儀) 資料「やくそく」</p>	<p>自分は、主人公の気持 ちをどう思うか話し合 う場面</p>	<p>友人との約束について 学級や学校など身近な 集団との関連で問題を とらえたり、仲間の言 動などから学んだこと を、これからの自分の 生き方にどのように生 かしていきたいか考え たりする。</p>	<p>主人公の言動の理由に ついて自分と仲間との 感じ方・考え方の違う ところに共感する。</p>	<p>時と場をわきまえて、礼 儀正しくすることが大切 であることと道徳的価値 を再構築する。</p>
	<p>本当の自由 (善悪の判断、自律、 自由と責任) 資料「自分の勝手」</p>	<p>主人公と同じ6年生と して、どう思うか話し 合う場面</p>	<p>バスや電車の中の様子 について学級や学校な ど身近な集団との関連 で問題をとらえたり、 仲間の言動などから学 んだことを、これから の自分の生き方にどの ように生かしていきたい か考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由に ついて自分と仲間との 感じ方・考え方の違う ところに共感する。</p>	<p>自由を大切に、規律あ る行動が大切であるこ とと道徳的価値を再構 築する。</p>
	<p>振り返って (節度、節制) 資料「心がそろう」</p>	<p>失敗をしたり忘れて たりする。ことを減らす にはどうしたらよいか 話し合う場面</p>	<p>失敗したことについて 学級や学校など身近な 集団との関連で問題を とらえたり、仲間の言 動などから学んだこと を、これからの自分の 生き方にどのように生 かしていきたいか考え たりする。</p>	<p>失敗について自分と仲 間との感じ方・考え方 の違うところに共感す る。</p>	<p>生活を振り返り、節度 を守り節制に心がけよ うとする。ことと道徳 的価値を再構築する。</p>
	<p>多数決 (親切、思いやり、 友情、信頼)</p>	<p>物事を決める時、みん なが「よい」と思える には自分は何を大事に できるのか話し合う場 面</p>	<p>多数決について学級や 学校など身近な集団と の関連で問題をとらえ たり、仲間の言動など から学んだことを、こ れからの自分の生き方 にどのように生かして いきたいか考えたりす る。</p>	<p>多数決について自分と 仲間との感じ方・考え 方の違うところに共感 する。</p>	<p>一人一人の意見をよく 考えることが大切であ ることと道徳的価値を 再構築する。</p>

<p>ペットの命 (生命の尊さ) 資料「飼育」</p>	<p>動物を飼う時に気をつけることは何か話し合う場面</p>	<p>動物の飼い方について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>動物の飼い方について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>動物を飼う時に大切にしなければならないことは何かを考えながら生命を大切にする。ことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>広い心で (親切, 思いやり) 資料「銀のしょく台」</p>	<p>友達の感銘を受けたわけについて話し合う場面</p>	<p>広い心について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、司教の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>相手の立場にたった思いを大切にする。ことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>自分勝手なルール (規則の尊重) 資料「ビルとジョン」</p>	<p>自分はビルの立場かジョンの立場か話し合う場面</p>	<p>権利について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>ビルやジョンの言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそうとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>困難を乗り越えて (よりよい学校生活, 集団生活の充実) 資料「荻窪用水」</p>	<p>なぜ、村人だけで工事を完成させたのか話し合う場面</p>	<p>支え合いや助け合いについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、広蔵の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>日々の生活が人々の支え合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえようとする。ことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>自然のすばらしさ (自然愛護) 資料「白馬岳の頂にて」</p>	<p>縦走している時に「ぼく」はどんなことを考えたのか話し合う場面</p>	<p>身の周りの自然について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、主人公の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自然のすばらしさや神秘について道徳的価値を再構築する。</p>
<p>携帯電話の使い方 (善悪の判断, 自律, 自由と責任) 資料「プロフのこわさ」</p>	<p>ケータイのいじめでこわいところはどんなことか話し合う場面</p>	<p>携帯電話やメールについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>ネットいじめについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自由を大切に、規律ある行動が大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>人権の歴史 (公正, 公平, 社会正義) 資料 生きるⅢ 「人権の歴史」</p>	<p>どのような差別があったのか話し合う場面</p>	<p>差別について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、登場人物の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>差別について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って思いやりをもって接する。ことと道徳的価値を再構築する。</p>

<p>少年の心 (正直, 誠実) 資料「1枚のきっぷ」</p>	<p>少年の目の輝きに, お父さんは何を感じたのか話し合う場面</p>	<p>バスや電車の中について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 主人公の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>誠実に, 明るい心で楽しく生活しようとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>大事な約束 (友情, 信頼) 資料「手品師」</p>	<p>チャンスが巡ってきた手品師は, どのようなことを考えたのか話し合う場面</p>	<p>約束について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 手品師の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>互いに信頼し, 学び合っ て, 協力して助け合おうとする。ことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>ちょっとまって (希望と勇気, 努力と強い意志) 資料「ぼくとミー」</p>	<p>自分もスローコールが起きたことはなかったか話し合う場面</p>	<p>ペットについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 主人公の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>自分を振り返って, よく考えて行動する。ことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>無視する。心 (親切, 思いやり, 友情, 信頼)</p>	<p>「無視」にかかわって自分が大切にしていきたいことは何か話し合う場面</p>	<p>無視について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 仲間の言動などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>無視する。理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>相手の存在を認め, その人なりの感情や要求を理解していくことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>感じ取る心 (真理の探究) 資料「感じ取る心」</p>	<p>ありふれた野の草に芭蕉は何を感じ取ったのか話し合う場面</p>	<p>身の周りの自然について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 芭蕉の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>進んで新しいものを求め, 工夫して生活をよりよくしようとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>誠実さとは (勤労, 公共の精神) 資料「病棟607号」</p>	<p>「看護師ジェーン」のうそをどう思うか話し合う場面</p>	<p>嘘について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり, 主人公の生き方などから学んだことを, これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>社会に奉仕する。喜びを知って, 公共のために役に立とうとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>

<p>広い心をもって (相互理解, 寛容) 資料「良寛のなみだ」</p>	<p>良寛は馬之助を、なぜ叱らなかったのか話し合う場面</p>	<p>寛容さについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、良寛さんの生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を考えて行動する。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>星くず (感動, 畏敬の念) 資料「星くず」</p>	<p>妖精ベルの役割は、何か話し合う場面</p>	<p>美しいものについて学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、主人公の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由や気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>美しいものに感動する。心や、人間の力を超えたものに対し、畏敬の念をもとうとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>大王の喜び (公正, 公平, 社会正義) 資料「大王の喜び」</p>	<p>大王はどうして風車小屋を取り壊さなかったのか話し合う場面</p>	<p>公平・公正について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、主人公の生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>公平な態度で臨んだ大王の気持ちを知り、誰に対しても公正・公平に接する。ことが大切であることと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>くじけない心 (希望と勇氣, 努力と強い意志) 資料「襟裳の春」</p>	<p>襟裳のまっかな海がもとに戻るまでに、どんなことが必要だったのか話し合う場面</p>	<p>環境問題について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、飯田さんの生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>より高い目標を立て、希望と勇氣をもって、くじけないで努力しようとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>だるまの目 (家庭愛, 家庭生活の充実) 資料「だるまの目」</p>	<p>自分もぼくのように、嘘をついてしまったことはあるか話し合う場面</p>	<p>嘘について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、仲間の言動などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由や気持ちについて自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>家族の幸せを求めて立とうとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>あきらめないで (伝統文化の尊重, 国や郷土を愛する態度) 資料「火炎土器」</p>	<p>中村さんは、復元した火炎土器を見て、どんなことを考えたのか話し合う場面</p>	<p>火炎土器について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、中村さんの生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>郷土の優れた文化や伝統を理解する。とともに、先人の偉業を敬っていくことと道徳的価値を再構築する。</p>
<p>再開 (生命の尊さ) 資料「再開」</p>	<p>テレーズとボールの再会はテレーズの心に何をもたらしたのか話し合う場面</p>	<p>死について学級や学校など身近な集団との関連で問題をとらえたり、テレーズの生き方などから学んだことを、これからの自分の生き方にどのように生かしていきたいか考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由について自分と仲間との感じ方・考え方の違うところに共感する。</p>	<p>生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする。ことが大切なことと道徳的価値を再構築する。</p>

<p>「6年生」って (よりよい学校生活, 集団生活の充実)</p>	<p>自分は6年生というこ とをどう考えればいい のか話し合う場面</p>	<p>附属長岡小学校の最高 学年ということについ て学級や学校など身近 な集団との関連で問題 をとらえたり,先輩や 仲間の生き方などから 学んだことを,これか らの自分の生き方にど のように生かしていき たいか考えたりする。</p>	<p>6年生という学年のと らえについて自分と仲 間との感じ方・考え方 の違うところに共感す る。</p>	<p>よりよい校風を作ろうと する。ことが大切なこと と道徳的価値を再構築す る。</p>
<p>宇宙に飛び立って (感動,畏敬の念) 資料「宇宙に飛び立っ た地球人,毛利衛」</p>	<p>毛利さんは,なぜ,地 球人と呼ばれたのか話 し合う場面</p>	<p>宇宙のことについて学 級や学校など身近な集 団との関連で問題をと らえたり,毛利さんの 生き方などから学んだ ことを,これからの自 分の生き方にどのよう に生かしていきたいか 考えたりする。</p>	<p>毛利さんの言動の理由 について自分と仲間と の感じ方・考え方の違 うところに共感する。</p>	<p>美しいものに感動する。 心や人間の力を越えたも のに対し,畏敬の念を持 とうとする。が大切なこ とと道徳的価値を再構築 する。</p>
<p>わたしにできること (善悪の判断,自律, 自由と責任)</p>	<p>わたしにできることは 何か話し合う場面</p>	<p>係活動や委員会活動つ いて学級や学校など身 近な集団との関連で問 題をとらえたり,仲間 の言動などから学んだ ことを,これからの自 分の生き方にどのよう に生かしていきたいか 考えたりする。</p>	<p>役割と責任について自 分と仲間との感じ方・ 考え方の違うところに 共感する。</p>	<p>自分でできることについ て知り,役割と責任を自 覚する。ことが大切なこ とと道徳的価値を再構築 する。</p>
<p>よさを生かす (個性の伸長) 資料「短所は長所」</p>	<p>変わっていることは, おかしいことなのか話 し合う場面</p>	<p>自分の特徴について学 級や学校など身近な集 団との関連で問題をと らえたり,主人公の行 動などから学んだこと を,これからの自分の 生き方にどのように生 かしていきたいか考え たりする。</p>	<p>長所と短所について自 分と仲間との感じ方・ 考え方の違うところに 共感する。</p>	<p>自分の特徴を知り,自分 らしさを大事にする。こ とと道徳的価値を再構築 する。</p>
<p>新しい目で (国際理解,国際 親善) 資料 渋沢栄一の自伝</p>	<p>渋沢栄一の言う「新し い目」とは何か話し合 う場面</p>	<p>外国の文化について学 級や学校など身近な集 団との関連で問題をと らえたり,渋沢栄一の 生き方などから学んだ ことを,これからの自 分の生き方にどのよう に生かしていきたいか 考えたりする。</p>	<p>主人公の言動の理由に ついて自分と仲間との 感じ方・考え方の違 うところに共感する。</p>	<p>外国の人々や文化に理解 と尊敬の念をもち,日本 人として自覚をもって行 動する。ことと道徳的価 値を再構築する。</p>

資質・能力を位置付けた単元配列表 学級活動（第2ステージ）

[] は実施学年

学年	活動	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小 1 ・ 2	自分のことみんなに教えてあげるね [1・2年]	自分のことを話したり、相手のことを聞いたりする場面	みんなに聞いてほしいことや、伝えたいことについて、自分の考えをもつ。	みんなに聞いてほしいことや、伝えたいことを仲間に話す。	仲間に聞いてもらいたいという思いをもって自分のことを話す。
	全校仲良しの会に参加しよう [1・2年]	全校仲良しの会の参加方法について話し合う場面	どんなことに気を付けて全校仲良しの会に参加すればよいのか、自分の考えをもつ。	全校仲良しの会への参加態度について自分の伝えたいことを仲間に話す。	学級で決めたことを守って楽しみながら全校仲良しの会に参加する。
	がんばればかかり [1・2年]	どのような係があればクラスが楽しくなるかについて話し合う場面	楽しいクラスにするための係について、自分の考えをもつ。	作りたい係について仲間の考えを、最後まで聞く。	みんなで決めた係活動に積極的に参加する。
	ペア学級のお兄さんお姉さんと仲よくなるろう [1・2年]	6年生と一緒にどんな遊びや活動がしたいのかについて話し合う場面	6年生と一緒に楽しむゲームについて、自分の考えをもつ。	6年生と一緒に遊びたいことについて、仲間の考えを最後まで聞く。	話し合って決めたゲームで6年生と一緒に楽しみながら活動する。
	めざせ！そうじ名人のクラス [1・2年]	そうじ名人になるにはどのようなことをがんばればよいかについて話し合う場面	どんなことをすれば、そうじ名人になれるのか、自分の考えをもつ。	そうじ名人になる方法について、自分の考えを仲間に話す。	そうじ名人になろうと意欲的に活動に取り組む。
	教生先生を送る会をしよう [1・2年]	教生先生に感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいかについて話し合う場面	感謝の気持ちを伝えるための活動や方法について、自分の考えをもつ。	教生先生への感謝を伝える方法について、自分の考えを仲間に伝える。	教生先生を送る会で自分の役割を果たす。
	楽しいパーティを開こう [1・2年]	クラスみんなが楽しめるパーティの内容について話し合う場面	みんなが楽しめる活動は何がよいのか、自分の考えをもつ。	どんな活動が、みんなで楽しめるのか、仲間の考えを最後まで聞く。	自分の役割を果たしながらパーティを楽しみながら参加する。
	こんな2学期に [1・2年]	2学期のめあてをどのようなものにしたらいかにについて話し合う場面	2学期の具体的なめあてについて、自分の考えをもつ。	2学期の具体的なめあてについて、自分の考えを仲間に話す。	学級で決めた2学期のめあてを達成しようとする。
	やってみたい係 [1・2年]	クラスが楽しくなりそうな係について話し合う場面	どのような係があればクラスが楽しくなるのか、自分の考えをもつ。	クラスを楽しくする係について、伝えたいことを仲間に話す。	みんなで決めた係活動に積極的に参加する。
	めざせ！あいさつ名人のクラス [1・2年]	あいさつ名人になるにはどうすればよいかについて話し合う場面	あいさつ名人になるための具体的な方法やアイデアについて、自分の考えをもつ。	あいさつ名人になるためにはどうすればよいのか、仲間の考えを最後まで聞く。	クラスで決めたあいさつ名人になる方法に従って活動に参加する。
	教生先生を送る会をしよう [1・2年]	教生先生に感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいかについて話し合う場面	教生先生に感謝の気持ちを伝える方法は何がよいのか、自分の考えをもつ。	教生先生に感謝の気持ちを伝える方法について、自分の考えを仲間に話す。	教生先生を送る会で自分の役割を果たす。
	みんなに読んでほしい本を紹介しよう [1・2年]	どんな本を紹介すればよいか話し合う場面	自分が紹介したい本のよいところやおもしろいところについて、自分の考えをもつ。	自分が紹介したい本のおもしろさやよさを仲間に話す。	自分が紹介したいと思った本のよさを伝えたいという思いをもって紹介する。
お兄さんお姉さんと協力して仲良しフェスティバルにしよう [1・2年]	仲良しフェスティバルの出店はどんなものがよいかについて話し合う場面	お兄さんお姉さんと協力して楽しめる出店の内容について、自分の考えをもつ。	楽しい仲良しフェスティバルにするために、どんな出店にしたいのか、仲間の考えを最後まで聞く。	みんなで決めた出店に従って、仲良しフェスティバルに楽しんで参加しようとする。	

みんな仲良し [1・2年]	みんなが仲良しになるための方法について話し合う場面	みんなが仲良しになれる具体的な遊びの内容について、自分の考えをもつ。	どんな遊びをすればみんなが仲良しになれるのかについて、自分の考えを仲間に話す。	みんなで決めた遊びに楽しみながら参加する。
2学期にできた学級の宝物 [1・2年]	学級の宝物を何にするかについて話し合う場面	自分が宝物にしたい学級の思い出やものについて、自分の考えをもつ。	自分が学級の宝物にしたいものについて、仲間に考えを話す。	学級のことを考えて、宝物を集めようと積極的に活動に取り組む。
新しい1年生と仲良しになろう [1年]	新しい1年生と仲良しになる方法について話し合う場面	どうすれば新しい1年生と仲良しになれるのか、自分の考えをもつ。	新しい1年生と仲よくする方法について、仲間の考えを最後まで聞く。	新しい1年生と仲よくなりたいという思いをもって活動に参加する。
めざせ！全員遊び名人のクラス [2年]	全員遊び名人になるにはどうすればよいかについて話し合う場面	全員が遊び名人になる方法について、自分の考えをもつ。	仲間は遊び名人になるためにどうすればよいと思っているのか、最後まで話を聞く。	みんなで決めた方法で、遊び名人になるために活動する。
6年生にありがとうの気持ちを伝えよう [1・2年]	6年生に感謝の気持ちを伝える方法にはどのようなものがあり、どのようにして感謝を伝えるかについて話し合う場面	6年生への感謝を伝える方法について、自分の考えをもつ。	感謝を伝える方法について自分の考えを話す。	6年生へ感謝の気持ちが伝わるように、自分に与えられた役割を果たす。
六送会の出し物のリハーサルをしよう [1・2年]	出し物がもっとよくなる工夫について話し合う場面	どうすれば出し物がよくなるのか、自分の考えをもつ。	出し物をよくする方法について、仲間の考えを最後まで聞く。	六送会の出し物で自分の役割を責任をもって果たす。
みんな仲良しを祝う大パーティーをしよう [1・2年]	クラスが仲良しになったお祝いにはどんなことをすればよいかについて話し合う場面	お祝いの活動に何をすればクラスが仲良しになったことが伝わるか、自分の考えをもつ。	仲良しになる活動は何をすればよいか、自分の考えを仲間に話す。	クラスの成長を実感しながら、パーティーに積極的に参加する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 学級活動（第3ステージ）

[] は実施学年

学年	活動	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小 3 ・ 4	学級開きの会をしよう [3・4年]	新しい仲間とお互いを知りあうための会はどのようなものになればよいかについて話し合う場面	みんなのことがもっとわかるようになる会の内容について、自分の考えをもつ。	学級開きの会の内容について、自分の考えを相手に分かりやすく説明する。	新しい仲間と互いを知り合おうと、学級開きの会に積極的に参加する。
	学級のめあてをきめよう [3・4年]	みんなが団結して一緒に目指せるめあてについて話し合う場面	どんなめあてにすれば団結できるか、自分の考えをもつ。	学級のめあてに入りたい言葉を相手に理解してもらえるように話す。	みんなで決めた学級のめあてを受け入れ、実現に向けて活動する。
	みんなの係を決めよう [3・4年]	クラスが楽しくなるにはどのような係にすればよいかについて話し合う場面	クラスが楽しくなる具体的な係について、自分の考えをもつ。	仲間がなぜその係をしたいと思っているのかを考えながら聞く。	自分たちで決めた係でクラスが楽しくなるよう活動する。
	ペア学級と仲良くなろう [3・4年]	ペア学級と仲良くなる方法について話し合う場面	ペア学級と仲良しになる方法について、自分の考えをもつ。	ペア学級と仲良しになる方法について、仲間の考えを理解しようとしながら話を聞く。	ペア学級と仲良しになれる方法について、自分の考えを主張し合って決議する。
	学級の宝物になる活動をつくらう [3・4年]	学級の宝物にするにはどのような活動がよいか話し合う場面	学級の宝物の記録方法について、自分の考えをもつ。	学級の宝物をどんな方法で記録したいのか、自分の考えを相手に理解してもらえるように説明する。	話し合っって決めた記録方法で学級の宝物を意欲的に集める。
	教生先生を送る会をしよう [3・4年]	教生先生に感謝の気持ちを伝えるにはどのような内容にすればよいか話し合う場面	感謝の気持ちを伝えるための具体的な活動について、自分の考えをもつ。	自分がやりたい活動のよさを相手に伝えるように説明する。	教生先生に感謝の気持ちが伝わるように送る会で自分の役割を果たす。
	ピザパーティをしよう [3年]	ピザパーティを楽しむためにはどのような方法がよいかについて話し合う場面	ピザパーティを楽しむにはどちらの方法がよいか、自分の考えをもつ。	自分がやりたいピザパーティの方法のよいところを分かりやすく伝え、相手の考えの理由を聞く。	ピザパーティに気持ちよく参加し、パーティを楽しむ。
	長岡復興応援DVDを作ろう [4年]	長岡の復興を応援するDVDの内容について話し合う場面	応援の気持ちが伝わるのはどちらの内容がよいか、自分の考えをもつ。	自分がよいと思う応援方法について、仲間に理解してもらえるように説明する。	長岡復興DVDの作成に意欲的に参加する。
	係活動をパワーアップしよう [3・4年]	係活動がパワーアップするための方法について話し合う場面	係活動のパワーアップ方法はどちらがよいか、自分の考えをもつ。	仲間がなぜその方法がよいと思っているのかを理解しながら聞く。	みんなで決めた方法を受け入れ、係活動のパワーアップに取り組む。
	朝の会をもっと楽しくしよう [3・4年]	朝の会をもっと楽しくするにはどうすればよいかについて話し合う場面	クラスみんなが、朝の会を楽しく感じられる方法について、自分の考えをもつ。	朝の会を楽しくする方法について、自分の考えのよいと思うところをていねいに伝える。	朝の会が楽しくなるよう、自分の役割を果たす。
	みんなのドリーム号を作ろう [3年]	学級の宝物となるドリーム号の作り方について話し合う場面	宝物になるためにはどちらのドリーム号の作り方がよいか、自分の考えをもつ。	ドリーム号の作り方について、自分の考えを仲間に理解してもらえるように説明する。	みんなで決めた方法に従ってドリーム号の作成に取り組む。
係活動で南三陸町を応援しよう [4年]	南三陸町の小学生に送る連凧をどうすればよいかについて話し合う場面	小学生に送る連凧はどうすればよいか、自分の考えをもつ。	小学生に送る連凧について、自分の考えを仲間に分かりやすく伝える。	みんなで決めた方法に気持ちよく従って、連凧さくせいに参加する。	

みんなの10大ニュース [3・4年]	10大ニュースに何を 選ぶかについて話し 合う場面	10大ニュースにどん なことを選べばよい か、自分の考えをもつ。	なぜ10大ニュースに 入れたいのか、仲間の 考えの理由を考えなが ら聞く。	10大ニュース作成に 意欲的に取り組む。
教生先生を送る会 をしよう [3・4年]	教生先生に感謝の気 持ちを伝えるにはど のような内容にすれ ばよいか話し合う場 面	教生先生を送る会の出 し物はどちらがよい か、自分の考えをもつ。	自分がよいと思う出し 物の魅力を相手に伝わ るように説明する。	教生先生に感謝の気持 ちが伝わるように送る 会で自分の役割を果た す。
仲良しフェスティ バルにお店を出そ う [3・4年]	仲良しフェスティバ ルの出店をどうすれ ばよいかについて話し 合う場面	仲良しフェスティバル の出店は何がよいか、 自分の考えをもつ。	仲良しフェスティバル の出店について、自分 の考えのよさを理解し てもらえるように説明 する。	話し合っ決めて出店 を気持ちよく受け入 れ、意欲的に出店の作 成に参加する。
係活動を交流させ てみんなの宝物を 増やそう [3・4年]	宝物を増やすには他 の係とどのように交 流すればよいかにつ いて話し合う場面	宝物を増やす交流方法 はどちらがよいか、自 分の考えをもつ。	宝物を増やす交流方法 について、自分の考え のよさを相手に理解し てもらえるように話 す。	宝物を増やしたいとい う願いをもって、違う 係との交流に積極的に 取り組む。
心をこめてありが とう仲良しの会を しよう [3・4年]	6年生に感謝の気持 ちを伝えるにはどう すればよいかにつ いて話し合う場面	6年生に感謝の気持 ちを伝える方法はど ちらがよいか、自分の 考えをもつ。	なぜ仲間はその方法を 選んだのか、理由を考 えながら話を聞く。	6年生に感謝の気持 ちを伝えようと願いな がら、活動に参加する。
学級の宝物を祝 う会をしよう [3年]	学級のお祝いとして みんなが楽しめる会 にするにはどうすべ きかについて話し合 う場面	みんなが楽しめる会の 内容はどうすればよ いか、自分の考えをも つ。	仲間が考える会の内 容のよさを理解しよう としながら話を聞く	話し合っ決めてお祝 いの会を気持ちよく受 け入れ、仲間と協力し て準備に取り組む。
1／2成人式をし よう [4年]	自分たちの成長を伝 えるにはどんな出し 物がよいかを話し合 う場面	成長を伝える出し物 はどちらがよいか、自 分の考えをもつ。	自分がやりたい出し物 のよさが仲間に伝わる ように、話す。	自分たちの成長を伝え ようと、工夫をしなが ら発表を作り上げる。

資質・能力を位置付けた単元配列表 学級活動（第4ステージ）

[] は実施学年

学年	活動	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
小5・6・中1	委員会の所属を決めよう [5・6年]	一人一人が全校のためになる委員会所属の決め方について話し合う場面	委員会希望が重複した場合はどのようにしたらよいか、自分の考えをもつ。	委員会希望が重複した場合はどのようにしたらよいか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	自分の委員会に所属し、学校生活の充実のために、責任をもって活動する。
	高学年としての役割 [5・6年]	高学年としての役割にはどのようなものがあり、どうすべきかについて話し合う場面	高学年の役割について、自分の考えをもつ。	高学年の役割について、自分の考えを語り、仲間の考えを共感的に聞く。	高学年として、異学年交流や学校行事に意欲的に参加する。
	係活動でもっと楽しいクラスに [5・6年]	クラスが楽しくなるための係活動への参加方法について話し合う場面	係活動への所属数について、自分の考えをもつ。	係活動への所属数について、友だちの願いを知り、互いの考えを比べながら話す。	係活動へ所属し、学級生活の充実のために工夫した活動を行う。
	みんなの願いが詰まった学級のめあてにしよう [5・6年]	みんなの願いが込められためあてにするにはどうしたらよいかを話し合う場面	みんなの願いをどのようにまとめたらよいか、自分の考えをもつ。	みんなの願いをどのようにまとめたらよいか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	決まった学級のめあてに向けて自分ができることを考えて行動する。
	学級のシンボルをつくらう [中1]	みんなの願いが詰まったシンボルにするにはどうすればよいかを話し合う場面	学級シンボルに仲間の願いを取り入れるための方法について、自分の考えをもつ。	どのような学級シンボルがよいか、互いの考えのよさと問題点を比べながら話す。	折り合いをつけて学級シンボルを決め、充実した生活や活動を創る。
	自分で学ぶ自主学習 [5・6年]	自主学習の内容を自分で考え、工夫して行うためにはどうしたらよいかを話し合う場面	家庭で自主学習ができていなかったり、できにくかったりする原因について、自分の考えをもつ。	どのような自主学習がよいか、自分の考えに、他の考えを取り入れながら交流する。	自分の課題に合った自主学習の方法を選び、目標を決めて取り組む。
	ペア学級をもっと笑顔に [5年]	ペア学級と仲良くなるための方法を話し合う場面	ペア学級との活動内容について、自分の考えをもつ。	ペア学級との活動内容について、互いの考えのよさと問題点を比べながら話す。	ペア学級との活動内容について、決議したことを実行する。
	復興の大凧を作ろう [6年]	凧上げ大会で使う凧のデザインはどのようにすればよいかについて話し合う場面	凧上げ大会に使う凧のデザインについて、自分の考えをもつ。	凧上げのデザインについて仲間の考えのよさを自分の考えに取り入れながら聞く。	みんなで決めたデザインで凧上げの凧を作成する。
	公共の場所でのマナー [5・6年・中1]	公共の場所での在り方について話し合う場面	ルールとマナーの違いについて、自分の考えをもつ。	公共の場でのマナーについて、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	歩行や声の大きさなど、より具体的な行為として学校生活に反映する。
	クラスマッチをみんなの力で [中1]	クラスマッチの参加方法について話し合う場面	クラスマッチの参加方法について自分の考えをもつ	クラスマッチの参加方法について、仲間の考えのよさに配慮しながら自分の考えを主張する。	仲間と一緒に決めた方法でクラスマッチに参加する。
栖吉川フェスティバルを成功させよう [5・6年]	わかくさグループが楽しめる栖吉川フェスティバルにするにはどうすればよいかを話し合う場面	わかくさグループの参加の仕方について、自分の考えをもつ。	わかくさグループの参加の仕方について、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	わかくさグループの参加の仕方について、決議したことを実行する。	
地域の一員として [中1]	地域の一員としてできることは何かを話し合う場面	地域の一員としての役割を果たすためにはどのような活動をすればよいか、自分の考えをもつ。	役割を果たす方法について仲間の考えを自分の考えに取り入れようとしながら話を聞く。	みんなで決めた方法を行い、地域の一員としての役割を果たす。	

自然教室でクラスの絆を深めよう [5・6年]	仲間と協力する自然教室のめあてはどのようなものかについて話し合う場面	仲間と協力できる活動はどのようなものか、自分の考えをもつ。	仲間と協力できる活動はどのようなものか、相手の考えのよさを取り入れながら、自分の考えを話す。	決まった活動に、仲間と協力して取り組む。
夏休みを有意義に [5・6年・中1]	夏休みの過ごし方について、どう過ごすべきか話し合う場面	夏休みを有意義に過ごすために必要なことについて、自分の考えをもつ。	夏休みを有意義に過ごすにはどうしたらよいか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	有意義に過ごすために必要なことを選び、実行する。
運動会を盛り上げよう [中1]	中学生として運動会をどのように盛り上げるのかについて話し合う場面	運動会を盛り上げるための方法について、自分の考えをもつ。	運動会を盛り上げる方法について、仲間の考えを自分の考えに取り入れようとしながら聞く。	運動家の盛り上げ方法を選び、学級でまもって実行する。
5年生発 全校プロジェクト [5年]	5年生から発信する全校のためになる活動について話し合う場面	考えた活動を全校に効果的に伝えるにはどうしたらよいか、自分の考えをもつ。	考えた活動を全校に効果的に伝えるにはどうしたらよいか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	決まったことを基に、活動を全校に効果的に伝えている。
ペア学級をもっと笑顔にしよう2 [5年]	ペア学級と仲良くなるための方法を話し合う場面	ペア学級との活動内容について、自分の考えをもつ。	ペア学級との活動内容について、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	ペア学級との活動内容について、決議したことを実行する。
クラス・チーム化プロジェクト [5・6年]	クラスがもっと協力するための活動はどのようなものかについて話し合う場面	クラスの課題を改善するのか、協力できる活動をするのかについて、自分の考えをもつ。	クラスの課題を改善するのか、協力できる活動をするのかについて、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	決まったことについて、自分の役割をきちんと果たす。
命を守る行動 [5・6年・中1]	二次災害に遭ってしまふ原因について話し合う場面	安全に避難する方法について、自分の考えをもつ。	安全に避難する方法について、自分の考えと比べながら、仲間の考えを聞く。	放送をよく聞く、廊下は歩くなど、日常生活から具体的に行動する。
ペア学級と協力して最高の仲良しフェスティバルにしよう [5・6年]	2年生と協力して楽しい出店にするにはどのような店にしたらいいかを話し合う場面	2年生も活躍でき、楽しめる出店はどのようなものがあるか、自分の考えをもつ。	2年生も活躍でき、楽しめる出店はどのようなものがあるか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	2年生も活躍でき、楽しめる出店を試行錯誤しながら工夫している。
全校イベントをしよう [6年]	全校イベントを考える際、どのように工夫したらよいかについて話し合う場面	自分たちも、他の学年も楽しめる全校イベントは何がよいのか自分の考えをもつ。	他の学年も楽しめるイベント内容について、仲間の考えを取り入れながら、自分の考えを主張する。	イベント内容について、全校が楽しめるような活動になるようにする。
小学生に中学校のよさを伝えよう [中1]	附属中のよさを伝える際に、紹介の仕方について話し合う場面	どのような紹介をすれば附属中のよさが伝わるのか、自分の考えをもつ。	附属中の紹介内容について、仲間の考えに配慮して自分の考えを主張する。	附属中の紹介内容について、自分の願いを語る。
よりよい委員会活動にするために [5・6年]	全校のためになる活動はどのような活動かを話し合う場面	委員会活動で提案する活動について自分の役割はどんなことか、自分の考えをもつ。	委員会活動で提案する活動について自分の役割はどんなことか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	委員会活動で提案する活動について自分の役割はどんなことか、決議したことを実行する。
音楽会で学級の力を発揮しよう [中1]	音楽会に向けてどのように練習に取り組むかについて話し合う場面	効果的な練習方法について、自分の考えをもつ。	自分が考える練習方法に、仲間の考えのよさを取り入れながら主張する。	折り合いをつけて決議した練習方法で練習を行い、音楽会で力を発揮しようとする。
3年生への感謝を形にしよう [中1]	感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいかについて話し合う場面	自分たちの感謝の気持ちが最も伝わる方法について、自分の考えをもつ。	感謝の気持ちを伝える方法について、仲間の考えるわけを理解し、自分の考えに取り入れようとしながら聞く	仲間と決めた感謝の気持ちを伝える方法を実行する。

いざ最高学年へ ありがとう仲良しの会 〔5年〕	6年生と全校が満足する会にするための内容について話し合う場面	ありがとう仲良しの会の成功に向けて、どのような内容がよいか、自分の考えをもつ。	ありがとう仲良しの会の成功に向けて、どのような内容がよいか、考えを適切に語り、仲間の考えを共感的に聞く。	ありがとう仲良しの会の成功に向けて、どのような内容がよいか、決議したことを実行する。
思い出作りの活動を決めよう 〔6年〕	思い出作りの活動内容について話し合う場面	小学校生活の思い出に残る活動は何がよいか、自分の考えをもつ。	自分がやりたい活動に仲間の考えも取り入れようとしながら、自分の考えを話す。	自分がしたい活動と仲間の活動に折り合いをつけ、思い出に残る活動にする。
クラス・チーム化プロジェクト2 なわとび大会 〔5・6年〕	長なわ大会に向けた練習について話し合う場面	長なわが苦手な友だちにはどのような練習方法がよいか、自分の考えをもつ。	長なわが苦手な友だちの練習方法について、互いの考えや思いを受け入れて話す。	長なわが苦手な友だちにはどのような練習方法についてよりよい方法を考える。
睡眠の役割とストレス解消法 〔中1〕	ストレスの解消法について話し合う場面	ストレスの解消法について、自分の考えをもつ。	ストレスの解消法について、互いの考えを比べながら話す。	自分に合った方法を選び、実践する。
学校のために力を合わせてできること 〔6年〕	全校への感謝の気持ちを伝える活動を計画する際に、在校生が喜んでくれるにはどのような活動にすればよいかについて話し合う場面	卒業を前に、最も全校への感謝の気持ちが伝わる活動は何か、自分の考えをもつ。	全校への感謝の気持ち伝わる活動について、仲間の考えを共感的に聞く。	全校への感謝の気持ち伝わる活動を選び、実践する。
奉仕活動を通して校舎に感謝しよう 〔中1〕	一年間お世話になった校舎に感謝する奉仕活動はどうすればよいかについて話し合う	感謝の気持ちが表れる奉仕活動の内容について、自分の考えをもつ。	奉仕活動の内容について、自分の考えに仲間の考えのよいところを取り入れようとしながら話を聞く。	みんなで決めた方法で奉仕活動を行い、感謝の気持ちを表そうとする。
もうすぐ中学生 〔6年〕	小学校生活を振り返り、中学校へ向けて自分たちの成長について話し合う場面	小学校生活で自分ができるようになったことや成長したことについて、自分の考えをもつ。	小学校生活で自分ができるようになったことについて、自分の考えのよさを仲間に配慮しながら主張する。	学級で折り合いをつけてまとめた成長について振り返り、よりよい学校生活を送ろうとする。
2年生に向けて 〔中1〕	1年間を振り返り、2年生に向けてどうすればよいかを話し合う場面	2年生へ向けての課題や目標について、自分の考えをもつ。	2年生へ向けての課題や目標について、仲間の考えに共感的に聞く。	みんなで決議したことを実行に移す。
自分たちの成長を振り返ろう 〔5・6年〕	自分たちがどのような成長をしたのかについて話し合う場面	今年1年間の成長したことについて、自分の考えをもつ。	今年1年間の成長したことについて、自分の考えを適切に語る。	今年1年間の成長したことについて、決議したことを実行する。

資質・能力を位置付けた単元配列表 学級活動（第5ステージ）

[] は実施学年

学年	活動	「協働」場面の位置付け	表出が期待される主な資質・能力		
			自己を推進すること	相互に交流すること	新たに開発すること
中 2 ・ 3	学級の組織を決めよう 〔中2・3〕	学級の組織にはどのようなものがあればよいか話し合う場面	学級を活性化する組織の内容について、自分の考えをもつ。	学級のことを考えながら活性化する組織の内容についての考えを語る	学級の活性化の視点を大切にしながら組織の一員として活動に参加する。
	遠足を通して仲間を知ろう 〔中2・3〕	仲間と知り合うための遠足の活動内容について話し合う場面	仲間を知り学級がよくなるための活動の内容について、自分の考えをもつ。	学級がより良くなるための活動内容について仲間の願いを聞く。	遠足に積極的に参加し、自分の役割を果たす。
	学級の目標を立てよう 〔中2・3〕	みんなの願いが反映されるにはどのような学級の目標がよいかについて話し合う場面	全員の願いが反映された目標にするための方法について、自分の考えをもつ。	全員の願いが反映された目標にするためにどうすればよいかを考え、仲間の願いを聞く。	理想の学級の姿をイメージしながら、意欲的に学級目標の作成に参加する。
	職業への理解を深めよう 〔中2〕	職業理解を進めるための活動内容について話し合う場面	職業理解を進めるための活動内容について、自分の考えをもつ。	活動内容について学級全体のことを考えながら自分の考えを話す。	学級全体のことを考えて活動に参加する。
	自己の進路計画を作成しよう 〔中3〕	自己の進路計画作成をどうしたらよいかについて話し合う場面	進路や将来について、自分の考えをもつ。	将来の進路に向けて自分の在り方を考えて願いを語る。	将来の進路に向けて自分がどうあるべきかを意識しながら、計画を作成する。
	第Ⅰ期教育期を振り返り、第Ⅱ期教育期の目標作りをしよう 〔中2・3〕	第Ⅳ期の取組を振り返り、それを生かして次の目標について話し合う場面	第Ⅰ期を振り返り、個人や学級として貢献できたことについて、自分の考えをもつ。	次の目標に向けて学級としてどのような取組を行えばよいか、仲間の願いを受け止めながら聞く。	学級としてどのような目標がよいかを考え、次の目標を作る。
	クラスマッチをみんなの力で 〔中2・3〕	クラスマッチの参加はどうすればよいかについて話し合う場面	クラスマッチの参加方法について、自分の考えをもつ。	学級全体としてクラスマッチにどのように参加すればよいかについて考え、仲間の願いを聞く。	学級の活動後の姿を考えながら、クラスマッチに参加する。
	運動会を盛り上げよう 〔中2・3〕	自分たちが運動会を盛り上げるためにはどうすればよいか話し合う場面	自分たちが運動会を盛り上げるには、どのような方法がよいか、自分の考えをもつ。	どのような方法で運動会を盛り上げればよいか、学級の視点から考えて自分の願いを語る。	自分の役割を考えながら運動会に参加する。
	夏休みの生活設計を立てよう 〔中2・3〕	夏休みの生活設計の内容について話し合う場面	夏休みをどのように過ごせばよいか、自分の考えをもつ。	夏休みの過ごし方についてどうあるべきかを考え、自分の考えを語る。	自分で考えた夏休みの過ごし方を積極的に実践する。
	第Ⅱ期教育期を振り返り、第Ⅲ期教育期の目標作りをしよう 〔中2・3〕	第Ⅱ期の取組を振り返り、それを生かして次の目標について話し合う場面	第Ⅱ期を振り返り、個人や学級として貢献できたことについて、自分の考えをもつ。	次の目標に向けて学級としてどのような取組を行えばよいか、仲間の願いを受け止めながら聞く。	学級としてどのような目標がよいかを考え、次の目標を作る。
望ましい勤労観を身に付けよう 〔中2〕	望ましい勤労観を身に付けるための活動方法について話し合う場面	様々な職業がある中で、どのような活動をしたいのか、自分の考えをもつ。	活動内容についてどうすればよいかを考え、仲間の願いを聞く。	学級で決定した活動に意欲的に参加する。	
進路について考えよう 〔中3〕	進路についてお互いの悩みや困っていることを話し合う場面	将来や進路について、自分の考えをもつ。	将来の進路について、自分のあるべき姿を考え、自分の願いを語る。	自分の進路を考えながら具体的に将来のことをイメージする。	

音楽発表会で学級の力を発揮しよう [中2・3]	音楽発表会の成功にはどうすればよいかについて話し合う場面	音楽発表会を学級として成功させるには、どうすればよいか、自分の考えをもつ。	音楽発表会の成功を学級全体として考え、自分の願いを語る。	学級全体のことを蚊が得て音楽発表会の練習に取り組む。
第Ⅲ期教育期を振り返り、第Ⅳ期教育期の目標作りをしよう [中2・3]	第Ⅲ期の取組を振り返り、それを生かして次の目標について話し合う場面	第Ⅲ期を振り返り、個人や学級として貢献できたことについて、自分の考えをもつ。	次の目標に向けて学級としてどのような取組を行えばよいか、仲間の願いを受け止めながら聞く。	学級としてどのような目標がよいかを考え、次の目標を作る。
私たちの学校作り(生徒会選挙) [中2]	生徒会選挙に向けて学校作りはどうあるべきかについて話し合う場面	生徒会選挙に向けて、自分の役割を意識し、成功させるための自分の考えをもつ。	全校のリーダーという立場を意識しながら、望ましい生徒会選挙について考え、自分の願いを語る。	どのような学校にしたいかを考えながら生徒会選挙に責任をもって参加する。
受験期の健康を考えよう [中3]	受験期の健康はどのようなことに気を付けなければよいか話し合う場面	受験期に健康に過ごすためには、どのようなことに気を付ければよいか、自分の考えをもつ。	受験期の過ごし方がどうあるべきかを考え、学級全体の視点で考える。	適切な受験期の過ごし方を考えながら実践する。
冬休みの生活設計を立てよう [中2・3]	冬休みの生活設計の内容について話し合う場面	冬休みをどのように過ごせばよいか、自分の考えをもつ。	冬休みの過ごし方についてどうあるべきかを考え、自分の考えを語る。	どのような冬休みの過ごし方をすればよいか考えて、実践に移す。
第Ⅳ期教育期を振り返り、第Ⅴ期教育期の目標作りをしよう [中2・3]	第Ⅳ期の取組を振り返り、それを生かして次の目標について話し合う場面	第Ⅳ期を振り返り、個人や学級として貢献できたことについて、自分の考えをもつ。	次の目標に向けて学級としてどのような取組を行えばよいか、仲間の願いを受け止めながら聞く。	学級としてどのような目標がよいかを考え、次の目標を作る。
進路決定に向けて [中3]	よりよい進路決定に向けてお互いの考えを話し合う場面	思いを大切に、どのような進路がよいか、自分の考えをもつ。	進路決定に向けて自分はどうあるべきかを考え、自分の願いを語る。	進路の決定に向けて自分はどうあるべきかを考慮しながら活動に取り組む。
修学旅行を成功させよう [中2]	修学旅行の成功に向けた集団の在り方や自分の在り方はどうすべきかについて話し合う場面	修学旅行成功のための具体的な方法について、自分の考えをもつ。	修学旅行成功のために学級としてどうあるべきかを考え、自分の願いを語る。	学級全体のことを考えて修学旅行成功のために積極的に取り組む。
お世話になった人への思いを込めて [中3]	お世話になった人たちへの感謝の気持ちの込めた活動はどうすればよいかについて話し合う場面	お世話になった人たちへ感謝の気持ちを表す具体的な方法について、自分の考えをもつ。	感謝の気持ちを表す具体的な方法について、仲間の願いを聞く。	感謝の気持ちを伝えるために自分はどうすればよいかを考えながら活動に参加する。
3年生へ感謝の思いを送ろう [中2]	3年生への感謝の思いを伝える内容はどうかを話し合う場面	感謝の気持ちを3年生に伝えるための具体的な方法について、自分の考えをもつ。	感謝の気持ちを伝える具体的な方法について、自分の願いを語る。	感謝の気持ちが伝わる内容を考えながら活動に取り組む。
第Ⅴ教育期を振り返ろう [中2・3]	これまでの取組を振り返り、自分たちの成長について話し合う場面	第Ⅴ期を振り返り、個人や学級として貢献できたことについて、自分の考えをもつ。	これまでを振り返り、個人として貢献できたことを語る。	学級全体としての成長を仲間と共にまとめる。
3年生に向けて [中2]	全校のリーダーとなる3年生へ向けてどんな目標を立てればよいか話し合う場面	リーダーとして自分はどうあるべきか、具体的な目標について、自分の考えをもつ。	リーダーとしての在り方について自分の考えを語る。	リーダーとしての在り方を考え、具体的な活動をつくる。

トップページに戻る
(右の矢印をクリック)

